

国立国語研究所学術情報リポジトリ

方言談話資料（5）：岩手・宮城・千葉・静岡

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002274

方言談話資料(5)

—岩手・宮城・千葉・静岡—

国立国語研究所資料集 10-5

國立國語研究所

1981

——国立国語研究所資料集 10-5——

方言談話資料(5)

——岩手・宮城・千葉・静岡——

国立国語研究所

1981

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、「各地方言資料の収集および文字化」のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話を録音し、その文字化（標準語訳・注つき）を行った。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得て実施された。

その成果は、機を得て、順次刊行する予定であり、昨年度までに、『方言談話資料(1)－山形・群馬・長野』『方言談話資料(2)－奈良・高知・長崎』『方言談話資料(3)－青森・新潟・愛知』『方言談話資料(4)－福井・京都・島根』を刊行した。本年度は、その第五集を刊行する。

本書に収めた録音・文字化資料は、もっぱら、本堂寛（岩手県担当地方研究員・岩手大学教授）、加藤正信（宮城県担当地方研究員・東北大学助教授）、加藤信昭（千葉県担当地方研究員・千葉大学教授）、日野資純（静岡県担当地方研究員・静岡大学教授）の四氏の尽力によるものである。また、話者もしくは司会者として、菊地政勝、吉田ケサエ、若松林平（以上岩手県）、内海春吉、木村精一、本郷しげ（以上宮城県）、鈴木与一、武田金市郎、広瀬ます（以上千葉県）、後藤百々代、佐藤とし、山本俊男（以上静岡県）の各氏の協力を得たほか、有志の助力があった。記して深く感謝の意を表する。

昭和56年1月

国立国語研究所長 大 林

方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部長

飯 豊 毅 一

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

徳 川 宗 賢（現在、大阪大学教授） 佐 藤 亮 一（室長） 真 田 信 治（研究員）

沢 木 幹 栄（研究員） 白 沢 宏 枝（研究員）

国立国語研究所地方研究員（五十音順）

秋 山 正 次	愛 岩 八 郎 康 隆	五十 嵐 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	寃 大 城	加 治 工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄 一 郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼 一 郎	後 藤 和 彦	小 松 代 融 一	斎 藤 義 七 郎	迫 野 康 德
佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世	田 尻 英 三
種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊	日 高 貢 一 郎
日 野 資 純	広 戸 慎	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄	本 堂 寛
馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉 治 郎	村 内 英 一
室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋	山 本 俊 治
和 田 實				

「方言談話資料」(5) 編集担当者

飯 豊 毅 一 佐 藤 亮 一 真 田 信 治 沢 木 幹 栄 白 沢 宏 枝

収録・文字化担当者

岩手…本 堂 寛 宮城…加 藤 正 信 千葉…加 藤 信 昭 静岡…日 野 資 純

目 次

刊行のことば	3
まえがき	7
凡例	10
I 岩手県江刺市本町	
解説	13
1. 小学校時代の思い出	17
2. 若い頃の思い出など	84
II 宮城県亘理郡亘理町荒浜	
解説	135
1. 電話交換嬢とのデート	142
2. 自転車で土手から落ちたこと	150
3. 若夫婦の御年始	154
4. ねずみのお汁	159
5. 昔の子供の様子	169
6. 学校の弁当	174
7. お祭	179
8. アイスキャンデーとお婆さん	188
III 千葉県館山市相浜	
解説	195
昔の漁業	200
IV 静岡県静岡市南字中村	
解説	243
1. 静岡の集中豪雨	251
2. 米作状況	275

3. 関東大震災の思い出	281
4. 静岡地震の思い出	286
5. 復員のころの思い出と戦後の復興	292
6. ベトナム僧のお経	296
7. 昔の生活と今の生活	303
8. 兵隊生活と君が代	311
9. 昔の生活の思い出	315

ま　え　が　き

研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

録音・文字化を実施した府県は次の通りである。

青森^{*}、岩手、宮城^{*}、山形、群馬、千葉、新潟、石川^{*}、福井、長野、静岡、愛知、京都、奈良、鳥取、島根、広島、愛媛、高知、長崎、宮崎、鹿児島^{*}、沖縄

51年度は収録地点を4地点減らし(*印の県を割愛した)、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で、(a)目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b)老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c)場面設定の会話、の3項目についての録音・文字化を行い、なお、このほかに収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「(旅行などに)誘う」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「けんかをする」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した。

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50・51両年度分について逐次刊行していく予定である。本書は、50年度に収録・文字化を行った老年層話者による談話資料のうち、「岩手県江刺市本町」「宮城県亘理郡亘理町荒浜」「千葉県館山市相浜」「静岡県静岡市南字中村」の4地点分についてのものである。

話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

1. 老年層話者による談話 (50年度)

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常の生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者で

も差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話（51年度）

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員（校長など）対その土地の一般的な職業（農業・漁業など）に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者（地方研究員）に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

3. 老年層男性と若年層男性との対話（51年度）

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20～30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

4. 場面設定の会話（51年度）

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手であれば可とした。

司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつけなかった。

録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量（51年度については、各項目平均20分、合計60分程度）について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分（話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など）を選択して文字化することとした。

文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音的カタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化

作業の能率などを考慮したことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。

4. 聴き取りが困難な箇所や、言いよどみ、言い重なり、言い直し、笑い声などについては、これらを一定の符号で表わすこととした（凡例参照）。

文字化には、標準語訳、および、場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお、標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え、訳が問題となるような箇所については、できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。

収録方言・表記・収録内容についての解説

文字化原稿とは別に、収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。解説には、原則として次の事項を記すこととした。

A. 収録地点とその方言について

1. 地点名
2. 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）
3. 収録した方言の特色
 - ①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
 - ②音声・音韻上の特色
 - ③文法上の特色

B. 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明など。

C. 収録内容の概説

1. タイトル
2. 録音年月日
3. 録音場所
4. 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴など
5. 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

凡 例

1. 場面, 文脈, 特徴的音声, 方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し, 該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号(かっこつき)で示した。

2. 発言や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には_____線をつけた。

例 スッドネ <18ページ4段>

3. 最終的に聴き取り不能の箇所には_____線のみを記した。

4. 言いよどみは, その末尾に-----線をつけた。

5. 複数の発言が重複した場合には, 重複部分に_____線をつけた。

例 Cクラスシ スシテルガラネ (Bソーナンダ) (Aイヤヤ) <20ページ9段>

6. 言いかけて, それを言いなおした場合には, 言いかけた部分に*****をつけた。

例 ホノ ホノハ <19ページ9段>

7. 笑い声, 咳ばらいなどは, (笑), (咳)のように示した。

8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や, 録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には, 該当箇所に*の符号をつけた。

I. 岩手県江刺市本町

収録・文字化担当者 本 堂 寛

A 収録地点とその方言について

1. 地点名

岩手県江刺市本町

2. 収録地点の概観

水沢市の北東約8キロメートル。バスで約20分。一面田畠で江刺米と言われる米の産地。この地点は、もともと江刺郡の中心町岩谷堂にある。昭和33年11月、江刺郡全町村が合併して市に昇格。昭和33年当時、人口50,567人、戸数8169戸であったものが、昭和50年8月現在人口37,407人、戸数8834戸になっている。一時、人口はかなり減ったが、ニニス、3年少しづつではあるが増加している。岩谷堂町については、昭和50年12月現在、人口9334人、戸数2559戸である。

3. 収録した方言の特色

①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

南奥方言地域に属するが、北奥方言地域に隣接している。このため、北奥方言の特徴の影響もかなり受けている。

②音韻上の特色

モーラ体系

wa	a	i	u	e	o	ja	ju	jo	N	R	Q
ka	ki	ku	ke	ko	kja	kju	kjo				
gä	gi	gu	ge	go	gja	gju	gjo				
sa	si	su	se	so	sja	sju	sjo				
za	zi	zu	ze	zo	zja	zju	zjo				
ta			te	to							
	ci	cu			cja	cju	cjo				
da			de	do							
na	ni	nu	ne	no	nja	nju	njo				
ha	hi	hu	he	ho	hja	hju	hjo				
ba	bi	bu	be	bo	bja	bju	bjo				
pä	pi	pu	pe	po	pja	pju	pjo				
mä	mi	mu	me	mo	mja	mju	mjo				

音声的特徴

- (1) i は単独の場合、[e] である。したがって、eにおける [e] の発音に近づいてくる。
- (2) ai, oi, ui は、[ɛ:] になることが多い。
- (3) ki, gi, si, zi などの i は、[i] となる。
- (4) ku, gu, su, zu などの u は、[ü] となる。
- (5) hi は [ŋ] となることが多い。
- (6) k, t, c は、語頭以外の位置では、ある条件のもとでほとんど有声音化する。
- (7) N, R, Q は、明瞭な拍とならないことが多い。
- (8) se, ze は、それぞれ [ʃe], [ʒe] と発音される傾向がある。
- (9) 語頭以外のが行音、ダ行音、ザ行音、バ行音の直前に、ある条件のもとで鼻音が挿入されることが多い。

③文法上の特色

- (1) 可能表現に ~ニイイを多く用いる。「書ぐにいい」「起ぎんにいい」となる。しかし、その打消表現は、ラ(エ)ネーとなって、「書がえねえ」「起ぎらえねえ」となる。
- (2) 推量、意志表現には、べーを多く用いる。「行くべえ」「見んべえ」
- (3) 順接仮定表現のうち、助動詞「タニ」の場合、タレバとするのが普通である。「書いたれば」「そうしたれば」
- (4) 逆接確定表現は、ゲント(モ)を用いる。「雨降るゲんと(も)行く」
- (5) 方向、目的を表す助詞にサを用いる。「学校サ行く」「見サ行く」
- (6) 手段を表す助詞にバを用いる。「お前バ連れて行がね」「水バ飲む」
- (7) 丁寧語としてガス・スがある。「そうでガス」「これが栗す」
- (8) 指小辞コが頻用される。「米コニ」「草履コニ」

4. その他

「収録した方言の特色」の項で述べたように、北奥方言に接した南奥方言の最北地域であることが、この地点を選定した最大の理由である。つまり、旧伊達領に属していながら、旧南部領つまり北奥方言の特徴もかなり入り込んでいるであろうと考えたのである。

B 表記について

表記の仕方は、「割付用紙への記入」のカナ表記方式に従つた。そのほか、次のようす表記も用いた。

中舌母音 [i] [ii] は、それぞれイウ、イイと表記する。[t̪i] [t̪ii] について、それぞれギ、ギイと表記し、[s̪i] [s̪ii] について、それぞれジス、ズシと表記する。

C 収録内容の概説

1. タイトル

(1) 小学校時代の思い出 (2) 若いころの思い出など

2. 録音年月日

昭和50年 8月14日

3. 録音場所

岩手県江刺市本町3番地5号 若松林平宅

4. 話し手の特徴

A 若松林平 (男)

大正5年生まれ。木材業。岩谷堂青年団副団長、岩谷堂中学校PTA副会長をし、現在、本町の納税組合長、本町町内会幹事をしている。

満州に2年間兵役で行った以外、他地で生活したことはない。

B 菊地政勝 (男)

明治42年生まれ。左官業。現在、岩谷堂大工組合理事、南町町内会班長をしている。9年間、中国大陆で従軍した。それ以外は現在地。方言はかなり保有している方。三人の話者のうちで年長者なので昔の話をよく知っている。それほど話上手というほどではないが、話は好きな方と見受けた。

C 吉田ケサエ (女)

明治45年生まれ。主婦。現在、岩谷堂婦人会本町班長。在外居住歴なし。方言を充分保有している。話好き。

5. 録音環境

親しい方の同士の三人なので、話はすゞやかでスムーズ。ことには進行役の(A)若松林平がうまく話題を提供し、話を展開させていったので、途切れることなく話は進んだ。

(1) 小学校時代の思い出

話 1 手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	若松林平	男	大正5年生まれ
B	菊地政勝	男	明治42年生まれ
C	吉田ケサ江	女	明治45年生まれ
〈D	本堂 寛	男	昭和7年生まれ〉

A マー トニカグニ アノノー アメッコ カ アメッコ
 とにかく あのう 飴 を 飴 を
 ヒトズズ ナンダ ミツミ オラ ミツミ イッシェンダナー。
 一つ あれは 三つ 三つ 一錢だだななあ。

C ヤギメシス ニス キキ テテネ。^(^) アノー アワドネ ^(^) アン
 焼 飯を 握って あの 粟 と
 ムギド ソノ コメドス。^(^) アン モ ナントガ コノ
 麦 と 米 とは。 さんとか
 バンツア ⁽¹⁾ (笑) アノー アンダノ ムヤ イレネデ。
 お婆おふくろさんが 粟 や 麦を 入れいれていで
^(^) イレネコメ。 ^(^) アワバリデモ イーガラ イレネテ—
 入れいい 米。 粟 だけでモ いいから 入れいいで
ニギ ^(^) ニギツメスア。 アノ モッテテ ミデド オモッテ
 にギソメいを。 持てていて 見たいと 思はって
 ガッコーサ。 ソシス テネ バンチャー アノ インズズ デモ
 学 校 に。 そしては、 お婆おふくろ いつでモ

イッカイ ソノ アノ コノ ヤギメスア アワ イレネデ
一回 あの ンの 焼飯に 粟を入れないで
(^B アー。) ネ コーイフニ^ス ワグルド ホラ ミツツ
ああ。 ニうようには 分けタと ほら 三つ
ミイロダガラ シログ ミシナダ ムギ サット イレデ
三種類だから 白く みんなは 麦を ちよつと 入れて
クルノニ^ス アワ マジエル (^A ンー。) スッドネ。 アノ一
くちのには 粟を 混ぜるのです。 (^A うん。) そうすうとね。
アノナー オメ ソステ ^{xxxx} アノ アブレコ ⁽²⁾ コーユフナ
あのね お前 そして 焼き網、 ニウヤウヨウナ
アブレコ ソイズサ シスバネ ^{xxxxxx} タイ キー タグ シバ オッテ
焼き網、 それに 柴ね 木を 焚く 柴を 扱って
(^B ソー ソー ソー ン。) (^A ンダ ンダナー。) ソシステ
ソシステ うだしきテス ヤギメシス ⁽²⁾ ギッテネ (^B アズ
ニうようには 渡して 焼き飯 握っては ⁽²⁾ アズ
アノー コゲー クツカネニ^ス。) (^A アン マリル クツカネー。)
あのう 焦げが くつかないと。 あんまり くつかないと。
ソシステ サット ^{xxxxxx} ギ^ス ヤイデガラ (^B アブリゴ)
そして あつり 焼いてから 焼き網
コンドナー ミツ ツケデ (^A ン。) ハー ^{xxxx} オ ガッコサ
今度は 味噌を つけて あふあふ 学校に
モッテーテー クーゴドー アノー カンゲアルド ヤッパリル
持って行って 食べることを 考えると やっぱり
オラモー ムギバリル イレダー ヤギメシス モッギデグテ
私も 麦だけを 入れた 焼き飯を 持っていきたくて

(^B 笑い) (^A ホンダガラ ア ナルホドネ。) ソシス テネ
ソレドカク 成程だね。) そしてね。

バンチャ一 アノ アウ イッカイデモ イーガラ イレネデ
お婆さん、あの 粟を 一回でも いいから 入れないで
ニヌギッテ ケロッテ イッタノ。シス タレバネ マジズノ
握って くだすいと 言ったの。そしたら 町の
ヒッタズア アウ イレネデ クルッテ イッタノ ミンナ。
人達は 粟を 入れないで 来る と 言ったんですね。皆が。

シス タレバネ マズノ ヒッタズナー サンゴグ⁽³⁾ カワレネガラ
そしたら 町の 人たちはね、三 穀を 買わねばいいから
ソノ コメノ ママダノネ ムギママ モッテグノデ サンゴグ
米の まま 麦の ままで持つて行くので 三 穀を

カエネガラ モッテガネノダツツ ヨーニヌ (^A 笑い ンネア。)
買えばいいから 持つて行かねばいのだと いうように そだね。

オシェルダモネ。ソシス テ アドー ホニヌ シス ンブンモ
教えるんですね。 そして あと 本当に 新聞モ

トッテネンダガラ ナーニヌガ カ ^{xxxx} アラ (^B ホノ ホノハ。⁽⁴⁾
取つていひいで 何か あれ 朴の葉)

ホノハ アーユーノサ ツズンデネ。 (^B ホノ ハッパ アリヤー
朴の葉。ああゆうのは 宮んでね。 朴の葉 あれ。

~~~~。) (<sup>A</sup> ホノ ハ~~~~ニヌモ ツカッタソダジナ ネ  
朴の葉 にも 使つてんだね。

アイズ ネ。) (<sup>B</sup> ソー ソー ソ。) ソシス テー アノ フルシスギ  
あれは。) ( そ そ そ。) そして あの 風呂敷

ホン ツズムノワ フルスギデ。ガッコサ イッテ ハグ  
本を 宮むのは 風呂敷で。 学校に 行つて 寝く

ワラゾーリル ソイズサ ソノ ベントノ ニヌギリッコド  
藁草履 それい= 爪当の おにぎりと

イッショニヌ ムムムサ ショッテ コ ワツコニヌ者。<sup>(5)</sup>  
いっしょい= 背負って 首に結んで背負ったね。

B アノー フルシスギサネ コー ワツコニヌ ショッテ システ  
あの 風呂敷 い= ニラ 首で結んで背負って そして  
アダア ベントバ コサ オニギリ コサ コー ギッチッリ  
あとは 爪当を ニン= おにぎりを ニン= ハカソと  
(<sup>c</sup> ユツケデス。) ムムコロ コロ コロド ムム (笑い)  
結びつけて。 ニラニラニラ ニラと  
(<sup>A</sup> 笑い) ショシステ ハシェ アレイダ モダオナ。 (<sup>c</sup> ムム  
そして 走り 歩いた ものだね。)

オナシスダナー オダケモネ。 アー アー オナジズデガス。  
同じだね。 そうだったね。 同じですよ。

C ソーユフニヌ オシスエデネ サンゴグ マズ<sup>x x x x x</sup> ンデネンダモ  
ういうううい= 教えてね。 三 輪。 町。 そうではないのだよ。  
マズノ ヒタズワ アノー ソレゴソ イー クラスシ  
町の 人達は それニキ 良い 落しを  
スシテルガラネ (<sup>B</sup> ソーナンダ。) (<sup>A</sup> イヤヤ。) アワ タベネン  
しているから そうなんだ。 いやいや。 栗を 食べないん  
だオシネ。

だものは。

A ソレ ワラズリ ムムエデ コシェダ ワラズリルネ。  
それ 藤草履 自分の家で 作って 藤草履ね。  
(<sup>B</sup> ワラズリ ワラズリ アーアー ソーソーソー。)  
藤草履 藤草履 ああ そうそう。

- C ツギッコ イレデ マンゼデ オッコ タデレバ シート  
 布片を入れて混せて緒と下へととても  
イーノデネ。 ( <sup>A</sup>~~~~~アギヤ オッコノ アギヤ オッコノ  
 良くなる。) <sup>A</sup>~~~~~アギヤ 赤い 緒の 赤い 緒の  
 ゾーレッコダ ソレゴソ。  
 草履 まだ。 それこそ。 )
- B オラー アバレンボ ダガラ アノー ゾーリルナド  
 僕は 暴れん坊 なので 草履 まだ  
 ハガネガッタンダオン。  
 履かなかったんだものね。
- C ダレ ベダベダ ( <sup>B</sup> シー ) ( <sup>A</sup> ベダベダ ~~~~~ ハガネデ。  
 でって ベタベタと (まだ) でね ) ベタベタと まだ履かないで。  
 ~~~~~ ダッタネ。 ) ( <sup>B</sup> シー マズワ ハ。 ) ソレゴソ シヨンベ  
 ダったね。) 先ずは。 それこそ 小便を
 タレルレッタッテ ドゴサ イグッタッテ ハ ヒツズキ
 するにも どんじ 行くにも 一緒に
 ナンダネー。
 なんだからね。
- B ゾーリルッコナド ハガネンダオン。
 草履 まだ 履かないからね。
- C イマノ ゴダー ホントニヌ アイツ カンゲット ハ ユメ
 今に あって 本当に あの時のことを考えると 夢の
 ミデダ。
 ようだ。
- A アー イマノ ベント ナダー ソレゴソー オフルメサ ⁽⁶⁾
 ああ 今のは 弁当 まだ それこそ お振舞いに

イッタヨーナ モンナンダオンネ。ネッ。

行^フッタ^シううば ものなん^タび^シね。

C ソイズサ ウメッコガ ミソズゲ イレダバリ。

それい、 梅干か 味噌漬けを 入れた^タび^シのものだ。

A ナットー オラ ナットー モッテッタ ゴド アルナー。

納豆、 僕は 納豆を 持ってい^ター シ^ヒが あるが、

ナットー モッテグズドア クセクテナー ナ オヒルノ
納豆を 持っていくと 魁く^タては。 お腹の

ジズカ^ン カン^ンテノア。 (^B 笑い)

時 間 ザ^ビは。

C オライ^ノ ジーチャンダ^ネ ムスコ^ー ホリヤ ムスコモ

私の家の 節^フさん^は 息子^は それ、 息子^モ

サイゴ^ノ ムスコ^ー ダガラ^ネ ナンダリ^ー イレデ^ー ヤットア

最後の(一番末の) 息子^タ バ^ジから^ハ 色々^タ 入れて やろと

カシネデ^ー ノゴシス^テ クルド^{ゴダ}。 ソッスドネ^ー ナヌニガ^タ
食べ^タいで 残して くらん^タです。 そうすると、 何^カ

クーモ^ノ イレデ^ー ヤラ^タバ^アノー サッパ^ド クッテ

食べる^タものを 入れて やら^タいと 少しも 食べ^タ

コネガラ^タ (^B アー。) ツアラ^バ オラナド^ナー ミソズゲダ^タ

来^タいから^ハ ああ。 そ^レたら、 僕^タビ^シは 味噌漬けや

ナヌニスカ^タ イレデ^ー ヤンネ^{ノニ} ナヌニ^ー ソンタヌニ^ー

その程度のもの^タか 入れて もうえ^タか^タた^タの^タ す^タに^タを そん^タい^タ

ゼジータ^タ サセデ^ッテ ユーンダ^ッケオンヤ。 (^{A, B} シー。)
贅^タ沢^タを イ^タせて と 言う^タんで^タす。 (うん。)

ンダ^ッテ カンネデ^タ クルモ^ノ ノゴズシ^テ クルモ^ノ

だ^タって 食べ^タいで 帰^タてく^タるもの、 残^タて 帰^タてく^タもの

モッテネット ュー。 (^B ンー。) ソスッドネ ノゴステクル
モッテいいがいと 言ッタジ。 (えん。) そしてから、 残してくる。
ア カンネデ ノゴスシテ クルドア カンネンダラバ
食べないで 残して くるのぞら 食べないのぞうば
カンネンデ ソノママデ イーガラ マイニヌズジ カンネデ
食べないで そのままで いいから 毎日 食べないで
クッコッテ ネーガラネ (^B アー。) ソンナニヌ ニヌグダノ
帰ってくるのでは ないから (ああ。) そんない 肉 ダの
ナンダノ イレデ ヤッコド ネッテ ジズブン イワレダ
なんじのを 入れて やるンには ないと 自分自身が 言われた
オガサレダゴドオ ユッテネー ソシステ ムスコダジズ ~~~~~
育てられた(当時の)ことを 言っては、 そして 息子たちに
ユッタヨ。 (^A オガサレダ ~~~~~。) ホントニヌ。
言ひまけてよ。 (^A 育てられた ~~~~~。) 本当に。

B ソンナニヌ イマノー ソダデガダドー ヤハリ ワレワレ
そんない。 今へ 育てかでニセ やっぱり 我々が
ソダデダドギヤー も ジズダイガ ゼンゼン チッパウガラ
育てられた時とは、 もう 時代が 全然 違ってい⁽⁷⁾から
スー ウーン (^A ~~~~~) アワメシス カセラレダッテ。
ね。 粟御飯を 食べさせられたっては。

C ソシステネー アサシスコドニヌネー ゼッテニネ ナニヌガ
としては、 朝 仕事には 絶対い 何 カ
アサシスコド シスネバネ ガッコサ ヤラセライネンダオ。
朝仕事 を しないと 学校い 行かせねばいものだ⁽⁸⁾よ。

A ン ンダ ンダ イダメフギドガ (^C ナニヌガサ。)
そらだ。そらだ。 板ふきとか 何 カい。

ニワハギドガネー ナニ^フガ カニ^フガ ン一
庭掃除とかね、 何か かにか。

C チッセセドギア ソノ クレデ オッキグ ナレバ コンダ一
小さい時は その 程度で 大きく なると、 今度は
ハダゲサ イッテ (^A ワッパガ⁽⁸⁾ ズシコド~~~~。) ハダゲサ
島 に 行って 割り当てられた仕事を。 島 に
イッテ アズギ ショッテ イッカイ ショッテ クンノネ。
行って 小豆を 背負って 一回 背負って 来るのだけね。
イエネ ショッテ クンノッテ ソーシス^フテ ネー ヒヤクショ一
稻を 背負って 来いと言つて そして 百姓
ダガラー (^A ンダ マンズ ンデネバ マンズ マッチャ
ダから そうぞ、 まあ、 それでなければ まあ 町に
イッテ トーフ カッテ コノー ナンダノ カンダノッテネ。)
行って 豆腐を 買つて 来いとか なんとか かんとか言つてね。
マジズド ゼーン ゴデモ チッガッタンダベナ。
町と 田舎とでも 違つてんだどうね。

B ン一 マンズー ゼーン ゼー マズノ ヒトアズズノア
ラーン ます 町の 人達といふのは
ナンデネガエンガ。 ン一 アギンド システルドゴード ヤッパ
あれではないでどうか。 商売を している家と ヤハズ
オヒヤクショ一 ステットゴドノ コドモダズノ ソダデガダ
お百姓を している家の 子どもたちの 育てかたヒ
モジズロン ツガッタンダス。 (^A ンデモー アギネ~~~~。)
もうろん 違つてんだよ。 ゼモ 商売~~~~。)

C イズバーン オレ オショスド オモッタノネ ログネンシエ
一 番 私が 耻ずかしいと思ったのはね、 小学六年生

グレーヌダ ン一 ヨネンシェーダガ ン一 ゴネンシェガ
ぐらいの頃 四年生だか 五年生だか

ログネンシェダナー (B ン一。) アノー マーッスグニヌ
六年生だつかなあ。 (うん。) あの、まっすぐい

カドオガガラ マッスグニヌ (B ン一。) コノ マズサ キテス
片岡から まっすぐい (うん。) ンの 町に 来テ

(B ン一。) ソシステ アノ マメタマ アリヤ (A ン マメタマ
うん。) そして あの 豆玉、 あの、 (うん 豆玉

マメタマ。) コヤシスニヌ スル マメタマナ アイズ
豆玉。) 肥料に すと 豆玉は、 あれを

ショワセラインデガステ ホニヌ ハンゲン (A コノグレ アルヨ。)
背負わせられたらんです。 本当に 半間 (ンの位 あるよ。

ハン コノ (B ニヌ シャグ ゴシスン グレエ アル。) ニヌ シャグ
半、ンの ニ尺 五寸 ぐら、ある。) ニ尺

サンジャグ シスホン グレ アンデネ。ネ。
三尺 四方 ぐら、あるのではないか。

A ソンナニヌ オッキグネーデー (笑い)
そんない 大きくはないよ。

B ニヌ シャク コスン グレエ シャ。
ニ尺 五寸 ぐら、だよ。

C ニヌ シャグ ゴスン グレ (B ソイズ~~~~。) アイズ
ニ尺 五寸 ぐら、 (それは。) あれは
イジズバーン アノ ジズ ユーニヌ ナンネノ。 ワラダノ ソノ
いちばん 自由に ほうまんじ。 薙 や

マメダノ ソユーナノワ ナンボガ ソノ ユーゴド。
豆 や そういうものは いくらか 自由に がよ。

ギハント⁽¹⁰⁾ シスタ コンナ アズ^{xxxx} アズノダオネ コノ クレ
ズライリ とけた シンギ 厚いものだからね。これくらい
グレ アズンデネ (^A ンー アズ アズ。) ソーシス^テ
厚いはずだね。 ラン 厚い 厚い。 そして
コンドア ソイズガネ カンラダサ アノー ユゴド
今度は それが 体 に 自由に
キカネオネ ギホント⁽¹¹⁾ ナッテノ。 ソイズ ショウノ
ならないで ずらいと なっているんだ。 それを 背負うのが
イジズバーン ヒデガッタヨ オボデスネ。ゼンゼン……。
いちばん 大変だってよ。 おぼえていますよ。

A ~~ア~~ アイズ ショッテ アル^リッタノ。
ああ あれを 背負って 歩いたの？

C ンー。
うん。

B ンー シダッタベナ。
うん。 そういってからね。

C ンー アイズ ショッテコッテ イワレダドギ ヤスミナンカニネ
うん あれを 背負って来いと 言われたとき、 休みなどに
マージズカラ ショッテコッテ イワレダドギ アイズ ハ
町 から 背負って来いと 言われたとき、 あれ は
イジズバーン ヒデガッタ。
いちばん ひどかった。

B イマ ネーモンナ アー~~~~~~~~~。
いまは ないものね。 ああ いうのは。

C ショイ やスグネンダ アレワネ。 (^A イマ ~~イマ~~ マメタマ
背負い易くないんだ。 あれはね。 いま いま 豆玉は

デテコネ~~~~。) ネー ネー。 (B シー。) シー。 アノ
ないものは。 キイヨ、キイヨ。 (B うん。) うん。
タガギスル アダリル ネッ。 (B シー ンダネ。) タガギスル
田植きする 噴 い ね。 そうだね。 田植きする
アダリ フル一 コナシス テ フルノナンダオ。
噴 い くナジいて リ-リ散くのアジね。

A シュリヨヤノ ウエサ ミセサ カサナッテダンダオナー
肥料屋へ 上 い、 店 い 重ねて置いてあつたよね
アイズアー。

あれは。

C シスツテスペ。
知っているでしょう。

A ン?

え?

C シスツテルベ。
知っているでしょう。

B タガイダノ ヤマサンデ ⁽¹⁴⁾アリヤミム セデアンダオ シー。
高榮 や 山三で あれは 店 であつたよね。

C アド アリヤ イマ アノー。
あれは、あれは いま あのう……。

A オラ ハジズメ ナニヌダ アイズ ナニヌナンダエド オモッテ
俺は 初め、 何 なのか あれは なに なんどうと 思って
ミテ アルソツテランダオナー。
見て 歩いてたものだったまあ。

B アド アブラッカス ツンデ アノ ワッパ⁽¹⁵⁾ ミデナ カッコ
それから、 油 精を 重ねて わっぽ みたいたい形 い

ナッタノ アッタ ~~~~ネ。

アッタのが あッタね。

C センソ一 トージズ アノ マメカスダッテ ユッタチャ一。
戦争 当時は、あの 豆粕と 言ったでしょう。

(^B クッター タベダー) タベダー。 (^B タベダー アー
食べた。 食べたね。 食べた。 食べた。
タベダオ) ソレゴソ クッタンダヨ アノー。
食べたね) それこそ 食べたね。

B ヒリヨーニ スンノネ。
肥料 い するのをね。

C ンネー ヒリヨーニヌ スンノ。
そりだね、肥料 い するのをね。

B アリヤ アブラ シスボッテ ナニヌシス タノダオネ。
あれは 油を 絞って 作ったのうのう。

C ソノ カスナンダオネ マメカスッテ アブラ トッタ。
その 漬 さんだものね。 豆粕というのは 油を とった。

B アレ マンシュアダリガラ キタモンデネガネサ。 ンダベネ。
あれは 满州 あたりから 来たものでないだろうか。 そりだらう。

C ナガサ アナッコ アイデネオ。 アイデネ。
中に 穴 が あいていいね。 あいていいね。

B ン一 アイデ アイ アデネノ。 タダ シスコシス コーネ
うん あいて あいていいよ。 丁だら、少(レ) ニラ
マンマルコデナ スコシス コー カデッポ ヒグメニヌ
まんまるで 少(レ) ニラ 片一方 が 伝めに
ナッテルノ。
立っているんだ。

A ヒコマッテルノ。

俗めにそっているんだ。

C ソー ソー マンテガネ。

そう そう。まん中がね。

A ⁽¹⁶⁾ ヴィーベゴート ヒッコマッテルノ。

ヘンんで いろんデ。

C シー アイズ イジズバーン ショーニヌ ヒデモンダ。イマー
うん、あれほ いちばん ほんとうに ひどかったよ。今
ソンナゴドシステ ^ガ ガッコサナド イグ ヒトア
スンナンシをして 学校などに 行く 人は
ヒトリモ ネオナー。
一人も ないだろ。

A アー アサニヌ ホヌー シジー ナニヌガ ソゴイラヘンノ
ああ、朝に 本当に いつも 何か そんシンヘ
ニヌワッコ ハグクレナノハ イルベゲント シスンブン
庭を 掃くぐらいいの子どもは居るだろ。新聞
ハイタズハ システ アルグ ワラスタズ ハ イッケントネ。
配達を して 歩く 子ども は 居るだろ。

B シー マー シスンブンハイタズ ダネー。シー シー
うん、まあ、新聞配達 だね。

A ムガシスガラ ^{カンダ} ムガシスガラ カンゲットド ナニヌモ
昔から 買から 考えると なにも
カニヌモ ネクテ ラグサ。
かにモ なくて 楽だ。

D ショーガッコーン ドギ アリビッテノワ ドンナ アソビ
小学校の 時の 遊びといふのは、どんな 遊びを

シタンデスカ。

（たん）ですか。

A ウー ~~アササ~~ アノネー~~~~~。

うん。 あのね。

C ナーンニヌモ オモチャ ネガラネ カツツガッコダオ
（18）
せんにモ おもちゃが ないからね。 追いかげっことか
ガグレガ~~~~~。 (^A カツガッコ。)
かくねんほ (追いかげっこ。)

B ガグレガッコダノ ジズントヅルダノ。 (^C ジズントリル。) ン
かくねんほ とか 陣取り とか。 陣取り。 うん
ジズントリルダノ。 (^A ジズントリ。)
陣取り とか 陣取り。

A ソレガラ アンダズアーヌー (^C オハジズギ。) オハジズキ
それから あすたぬ は おはじき。 おはじき
ダ~~~ オデダマ (^C ⁽¹⁹⁾ ダマツギ。) ダマツギ。 オデダマ
お手玉 お手玉。 お手玉。 お手玉
デネー ダマツギダ オハジズギニヌ ダマツギダナー。
ではなく だまつさだ。 おはじきに だまつさだね。

B ヤッパー オラー ガッコー ヤッパ シスコネンセー
やっぱり 僕は 学校。 やっぱり 4・五年生

アダリニモ ヤッパリ ヤキューズノワ ヤッタモンダヤー。
アダリニモ やっぱり 野球 というのは やったもんぢやねえ。

アリヤ アリヤ アノー キレデ コセデ タマッコ コセデス。
あれ あの 布で 作って 球を 作って
ヤハリル。
やっぱり。

- C アド オヒナッコ⁽²⁰⁾ダオ。 (^A オヒナッコ。) カミノネ。 カミオ
 それから人形遊びだものね。 人形遊び。 紙のね。 紙を
キッテ オヒナッコ走 ソー フグ フグナンツモノー
 切って 人形遊び そう 服などといふものと
タマーニヌ ツグッテ イショーツグリル ナンダオ イツ。
 たまに 作って 衣裳作り なんだよ いつも。
 ハサミデ アスンデ。
 はこみ で 遊んで。
- B ヤキューナンテ ハ ャッタンダナー アノー キレデ コヤダ
 野球 などを やったんだね。 あのう 布で 作った
タマッコ~~~~。ンー。
 球で。 ……うん。
- A アー ンダ ンダ。 ソゴラヘンノ ポッキレデ タダイデナ。ン。
 ああ うん。 うん。 うんへんにあう 棒切れで 打たぬ
 (^B ヌー。) ソイズ ハ ~~マ~~ マネコド ハジズマッタッタガ
 うん。 それは (野球の) オナジとが 始まつたかも
 シエネナ。 マンズ アドア バッタウジズダオナ。
 けせいな。 まあ あとは めんこ遊びだったな。
- B ヌー マー バッタウジズニヌ コヌ コママシス。
 うん。 まあ。 めんこ遊び に 独楽廻し。
- A バッタウジズダ。ナーモー。 メンコズヤズダネ。 バッタウズジ。
 めんこ遊びだね。 めんこといふものだね。 めんこ遊び。
 エー。

- C イジズバン キオグニヌ ノゴレノネ ワラシスノ コロ オレ
 いちばん 記憶に 残っているのは、 子どもの 噛み 私が

ムツツコロノノドギネ オラヨリ ミツツガ ナンボクレ
六オジラ の時に 私より 三オカ いくつぐらい
ウエノ ヒタズス アネダノ ナンテネ。オードゴダジ^ハガラ
上の 人たち、姉とか などがね。男の子たちとか
ミンナ アズメデネ スカ^ハリルアラシス ヤンダッテジエ。
みんな 集めて 蜂 荒うしを やつてんてジよ。

A スカリルアラシス？ (C 美い) ヤヤヤヤヤヤ ソイズア ハ
蜂 荒うし？ いやいやいや されは
オダヤガデネナ。
大変なことだ。

C コゴイラダラバ イマナダ ホントニ^ハ ヨケ ヨゲルオンネ。
ンの辺なれば、今なれば 本当に 逃げるのにね。
ソイズ スカリル イルガラネ。アノー ガガサンダノ
それ等のい 蜂が 居るからね、あひう、お母さんや
ツアツアンダノ ント ヒデガッカラ、アイズ アラシス^ハ
お父さんやが 困っているから、その蜂の巣を 荒うしで
スー トルベッズーゴド カンゲーダッタンダッケオ。ソシス^ハテ
取ってまおうと 考えたんてジよ。そして
ホラー ョー イーツガ ヨーッツタガ イズズノ
ほら、 五オカ 四オカ 五オの
ドギダッタア マダ ワラシスダガラ ソノコロ オラ
時だったと思うがまだ 子どもだから その頃は 私は
マジエライネノス。 (B ハー。) ソシス^ハテ アネダノ アネダノ
(仲間に)入れてもらえないのです。 (はあ。) そして、姉や 姉や
トモダジ^ハ オドゴダズ アズマッテ ソーユーノオネ (B ハー。)
友だちや 男の子たちが 集まって そういうのをね、 (はあ。)

ナーニヌンダベド オモタ ムシスロ (A ン。) (B ハー。) アノ一
何をするのかと 思ったら 篠を (うん。) (はあ。) あの
ワラデ ツグッタ ムシスロネ ソイズ カブッテス コーユーノ
簾で 作った 篠は それを かぶって そういうのを
カブッテネ ソシステ タゲデ ジョギ ジョギ ツズグ。
かぶってね、そして 竹棒で じょき じょきン 窓くの。
ソイズ ホラ トブガスペジャ スカリ。 ソイズ ワラスダガラネ
蜂は、それ 飛ぶでしよう 蜂は。 キンガ 子どモジカレハ
コステ オレ チラシタ タッテ ミデダンデガス。 ドーゴガ
シテ 私は 立って 見ていたんですよ。 ビニカを
ササレデ ナイダモンダオナ。 ソシスタレバー シート ガー
刺されて 泣いたんですよ。 そうしたら、 うんと、
ソ一 オガ ガサマニス オゴラレデ (A アーレー ソレゴソ
お母さんに、叱られて あれえ、 キレニモ
イー カッコダッタンエナー) ログナゴドモ シス テネットネ。
いい 格好イダーラウね。 良いことを しゃいって。
ステ スカスカ アブネガラ ソッチャ ヒッコンデロドモ
そして 危ないから そっちの方に ひっこんでいろとも
ナントモ イワネンダモノ。 ワレダズバリ ムショロ カブッテ
なんとも 言わざいものだからね。 自分たちばかり 篠を かぶって
タゲデ ツズグンダッケオ。 ンデ ソイズ ホラ ワラシスダガ
竹棒で 窓くんだものね。 それで ほら、 子どモジカレ
ラ コージステ ミデンデガス。 オレ ササレデ シート
シテ 見ていたんですよ。 私は刺されて、そして
ソノ ヒタズ アネダズ オゴライダノネ。(笑い) アネノ
その 人たち 姉たちは 叱られていましたね。 姉の

トモダジズダ キテ オドゴダズ スガリル アラスンダッケオ。
友だちが 来て 男たちが 蜂を 荒らすんだからね。
ソーヤッテ トッタノ。 ソレガラ ダンダン ~~~~~ ッテ
やうして 取ったんですね。 それから だんだん
ヒー ツケデ ソシス(22) テ アド ヤイダリナンカ スンダッケオネ。
火を つけて、 そして、 あとは、 焼いてリヤビ したんだよ。
オドナダジズ。ナーンニスモ シャネガラ ソンナゴド
大人たちは。 何にも 知らないから そんなことを
スンダデバ オモ ~~xxxxx~~ アノー アソビモノガ ネーガラ。
(丁寧だよ あのう 遊ぶものが ないからね。

- A トニスカグー アー ナニスガカニスガ メッケダンダオネー。
とにかく 何か かにか 見つけたんだよね。
イダンズラ スルゴド ハ カダッパシスガラ。 (B ~~~~~)
いたずらを すること を かたっぱしから。
- C デー ナニスソレ オヒルマデニス ナニスソレ ステロヨッテ
それで、 何々を 尻までに 何々と しているよと
イーズゲデ デハラインダオネ。 (A ンーダ ダ。) スト
言い付けて(親に) 出ていかれらからね。 そうだ。 そうすると
ナンニスモ ヨーネーガラネ オドゴノ トモダジズダ アノー
なんにも 用がないから、 男の 友だちは
スズメノコトリルナンダッケ。
雀の子取リと いうことは あるからね。

- A ン アイズ ハ アガッタモンダ。
うん、 あれは、 のぼって行って取ったもんだね。
- C スズメトリル。
雀取リね。

- A ンスズメトリサ。
えん、雀取りだ。
- C システ ヤネノネ アリヤ コーアイフニヌ ナッテル ケムリル
そして、屋根の あれ、こういうふうに なつていら 煙
ナンダッケ アソゴ。アイズ ナンテ ユーンダ ケムリルダス/
さんと言つたっけ あそン。あれを さんと 言うのだろう、煙を出す
ゴド。
ところを。
- B ～～～ アノ ケムダス アズ ケムダスノ ゴドア アズア
あの 煙を出す 煙を出す ところを あれを
父 アノ ハーフテ イッタンデネガ。
あの「破風」と 言つたんではなかつたか。
- C ハーフ。アソゴサ ヨグ クッタモンダオネ スズメガス。
「破風」あそニ よく 巣を作つたものだけ、雀がね巣を。
 (B) ソークサヤノ アノニ コロー～～。) クサヤ ヤネ
そう わらぶきの家の あの ～～～。) わらぶきの家の屋根。
コーザッテネ コーユ サンコニヌ ナッテンダ。ソゴサ
ンのようになつて ンのようになつて 残がンのようになつていらのド。 やニニ
アガッテッテ オドゴダジズー ソノ トルンダッケオ。
昇つて いひて 男の子たちは 取るのだったよ。
スッドア チョード オヒルメニヌ ナニヌソレ ナニヌソレ
そうすると、チャウビ 屋前に あれと これを
システロヨッテ イーズゲデ デハラインノ。ソイズ シスネデ
やつておけと(親)言い付けて 出て行くんだ。それと しすいで
ムジュー ナッテ ソノ スズメノコートリル スッツダア
夢中になつて その 雀の子取りを していると。

ソノ ドギ チョード ケッテ キテス。ソシス^テネ ソノ
その 時 ちょうび(親が)帰って 来ては。 そしては、 その
ハーシス^コ。 トランダ。 (笑い) スト オズラエネ
様子 を とられてしまった。 キン^で 降りられない
ゴッタオナー (笑い) ~~~~~ オズラエネ^デー。
ようだったよ。 降りられないでね。

A オナゴダズア アリヤー アノー オナゴダズア アノー
女の子たちは あれは 女の子たちは あのう
ケッケナゲ⁽²⁵⁾ テ ケッケナゲデ^ネ。 (イシスコハズギ^ネ。)
石さげ 石さげを いたがう。 石はじき^ね。
イシスコハズギモ シス^タンダエ。 (シス^タヨ。) イシスコ
石はじき^も いたんだう。 (いたよ。) 石はじき[。]
ハズギ。 (^B ~~~ コ マルッコ アリヤ コー ツケデ。)
円を ニ^う 書いて。
マルッコ カイデ マルッコ カイデ (^B ンー) ソシス^テ
円を 書いて、 圓を 書いて。 そして
イシスコハズギ。
石はじき[。]

B コー ヒトズ^デ ヒタツ^ツ オイデ ヒトズ^{オイデ} ヒタツ^ツ
一つ おいて 二つ 置いて 一つ 置いて 二つ
オイデ⁽²⁶⁾ ネ。
置いては。

A ソシス^テ ヤッタ^ンダナー。 オドゴモ ヤッタゴド ~~~。
やうして やったんだ^ね。 男の子も やった^シが ある^よ。
(^B ンー。)
うん。

- C アド クニヌッコ クニヌッコトリ⁽²⁷⁾ リッテ ムガシスノ ソノ
 そのほか、国 国 取りといつて、昔の
サムライノ マネデネンダベガネ。ン。 (A) クニヌッコトリ コレ
 武士のまねをしたのではないだろうか。 国 取り、これを
ヤッテナ コレ ヤッテ クニヌッコトリ ジャンケンシテ コレ
 やって これを やって 国 取り じゃんけんして、これを
 ヤリナガラ。) ソーユゴドー ワガラネンダベガネ。
 を やりながら。 そういう遊びは 分らぬいだろうね。
 センセーダワ。
 先生は。

D コレワ ワカルケドモネ。
 この遊びは 分かるけれどもね。

C ンダ。コーヤッテネ。ドンドン コッカラ コー ダンダン
 キュダ。シラヤッテね。 どんどん、ここから このように だんだん
トッテグンダオネ。テノクレニヌ。
 取っていくのですね。 手のひらがる大きさで。

A クニヌッコトリルズナネ アノネ ケツケナケ ケツケナケッテ。
 国 取り といつのはね、あのね。 石なげ、 石なげって。

B ジャンケン システサ。
 じゃんけん して。

A ミヤシ ジャンケンテテ ミヤシ ジャンケンダ。 ジャンケンタッタガ。
 (28) (じゃんけんして。 じゃんけんだ。 じゃんけんと言つただろうか。
 (B ーン。)
 (うん。)

C ジャンケンダヨ。
 じゃんけんだよ。

- A ヤッハリル (C シー。)
ヤッハリ そうだっけかな?
- C コッカラ ハジズメデネ
ここから 始めるのです。
- A ソシステ ~~カッタ~~ カッタホーワ。
そして 勝ったほうが。
- C カッタヒトガラ コーユーフニヌ トルワグ。 | B ~~カッタ~~ カデバ
勝った 人から、 こうやうように 取るのです。
シーノン。
- A イッカイバリダッタエガ。 (B イッカイ ~~~。)
一回 イケテバトクガ。 一回 ~~~。
- C イッカイ。 (A コーイフニヌ。) シー。
一回 シのうに。 ラン。
- B クニヌコトリナントネ。
國 取り合ひと言つてね。
- C ソシステ マダ ケンシスティ コンタ" コノ シスマッコガラ
そして また じゃんけんをして、 今度は 隅の方 から
コー トルンダオ。 ンデ マダ コッカラ コーシスティ。
シテ 取るべしよ。 そして また 此処から シのうにして。
- A ハヤグ イッペ トッタホー。
早く たくさん 取ったほうが。
- C トッテス ソシスティ ヒローグ トッタホーガ イイ!。
取って そして、 広く 取った方が 勝ちだ。
- A ソンナ ゴド ヤッテ アー テーグズダガラ。
そんな ことを して 退屈だからね。

- C ソーユゴドバリル シス テネ。 (^A クニス トリル ダノ
 そう ゆう しと ぱかり いてん し じよ。 国 取り や
 ケッケナケ~~~。)
 石けり ~~。
- B ~~ アソビズノワ ソイッタ モンダベナー。
 遊びといふのは そいつた ものだろうね。
- C ナーンニヌモ オモチャ ネガッタオネ。 アーユドギハ。
 なーんにも おもちゃといふものが なかったものね。 あの頃は。
- A アノー マッコウ?
 あのお 竹馬 は?
- B マッコ ~~ヤ~~^{xxxx} アー タゲウマッコ アー オドゴワラシスタズ
 竹馬 ああ 竹馬 は 男の子たちが
 ヤッタ!。 (^A オドゴワラシスタズ ソイズア ~~) ウーン
 やったんだね。 男の子たちが その遊びは うん
ヤッタモンダネ アノ。 アノ コー アリヤ ~~コ~~^{xxxx} ナニス
やったものだ。なーん
ピアツコシス⁽³⁰⁾ テ アノ アルグノネ。 アイズア ヤッタナー
 少し して 歩くんだね。 あの遊びは やったね。
 ンー。
- A マダ バッタズジズダス (~~バッタブジズナンダシス) ホガニス
 亦。 めんこ遊びだ!。 めんこ遊び だんだね。 そのほか
 ジズントリル。 カグレガッコ ⁽³¹⁾ シ カツツガッコ
 陣取り遊び。 かくわんぼ かくわんぼ
カグレガッコ ワガリマスカ。 (ウーン カグ カグ マア
かくわんぼ 分かりますか。) うん

カグレガッコ。) カツツガッコズノ。カツツガッコズノアネ。
かくねんぼ 鬼ジンと いうの。 鬼ジンと いうのはね。
トニヌカグ (C 笑い) カツツゲバイーンダ。 (C ウンドーカイ
トニカグ 追つけば いいんだ。 運動会
ミデナノ) ウンドーカイ ミデナノ。マ- カグレガッコズノ
へようなもの。 運動会 の ようなもの。 まあ かくねんぼ いうのは
ハ カグレデ ガグレダンダ~~~。カツツガッコズナ カツツ
かくれて かくれたんだ。 鬼ジンと いうのは
カツツイデ サワレバイノダオン グレグレド ⁽³²⁾ ドゴダ
追いついて (相手に) 触われば いいのだけ。 無理やソレ
ドゴデモイガラ ハシェデ。 (C ダレデモイー。) ンデネバ
どこで もいいから 走って。 誰でもいい。 そうでなければ
アドー (D オニゴッコミタイナ)
あとい.. 鬼ジンみたいなもの

B ウーン マズ イマノ オニゴッコ~~~。 (A ~~~。)
うん まず いまの 鬼ジン
(C ~~ ネー オニゴッコタッタベネ。)
おにじんぢうね。

C オニゴッコズノ チガウデガッチャ。オニヌゴッコズノワネ
鬼ジンといふのは 違うのではない。 鬼ジン といふのは
コゴー ユツケンダヨ フサイデ オシェンダヨ。 (A ン
此処を (ぼって (目を) ふさいで つかまえるんだよ。 うん
アズア オニゴッコダ。) カツツガッコワ タダ ハセデッテネ
あねは 鬼ジンナ。) 「かつがんこ」は ナナ 走つていて
サワレバ コンダ ソノ ヒト オニヌニナル ワケ。
触われば 今度は その 人が 鬼 い まるのだよ。

カツツカレネヨニ^ニス ハセンダオネ。 (B ンー ンー) ア ンダ
追いつかれないと 走ったんだよね。 うん。 うん。 あ そうだ
オニ^ニスゴッコワネ メー^{xxxxx} ンー マナグ ユツケデサ
鬼 ジン はね 目 目を しばって

メーネグスン！

見えなくするのだよ。

A ソンナ^ー マナグ マナグ ユツケデ ナニ^ニ ヤルナシ^ツ
そんない^ー 目を しばって やるなんていうことは
ゴドア シスネガッタナ ジェンジエンネ。
しなかったね。 全然、ね。

C シス^ツタヨー。 (A スネーナ) アンダダズア スネンダガ。
したま。 (はいは) あすたたちは しなかったへ?
オラハ マナグ ユツケデ オシエンノダッタ。
私は 目を しばって おざえらのびったよ。

B ソルニ^ー ヤツバー オナゴダズノ ホー アレダベナー ~~~。
それは やつぱり 女の子たちの 六ヶ あれをいたんだろうね。

A ンダッタエナー。 オラ マナグ ユツケデ ヤッタゴドア
そうだったろうね。 俺は 目を しばって やったんことは
ネーナー。 ンー。 ソーテネクタッテサゲー~~~~~。
ないね。 うん。 そういうことをしなくても ~~~~。

C オショガズダッテネ ハネツギズゴドモ ネース。 (B ソーソー。)
正月びってね。 羽根つきといふともいはかってね。 そうそう。
ン。 モジズタモレコンコッテ ⁽³⁴⁾モジズ モレサ アリルグノダ。
うん。 「餅給れ こんこ」といって 餅を 貰いに 歩いたものだよ。
(笑い)

- A デ⁽³⁵⁾ア アンダダジズノ カミム ソーストユード カミム
 ねえ あなたたちの 髪は やうすると 髪を
 ュッテ アノ一 ユッタヨナノド ナニヌ一 アノ
 結って あの 結ったようものは
 モモフレッコガ。 (^ン一) ヤッパリル。
 「桃割れ」というものか? (うん) やっぱり。
- C イジョケ^{シス}タドガネ。
 「銀杏返し」だとかね。
- A ナンダ。 イジョケシスッテ ナンジョナノダ。
 なんだ。 「銀杏返し」というのは どんなものなの?
- C アノネ。 モモワリツツノワ (^A モモフレッコズノワ タダ~~~)
 あのね。 「桃割り」というのは 「桃割れ」というのは、 T=タジ~~~
コー イマ ナンテ ユンダエ クルント コーシス⁽³⁶⁾テ
 シテ 今 何と 言つたらいいか くろりと シテ
 タゲナガ⁽³⁷⁾シス^{シス}テネ ソシス^{シス}テ ユツケダモンダオネ。 キモ/
 「丈長」については、 そして 結んでるものだよ。 着物を
 キテス。 イジョケスズノワネ タゲナガ^{シス}ネノス。 (^B アー)
 着てね。 「銀杏返し」というのは 「丈長」を しない結い方だよ。
 タゲナガッテ コーネ。 (^B ウーン) マルレッコ コーイフニヌ
 「丈長」というのは こうするのだよ。 (うん) 丸く シテ こういうように
 シスタドゴサ マエサ コー (^A アー) タゲナガスンノ。
 いたとんろい 前に シテ (ああ) 丈長を するのだよ。
 イジョケスズノワ タゲナガ^{カワレネガラ} ビチット
 「銀杏返し」というのは 「丈長」を 買うことが出来ないから キッカリと
 ヒスイデ ヒシスンタ^{ユイガタ} シスタノ。 (^B ン ハー ハー
 押すえて 押すえた 結い方を けんしむよ。 (うん ああ ああ

ンー) コーイフニヌ コイズ⁽⁸⁹⁾ ユッテモレデグテナ
ニシハシヨウトニ シハを 結ってもらいたくて

クルント コー ヤッテ ソイズ タゲナガワ アノー アタリテ
くタッと ニラ やって それは、「丈長」は あの 嘘で
ニヌシェンカ サンシェンダッタベヨ。
ニ 錢 か 三 錢 だった だらうよ。

B タゲナガズノア コレグレノア ハバッコノンデ ンー ナニヌカ
「丈長」といふのは、これ位の 幅 で 何 か
イロッコ ツカッテ (^ ソー ソー モヨー / アル /)
色 を つけて キラ キラ 模様の あらのだね
ナニヌガ カイデ ソシステ コー キッテ アノー コーユー
何 か 書いて キリて ニラ 切って ンのように
キチッット サステ (^ コッチッ キッテ コッチッ キッテ)
きちっと 刺して ニカラと ニカラを 切って
ンー ソシステ サシスンダッケ。
うん キリて 刺したんだよ。

C ソシステ コ サシス アシェルノ。 (^ ハーン) ソイズ
キリて ニラ 刺して 合わせろんだけよ。 ほあ 「丈長」を
カワレネドネ (^ ンー) モモワリルノ コーイフニヌ
買えないと 「桃割れ」というものを
ユワネンダモ。 ビチョット コーイフニヌ シス テネ
結うンにはできまいんだよ。 びちっと ニシハシヨウトニ 結うだけだよ。

A ア ソイズア イジョケシスズノ。
ホア シハを 「銀杏返し」といふの?

C ン イジョケス。
うん、「銀杏返し」だよ。

B ケッキョク モー コーイフニヌシテ コゴサ
結局、 こういうようにして、 しない

タゲナガ コー イレルノダオ。

「丈長」を 入れるのだよ。

C ソー コーイフニヌネ。 (^A タンダノ オサケズノア ~~~)
そう、 こういうようにね。 (たのだの おさげというのは ~~~)

コーイフニヌ ユッテシス。 システ コゴサ タゲナガ ソノ
シテ こういうように 結うのだよ。 そして、 しない 「丈長」を

タゲナガオ システ モレデガッタンダドモ ソノ タゲナガ
「丈長」を 入れて 貰いたかったんだけれども 「丈長」を
カウ ジェニヌ ネンダオ。 ジェニヌ ^{エヌ} ^{アヌ} モッテネガラネ
買う お金 が なかったんだよ。 お金 が もったいないから。

サンシェンクレ ダッタベヨ。 ソイデネ。

三錢ぐら、 丁度いただらうよ。 それでね。

A サンシェンツドギヤー タイキンダモンネ ソー マンズ
三錢 こうのは 大金だからね。 ます

イズニヌズノ ユズゲー。

一日の 小遣いだからね。

C デモ オラ ゴリルンワ ツカワネヨ。 サンシェンクレ ソイズ
でも 私は 五厘は 使わなかったよ。 三錢ぐら、 お金
モッテネーガラ ホレー アノー イジョケシスニヌ (^A ミッカ
持つていまいから 「銀杏通し」) 三日か

ガ ヨッカ タメナクテアナンネナ) ツブシスタ ユイガダ
四日の小遣をためなければ だめだったね) つぶした 結い方を

スン。 ソノ タゲナガオ カゲデ キモノノ カスリル
いたんだよ。 その 「丈長」を かけて、 着物の 緋の

イショドガネ ゲンロクノ イショ一 キテ キシェライルバ
着物とか 元禄の 着物を着て、着せらるると
シト イー。イードゴノ ムスメダッタ。 ゼーンコダガラ
とても喜んだものだよ。(そういうものを着るのは)良い家の娘だってから。田
ナ一 ホントニス。

舍だからね、ほんとし。

B コノ カミム ユワネグナッタズノア一 ヤッパ センソーマエハ
ンの 髪を 結わなくては。 やっぱり 戰争前は
~~~ テアンダベオネ。  
(結わなくては) のだろうね。

C ゼーンソーメーデ ズーツト メータ"ヨ。  
戦争前どうでなく すと 前だよ。

A オサケ~~~ ダナー。  
「おサケ」になっていたんだろうね。

B マンシュジズヘン トージズ一 ウー マンシュージズヘン  
満州事変 当時、 満州事変  
ツーゴドア ショーワ ズシ一 ハジズネンコロダガラサ  
といふンヒは 昭和 8年頃 だから。  
ヤバシ ソノ メー ハ システー ~~ハコ~~ オハクロ ツケダ~~。  
やっぱり それより前 は していたね。 お黒毛 フケていた。  
(<sup>A</sup> ~~ マダマタ)  
まだまだ

C タイショーネ ゴロクネンクレー タイショハジズメダベヨ  
大正 5.6 年頃、 大正 初めだろうよ。

モモワリ ナンカニス ソノ一 ユッタノア。 (<sup>B</sup> ウーワーン)  
「桃割れ」 まだい 結ったのは。 ウーン

- A ンダッテ オラー。 ( <sup>C</sup> シスッテル ) オラ ジズユーイジズネンニ  
ダッテ 僕は。 ( 知ってるの? ) 僕は 11 年に  
イジズネンシェーサ ヘッタドギ ナーニヌ アイズラ ナニヌ。<sup>(40)</sup>  
小学 1 年生に 入学した時、 まあに みんなたちが まあに。
- B システ カミユイサンテ ハヤッテヤモンデアッチャ。 オラ  
そして 髪結いさんという仕事は、 はやっていたもんだよ。 僕が  
オーギグナル コーサ オラ ~~~。 ( <sup>C</sup> オドナワネ。 )  
大きくなる 嘘に、 大人たちはよく行つたね
- ( <sup>A</sup> カミユイサンガ~~ ) ウン、 ャッワリル オラ ~~~ サ  
髪結いさんか。 ラン、 やっぱり 僕は  
コー バサット シスター二ヌシステ。  
シテ 髪を ばさりとしたように してね。
- C デモネ ワラシスタズワ ソーデネベ アド オサケニヌ  
でもね、 子どもたちは そうではなくだろう。 あとは 「おさげ」 い  
ナッタンダオ。 ( <sup>B</sup> アー ソーガ ) タゲナガ ュツケ  
やつてんぢよ。 ああ そうか 「丈 髪」 を  
シスネデネ モモワリルシスネデ オサケニヌ シスタンダオ。  
しないで 「桃割れ」 いもしないで 「おさげ」 い いなしぢよ。
- ( <sup>A</sup> ~~~ オサケダ オサケダ モモフレッコズノア ~~~。 )  
そうだ、「おさげ」 だ、「おさげ」 だ、「桃割れ」というのは。
- ( <sup>B</sup> ンー ) ドゴマデーモ ナガゲ ソイズモ イマノ ヒタズ  
どこまでも 長くて、 それも 今の 入たら  
ミデニヌ バサット シスネデ アンデ ニヌホンニヌ  
みたいに ばさりと しないで 編んで ニ本 い  
アンダリルネ。  
編んだりしてね。

- A モモワリッコモ リッパニヌ シス テモ イーゲントモ シス ラミ  
 「桃割れ」に リッパニヌ トモ いいんだが 風を  
 タゲテ クルヤズ イデナー。ナーナント マンズ。 (C ソイズ ハ  
 フケテ くる子が いたなあ。 なんと まあ。 それは  
アッタノス) マンズ シス ラミム オナコワラシスデ ハ  
居たねえ ます、 風、 カの子ビモで  
 シス ラミム / イネノア ホニヌ カネモジズ (笑い) ネッ。  
 風の いせいのは 本当に 金持イジケ トジネ。  
 C カネモジズダッテ イダベッチャ ~~~~~ ヤンダゴドヤー。(笑い)  
 金持だって 居ただろうよ。 いやだなあ。  
 (A ンダベナー アノ) イマ デーデーテー デデガラダデバ  
 うだらうね。 今は D.P.T が あるから  
 イネ。  
 居ないんだじよ。  
 B ンダエネ シス ラミズノ。  
 うだらうね。 風というのは。  
 C ンー ノーミム ヤラネ (A ノーミ ハー マズ) イダンダ一。  
 うん 蟹とかね。 蟹は ます居たね 居たんじね。  
 B ノミ シス ラミムズノア マー ドゴデモ イダガモ シエネヨ。  
 蟹や 風というのは ビニレでも 居たかも しゃないよ。  
 (A ンー マズ イダッタベス。 アノ アダリル) ンー マー  
 うん、 ます居ただろうよ。 あの頃は うん、 まあ、  
 ユーフグナ ~~~。  
 金持(の家以外はね。)  
 C ヒマナドギ シス ラミムトリル シス タンデネーガー オヤダス。  
 ひまな時は 風取り を へいたのじゃないか、 親達は?

(笑い)

- A デー ナーニヌ ガッコーデデサギヤー アンダー アノー  
まあに、学校でさえ
- オヒルヤスミムダノ アソビジズカンニヌ シスラミムトリ  
お昼休みや 遊び時間に 風取りを
- (<sup>C</sup> シスター。) オダケアーニヌ アンダダジズア シスラミムトリ  
(たね。) 反対同士 あなた方が 風取りを
- シスネガッタガ。  
1すかっنانの？
- C オーラ ソンナゴド シスネゾー オラハ。 (B 笑い)  
私は そんなんとは しゃかったよ。 私は。
- A アイデノナ トッテケネガッタ。  
相手の風を 取ってやらすかっنانの？
- C ソンナゴド ハ シスネー (<sup>A</sup> ホー) エーデワ トッテ  
そんなんとは しゃかったよ。 家に帰ると 取って  
モラッタベナー。  
貰ってんだろうね。
- A ンダッテ オラ ~~ト---~~ オダケアニヌ トッテケダノ ~~ミデ~~  
だって、俺は お互いに 取ってやっているのを  
ミダガ ミデ オベデタゲントナー。 ナンボモナー。  
見て おぼえていいんだがまあ、何度もね。
- B シスラミムナンテ ホニヌ イマ ナーシステ イネンダガナー。  
風 まだ 本当に 今は どうして 居ないのだろうね。
- C デーデーテー デギデガラ アーユーモノガ デギデガラ  
D.D.T が 出来たから ああ、う薄 が 出来てから

イネグナッタノデガス。ウン。

居なくなつたのだよ。 うん。

A マーズ シエンコダナ ホントニヌ シスラミム イネグナッタノ  
ます 戦後だね ほんとうに 風が 居なくなつたのは、  
ホントニヌ ンデネアー シスラミム - ナニヌ タマニヌ  
ほんとうに、 そうでなく 風が ない だまに  
ント ゼーンコガラ クルヒタズノ ～～ニヌ イダッタ～～。  
田舎から 来る人達へ ～～に いだよ。

B トニヌカグエ エリニヌ コー モソモソ アルイタ～～。  
といにかく 裸に こう もそもそ 歩いていたよ。

C ソシステネー オラネー アノー オライノ ジーチャンノ  
やしてね。 私は、 私の家の お爺さんの  
キョーダイ ホラー イッペダベー システ アド コンドア  
兄弟は ほら たくさん居たでしょう、 そして 今度は  
オライノ ナントモ トリダデモ ナンニヌモ ネーガラネ  
私の家では、 なんとも (風)を取りきれないで、  
オラ フュー アノー ユギノ ドゴサ ブンナケデ  
私は、 冬に 雪の 上に (衣服)を 投げ捨てて  
オイダンダヨ。 (笑い) (アーン) ソツツドア～～。  
おいたんだよ。 そうすると ～～。

A コノヘンノ サム ウー サムイノデ シスラミム シスヌベガ。  
この辺の 異音で 風は 死ぬだろか。

(<sup>c</sup> ユギノ ナガサタ"モノ) ユギナガサ。 シスヌベガ。  
雪の 中に投げるの(ジモノ) 雪の中に? 死ぬだろか?

アゲグ ハ ナル シスミツドア アゲグナンダガラ サ。  
赤く は なるよ、凍ると (風は) 赤くは ならんだから サ。

- B シスヌヨリネ ソーシステダネ シスヌンデネデ ケッキョグ  
死ぬのではなくて、 そうしてだけね。死ぬのではなくて、 結局  
シーダネンダヨ アイズアネ ソシスティデネ アド ホーギテ  
そうではないんだよ、 あればね。 そりては、 あと、 章で  
ホログズド ボドボドボド <sup>(42)</sup> ホー。 ( <sup>C</sup> マッサガー ソンナニヌ。 )  
落とすと ぼとぼとぼと <sup>~~~~~</sup> まさか そんすには。  
シ一 ホント ホント、 オジズルンダヨ コレ オラ  
いや、 本当だよ。 落ちるんだよ、 風は、 僕は  
ヤッタンダモン。 ( <sup>A</sup> ホント ソイズ オラ マンシューデ  
やつてみたのだよ。 本当だよ、 それを 僕も 満州で  
ヤッテキタンダガラゲントモサ コノ ヘンデモ。 ) ( <sup>C</sup> ホー<sup>(43)</sup>  
やつてきた やからす。 この 辺でも。 ) ヘー  
ソンナニヌ インノ。 ) シ一 ンダシスサ コゴノ ヘンダッテネ  
そんすには 居るの。 うん、 そうだよ。 この 辺でも  
ジスラミムズノ イギデレバ ナニヌ イギ <sup>xxxxx</sup> マー ジスミダ  
風が 生きていれば 凍った  
ヨーナ カヌヌ サムイボグ シャレネバ イー スシミダヨーナ  
ような <sup>(44)</sup> カッコニナッテ シログナルガラ アイズ ( <sup>C</sup> ハー )  
形になつて 白くするから、 あれば  
ンダラ ジスガッテ イレネグナルガラネ ホロゲバ オジズルン  
(衣服) 取りついで いらっしゃるから 振ると 落ちるの  
ダモノ。 ( <sup>C</sup> ハー ) シ一。 マンシューアタリデ <sup>~~~~~</sup> 。  
うだよ。 満州 あたリで <sup>~~~~~</sup> 。  
A シスンダノデ ネガベデヤー。  
死んだのではなくて ないだろうね。

- B シスナネノ。シスク アイズア ホドマレバ マタ イギガエッテ。  
死なないのだよ。すぐ あれは 暖かくなると、また 生き返って。
- C (笑い) キモジズワリル。(笑い)  
気持が悪いなあ。
- A ンデアーソノー ホロッタドゴー ヒーツケデ タグー～～。  
それでは、その 振り落としたところを 火をつけて 焼いてしまう。
- B アー アイズア ナガナガ シスナネモンダヨ アイズア。  
ああ 風は すかすか 死なないものだよね。あれは。
- C (笑い) ソンナゴドモ シスネンダオネ アー ソンデモス。  
そんなんとは いひいんだじよね。ああ、それでモね。<sup>(45)</sup>
- A アイズア シスナネ、シスナネ シスラミワー ホニス  
風は 死なないよ、死なないよ。風は 本当に  
シスナネモンダデバ。シシタガラ。<sup>(46)</sup>  
死なないものだよ。だから。
- B オラ ソーンナニス イデデ ント シスラミ ソレゴソー<sup>(47)</sup>  
俺は そんなん 風が 居て 風が それんち  
ホニスネ イッコブンタイデ オラ コレケレノサ ヨルハ  
本当にね 一ヶ分隊で 俺は これぐういで、夜になると  
マズー ヒー テアーデ シスラミトリル ナンダヨネ。(^笑い)  
まず 火を たいて、風取り すんだじよ。  
イッペニス トッテネ。ソシステ アドア ガバット<sup>(48)</sup>  
たくさん 取って きて それから たくさん  
マゲットド バジズバジズバジズド (バジズバジズバジズ  
火に投げ入れると パチパチパチと  
《笑い》) ナー コレ ムツツルナンダガラ。ソレゴソ  
ンのようは 一杯なんだからね。それんち

ムギツブグレニヌ ナッテンダオ。マー ハ。ホニヌ  
麦粒ぐらいい 大きくなっているからね。 本当に。

ンデモネ シスラミ イネズド サムクテ ヒデガッタ。サッパド  
でもね、風が(本に)居ないと寒くてひどかったよ。全部  
トルド。 (B 笑い)

(風を)取ってしまうと。

C ナンデー。 (A アンダダズアー ウーン)  
どうして? あの方は……。

A ンー アンガネ シスラミニヌ カレデネ カイバネ トニヌカグ  
あれはね、風に 食われてかゆいと とにかく  
コレ カグツドネ ホー シスラミ ネーズバ ヤバ サム  
かくとね。 風が居ないとやっぽり  
サムイツノ。  
寒いんだよ。

C (笑い) ダーレ ソンナゴド ハ ネンダ。  
まさか そんなん は ないでしょう。

B ホント ホントダ ホントダヨ ウン。 ウン。  
本当、本当 本当だよ。うん

A ソイズア ホントダ ソイズア ヘーテサ イッタヤズデネバ  
それは 本当だよ。 それは 兵隊に 行った人でなければ  
ソイズダゲ ハ ワガネナ ソイズア ヘーテノ ハナシス  
それだけでは 分からないね。 それは 兵隊の 話し  
ダゲントモサ。ホニヌ (B シスラミ……)  
たけれどもね。本当に。

C ソンデ アレガナ テー アノ コニ ケツ アノ ケズエギガ  
それで あれだろか。 血液が

アレナルノガナ。 ( <sup>B</sup> ~~~~ソーソー カユーガラナー )  
あれになるのかな。 ( うう かゆいからね )

カグタメニス。

搔くために。

B コレ カグ ~~~。 チッノメグリ イーノダオ。 ( <sup>A</sup> チッノ  
これは 強く~~。 血の 巡りが 良いのではからね。 血の  
メグリ イグナルガ。)  
巡りが 良くするのでは。

C ンダ チッノメグリ イグナンノダネ。 ( <sup>B</sup> ンー )  
そうだ 血の 巡り が 良くするのでは。

A ソイズ イーケント マズ ソノ ~~~ ハナズシ ハ  
それは 良いけれども まず その 話いは  
イントモサ。アノー アンダダズサ イッテ アメ  
それで良いけれども。 あの あなたの方は 一体 雨が  
フッタドギア カラガサ サスシテタンダベ。  
降った時に、 唐傘を さして行こう。

C (笑い) サツサネンデネーガナー オソラグ。  
さすがに かう。 多分。

A カラガサ ネーヒタズ アッタンデネーガ。  
からかさが ない人達は 居たんじゃないかな。

B ミノッコズノ アッタンダ。 ( <sup>A</sup> ナニス ) ミノズノ アラ。  
蓑というのが あつたんじよ。 ( ない? ) 蓑というのが あれば。  
( <sup>A</sup> ミノ キ…… ) コーコー サンカグノ キテ。  
蓑を 着て ニウ、 三角いふたのを きて。

A アーアー サンカグノ。  
ああ、 三角のものは。

B ンー アズネー オラー イッカイ キタゴド アル。 シード  
うん、あれはね、俺は 一度 着たことがあるよ。ええと、  
ミシェヤテ アイズ ウッタモンダベガネ オラ ミノッコ  
店 で あれを 売っていたものだろ。俺は 裳を  
キシェライセライダゴドアルヨ。  
着せられ て ことがあるよ。

A カラガサダノ ホニス オラ チャッケドギア ヨーヤット  
唐 年などは、本当に 俺が 子どもの頃に ようやく  
デハッテキタ ヨーナモンダッタガ。ジェータグナ  
出てきた ようなものだったよ。ゼ、いたくす  
モンダッタモナ。  
ものだったね。

B ミノッコ。  
蓑 が。

C ソノメー ナニス キタベ。  
それ以前は何を 着ただろか。

A オレモ ワガネデバ。  
俺も わからず。

B アイズアネー ナンダネ オラー。  
あれはねえ、あれはね。

A アブラッコガ。アブラガミ ハ カブッテ アルッタオナ。  
油紙かす？ 油紙 は かぶって 歩いたね。  
アブラガミデ ナニスガ デギダノ アッタベ。 ( <sup>B</sup> ウーン~~ )  
油紙 で 何か 作ったのが あつただろ。 ( うん )

B オラ ゴザデ コヘダ アノ~~ キテキタ ゴド アルナー。  
俺は ジグで 作った あの ~~ を 着てきた ことは あるね。

- C ~~~~~ オラダ"ジズ テッセドギ カラガサ <sup>×××××</sup> アメ  
 私たちが 子どもの唄は、 雨が  
 フンネデネーが。(笑い) ( ^ 笑い) ワーシェダヤ。( ^ ナーニ~~)  
 降らなかったのではない? 忘れなけ。
- B ナンデ"カデ コーモリル ハ ヤッパ アッタゾ コーモリルハ。  
 とにかく、シラモリ傘は やっぱり あつた。シラモリ傘は。
- A <sup>××</sup> アシスタ"ハ ハイデ アリルッタネ。  
 足駄 は履いて 歩いてな。
- C カラガサド コーモリルデ コーモリルガ サギニ デダノタ"ベガ。  
 唐傘と シラモリ傘で、シラモリ傘が 先に あたつたのだろうか?
- B サギデダノ。 ( ^ コーモリルノ ホア サギダベ。)  
 先に出てんだけ。シラモリ傘の方が 先だらう。)
- C ンデ コーモリルダガモシエネナ。  
 それでは、シラモリ傘の方が先かも れないね。
- B ン コーモリル コーモリルダッタベヨ オラ ナニヌア ミナ  
 うん、シラモリ傘、シラモリ傘だつたのよ。俺は <sup>(49)</sup> おもて ホネア  
 ホネア シアレ オレダノネ ン ンデモ キレデ~~~~。  
 骨が 折れなのは、それで 切れで~~~~。
- C ダーレ アダリルメノ マンゾグナノダノ シスネンダモノ  
 ます、あたつ前の 満足な傘は さすがに かたんだもの  
 ホントニヌネ マニヌアワセバリ。  
 本当に 間に合わせばカツナ"よ。
- B ワラシ"タズノー モ サシスタリ~~ イッタンダゲントモ  
 子どもたちの傘も さしてないして (学校に) 行ったんだけれども  
 アド ガッコーナンカデ コヘデ ヤッパ アノ トーズモ  
 あと 学校 でも 修繕して あの 嘘モ

ヤッタリ アリヤ カジ<sup>シ</sup>スタナンカ シ<sup>ス</sup>タモンダッケ ヤッパ  
修繕してやつたリ 貸してリなど したものだ<sup>ガ</sup>  
オダギ<sup>(50)</sup> アダリルデモ。ンデモ ヤッパリ ナガツズギ  
愛宕 あたリゾモ。 それでも ヤッパリ 長続キ  
シスネンダッケオナ ワラシス カシス<sup>テ</sup>モーネ ボッコシス<sup>テ</sup>  
しまったものは。 子どもに 貸しても 壊して  
クレシスス ンー。  
くろしね。

C ンニ ミジ<sup>ズ</sup>メダナー ムガシスノ ワラシ<sup>ス</sup>タジ<sup>ズ</sup> ハ  
うん、かわいそ<sup>う</sup>だ<sup>ガ</sup>、昔の 子どもたち は。  
ホントニス イマ カンケ<sup>デ</sup>ミット。オラー (^~~~~)  
本当に 今 考えてみると、私は、  
センソートージ<sup>ズ</sup> オガ<sup>ス</sup>ドギモ ソーイッタ<sup>ン</sup>ダ イッペダガラ  
戦争当時、(子どもたちを)育てるときも、そう言<sup>たん</sup>じ<sup>よ</sup>。子どもが<sup>た</sup>くさ  
サギノ チ<sup>ッ</sup>セ<sup>セ</sup> ワラシ<sup>ス</sup>タズ サギニス タ<sup>シ</sup>ス ヤットギヤ  
んだ<sup>から</sup>、いちばん小さい 子どもたちを 最初に 出して やるときには  
カサ ミンナ アズ<sup>ゲ</sup>ン<sup>ノ</sup>。アド オッキノ ネグナットネ  
傘を みんな 持たせてやるんだ<sup>が</sup>。それから、大き<sup>な</sup> 子どもに なるとは、  
カサ サスノ ネグナンダオネ コド<sup>×××</sup> ワラシ<sup>ス</sup>タジ<sup>ズ</sup>  
傘を すぐのが なくなるから<sup>ね</sup>。 子どもたちが  
イッペダガラ。ドーロイデ アラ アノヒトサ イレライデ<sup>ゲ</sup>  
下<sup>く</sup>さんだ<sup>から</sup>ね。道路に出て、「ああ、あの人<sup>に</sup> 入れてもういい<sup>が</sup>ハレ<sup>レ</sup>  
ナーンテ(笑<sup>い</sup>) (^笑<sup>い</sup>) ゲーンナ オセグイグ<sup>ヒタズ</sup>  
きじと 非常に おぞく出かけ<sup>る</sup> 人達に  
(笑<sup>い</sup>) ソー<sup>シ</sup>ス<sup>テ</sup> タゴズ<sup>イ</sup>デ。ダーレ ホラ キョーデ<sup>タジ<sup>ズ</sup></sup>  
そういう 入れてもうって。 ほら 兄弟たち

ガラ (B ソイズ ハ アッタナ) ナニスシスロ  
から そういふことはあつたううね なにせ

フランクス タズダガラ イレライデゲッテ ソー イワレダモンダオ  
子どもたちだから (他人い) 入れてもうって行きなさいって、言われたものだ  
ナッテ イマ ユワレレヨ。~~~~~。

よし、今、(子どもい) 言われるとよ。

B シスコシスグレノ アメ ガッコサ イグドギタッテ ナンダッテ  
少くないの 雨なら、学校に 行くときだって なんていって  
ササネデハ オラモー オンダヨ アノ ハギモノナド  
さないで、私も 履物 など

ハガネデ マズ アメノ フットギナド スッパショリルシス テ  
履かないで まず 雨が 降るとときは 裾をからげて

(A スッパショリルシス ゲー) ハタシスデ ハシェダモンダ  
裾をからげて はいで 走ったものだよ。

オラ。 (A (笑い) スッパショリルシス テナー。) アノ コーワツコ  
俺は。 裾からげしてね。 このように背中から

フシャリ コサ コー アノ フルシギ サケデネー ソシス テ  
肩掛けられてニヒー 風呂敷を さげて そして

フットシテツタノ ハー。 ガッコサ ヘッタモンダジャー ン。  
ふっこんでいったんだよ。 学校に 行ったものだよ。

A ンダガラ ロクサマニス アシスモ アラワネデ ドゴドゴド  
でから うくい 足も 洗わないで、ベトベト  
ヘッタナー ガッコノ ナガサナー。  
入ったものだよ。 学校の中に。

B ンー マーズ イマナレバ ホンニス。  
うん まず 今だたら、本当に

- A アンダ アノー オダッキノ ショーガッコア ニヌ ゲダ"デニヌ  
 あなたは 爰岩の 小学校 が ニ階建い  
 デギダ" ドギダッタ。  
 なつた 時だつたの？
- B アー デギデスター。  
 ああ、出来ましたよ。
- A デギダッタ。フルインダオネ アイズネー ンー。  
 出来いたの？ 古いのでは、 あの建物は。
- B フルインダオ イワヤドー イナセー オダキ フルーンダオ ン。  
 古いのでは、 岩谷堂、 箱瀬、 爰岩と 古いのでは。
- C オラ マッスクニヌ アソゴノ イマノ ホラ マルツノ ドゴ。  
 私は 最初から あの 今の そら「丸通」の所にいた。(小学校)
- B ンー アー アズーワ ダレ メージズー ナンネンダッケゾー。  
 うん、 あれは、 明治 何年だかだつたよ。  
 ハエンダッケオン。  
 早かったんだよ。
- A ハエンダ アー アノ ガッコー ホニヌ モグゾーコーシャデハ。  
 早いんだよ。 あの 学校は 本当に 木造校舎とては。
- B ンー ンダガラ ハエンダ。 システ アノ ガッコー ヴエサ  
 うん、 だから 早いんだよ。 そして 学校の 上に。  
 アケダノ ホラ ショーワ シード ジューニヌネンナンダオ。  
 ニ階建いしたのは、 昭和 ええと 十二年やうね。
- C ハー ソレゴソ (B ~~~) イマミデニヌ コズゲーモ  
 それこそ 今みたいに 小遣いも  
 モラネデナー コズゲーナンツモノ ゼンゼン ネクテ マジズサ  
 もうやういでね。 小遣さじといふものも 全然 なくて、 ます

ヨッタスニヌ イッタドギシスカ アノー イズジリンタマネ  
用事を言いつかた時に、行った時だけ 一厘玉を  
ヒトツツズズナンダオ ( <sup>A</sup> ヨッタシスニヌ イッテ キタラ  
一つずつもらたものだじね、 用足しに 行って さだら  
ナンボ ケッカラ ナンボソレ ナンボ ン一 イッشن )  
いくら やるから、 いくら いくら 一錢 )  
ヒトリルサ。 ソイズモ マイニヌズデネンダモ。 オヤガ一  
一人い。 それも 毎日ではなかったものね。 親が  
ヨータシスニヌ マッチャ イッテ ケアーリルニヌ ソイズ  
用足しに 街に 行って 帰りに お金を  
ヒトズ モラウノ ハ タノシスミデネ。 ソンナ /  
一枚 もううの は 楽しみですね。 そういふことを  
ヨロゴビニヌ システィダンダベ。  
樂しみにして いたんだろうね。

B ンダガラー ソノ イマダレバ ゼニヌッコ モラッテ  
アジから 今だったう。 お金を 貰って  
パン カウノー アイス カウノッテ ユーンダゲントモ ソノ  
パンを買うとか アイスクリームを買うとか 言うんだけれども その  
トージズ マー ジェニヌモ モラワネース。 ソーユー  
噴は、 ます お金も 貰わなかつたんアジよ。 そんな  
ウルモノモ マー イマノ ヨーニヌ ネーガラネ。  
壳のものも 今の ようには すぐそなからね。  
(<sup>52)</sup> ミシェモノモ ~~~ トツケモノダオナ、アツタツテ )  
見せ物もなかつたし、 くじ引きぐら、だじものは。あつたとしても  
トニヌカグー ~~~ノドギーワ ソノー クダモノノネ  
といふかく ~~~の時は、 果物の

(53)  
ジズンベーダノ モモナンツモノ イマ デデネス。 (A アー  
櫛桃 や 桃などといふものは 今は出でないよ。 ああ  
クダモノノ ) コレクレナノネ ソイズ ドゴデモ アルンタオナ。  
果物の ) シれくらいの大きさのは それは どんにでも あるのだよね。  
( A モモナンツナシ ) アッタノス ハナタレモモッテ。  
桃 などはね あつたんだよ、鼻たれ桃と言って。

C ハーナタレモモズノア ワルグオカッタノダ (B 笑い)  
鼻たれ桃といふのは 出来が悪く成育したのだよ。  
ソッパナノモ アッタノサネ。  
ソッパナ桃も 売っていなのだよ。

A ソイズサ モッテキテ アノ チャコミダ ナンテモ  
それに 加えて ぐみ などといふもの  
ウッテダンダス (B ン ソーソー ) ( C チャコミノ アドアネ )  
売っていたよね。 そうだ、そうだ。 ぐみい あとね。  
アド マスコダノ オワンコデ ハガッテ。  
村 や お碗で 計ってね。

B アド シスクリ アリヤ。  
そのほか すぐり、あれは。

A スクリ (B ン ) チャコミモダオナ。  
すぐりい ぐみモだものね。

C ソーデネグネ アリヤ (A ~~~~~ ) クワノギサ アガッテ  
ソウデナズクネ、 うん。 クワノギサ アガッテ  
クワコトツテ (B ン カコナシ ) ス スー ソシステ。  
クワコトツテ (うん、 クワノギサ ) クワコトツテ

A クワコトツテ クワコトツテ アイズ ハ。  
クワノギサ、 クワノギサ 食べた 食べた あれはね。

- C イショノ ソレゴソ ゲンログ "アノコノ ゲンログ" サ  
 着物の それニキ 元禄 シの 元禄 (一)  
マワシスタドゴサ イレットネ (B マズ アーユーモノ  
 まわして とこうい 入れて、ると ます、 あのようなものを  
オモニヌ クッテアンダナ) ソレガ ミンナ クワコッテ アノ  
 主として 食べて、たんては それが 全部 梨の実で あの  
 (B ンー) クワノギサ デル ナンテ ミーナンダネ。アレデ  
 梨の木 (一) なる なんていう 実だろうかね。  
 ス アノ ムラサギニス ツッテネ。  
 紫色 (一) なってね。
- A アイズ タモドサ イレデ アルレッタノガ。  
 あれを 袴に 入れて 歩いたの ?
- C オゴラレデ ンー オラ ソシステ クイナガラ アルレッタソダ。  
 (親 (一) ポヒラれては、私は、そして 食べながら 歩いたんだ。
- (笑い) (A ナーシステ タモドサ イレデア クッテ スメバ  
 デうして 袴などに 入れていたの ? 食べてしまえば  
 イーゴド。) クワレネクレ ヤッハ タグワエ キレネガッタベガ。  
 よかうたの (一) 食べ残可ほどに やっぱり もち それすかたんだう。  
 (A 笑い)

- B マズー ホニヌ ゼニヌッコ モラッタッテ ツケクジズ  
 ます、 本当に お金を 貰っても、 使いようが  
 ネアーヨナモンダッタノサ。 (A ～～) ネー ナニヌ ～～  
 ないようなものだったんだよ。 なんにも。
- ン ダガラ ホガノ エサ イッテ マー トモダジズノ アルレ  
 ダジから、 ほかの 家に 行って まあ 友達の 家で

ソイナモノノ オカッテダドゴサ イッテ アスンデデ ソシステ  
そのうなものが 生えていたところへ 行って 遊んでて、 そして  
モイデ クーノ(<sup>C</sup> キサ アカッテネ ソイズア ~~~) キ ン  
木からもぎとて食べるんだ 木に のぼって それを~~~。 うん  
アドア エサ キテ ハ ハラヘレバ カマヒックリゲシステ  
それから 家に帰ってきて 腹がへると、 釜をひっくりかえして、  
オママ ク ナニヌモ アシェネデナ。 ンー。  
御飯を まだも おかずにしてね。

C オズゲ アセ カゲデ クークレ。

味噌汁を (じほんじ) カけて 食べるぐうい。

B オズゲアーオ カゲデ。

味噌汁を カけて。

A コケッコーサ コケッコー アノ ヒックリゲシステ オズゲ  
御飯のおひげ、 おひげを ひっくりかえして 味噌汁を  
カゲデ ~~~。  
カゲデ ~~~。

B オズゲ カゲデ ハ ザオザオド <sup>(56)</sup> クッテ。 ンー。  
味噌汁を カけて ザオザオと 丁べてね。

A ンーデー ネゴナミムタッタナー。(笑い)  
それでは 猫をみてね。

B オズゲズノア オシスル カゲデネ。 (<sup>C</sup> ソーダヨ ンー)  
「おづけ」というのは 味噌汁で、それをカゲデ 食べるのじよ。 そうじよ。

C ソイズガ イジズバン イーノデ。 (<sup>A</sup> ~~~) ハラ ヘッタラ  
それが いちばん よかつんだ。 腹が ヘッタラ  
マンマケデ (<sup>B</sup> ソーソー) バンツア ハラ ヘッターッテ  
御飯を 食べろと言われて、 「お婆さん 腹がすいた」と

ユード ハラ ヘッタラ マンマ ケーテ ユワレレバ ハ  
言うと、「腹がすいたら 御飯を食べ下さい」と言われると  
ソンデ オワリタガラ。

それで 終わりだからね。

A ~~~~~ ソゴイラヘンニヌ アル オゴゴタ"オナー アドラー  
そのへんに 置いてある 潰物だげね。 あと  
ナニヌ一。

何を おかずにしてたか?

B アー マーズ アバレデ アリルッテ オドゴワラシスナド ハ  
まず 遊んできて 男の子などは  
カマー ヒックリゲシス テー ク メシス クーノワ  
釜を ひっくりかえして 御飯を たべるのが  
セーイッペタッタベナー シー。  
なによりの食物だったんだろうね。

A ホニヌ ナニヌ クッタガ ワシェタ"ナー ハラヘッタドギナー。  
本当に、何を 食べたか 忘れたらね。 腹がすいたとき。

C ソーユーフーニヌ。  
そのように。

B マズ ソレマデ ゴハンニ サンコグメシスデモ イッペ  
まず それほどい 御飯い 三穀飯でも たくさん  
タイデ オガネバ ネアガッタオ ワラシス イッペ アルド。  
炊いて おかないと さらさらかったね。 子どもが たくさん 居ると。

C タイデダンタ"オネ。 (B シー) (A ~~~) ソノドギノ ホレ  
炊いていたんじよね。 その時の、 ほら  
シスラミム デネアグ ヘアッコノ イレゴド。  
亂ではなく 蟻が 居るんと居るんと。

- A ンー ヘッコ~~~。  
うん、蠅がね。
- C コーユー ゴハン ミナ スッツドアネ。 (B ンー ンタ"オ。)  
ニウ~う 御飯を みんな こうして おくとね。 うん そうだね。  
クログ ソイズ コーシステ 杏口 フイダリルシステ  
(蠅が) 黒く、それを こうして 吹けナリいて  
ウズシワモ ネーヨーナ モンタ"オ。 (B ンダラ シスナサ  
うちわも ないようだ~た~からね。 そういえば 中国人に  
イッテ シスコガッタオ。) ビヨーギモ シスネデナー。 (B ンダラ)  
行って すじか~た~よ。 病気も いさか~た~ね。 それなら。  
(A ~~)
- B ンダラ シスナジズンガ アノ ヘアッコ タガネナ~  
それなら、中国人が 蠅も つかないようだ。  
ヘアッコ タガネクレナモノ ヒトモ カレネンダッテ  
蠅も つかないようなものは 人も 食べられないと  
イッタナ ナンテ イッタンダ (A ゴツツオデネアガ" (笑い))  
言ってた~ね、などと 言っていたよ。 ジ~ちそうでは ないのか?
- ヘアッコモ タガラネノ ゴツツオデネガ") アマリル オラ  
蠅も つかないようなものは 御馬走では ないのか。  
チャッケ アダリルモ ヤッパ ヘアッコ ハ タガッタノ  
小~い 嘘モ や~ぱり 蠅が ついたものは  
ナントモ オモワネガッタンダオナ。ンー ソノクシエ タイシタ  
なんとも 思~わぬか~た~んだ~よ。 うん、それすの~に。 丁~いして  
ビヨーギズモノモ、ヤハリル アノ ミジズ フリタメニヌ  
病気というのも (いさか~た~) やはり 水が 悪いので

コノ イワヤドーズドゴー ハヤグ スイドーガ  
ニの 岩谷堂といふところには 早く 水道が  
ハイッタモンダガネ。ダレ ショーワ コゴア  $\widehat{\text{ニヌ}}$  サンネンニヌ  
入ったものだよ。 すにせ 昭和 ニ・三年に  
シスイドー ハイッタドゴダガラネ コゴワ。 テユーゴドワ。  
水道が 入ったところだからね。 ンニは。 といふことは。

A オラガ ショーガッコ ログネンシェー／＼ドギダガ ゴネンシェー／＼  
俺が 小学校 六年生の 時か 五年生の  
ドギダゾー スイドー ヘッタノ。  
時だよ、 水道が 入ったのは。

B ンー ショーワ／＼  $\widehat{\text{ニヌ}}$  シヨクー  $\begin{pmatrix} \text{A} & \text{タイショー} & \text{タイショー} \\ \text{大正} & & \text{大正} \end{pmatrix}$   
うん、 昭和の  
ショーワデネグ  $\begin{pmatrix} \text{A} & \text{ショーワ} & \text{ショーワ} & \text{ハジズメダナ} \end{pmatrix}$  ンー<sup>（58）</sup>  
昭和ではなく 昭和、 昭和の 初めだよ  
ソウ  $\begin{pmatrix} \text{A} & \text{タイショー} & \text{ジューゴネン} \\ \text{大正} & & \text{十五年} \end{pmatrix}$  ンー キンショ  $\widehat{\text{シヌ}}$   $\widehat{\text{シヌ}}$

ショーワ ガンネンニヌ ナンベオ。  $\begin{pmatrix} \text{A} & \text{アレ} & \text{タイショー} \\ \text{昭和} & & \text{あれ} \text{ 大正} \end{pmatrix}$

昭和 元年に あるだろ。 デー  
十五年といふのは 昭和元年だろ。 それで

$\widehat{\text{ニヌ}}$  ネンニヌワ ラクシェーシスギ ヤッタンダオ。 ンダガラ  
ニ年には 落成式を いたんだよ。 デジから

ソノ トージズワ デンセンビヨー ハ セギリビーズノア  
その 当時は、 伝染病 は 赤痢病といふのが

イッペ アッタンダス ンー セギリネ ン ヤッパ ミズ  
あちこちに あつたんだよ。 うん 赤痢は やっぱり 水が

ワリルガラ。

思ひから。

C アイガッタネ イッピギノ ヘアッコ キニヌ  
あ、 手かっنانね、 一匹の 魚 が 気に  
力ガッテアッタ。  
<sup>(59)</sup>

びって うるさかった。

A コノ-ウラノ カワー コノウラノ カワー アノ  
この 裏の 川、 しの 裏の 川で  
ナズナツドア イマドギナツドアネ ミンズアビタノ  
夏になると、 今頃、 夏になるとね、 水浴びなどいのものを  
ナンテネ ワラシタズア ソッティノ ホーデ ミズアビ  
子どもたちは、 そちらの おで 水浴びを  
ヤッタンダモ。 ヴーン ナズナツドア ミズアビ イジズバン  
やったね。 うん、 夏になると、 水浴びがいちばんよかったです  
ナンダ。 ナンニヌモネー キャンプダノ ソンナ ソノ ムズノ  
んだけよ。 すにも すかった、 キャンプとか そんなものは、  
インダオハ。 |<sup>B</sup> ン-マンズネ コゴア ホントニヌ  
すかったんだけよ。 うん すず 此処は 本当に  
イマゴロ ガボガボッテ ) ナニヌマ ン アガフンドシス  
今頃は がぼがぼと水で遊んで ) すい 赤 褲  
シスメテ。 ( <sup>B</sup> ン- ) システ。

しめてね。 そして

C ナニヌ ジエンコタロデー ホニヌー オラグレノ ドギ  
すい、 田舎者で 本当に 私がういの年の頃は  
フンドシスモ ナニヌモ シスネンダ。  
禪も すいも いすかっنانよ。

A ~~~~~ ショーガッコノ ドギア シスメダゴド ネアーヨ。  
小学校の 時は、 しめたんとは すかってよ。

ショーガッコノ ドギ~~~~~。

小学校の 時は。

B ログネンシェーアダリルダッテ オナコタッテ ナニヌ ベズニヌ  
六年生 ぐらい だって、 女の子だって なんにも 特別い  
ナニヌモ シスネー。 ( <sup>A</sup> ンダー ンダー )  
なんにも (腰に) すかってよ。 そうだ そうだ

C オドゴダッテ オナコダッテ スシネンダオ ンー。  
男の子でも、 女の子でも すかってよ。

B ソノコロ ヒケッコ ネーゴッテ ネガッタネガ。 ( <sup>A</sup> 笑い )  
その年頃には「ひげ」も すかってのはない。

C ダレ ソンナ エレグネンダオ。 ( <sup>B</sup> 笑い )  
だって、 そんなに 傲くなかったね。

A ~~~~~。

C アダリメナ キ システナー ソンデ。  
普通のつもりで いたんだよ。 そして。

B ンー ヤッパ! ミンナ ソーユー セズダガラネ ナントモ  
うん やっぱり 脇、 そのようす 時代だからね、 なんとも  
オモワネガッタンダネー。 ( <sup>C</sup> アダリルメノ キ システ )  
思わずかってんだね。 ( あたリ前 の 気でいたんだよ。 )

A アドア キノゴ ンダ アギニナツツドア イマコロ ナズヤスミ  
それから 草だね。 そうだ、 枝に まとと、 今頃 夏休みに て  
ニモ スズムシトリサ イッタネ。  
鉛虫取りに 行ったね。

B シー イッタ。

うん、行ったよ。

A ナズヤスミムアダリ スズム<sup>スズム</sup>スズムシストリルダ ミズアビニ  
夏休み頃 い 鈴虫取りとか 水浴びい  
スズムシストリ ナンダオヤ。スズムシストリルサ イ<sup>イ</sup>  
鈴虫取り だったね。鈴虫取りナジよ。

アノアダリル アノー カンブドムシス<sup>(60)</sup>テンツノ ミムギモ  
あの頃は、 かぶと虫 などといふものは、問題い  
シスネガッタオネ。 ( イッペ イダンダオナー。 ) イッペ  
しまかったよ。 たくさん 居たからね。 たくさん

イダンダ。 ヘッピリ ヘッピリムシスッテ イッテ オラ  
居たんナジよ。屁っぽり、屁っぽり虫 といって 僕たちは  
ミムギモ シスネガッタンダオ。 ( イッペ イタンダ。 )  
みむきも しまかったのナジよ。 たくさん、居たからね。

オニ<sup>(61)</sup>ムシスノ アノー イッカイッカズノー (B シー) ネッ  
鬼虫 の あの ジャッヘ虫

アノー アイズスカー アイズタノー アイズラ モッテッテ  
あれを あれとか あれを もって行って

ガッコデ ケンカ サセダノダオヤ。

学校で けんか させたものナジね。

B スズムシスズノ<sup>(62)</sup> アリヤ ハコロッコヤマニヌ イッペ  
鈴虫 といふのは あれは 羽黒山 い たくさん  
イタモンダオネ。

居たものナジね。

A シー シー タンモズガニヌ<sup>(63)</sup>ネ。  
うん 丹後塚いね。

- B ンー タンモズガニヌ ンデ コイナ コップ<sup>o</sup> モッテッテ ホラ  
うん 母後塙<sup>い</sup>。 シのような コップを もって行って  
アナ コーヤッテ コッチガラ フート フグド パント  
穴<sup>い</sup> ンうやつ シッちから ふいと 吹くと ほんと  
ヤルガラ スグ コーヤッテ。 ( <sup>A</sup> ～～スズムシ<sup>ス</sup>トッテ ～～ )  
なるから、すぐ ンうやつ。 鎧虫を とつて
- C フエビモ イネグナッタジャ ナ。  
蛇も 居なくなつたね。
- A ンー ヘンビモ スグネネ。 ( <sup>B</sup> ウーン～ )  
うん 蛇も 少ないね
- C ヘビモ イダシタジャ一 アノ アダリル。  
蛇も 居たんじよ。 あの あたリには。
- A ムシストリル アダア一 アギニヌ ナット キノゴトリダオ。  
虫取り<sup>い</sup>。 それから 秋<sup>い</sup> すると 草取り<sup>い</sup>。 からね。  
アノ アダリル ナニヌ ソゴラヘンサ イグズドア キノゴ  
あの 嘘<sup>い</sup>。 その邊<sup>い</sup> 行くと 草を  
トッテキタンダオネ。 ( <sup>B</sup> ンダオネ。 ) ンー。 ナニヌ ハグタ<sup>ゲ</sup>。  
取つて きたんじよ。 そうじよ。 せん。 掃くぐらいたくさん  
エー マー ドゴサ ハシェラレット。  
まあ、 どん<sup>い</sup>も 行けたんじよ。
- C コーシス<sup>テ</sup> キーデミットーネ コゴノ ヘント モリルオガ  
シ<sup>ハ</sup>て 聞いてみるとね。 シの あたリと 盛岡  
アダリルモ ズイブン デッカウモネ ナニヌ一 ムガシス<sup>ス</sup>  
あたリと 隨分 違うものは、 すい。 首の  
ヒタジズ<sup>ッ</sup>テ アリヤ インサズヤノ ヨスサンダズド ハナズシ  
人達<sup>と</sup>。 あの 印刷屋<sup>の</sup>「よしさん」 たちと 話しを

システミットネ マルッキリ コゴイラド チッカウケッヨ。  
してみると すっかり ンの辺ヒ 違うようだじよ。

(<sup>A</sup> アソンビガダガ) ン。 (<sup>B</sup> ンー) ヤッパ トゴロニ<sup>ヌ</sup>  
遊び方か? うん。 やっぱり 土地に

ヨッテ アノヘンワ ムガシス バショダッタベドモ コツツア  
よって、あの辺は、昔 は 良い土地だったジラカビ ンの辺は  
ホントニス ゼーンゴナンダオンネー。

本当に 田舎だったんだじよ。

A トニスカグ ジズドーシャズモノ ネーガラ フユ <sup>(64)</sup> ナズデモ ハ  
とにかく、自動車 というものが ないから 冬 夏 でも  
ナズ スズメデア ダシス テ ミスズミム デアサ  
夏に 涼み台を 出して 見涼み台(=

ヒックリルゲッテ ウズフッコデ アオグニス イガッタンダオネ。  
ひっくりかえって うちゅう あおぐこと が できましたよ

(<sup>C</sup> ソーソーソー) (<sup>B</sup> ダレ オボンテ イエバ ミナ~~~)  
そうそう だって、お盆と 言うと みんな

バシャヤノ バシャヤサンダズ ヨゲディッタンダモノ (笑い)  
馬車屋の 馬車屋さん達が、(涼み台を) かけて通って行ったんだよ。

オハヨースーナンテ。ヨッテガッシャイナンテ バ ~~ウマッコ~~ ウマッコ  
「お早う」などと書いて。 「寄っていらっしゃい」などといふと 馬を  
ツナイダママ ソシス テ ナニスガ ハナシスカダリルシス テル。  
つないだまま、書いて、手にか 話しをしていく。

フユア フユデ ソノトリル バソリルダオ。 ~~~~~。  
冬は 冬で、同じように 馬をりでね。

C ソダガラ コノヘンノ ヒタズガ トーキョーダノ ナンダノサ  
ジから、シの辺の 人たちが 東京や デンカレ  
イッテデ ヨケ ボヤット シス テンダベヨ。<sup>(A)笑い</sup>  
行って オケイ ほやっと ぬけているのだろうよ。  
ドーゴガ スゲダミデナ カンジズダ。オーショシスクテ オラー  
デンカ ぬけたほうは 感じて。恥ずかしくて、私は  
アノ ウエノ アノ トーキョエギ オー ~~~ トーキョエギサ  
あの、上野の、あの、東京駅で、 東京駅に

イッテ ホラ <sup>(B)</sup> イーマデ オンナズダベヨ ンー オンナス  
行って、ほら 今なら 同じでどうよ、 同じ  
ドッカラ イッショニヌ イッテ ハナシス ステットダネ  
所から いっしょに 行って 話を していると。  
カズコダ<sup>(65)</sup> カーチャン タケグ カダンナ ミロ アリヤ ミンナ  
和子が、「お母さん、高い声で 話すよ、見なさい、あのように 皆  
ミデッツオ カーチャンダズドゴ ミデッカラ ターゲグ  
見ているよ、お母さんたちを 見ているから、高い声で  
カダンナッテ。

話をするよ」と言うだ。

A ソイズワ ソダ。 ソイズワ ソダ。  
それは そうだ。 それは そうだ。

B ンダゲント モゴモ ワガネガラナ ナーニス カダッテンダベド  
しかし、向こうの人も 分からないから 何を 話しているのだろうと  
オモッテ オント。  
思っているのだよ。

C ンダガラ オレネ ナーニス インデネノ オラモ アリヤ アノ  
ジから、私はね、「ちい、いいだろうよ、私も あの

ガイコグノ ヒタズナンテ カダンノ コーシス テ  
外 国 の 人 た ち が 語 って い る の を こ う し て  
キーデッケン トモ ソノヨーナ キーシス テ キーデンダベッテ  
聞 い て い る の だ け れ ど も そ の よ う な 気 持 て 聞 い て い る だ ろ う と  
ユード ハイエーンダッツオネ コゴノコドバ。  
言 う と 早 い ん だ っ て は この 辺 の こ と は 。

- A ハイエノデネクテネ ネ ハイエノデネノ。  
早 い の で は 早 く て 早 い の で は 早 い の だ よ。

- C ワゲ ワガネノ。  
わ け が 分 か ら な い の か ?

- A ハヤイ、ワグワ ハヤイト ユゴドオ ハイエト カダルゴドダオ。  
早 い 「 早 い 」 と 言 う と 「 は い え 」 と 語 る と だ よ。  
コリヤ ハヤイ デ シ ョ。 ハイエデ フタッツダオ。 ソノクシエ  
ン れ は 「 は や い 」 で し ょ う。 「 は い え 」 で 二 つ だ も の ね。 そ の く せ  
ツメデ カダッテ ( ^ ハ 一 ) シスムノダ。  
つ め て 語 る の だ よ。 そ れ で 滅 む の だ から ね。

- C イソカ<sup>シス</sup> ガラナ。 ( 笑 い )  
い ソ か い か ら な 。

- B ハイエガ ハヤイダオナ。

「 は い え 」 が 「 は や い 」 だ から ね。

- A ン ツメデ。 オレネ ホーニスネ。 ( <sup>(66)</sup> 他 人 ゴメン クダサイ。 )  
うん つ め て は。 僕 ね 本 当 に は。 ジ め ん く だ い 。
- ( ^ ハ 一 ) イズノ リヨカンサ トマッタドギネ ワゲ  
伊 豆 の 旅 館 に と ま っ た 時 に は 意 味 が  
ワガネッテ イワダッタケン カンゲデミット ハイ ハア  
分 か ら な い と 言 わ れ た ケ れ ど 秀 て み る と 「 は い は あ

カーチャンカ <sup>(67)</sup> ( チョコット ) <sup>(68)</sup> バーチャン チョコット タド  
母さんか?」 <sup>(69)</sup> ( ちよっと ) 準アソ <sup>(70)</sup> ちよっと ナンダ <sup>(71)</sup> ナニス <sup>(72)</sup> ナニス  
ヤ。 ヘレヤ。 <sup>(73)</sup> ( ナンダ ) <sup>(74)</sup> ( ナニス ) ( A モシスコシスネ ( 笑い ) )  
入り下さい。 <sup>(75)</sup> ( ナンダ ) <sup>(76)</sup> ( ナニス ) もう少しけ

A トニスカグ フルー アス~~~。  
トニスカグ 古い ~~~。

B ~~ンタガラ コゴノ コドバズノワ ホニス マー ヤグシス テン  
タガラ ニニの ンとばといふのは 本当に まあ 約していふ  
ノダモナ。  
のタガラ。

A リヤグシス テ カダッカラネ。 カダッカラデス。 カダリマス  
略して 話すのタガラ。 「カタラカラ」ですからね。 「カタリモ  
ダオネ。 オーンタガラ ハヤグ キケンノダオ。 イーズノ  
タガラ。 タガラ 早く 聞こえるのタガラ。 伊豆の  
リヨカンサ トマッタ ドギネ。 オギヤクサンタジツ ナンテ  
旅館に 泊った 時には、「お客様たちは なんて  
イッテレンデスカッテ <sup>(73)</sup> ユッテレンデスカッテ。 ン チョット  
言っているんですか。」と「言っているんですか。」と言ふんだ。 「ちよっと  
ソノ ハヤイガラ ユックリ カダッテ クダサイッタ。  
その 早いから もっと ゆっくり 話して 下さい」と言うんだ。  
ユックリ カダッタッケア マダ ワガネーツンダオ。  
ゆっくり 話すなら、 まだ 分からない と言ふんだよ。  
カンケデ ミダッケア ホントニス ン ウマイデスズノ  
考えてみると 本当に 「うまいです」といふのは  
ウンメアデガスペ。 ネー。 ハイエグ モッテコズノ  
「うめえ」でしょう。 ねえ、「ほいえぐ もってこ」といふのは

ハイエグ ハイエグ モッテコジャ モッテ キテ クダサイダン  
「はいえぐ モッテンじや」 「もってきてください」とか

ナンダノズノ ネーノダガラ ワガネンダッケオ。 オラ キュー  
なんとか言うのは ないの? から わからないんだよね。 僕が 九  
シユーベン ワガネド オンナジズナンダッケオ。 ( <sup>B</sup> ンダベネ )  
九州 が 分からないと 同じことなんだよね。 そうだろう

キューシューベンモ ワガンネヨー。 ワガンネドウ カダラネ  
九州 が も 分からないとね。 「わがんね」とは 言わないと  
ワガリマシェンダオネ。 ワガンネデネクテ マ ソノクシエ。  
「わがりましん」 からね。 「わがんね」 ではなくて、 そのくせ。

B ヤッハッリ ンダガラ コゴデア ント マ ヤズシスティツーン  
やっぱり てから、 そこでは まあ 約している  
モノダオナ。  
からね。

A ンー マズネー ( <sup>B</sup> ンー ) ホニス カエルデネクテ ビックッテ  
うん ますね。 ほんとうに、「かえる」ではなくて「びっき」と  
カダッテ シスマッタヨーナノド オナジズデ ミンツケグ  
言って しまったようなのと 同じで 短く  
ナッテ シスマウガラネ。 ワガネア! ( <sup>B</sup> ビック )  
まって しまうからね。 わからないとね。 「びっき」

C ハー マワリルクデグ ソノ トーリル カダンネノ コノヘンデ  
はあ、 まわりくどく、 その 通り 言わないとね。 このへんで  
アダリルメナ キ システ カダッテルオナ。 ( 笑い )  
あたリ前 気で 話しているの? ものね。

A ナーニス アダリルメニス カダッツド アノ ( 笑い ) コイナ  
まあに、 あたリまえに 話すと こういう言い方を

- コーラニス カダッテルンダ"ガラ ハヤクナル ワケダ" ン。  
 ン"ハ"うよう"い 話して"いるの"だ"から、 早くなる わけだ"よ。 うん。
- C ナーンデ コゴデバ"リルダ"ベ。 ムゴー"ノ ホーサ イグドー。  
 ドう"い" ンの邊でだけ 早い"の"だ"ろ"う。 あちらの 遠い方"に 行くと。
- A ソーデネーデバ ナニス ~~~~~。  
 そ"う"では ない"の"だ"よ。 なあ"い"。
- B ャッパ"リ モーリオガ"サ イ"ゲ"バ モリオガ"デ ン" ミナ  
 ャッパ"リ 盛岡"い 行くと 盛岡"で みん"す  
 ソゴ"ノ ジ"ズゴー"リベンガ<sup>(76)</sup> アン"ノ"サ。  
 その土地の 土地"争"が ある"の"だ"よ。
- A ア アノネー ソノ トジ"ズ"ド トジ"ズ"ノ ヒタ"ー アズバズ"タ"<sup>(77)</sup>  
 あのね その 土地と 土地の 人が 集まると  
 ソーイフニス ナッテ シスム"ノ"デ ホガ"ノ ヒトド  
 その"よう"い (方言"い") なって しまう"で"、 他の 土地の人と  
 ブツツカツツダ" ヤンベクセニス コー マノビシス"テ  
 接する"と"、 丁度 良い"ぐら"い" い 間のびして  
 カダ"ルヨー"ニス ナン"ノ"ス。  
 話す"よう"い なる"の"だ"よ。
- C ン"一" ソンデモ アレダオナー。 アノー ソツツノ ヒタズ"ド  
 うん。 それでも、 あれだ"から"ね。 あちらの 土地の人達と  
 カタ" シスラネドゴ"ノ トズジ"ノ ヒトド カダ"ン"ノダ"ラ  
 知ら"ない" 土地の 人た"ち"と 話す"の"だ"ら  
 イーゲントモ コーイフニス"シス"テ ムガ"イアッテ"デ トモダジ"ズ  
 いい"けれ"ども ン"ハ"うよう"い"して むかい"合"つ"て 友だ"ち  
 フレ"ノ トモダジ"ズ ニダ"ヨーナ ヒタズ"ド ハナシス  
 自分の 友だ"ち"、 似た"よう"な 人た"ち"と 話し

シス テデガラニヌ ソノ アイデカ。 テモネー ワダシヌー  
ていて その 相手が 「 わたし

アノ = ( <sup>(78)</sup> A リルッパナ コドバ ツカッテガ ) ソー ワダシヌワ  
あのお」 リッパナ ンヒボを使ってか? うん、「 わたし は

コーダヨ ナンテ イワレットド コツクテグナルオナー  
ニラジよ」 などと 言われると くすぐったく さうふね。

コッツー。(笑い)

くすぐったく。

A (笑い) ナーニヌ カダッテル クソード オモウナー。  
なにを 話している、この野郎と 思うよ。

C ン ナーニヌ ドッカラ オベダベド オモウ。(笑い) <sup>(A)</sup> 笑い  
うん、まあい、 じんで おぼえたのだろうと 思うよ。

ソー オモウッケヨ。 ドーッカラ オベダベ ナーニヌ  
そう 思うことが あるよ。 じんで おぼえただろう、 まい  
ニヌダヨーニヌネ ソー ニヌダヨーニヌ <sup>(82)</sup> | <sup>A</sup> ナーニヌ  
似たような所で、 似たような所で まい

バーガナゴド カダッテル ギャーグニヌ バガナゴド  
馬鹿なことを 話している、 反対に、 馬鹿なことを

カダッテレド オモウンダオナ。) オカッタンダモノ  
話していると 思うんだよな。) 育ったんだから

ヤンベニヌ カダッテ アダリルメニヌ カダッテモ イー/ニヌ  
ほじほじい 話をして、 ふつうに 話しても ハイ/ヒー

コノヒト ドゴデ オベデキタンダネ ドー コレガラ  
この人は じんで このんとほを 覚えたのだろうと、 これから  
ソーユーフーニヌ ユーンダベガド オモウズド コンダ  
そういうふうに (気取って) 言うのだろうかと 思うと、 今度は

ソンデネオネ。(C.A笑い) ニヌカイメ イヂアット コンダ  
そうではないものね。 ニ度目に 行き会うと 今度は  
ソーデネンダッケモノ。 ンダガラ オラハ コノ コドバデ  
やではないからね。 ナジから 私は ニンの 方言で  
ソレゴソ ヒヨージュンゴ ツカエッテ イワレダッテ  
それこそ 標準語 を 使えと 言われても  
ツカレネケントモ コゴノ コドバデ ヒヨージュンゴミデナ  
使えなければ、ニンの ンとばい 標準語のようだ  
フジス ツケダモ オガシスシス トーキョー／＼アダリルノ  
節を つけても おかしいし、 東京の あたりの  
ヒヨージュンゴノ コ<sub>xx</sub> コドバデ フジスデ コゴノ ネ  
標準語の ンとばの 節で ニンの方言の  
ハナシスシタモ オガシスガスペ。 ンダガラ ヤッパリル  
話しかけても おかしいでしょう。 ナジから、 やっぱり  
ソノママ ナッテシスマウモンネ。 カンケデミレバ ジャ<sub>xx</sub>  
そのままの ンとばに なってしまうものね。 考えてみると  
ホントニス ゼンゴダナド オモワレンダベドモネ。  
ほんとうに 田舎者なのだから 思われるのだろうがね。

B ンー ヤッパリ<sup>(83)</sup> コノー コゴノ ベンチ<sup>(83)</sup> ～～～  
うん、 やっぱり ニの ニンの ～～～～  
ヤアリ<sup>ル</sup> ナンボニス コノー ナンデネガエンガナー。  
やっぱり いくら、 ニの、 なんでしょう。  
ショージズンゴズンダガ ヒヨーズシンゴズンダガ トショソルモ  
標準語 ナジか 標準語 ナジから(うかが)、 老人も  
ハ一 ア マズ<sup>(84)</sup> ソーデスナナンツノハ アンマリ<sup>ル</sup>  
ます 「そうですよ」 などといふのは、 あまり

シャベネグナッタオネ。 マーダ アンダダズ ダッテ マズ  
言わなくていい。 それに あなた方も まあ  
ホニス ヒヨージズュンゴサ チッケ。 （<sup>A</sup>ン ンダ ソンデスナ  
本当に 標準語 に 並いよ。 ） うだ、「そうですよ」  
ナントネ。 )  
などと言つては。

C ネー ナンテ カダンネンダオナ。 アノナッテ コーユーオネ。  
「ねえ」などと 言わないものね。 「あのな」とシラウラにね。  
アノナードゴソレノ タレアノ コーダドヤーット ユーテ  
「あのなあ、どんきの 誰が シラレ「うだよ。」と 言つて  
シスマウ。 ( <sup>B</sup>ア ン ー ソーダ。 ) ナンダデ オメヨ  
（もうものね。 ああ。 うだ。） 「どうして、お前は  
アーンーッテ イワネンダデーッテ コンダ オヤニス イワレデ  
『ああん』と 言わないようになさい」と 今度は、親に 言われて  
ソソデモ ワガネンダッケオナ、  
それでも 直りまいものだからね。

A アンダダジズ シューカグソヨコー ドゴダ。 モリルオガサ  
あなた方は、 修学旅行は どんに行つたの？ 盛岡に  
イッタ シロエンデー。  
行ったの？ それとも 仙台？  
B オラ モリルオガサ チヌツ イッタタダケデ イッタゴドネオ  
俺は、 盛岡に 行つただけで、 あとは行つたことはないよ。  
ンー ( <sup>A</sup>アノ アダリルサ ) ンダオ オラ ログネンシェーネ  
あの頃はね。 うだ。 俺は 六年生にね。  
ンー ンデハ。 ~~~~~。  
うん それで。

- A ゼジエニヌカア一 ネクテ イガネノ オショシスクテ  
 お金が なくて、行かれないのが 耻ずかしくて  
 カグレダリルナンカ シヌタゴド アッタモンダオナー。  
 かくれたりなど したシヒカ あつたからねえ。
- C オラ ヨネンシェエーノ ドギ モリルオガダッタオネー。  
 私は、四年生 の 時、 盛岡 ずっとからね。  
 シス テー ヒトバンドマリルダッタモンタガラ。  
 そして、一晩ジモリジッタからね。
- A ヨネンショーデ モリルオガダッタ。 ( <sup>C</sup> ン。 ) ( <sup>B</sup> オー  
 四年生で 盛岡までも行つたの? うん。 ) オレ  
 ンダツタベガナー ) ゴネンショーダナ ゴネンシェエーダ  
 そうジッタんか? 私は 五年生の 時ジタ、 五年生ジ  
 ン一 ゴネンシェエダ。  
 五年生ジ。
- C ゴーログ ゴログネンセ ゴネンシェエダ。 シス テネ ヨネンセー  
 五、六年生ジタ、五年生ジタ。 そしてね 四年生  
 ダガデワネ ヒライズミダッタ。 ( <sup>A</sup> ヒライズミダオ。 )  
 ジタではね、平泉ジタんよ。 ( 平泉ジタね。 )  
 ソシス テ アノコロ ヨンジヌユーゴセン ヨン ジヌーゴセン  
 そして、あの頃は 四十五錢、 ( 四十五錢ジタ  
 カナ。 ( <sup>A</sup> チャント ネダン オベデアナ (笑い) ) ( <sup>B</sup> ヨン  
 カ? ) 正確に 値段まで 知つてゐるのジタ  
ジヌーゴセン ) ヨンジヌーゴセンタガ ヨン ヨンジヌーゴセン  
 四十五錢? ) 四十五錢ジカ? ( ドンカ (四十五錢  
 ダナ。 ( <sup>B</sup> ジヌー ヨンジヌーゴセン アー ) ( <sup>A</sup> ンダガ  
 ジタ。 ) 四十五錢か、 ああ、 ) ( ソウカモ

シェネネー ン。) ソシス テネ ソゴサ タダヤライネノ。  
知れぬいね。 そしてね、平泉に、無条件でやつてもうえなかた。  
ウッショノ ヤマサ イッテ アノー マツブク<sup>アリ</sup> ヒロッテ  
後の 山に 行って あの、 松かさを 拾って  
コチャエンッテ カマスサ <sup>(85)</sup>ヒトズ ゴーセンデ カウガラッテ  
来ますいと言って、「かます」に 一つ 五錢で 買うからと言われて。  
(B ン)(A ハー。) シス テネ ソノ マツブク<sup>アリ</sup> ヒロッテネ  
そして、 その 松かさを 拾ってね  
ソノー ヨンジュゴセンアデ ヒロウノア イーズズ ヒロワネバ  
その 四十五錢に相当する位 拾うので、 五かます 拾わなければ  
ネー。 ソシス テ ヤライダオ ゼッテ タダ ヤライ  
ならない。 そして 修学旅行に やられたものだ。 絶対に、 たたいて  
ガッコサモ ヤライネガッタヨ ンー。  
学校にも やられなかつたよ。

- A ナニス シュカグリヨコノ ドギ ゲダッコ ハイデッタ。  
ない 修学旅行の 時 下駄を はいて行ったの?  
B ンー <sup>(A ナニスハイデッタ)</sup> ズック<sup>ズック</sup> ズックナンツモノ  
うん。 <sup>ないを履いていったの?</sup> ズック靴<sup>ズック</sup>などといふもの  
ネーノダガラナ ンー。 <sup>(A ダルマク<sup>アリ</sup>ス アリヤ アノ。)</sup>  
ないの下<sup>(87)</sup>からね。 うん。 <sup>だるま靴、あれば あの。</sup>  
ダルマ オドゴ フラシス タズア ダルマクズッコ  
だるま靴、男の 子ども下<sup>アリ</sup>は、 だるま靴を  
アッタンダジヤ。 ネ アノー ゴムノス <sup>(A ホー ナニス</sup>  
履いていたね。 <sup>あの、ゴムで作った</sup> ああ、何を  
ハイデッタンダベナー <sup>(C ハー)</sup> アズハ アッタナー。  
履いて修学旅行に行けた<sup>アリ</sup>ね。 <sup>あの靴は あつた</sup>ね。

- C ゲダダベヨ。 (A ゲタッコダネー。)  
下駄だうね。 下駄だよね。
- B ンー アッタンダガー オラノ ドギア ゲダダガモ シエネナー。  
うん、 薫化はあ、たびだうか? 僕の 時は、下駄かも知れないよ。
- C ワラジズド ゲダシスカ ネガッタンダガラ トニスカグ  
「わうじ」と「下駄」(か すかったん)から。  
(88) ユズギド ハギモノニス スレバ。  
薫化と 補物で 言えば。
- A ヨダヨンダハ一 ワラジズ ハ モリル ワラジズ イッソグ  
依田栄 一足を  
モッテ イッソグ ハイデ イッタモンドズ モリルオガサ。 (B  
持ち 一足を 襟いて 行ったのだそうだ。 盛岡 い。  
ンー。) (C ダレス) ミンツアマデ アリルッタンダモス。  
うん。 誰? 水沢まで 歩いて行ったそうだよ。  
ダレ) ヨダヨ ヨダヨー アノ ヨダヨーの ダンナドノ  
誰 依田栄、あの 依田栄の 妻那で。  
イマノ、トヨサガノ オラホノ ホンケノ アニスキタ。 トニス  
今、豊坂へ。僕の家の 本家の 兄貴だ。 とい  
カグ ハイダホガニス イッソグ モッテ (B ンー) ミンツアマデ  
かく 襟いたほか。 一足 持って 水沢まで  
アリルッテ キシャサ ノッテ ソシステ モリルオガノ  
歩いて、汽車に 乗って、そして 盛岡の  
マジズ アリルッテ ミデ アルッテ キタンダズ (B ハー  
街を 歩いて 見て、歩いて 来た うだい ああ。  
ンデアサ。) ツギノ ヒ イッソグ タゲデルド。  
どうだう。 次の 日は、もう一足を おうじて 襟いた うだい。

B ~~~~~.

- A ン ソダッケ。ン アンダダズ ャッパリ ンデ ゲタッコ。  
そうだ、そうだよ。あなた方は、やっぱり それで 下駄なの?
- C ゲー ゲタタベヨ。 クズナンツモノ ネガッタンダモノ。  
下駄だうよ。靴化などと いうものは なかったのだから。
- B ンダッタベネ。 ン一 ダルマクズ ナンツノ ハ。  
そうだうね。下駄を靴化 などと いうのは。
- C アツ ゾーリルハ アッタヨ ゾーリル。  
ああ、草履は あつたよ、草履は。
- A ダルマクズー ダルマクズガ アドー。  
下駄を靴、下駄を靴化か そのほか。
- B ダルマクズズノ ャッパ ズットー ショーワノ ヴー  
下駄を靴化と いうのは、やっぱり ずっと 昭和の  
ナニタベンオ ンー。  
噴だうよ。
- C ゲダダネ。  
下駄だね。
- B ショギダオ ウン。 （^ ホンダッタンタテー。）  
初期だよ、うん。それで もね。
- C ゲダダ フロシスギ ショウクレーダオ ゲダナンダ。  
下駄だよ。風呂敷を 背負うくらいだから 下駄なのだからよ。
- B ゲダッコ ン ゲダッコナンダ。 ゲダッコナ。  
下駄だ、下駄なのだよ。下駄だね。
- A フロシスギッテ アリヤ アミムッコ ショッタンダエッチャ。  
風呂敷と いうよりは、あれは 締と 背負っただうよ。

A wavy line with a small circle at the end.

B ンー ンダ"ネー。 ノホ アッタベンドモ マ  
そうではないよ。 あつただううが  
フロシス ギダ"オ。 (ハー。) ンー。  
風呂敷 だ"よ。

B アー アーユーモノモ アッタンダゲントモネ マー フロシスギ  
ああゆうものも あっだけれどもね、 まふ 風呂敷  
ダネ。  
マジね。

A イマデモ ネ アイズモ アイズ ショッタリルナンカ  
今でも ああゆう(綱)ものを 背負、ナリなど  
シスタヒトモ アッタッタネ。  
した人も 居たね。

B ン- ソユ- ヒタズジモ アッタッタベガナー マーズ。  
うん、そういう 人たちも 居ただ"ううが" ます。

## (2) 若い頃の思い出など

### 話 1 手

| (略号) | (氏名)  | (性) | (生年)     |
|------|-------|-----|----------|
| A    | 若松林平  | 男   | 大正5年生まれ  |
| B    | 菊地政勝  | 男   | 明治42年生まれ |
| C    | 吉田ケサ江 | 女   | 明治45年生まれ |
| D    | 本堂 競  | 男   | 昭和7年生まれ  |

C オイコワラシスアネ ガッコ ソレゴソ ショーカッコシスカ  
 女の子ジモトにはね、学校、それこそ、小学校しか  
 アレガネガラ ナーンダテ オショジスモンダド オモテアッタ。  
 行かないから、なんと言っても、恥ずかしいことか あっنانのだよ。  
 ショーカッコ アルレッテ コンドア サイホ ~~ホ~~ サ  
 小学校を 終って、今度は 裁縫を  
 ナラセラエンダオネ。ゼーンゴダガラ ソノ サイホーサ  
 習わせられるのだよ。田舎だから、裁縫に  
 イグニヌモネ フユ ジズユーイジズカズド ジズユーニヌ  
 行くにも 冬の ナーメ ヒ ナニ。  
 ショーカジズ ニヌカズ サンカズニヌナレバ ハ  
 正月、二月、三月になると、もう  
 ムギザギキリルナンダオア。(B ンー。) ソノネー イズズギノ  
 麦踏みの時期になると、その、五ヶ月間  
 ヴジズニヌ サイホーサ ソノ ヤラインノニヌネ (B ンー)  
 の間に 裁縫を習いし やらかるのじ

メニヌ コヤシスアケ<sup>(91)</sup> シスロッテ ソワレデヨ (A ン  
その前に「ニヤリ上げ」を 13と 言われてね。 うん  
アーアー ~~~ コヤシスアケ アー アニ ) コヤシスアケ  
ああ. 肥やリ上げね. 肥やリ上げを

オナゴワラシスサネ コヤシスアケ サシセエダモンダオ。  
女の子もには. 肥やリ上げを させたものだからね。

(B アー) デ オショシスクテ ダレガ ムゴーガラ  
そねで 耽ずかしくて 誰が 向シラから。

ソンドギ ユギノ アルアダリルナンダヨ フユダガラ。(A ンー)  
その時. 雪の ある頃 なのだよ. 冬だから。

システネ ムゴーガラ ダレガ クルド オショシスガラ  
そして. 向シラから 誰か 来ると 耽ずかしいから  
ハヤグ イグンダオネ。ソシステ ムゴーガラ ダレガ クルド  
早く 歩いて行くのだよ。そして 向シラから 誰か 来ると  
ハ オショシスガラ コサ アノー オロシステサ (B ンー)  
耽ずかしいから 此処に 下ろしてね。

ソシステ テンビン コーユフニヌ システ ソサ コシスカゲデ  
そして 天びんを ニウキょうに して. そに 腰かけて  
スランカオシステ ナンボダベヤ ジューサンカ  
知らばいふりして. いくつだ。ナジラウカ. ナミオカ.

ナンボベヨー。 (B アン アン) イッペニヌ イラレネガラネ  
いくつだ。ナジラウね。 槌に肥やリを下ろさん 入れられすいかから

シスズベ メグレニヌ システ コシステ カズイデネ  
七八目ぐらいい して. ニウして かついで

ジエコ。 マズシガラ ジェーコマデシス。(A ~~~)  
町から 田舎までね。

ソーマッテ ソイズ コンダー ハダゲサ モッテッテ フッテ  
ソウヤッテ、それを 今度は 畠に 持っていって、撤いて  
ソーシス テ ガッ ソシス テ ガラ サイホーサ ヤライダ。  
ソウヤッテ、 そして から 裁縫に やらねたんだよ。  
(<sup>B</sup> アー) ( <sup>A</sup> アノアダリ サイホー-----  
その頃、 裁縫----- )

- B ン マジズガラ ア アケデグノ。  
うん 町から 肥やしを 桶に入れて行くの?  
C アリヤ イマノ ミキサンッテ カミイーサン アルエン (<sup>(92)</sup> <sup>B</sup> ンー)  
あの 今「みキイん」という 繋結いさんか あるぞ! よう。  
アソゴガラ アケンダッチャ。カドガ <sup>(93)</sup> ドーレンジズアダリマデ。  
あそンから、「肥やし」をあげたんだよ。片岡、百蓮寺 あたりまでは。  
A トニスカゲー オナコワラシタジズ ハー サイホーサ  
トニカケ 女の子どもたちは 裁縫に  
アリルッタンダオネ ガッコー オワルド ショーカッコーナンカ  
行ったものだよね。 学校を 卒業すると、 小学校などを  
オワッツドネ。  
卒業するとね。  
C オッソラグ オラエグレナモンダベ ソーイゴド サセダノ。  
多分 私の家ぐらいのものでしょう、そういうことをさせたのは。  
オレノ オヤグレナモンダベ。 ゼッテ タダワ オガネンダ。  
私の 親ぐらいのものだろう。 決して、只では 置かなかった  
ン。  
のだから。  
A アリヤ ドゴノ シセエンシェダッタエ サイホノ シセエンシェ。  
あれは、どんの 先生 でじったろう。 裁縫の 先生は?

- C サイホノ シセエンシェワ モジズダダッタオ。  
 裁縫の 先生は 餅田の人だってよ。
- A ホー モジズダサ イッタノ。  
 へえ、餅田まで行ったの？
- C ンデネノ モジズダガラ キテル センシェー。 A ハー  
はあ。  
 そうではないよ。餅田から 来た 先生だよ。  
 モジズダ。) 餅田ね。
- B ンデア アリア マルショーノ ッテ マルショーネ 表志 (96)  
 それでは あれは「マルショーノ」って 「マルショーネ」ではなく
- C ンデネモ ソレノ メーダモ。  
 そうではないよ、そのもと 以前だよ。
- B キクショーノ アノ シヨンツアン アネダ"ネグ"。  
 「菊正」の 「正さん」の 姉さんではなく。
- C ンン ソレヨリ マエ。  
 それより 前
- B ホー ホー ン。  
 そうなの。
- C アノ コヤシスアゲナ。  
 ああ、あの「肥やし上げ」ね。
- A アンダ ヨメコサ ナンボデ キタノダ。  
 あなたは 嫁い 何オで 来たの？
- C イマノ トシスダド ジューシスズジ。  
 今、年で言えば ナセオだよ。
- A ン ジューシスズジ。 (C ジューシスズジ ン。)  
 え、ナセオ？ ナセオだよ。

- A ジューシス ジズデ ヨメコサ キタノダガ (C ソー) ムガスア。  
ナセオで 嫁い 来たの？ 首は？
- C アンマゾル イータメニス ハエグモラエダノ。 (笑い)  
アモリい キリョウ良いのために 早くもらわれたのよ。
- A ゼーブン ハヤグ キタンダナヤ。 (C ジューシスズ。)  
ズ、ぶん 早く キタんダね ナセオだよ。
- オドロイダ エー タマケダ。  
驚いたなあ、びっくりしたなあ。
- C イマノ トシスダッタラ ジューハジズダベドモ ジューシスズ  
今、 年だつたら オハオだらうが。 ナセオ  
ダベヨ。  
だらうよ。
- A オラ ハダジズガ ナンボデ キタベナド オモッテダ  
俺は、ニタオカ そのあたりで 来ただらうと、思っていたが  
ジューシスズデ キタノナーホー。  
ナセオで 来たのだね。
- B ンダサ。 ソノ コロワ ンー。  
そうだよ。 その 嘘は。
- A ソンナニス ハエガッタガナー。  
そんない 早くしたのかね。
- D ダンテサントワ スデニ コー カオ アワセテタリ チャント  
旦那様とは、すでに 頬を 合わせていたり よく  
シテタノ。  
知り合っていだの？
- C ソーデネノ トゴロガ。 (D 笑い) (A ンー。) アノー ホラ  
そうじゃないのだよ。 ところが。 あの、 ほら

オラエノ トーチャン ( <sup>A</sup> ナニヌ ) ニヌ イッペ ジズーチャン  
うちの 主人 ( なに? ) は、たくさん、主人は  
ニヌ キョーダイ アルエー オドゴダジズ。 ( <sup>A</sup> ムガシス。 )  
兄弟が あつたでしよう、男の兄弟が。 昔はね。  
ソレゴソ ミンナ ジューニヌン ~~~。 ( <sup>A</sup> ~~~ )  
それなり、みんな、十人兄弟が ~~~。  
( <sup>B</sup> ンー ナルホドナー。 ) ジューニヌンキョーダイ。 ( <sup>A</sup> ~~~  
うん、まるほじね。 ) 十人兄弟がね。  
キョーデダナー ) キテネ オレカ。 キテ ンデモ ホラ ミナ  
兄弟だね。 嫁に 来てね、私が 嫁に 来て、それで もほう、みんな  
ホゴサ デハッテダガラ ダッタ ドー ヒトカ。 ジズブンノ  
奉公に 出て 行ってたから、 どの 人が 自分の  
ダンナダガ ワガネンダヨ。  
旦那だか わからぬいのだよ。

- A ドー ドー/ヒド ジズブンノ ダンナドノダガ ワガンネ。(笑い)  
どの 人が 自分の 旦那だか 分からぬいとほ！
- C ホントニヌ ワガンネノヨ ホントニヌ。  
本当に わからぬいのだよ。 本当に。
- B ニヌバンメ ニヌバンメニヌワ フジズオサン。  
ニ番目兄弟は 藤雄さんだね。
- A フジズオサンダ。 ( <sup>B</sup> ンー。 )  
藤雄さんだよ。
- C ン ジステネ ムジスメダガラ アサニヌネ クサガリル  
そしてね。 娘 だから、 朝に 草刈りを  
ジステロッテ イツモ ヤマサ クサガリル ウマッコ  
いろ。 と言われて、いつも、山に 草刈りに、 馬を

ヒッパッテ クサガリニヌ ヤンノ キョア ナンデ コノ エノ  
ひっぱって 草刈りに 行くの。今日は、どうして こ。家の  
メー／ノ クサ カレッテ ソワレンダベナード オモッテ  
前の 草を 刈れと 言われるとのだろうなど 思って  
ナンニスモ ヘントー <sup>(98)</sup> シスライネンダモ ヒトツモ ヤンタモ  
なんにも 口答えなど 出来ないから、 ちょっとでも、いやとか  
ナンダモ イワレネ。 オヤ／ ユートーリルニス シスネバ  
なんとか 言われない。 親の 言う通りに しないといけ  
ネ。 ソシステ エノ メー／ノ クサガリル システダレバ  
ないの。 そして、家の 前の 草刈りを して、いたところが  
アリヤ アノ マズノサンナ シスッパショリル システサ。  
あの「まつのさん」が、裾からげ してね

(<sup>A</sup> ン ン バンツア マズノサ～～～。) ンー オッシュード  
うん あの婆さん、まつのさん～～～。 夫の  
オドッツアン <sup>(99)</sup> シスッパショリル システネ ソシステ  
親 が 裾からげ してね、 そして  
ナゴード イツモ クル ソノ オナゴドノ オガサント  
仲人、 いつも 来る その お仲人の 奥さんと  
クル コー トーリルスキダノ ミムダガラネ ヘンダナード  
来て 前を 通り過ぎたのが 見えたので、 変だなあと  
オモッタモンダガ オモワネモンダガ トニスカグ ソノヒダゲ  
思ったのか、 念ねちかったのか、 としにかく、 その日だけ  
アサニス クサガリルタッタ。エノ メー／ノ クサガリル。  
朝 に 草刈りだった。 家の 前の 草刈り。  
(<sup>A</sup> ハー ハー ハー。) ソシステ モライダンダガラ  
そして、 買われたから

(<sup>B</sup> アー ハー ハー ハー。) ドーゾ ヨロシク。 (笑い)  
どうぞ よろしく。

A ミムデ マズノサンガ ミムデ アノ ムスメダラ イードモッテ  
見て、「まつのさん」があなたを見て、あの娘だったら良いと思って  
ハー モライダ!。  
貰われたのだけれど。

C トゴロガネ キテミダッケ コゴレアノ ホラ バンツアタダジズネ  
とンろがね、来<sup>マ</sup>見たら、シの辺の おかみさんたち。  
オガサンダズジカ<sup>マ</sup> マズノサンツー ヒトア ドゴガラ アノー  
お母さんたちが、「まつのさん」という人は ビンから  
ナゴート キテモネ ミサ ~~アルイ~~ ダマーッテネ ミサ  
お仲人さんが 来ても 黙って 見い  
アルイタヒトナンダド。  
歩いた人だそうだよ。

B ンー ドゴノ マズノサン。  
うん、何処の「まつのさん」?

C オラエノ オシユード オドッツアンス カズオサン<sup>(100)</sup>  
私の家の 姉さんだよ。 「和雄さん」の  
オガサンス。<sup>(<sup>B</sup> アー アー オガサン~~~。)</sup>  
お母さんだよ。 ああ お母さんね。

A ナーニヌモ コッツノ オガサンダオ。 オラ ネ。 (笑い)  
子に、シの人の お母さんだよ。 僕はね。

C ミデ アレッタんだ。ンデモ アノアダリル ソノアダリル  
見て 歩いたそうだよ。 でも、あの頃は、その頃は  
ミデモ アルガネガッタダオ オヤガ。  
見ても 歩かなかつたそうだよ、親も。

B ナナゴードモ シヌタヒト。

仲人も した人なの?

C ナゴード オガサント ミテ アルイダノ。 |<sup>B</sup> アー アー

仲人の 奥さんといつぱに見て歩いたのだよ。 ああ

ソーガ。)

そうか。

A ナゴド ドゴンレノ ムスメド ナツドア オドツツ アソゴノ  
ジンモンの 娘だと いうことにすると、 あそンの  
オドツツアン オガーサンガ コダガラ ンデ モレヤドガ。

父親や 母親が こうだから、 それで貰おうよと言う。

(<sup>C</sup> オヤ イバ モラッタンデネガナ オソラグ。) (<sup>B</sup> ~~~~~)  
親が 良いと それで貰ったのでは ないかな、 多分。

ナニス オヤジズド オフグロド シヌテ キメテ

すあい、 父親と 母親が 相談して きめて

シヌマッタンダオナー。 オラモ オラノ カガア ミネデ  
(もったのだ) まあ。 僕も 僕の 妻を 見ないで

モラッテシヌマッタンダ。 (<sup>B</sup> 笑い) ン アリヤー ナンテ  
貰って しまったんだよ。 けたら 本当に その 通りだつたよ。

モラッタッケア ナニス ホニス ソノ トーリルダッタオ。

貰って しまったのだよ。 けたら 本当に その 通りだつたよ。

C イマノ ゴド ハ タマケルナ。

最近の やり方には 驚くことばかりだよ。

A ヨメ モラウドギ ハシズメデ ハ オレノ カガガナド

嫁を 貰うとき、 初めて 僕の 嫁かずなどと

オモッテ ツラミムデナ マッタグ ショチッネーナ。

思って 顔を見て、 全く どうにも どうが すかっنان。

- C ンー イマノ ゴド カンゲット ハ タンマケレ ンダガラ  
 うん、 最近の やり方を 考えると、 蔵くシとば"カツ"だから  
 ダマッテアホ イジズバン イーオナ。 (B 笑い) (C 笑い)  
 黙ってい-方か 一番 いいからね。  
 (A ンダベネ (笑い)) (B オラモ イワネ。) (A ダマッテ  
 そうだうね。 僕も 黙ってい-る。 黙って  
 キタッタ。 (笑い))  
 来たの?
- C ワゲワガネウジズニス ケラレデ ワゲワガネドゴサ  
 わけが 分からず、 うちに 嫁に やられて、 わけが 分からずいところに  
 ケラインノデガス タッタ。 (A ンダー イマ ナニス。) ンー。  
 嫁に やられるのですよ。 そうだ。 今は なに
- B マー ジューシスズジダオナ ンー。  
 まあ、 ナセオト"からね。
- A ソレゴノ ダマッテ ケルドゴ ケデヨゴスドゴモネス。  
 やれこそ、 黙って 嫁に くれるところ、 くれて おんすところも ないですよ。
- B ジュースッティエバ マダ チューガッコーナンネンダ。  
 ナセオト"から、 まだ 中学校 なところね。
- C ジュー ムガシスノ トシスダデバ ジューシスデ ショーガッコ  
 昔の 年で 言えば、 十四で 小学校  
 ジュース (A ショーガッコ オワッタバリクレーナ モンダ。)  
 十四 小学校を 終わったば"カツ"だいのものだよ。
- A チューガッコ オワッタバリナンダ イマデ。 (C ジューシス  
 中学校 終わったば"カツ"だいのものだよ。 (C ジューシス  
 ン ジューシス。) ジューシスズジドヤー。  
 十四 ナセオト"から、

B ショーカッコ ジズンジョーコートーショーカッコ。 ( <sup>A</sup> ンー  
小学校、尋常高等小学校。 うん  
ンー。)

C イマノ チューカッコー。  
今の 中学校。

B ン ンダガラ イズー コーチュー アノー ムガシス  
うん、だから いつ。 あの 昔  
ジズンジョーコートーショーカッコーダベジヤ。  
尋常高等 小学校だろうよ。

A コートーカ オワッテ イジズネンカ ニヌネン。  
高等科を 終わって 一年か 二年たった時だね。

C コートーカワ ニヌネンナンダモ ログ~~グ~~ ジューログナンダ  
高等科は 二年だから ナ六才なんでは  
コートーカ オワレバ。  
高等科を 終われば”

B ンダガラ ログネンシェーデ オワツル。 ( <sup>A</sup> ンー コートワ  
デから、 六年生で 終わり。 うん、高等は  
ニヌネン。) アド コートニヌネンシェーマデダ。 ソノドギ  
二年。 あと、 高等二年生までだね。 その時  
ジズーシスズガ ニヌネン オワットン。  
ナセオカ、 二年生を 終わると。

A ニヌネン オワットン ンー カゾエダラバナ ( <sup>B</sup> ンー ンー。)  
二年生を 終わると、 教え年すらばね。  
カゾエダラバナ カゾエデ キタノナンダナ アンダワナ。  
教え年すらば、 教え年で ナハズ キタのまのデバ、 あハズバ。

- C カゾエデ ジューハジズ。~~。  
数え年で 十八歳。
- B ンデ チョコイマデアバ チューカッコ ソズギョーシステ  
それでは、 今さらば 中学校 卒業して  
スク ヨメゴダオナ。  
すぐには 嫁に なったんぢやね。
- C ダレネ オレノ アネ アッタンダゲント ソノグレー ハエク"  
あのは、 私の 姉が あつたのだけれども、 そのくらい 早く  
ケダタメニヌ カジエグヒト ネガラッテネ (A ~~)  
嫁に やったんめい。 働く人が いらないからと言って  
ガッコーサ イレラレネガッタンダモ。 ソシスティー シャデ<sup>(101)</sup>  
学校に 入れられずかたんぢよ。 そして 弟が  
マタ ソイズガラ ミツツ スグネー シャデー アッテダヨネ。  
姉から 三オ 下の 弟が 居たんぢよ。  
ソイズー ント ヘリデクテ ノーカッコーン シスケン  
その弟が ええと、 (学校) に入りたくて 農学校の 試験を  
ウゲデ ホガノ ヒトサ シスブンサ アガッタッテ  
受けて、 よその 人から 新聞に 名前が のって  
サワガレデデモネ オヤジズ ゼッテ カジセガセネバ ネッテ  
されがれても、 父親は 絶対に 働かざされば ならぬと  
イレネガッタ。 シスタッケ ミッカ コダッサ ネデ  
いって、 入れなかつた。 そしたら、 三日間、 こたつに 猫て  
イルノス。 ソーユーフーナ / ダッタヨ。  
いちらの豆よ。 そういうよな 状態だったんだよ。
- A ンダサー アノ アダリル ヘリデクテ ホニス ダマッテ  
そうぢよ、 あの 嘘は、 学校に 入りたくて、 本当に ンッギリと

ウゲダリルシスタ ワラシス タズシ インボモ アッタッタ。  
受験した 子どもが いくらも いたんだよ。

(<sup>B</sup> ンー ンダベネ。  
うん、そうだろうね。)

C ンー ヒヤクショーネー サシエネバ クラサレネガッタソダベ  
うん、百姓を バセなければ" 蔽らされなかつたんだ" う  
ジヤ イッペ カセデッカラ。  
よ、たくさん 働いていたから。

B ンー マズ ムガシスノ (C ンー) ヒヤクショズノ ホラ  
うん、オズ 首の 百姓というのほ、ほら  
イマダレバ ミナ アノ ナンダオナ フザイジヌシスデ  
今で言えば みんな 不在地主で  
タノー タノー マ ゴログダン モッテレンダ ムガシスノ  
田の 五・六反 持っているのデ、首の  
ヨニス ミナ コサグナンダオナ オソラグ。  
ように みんな 小作のデよね、多分。

C ソレゴソネ オレソノ ジュースジズノ ドギ (A ンダオネ。)  
それこそ、私が その ナセオの 時、 (そなえのデよね)  
(<sup>B</sup> コサグナンダオ。) (A コサグナンダオネ。) ヨメコサ  
小作のデよね。 小作のデよね。 嫁い  
クットギネ タンスー。 ジューニヌエン (B ジズッピョー  
来る時 算筈 ナニメ (米を) 五俵  
トレバ ゴヒヨー トラインダオ。) (A タンス ジューニヌエン  
取れば 五俵は取り上げられるもよね。) (算司 ナニメ  
ス ンー) ン ソシス テネ イッタンノ タネ アイズー  
うん、 そんては、 一反の 田が あれが

サンビヤグ<sup>ゴ</sup>ジューエンヨ タイッタン。ソシス<sup>テ</sup>ネ スコーシス<sup>ス</sup>  
三百五十円<sup>ナナ</sup>だ<sup>タ</sup>んよ。田<sup>ダ</sup>が一反。 そ<sup>レ</sup>てね、少<sup>シ</sup>  
ミジ<sup>ズ</sup>カゲノ ワルリータ ヒゲド<sup>ゴ</sup>ダ<sup>ノ</sup> タゲド<sup>ゴ</sup> アノー  
水<sup>ミ</sup>のナナリ具合の 鬼<sup>イ</sup>い田、 低い田や、 高い田、 あの  
ウマッコノ アシス ササルド<sup>ゴ</sup> ヨーナド<sup>ゴ</sup>ワ<sup>ネ</sup> サンビヤグ<sup>エ</sup>  
馬<sup>ハ</sup>の 足<sup>ダ</sup>が さ<sup>ハ</sup>って抜け<sup>ハ</sup>いよう<sup>ナ</sup>と<sup>ン</sup>ろ<sup>ハ</sup>、 三百円<sup>ナナ</sup>  
ン (B ウーン) イッタ<sup>ン</sup>デ。 ソイズガ<sup>ア</sup> ナンジュー<sup>ネ</sup>ンメ  
た<sup>よ</sup>。 一反<sup>ダ</sup>。 それ<sup>ガ</sup> 何<sup>ハ</sup>十<sup>ハ</sup>年前  
ダベ。 ヨンジューー (B シー) ナンボダ<sup>ア</sup> チョット ワガネナ  
だ<sup>ラ</sup>う<sup>よ</sup>。 四十 何<sup>ハ</sup>年<sup>ダ</sup>ら<sup>ハ</sup>前、 ちょっと  
ジュー。  
分<sup>ハ</sup>らない<sup>ハ</sup>よ。

- A ショーワゴ<sup>ジ</sup>ュネンダ<sup>ガ</sup>ラ アンダ<sup>ノ</sup> トシス<sup>ア</sup> アンダ<sup>ア</sup>  
(今年<sup>ハ</sup>) 昭和五十年<sup>ナ</sup>から、 あなた<sup>ハ</sup>の 年、 あなた<sup>ハ</sup>が  
チャッケ<sup>ト</sup>シス<sup>ダ</sup>ガラナ ナニ タイショ<sup>ー</sup> ジューネンアダリル  
若い<sup>ハ</sup>噴<sup>ダ</sup>から 大正 十年<sup>ア</sup> あなた<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>、  
ニス<sup>シ</sup> シー タイショ<sup>ー</sup> ジューネンデ<sup>ネ</sup>ンダ<sup>ナ</sup> アンダ<sup>ア</sup>  
大正 十年<sup>ア</sup>では ない<sup>ハ</sup>、 あなた<sup>ハ</sup>  
ヨメ<sup>コ</sup>サ キタコロダ<sup>ガ</sup>ラ (C ジ<sup>ュ</sup>ー<sup>シ</sup>ス<sup>ズ</sup>ジ<sup>ダ</sup>ガラサ)  
嫁<sup>ハ</sup>に 来<sup>タ</sup>た<sup>ハ</sup>噴<sup>ダ</sup>から ナセキ<sup>ハ</sup>の時<sup>ダ</sup>から<sup>ハ</sup>ね  
ヤッパリ ショーワガ<sup>ン</sup>ネンアダリルダ<sup>ナ</sup>。 (笑<sup>ハ</sup>)  
ヤッパリ 昭和元年<sup>ア</sup> 噴<sup>ダ</sup>ね。

- C ショーワサンネン。  
昭和三年。

- A アンダ<sup>ア</sup> ヨメ<sup>コ</sup>サ キタ<sup>ノ</sup> ショーワサンネンカ。  
あなた<sup>ハ</sup>嫁<sup>ハ</sup>に 来<sup>タ</sup>た<sup>ハ</sup>は 昭和三年<sup>ハ</sup>の?

○ ソーダネ。

そうだね。

A ソンナニ<sup>ヌ</sup> ハエグ キタノダ<sup>ガ</sup>。

うんうん 早く 来たら?

「ソンドッテ サンネンメニヌ マツコ ウマレダンダガラ  
ナジッテ、三年目に「松子」が生まれたのナジカラ  
ダ ホニヌ）。ソンダ ショーワサンネンダオ。  
は、本当に） そうナジ 昭和三年ナジよ。

B ショーワサンネン。 ( アノ アダリル。 ) アンダ ナンネン  
昭和三年。 あの頃。 あなたは 何年  
ウマレ。

ウマレ。

生まれたの？

「オレワ ヨンジューゴネンノ ゴガズダゲド タイショーガンネン、  
私は、四十五年の五月だけれども、大正元年。

(<sup>B</sup> ホー シー。) ログガズ ナンガズダッタ。 (<sup>A</sup> シー) アノー  
(う。) 六月、 何月デジタニの? 五の

## タイショーニヌナッタノ ログ。

大正 12 年 1 月 1 日。

B タイショーニヌ ナックノワ ジュー ジューニヌガズダ。

大正12 す、たのば

ジュニヌガズ。

$$t = 13.$$

A ジューニヌガズス タイショニヌ ナッタノ ジヌニヌガズ。  
十二月丁子、大正11、なつたのは、十二月。

B 夕々アノタイショーテンノーズノ ジュニヌガズ  
大正天皇といふのは十二月

ニヌ ジューゴニヌズジニヌ シンダオダガラ。

ニ十五日(一) 死んデジからね。

C ハー ジューニヌガズジ ハー。 (B ウン。)

ああ、十二日ね。

A ン ショーワガンネンツナネ イッシュカングレジスカ ネンダ。

うん、昭和元年というのね、一週間ぐらいいしか ないのデジよ。

(C ハーン。)

B タイショーテンノーカ ホラ ニジューゴニヌズジニヌ

大正天皇が ほら、ニ十五日(一)

ジスンダノダガラ ン。 (C ンー) ンダガラ。

死んデジのデジから うん。 デジから。

C トニヌカグ サンビアグー ゴジューエンテ ソッパナタ

ト(一)かく 三百 五十 円で ヨツハチナナ 円

イッタン カウニ イガッタジヤ。 (B ンー ンダナ) ンー  
一反 買うことがでいたのデジよ。 うん、 そうデジね うん。

タンシヌワ シヌシャグタンス ジューニヌエンネ (B ジューニ  
算箇 は 四尺算箇 が ナニ 円デジったよ。 ナニ

エンナ。)

円ね。)

A ソレゴソ ホント/ イワヤドータンス ナンボ モッテ

それニテ 本当の 岩谷堂算箇 いくう 持って

アルッテモ ビクトモ シネノ (笑い)

歩いフも びくとも しづいのデジね。

C ソダッタヨー。

そうデジったよ。

(102)

- B ンダナー ソイズア一 イマ ンダガラ モットモナ  
 オうアジナ それは、 今は ナガラ もっともね、  
 イジズマンエンサズ フルリマシス テ アレッテ。  
 一方田札を フリまわして 歩いて。
- A タンス一 ヒトズ一 モッテキタダゲデモ ハ一 イガッタオナ一  
 算笥を 一つ 持ってきただけでも 良かったんだよ。  
 イガッタソナ一 ヨメコサ クルノニヌ イマデガラ  
 良かったんだよね。 嫁に まるひに 今だったう  
 ナニヌ モッテコネクテネ カニヌ モッテコネクテネ  
 かいを 持たなくてはいけない。 かいを 持たなくてはいけないと  
 ジスズジヤガマシスネゴド<sup>(103)</sup> カダッケントモ (B フ フーン)  
 いろいろうるさいことを 言うけれども  
 ホニヌ一 ~~~。  
 本当に。
- C タンス タンス ヒトズド キョーデアーモーネ オラハ アズゲ  
 算笥、算笥 一つと 鏡台モ 私は 持たせ  
 ラエダゲント ホント ヨグヨグノゴドデネバ キョーデア一  
 られだけれども 本当に よくよくのことでなければ 鏡台は  
 アズゲネガッタオナ。 (A ~~~。) ソンデ イガッタソナ。 (B マズ  
 持たせられなかっナ。) それで、よかったです。
- カコツ<sup>(104)</sup> マズ カコツコヨメゴ オーガッタベモ。) カシェク<sup>ワ</sup>  
 まあ 器量の良さで嫁にもうれしかった人が多かったろう) 働かなければ  
 ゲ スレバ一ノダオ オソラグ。  
 それで よかったです。 多分。
- A ン一 (B アーン) カシエク<sup>ワ</sup> カシエカ<sup>ワ</sup> ネフ マズ シス ....  
 うん。 働く 働かなければ まず 問題外で。

(<sup>B</sup> ンー) モラウノ コーダノ アーダノッテ。

貰うのには こうだの ああだのと 言って。

C ソシステネ モライデキタ ダンナデネグ オシュードサンサ  
そして 貰われてさたが、夫ではなく おしゃうとさんには  
ツトメロズヨーニス シュードサ ツトメロズヨーニス  
よくつとめなさいと言うように、おしゃうとに よくつとめなさいと 言うように  
キヨーイグ サレダモノ。 ( <sup>A</sup> ンダネ。 ) ンダガラ ケッキョク  
教育 されんものだよ。 ( こうだね。 ) だから。 結局  
ドノヒトサ モライデキタモ ミムンナ オドゴダジズキヨーダイ  
どの人のところに 貰われてさたか分らないようだった。 男兄弟は みんな  
オラヨリル ヨゲナンダモ フジズオサン。 ンー  
私よりも 年上なのだから、藤雄さん。

A ジズブンノ ダンナドノ ワケワガネガッタ (笑い)  
自分の 夫が わからなかつたとほ。

B ン ア フジズオサン ヨゲダ オレ オレヨリ ヒトズ ヨゲダ。  
ああ、藤雄さんは 年上だ、俺よりも 一才 年上だよ。

C ヨゲナンダモ ミツツモ ヨゲダモノ。  
年上なんだよ、三才も 年上なんだよ。

B ンダオナ。オラ コッチツノホー イッテ イエバ イガッタオ。  
こうだよ。 私は どちらの方の方が良いって言えば よかったのー。  
( <sup>A</sup> 笑い。 )

C イーマサナレバ オラ イーデ アンデ。 (笑い) ( <sup>B</sup> アー  
今にちってみると 私は 良いよ、あへで。  
ソーダッタガ。 ) オラ アンデ イーノダ。 ( <sup>A</sup> ナガモジズ  
こうだったか ) 私は あへで いいのではよ ( <sup>B</sup> 長持ち

スルホーガ。 ンダガラ オレ ヘンネガラ フラシスバリモ  
する方かね。) ナジから、私は(学校に)入らないから、子どもだけでも  
イレデミム デモンダナード モッテ ガッコーサ ホントニヌ  
入れてみたいもんデシと 思って 学校に、 本当に  
ソイズバリル イッシュンデ ハ。  
それだけの 一言で。

A ナニス ンダ アンダ~~~~~。 タイシスタ ガンバリヤダ。  
まあに、 そうだ、 あなたは。 大きな 積極屋だ。

B イマダレバ~~~~~。  
今だったう~~~~~。

C オラ オショシスガラ。  
私は 耻ずかしいからね。

B ホニス アンダダ~~~~~。  
本当に あなたは~~~~~。

C ホントニス ナーンニスモ イジズバーン コマルノネ。  
本当に なにも 一番 困るのね。

(<sup>A</sup> ホントダ ミタ キョーイグシスタ ホントダ~~~~~。)  
本当だ。 よく 教育 した。 本当だ~~~~~。)

アノー イジズバーン ガッコーサ ヘンネデ ( <sup>A</sup> ~~~~~  
あのう、 一番、 学校に 入らないで ~~~~~

マサカツツアンサンモ ソーダス。) ホニス キョーイグッテ  
正勝さんも そうだい。 本当に 教育って

ソレゴソ ムキョーイグ ムガグツノデ イジズバーン コマンノア  
それニキ 無 教育、 無 学 といふので 一番 困るのほ  
ヨーソサ マズ シスラネデ ムジユニヌツッテ コノ  
ほかの人に、 まず、 何も 考えないで 夢中に なって

コドモダジス オカシス テンノ。 (B ンー) ワラシスノコロ  
子どもたちを 大きくしたんだよ。 子どものころ  
ワレガ アノ フジズユーシスッカラ ムジューニヌイッテ  
自分が あの 不自由していだから、 夢中になって  
オカシス テンケントモ イザ コノ コイフニス オッキグナッテ  
大きくさせたけれども、 いざ ンラウヨウに 大きくなつて  
ホガノ ヒトアネ セゲンサ ダサネバネグナッタドギニス  
外の 人の前に、 世間に 出でなければならなくなつたとき  
オレノ オモッテデモ ソノ ジズモネ モンクワ ドーヤラ  
私が 心で 思つても、 字もね、 文句は デラやう  
ツチズジリカダ ムガジス オレ スギダッタガラ モンクワ  
綴り方 は 首 私は 好きだつたから 文句は  
ドーヤラ ツグンニヌイーゲントモ ジズ シラネンダモネー。  
デラやう 作るに いいのだけれども 字を 知らぬいからね。  
ンダガラ ソイズデ オレ イジズバン クロージスタ。 アド  
ダジから それで 私は 一番 苦労した。 それから  
ダンダン コンダ ケデシスメバ。

デんだん、 こんどは 娘を 嫁に やつてしまつと。

A ハヤグ ハヤグ テーフコーダーデギルバ イガッタナー。  
早く テーフコーダーが 出来れば やかつたね。

C ケデシスメバネー コンド タニヌント ツギエア ジスネバネオ  
娘を 嫁に やつてしまつと、 今度は 他人との つきあいを なければなら  
ナ ソイズ イジズバーン フジユーダヨ。 ナ ハイッテル  
ないで、 それが 一番 不自由だね。 学校に 入つた  
ヒタズ ナニヌー ソンナゴドッテ ユーゲントモネ  
人々は 「 なあに そんなことは 」 と 言うけれどもね

ウーソダデバ ハイッタヒタズワ ナンニスモ フジズユ  
うん。 そうだよ。 学校に入った 人々は なんにも 不自由  
シスネンダドモ ヘンネモンガラ カンゲットア イジズバン  
しないけれども、 入りたいものだから、 考えてみると、 一番  
ソイズガネ フジズユーナンダッケ。

それが 不自由なのだよ。

B アノ イワサキサンサ イッテンノワ イジズバン オッキーノ。  
あの、 岩崎さんは 嫁に行っているのは 長女なの？

C ソー。 (A アー ンダー。)  
そうだ。 ああ、 そうだよ。

B ソノツギア ナンダッタ アノー ベンリヤシスタノ。 (C ソー。)  
その次の娘は、 なんだっけね、 あの 便利屋をした家の。  
ホーン。

A バントシスタ シスタドゴサ イッテ。  
ソーパサ 家に 嫁に行って。

C ンデネー ミムンナー ホニス (A シンミムンナ~~~~ン。)  
そうではないよ。 みんな 本当に。  
(B ン ンダネ。) アー ン <sup>(106)</sup>テ ハ オショシスヨナ オヤ  
ああ そうだね！ ああ うんといつて 耻ずかしいような 親が  
オガシスタノダガラ モライトネード ワガネドモッテ。 (笑い)  
育てたのだから、 もうってくれる人がいすいと 困ると思って。

ヤーヤ、

いやほや。

A アンダホダ オドゴフラシス マダ ガツツリル システルスナ。  
あなた家の家では、 男の子どもが、 亦 ハカツリ しているね。

- C ンダ"ネデ" (A ~~~。) ニヌダ"ヨーダ"。  
 そうではないよ。 似たようなものだよ。
- B オドゴワラシス ヒトリルダッタエガ。  
 男の子どもは 一人だけだったろうか。
- C ンダ"モ。 (A ンダ"オ。) オラエ オドッツアンノ キョーダ"エ  
 そうだよ。 そうだよ。 私の家では 夫の 兄弟は  
 オナコ"ダ"ジズ イッペデガ"スペ。 (A ~~~~~。) イッペデ  
 女の子どもが 多いでしょう。 たくさんで。  
 オナゴー サイゴサ オナコ"ダ"オ ジュ-ニヌメサ  
 女の子どもの 最後に 女の子どもだもの。 十二人。  
 オドッツアン- トーチャンノ キョーダイ ジュ-ニヌメサ  
 夫の 兄弟 十二人の最後に  
 オナゴ<sup>(107)</sup>。 ソシステ コンドア オレノナ ゴニヌモ オドゴ<sup>(108)</sup>  
 女の子が生まれ、 そして 今度は 私の方でも 五人も 女を  
 ツズゲタ"ガラ ログニヌン オナコニヌ ナッテシス"マッタ。  
 続けたから 六人 女の子に なってしまった。  
 シス"テ サイゴサ オドゴ ヒトリルネー (B ン- ) ホニヌ  
 そして 最後に 男の子が 一人生まれた。 本当に  
イガッタヤー。  
 よかったよ。
- A カンズ- ホニヌ チャッケドギー アンマリル ジョーブナ  
 「和<sup>ニ</sup>は 本当に 小さい時は あまり 丈夫な  
 ヨ-ニヌ メネガッタ アンカ"イ (C イーマ ン- ジョーブナ  
 ように 見えなかったが、案外。 今 丈夫な  
 ンダガ インダガ) ツカ カツット ズシタノ ジョーブニヌナ  
 のだか どうだか) カツチリ して 丈夫になっ

一。 (C ナーッタ"ガ"。)  
たぬ。 どうだ"か。)

C オナゴワラシスノ ドゴデバリル オガシス タガラネ ンダガラ  
女めのの子どもの 中でだ"け 育てたので だ"から  
コレ ハ フニヤフニヤズー ワラシスニヌ ナルナードモッテ  
シの子どもは、瞬抜けの 子どもに なるなあと思つて  
バリル イダッタ ナニヌ ゴンケ ケッコー ゴンケハギダナ  
ト"け いた"ら、 なに、 気まま、 けっこう 気ままな性格だね。  
エサ クットユド。 (A ゴンケカダリル。) ンー。  
家に 帰つてくると。 気まま野郎。 うん

D ゴンケハギッテ ナンデスカ。  
「ゴンケハキ」というのは 何ですか。

C エッ。  
え？

A ゴンケカダリルダド。 ゴンケカダリル ゴンケハギノダノ。  
「ゴンケカタリ」だつて。「ゴンケカタリ」「ゴンケハキ」とか。

C ンダネー ゴンケ (笑い) ゴンケ。  
そうだね、「ゴンケ」 「ゴンケ」

B ~~~ ゴンケハグ ~~~ ゴンケ マ ズジョッパリルドモ  
~~~ 「ゴンケハク」 ~~~ 「ゴンケ」 まあ「強情張り」とも  
ツカウガ。

違うのかな？

C ゴンケカ ゴンケッテ キママツツー イミダネガナー。 (B ンー^ン
「ゴンケ」か、「ゴンケ」というのは、「気まま」という意味では正しいのか？ うん
キママダナー。) ンー イーデゴド ユッテルズー (A ~~~ (笑い))
気まだね。 うん、 言いたいことを言うといふことだ。

ゴンケカタ"リル。) ソンデモ ミンナー ョス マズ フツー
気まき野郎。) それでも、みんな ます、普通
セゲンノ ヒタズ ミルド ソレガ オドゴダラ ホントタッケオ
世間の 人たちから見ると、それが、男の子だから 本当の浮足と
ネ。 ソイズガ~~。
いうのだよ。 それが~~。

- A ンダ ゴンケカダル クレアグレアデネバ イズジネノダ。(笑い)
やうだ「気まきに、ふるまう」くらいでないと 意地がないのだよ。
- C ダガラ オナコバリルノ ドゴデ ヘント ヒトズモ ケサレダゴ
ダから、女姉妹の 中で 口答え 一つもされたんも
ドネー オナコバリル オガシス テダガラ コレ ソノヨーニス
ない 女の子もばかり 育てたから この子もも そのよろい
イジズモ ナニスモ ネーネ フニヤフニヤズ ワラシス
意地も 何も ない 13-11や, 13-11や17, 子ども1-
オドゴニス ナンデネーガドオモッタッケヤ ケー ソーデネ。
男の子1- するのではないかと 思って、17-17 そうではなかった。
A ナーニス ナガナガ タイシスタモンダ ン カラッ ペロット
す1-。 すかすか 大したものだ。 うん。 ほっかりと
システィ アイズ システルヨンダゲントモ ナガナガ キショッボ
して、あわは、しているようだが、 すかすか、しんの17-
110 ネ アルオ。~~~(笑い)
ソしたところがあるよ。~~~
- C ンダガラネ アノー ワラシス アノー ダイカグサ イッテア
ダからね、あのう、子どもが 大学に 行ってナ
ドギ アノー ナンボニスズガ タッテガラ ホラ アネダジズ
時、あの 何日か 経ってから ほら、姉たちほ

アノー ヴチーセーノデ オドゴワラシスダガラ ンート
(この子が) 小さい時から 男の子だから とても
メンケガッテアンダベジヤ。 (B ンー) (A ンダンダ) イーッテ
可愛いがっていなでしよう。 (うん) (そうだぞうだぞ) 行って
ミダレバネ チャーント カミムオガシステ ヘッタノガ
見だら ソイはーい 髪を伸ばして 大学に入、丁寧に
スポット マルボーズニス ナッテアッタド。 (A・B ンー)
すげーと 丸坊主に なっていなぞうだ。
ナニスシスタンダッテ ユッタレバネ ソシステ ボーシスコ
何故なのかと 聞いてみたところ、そして、帽子を
カブッテ キタッタ デハッテ キタンダド。 (A ンー) ナーニス
かぶって まだまま 出て来たぞうだ。 どうした
シスタンダベド オモッテ ソノ ボーシス トランセデ
のぞうと 思って その 帽子を 取らせて
ミダレバ マルボーズニス ナッテアッタド。 シスタンダケネ
みると 丸坊主に なっていなぞうだ。 そしたら、
カラテサ ヘッテ。 (B アダマ クサエッテ。) (A (笑い) ア ア
「空手」に入って、 頭が真いと言つて。) ああ、
カラテサ ヘッテ カラテシスティアンダ システィ ミーンナニス
空手部に入つて 空手をしていたんだよ、そして、みんなに
ネ アノ ワラシス カズヤン カラテズーゴド ネガベッテ。
あの 子どもが 和やんが 空手などといふのは 手いだろうと、言
カラテシスティネ チャーント コノアイダモ ミーダゲントモ
わかった。 空手をしては、ちゃんと ンの間も 見たけれども
ブツダン カタズゲットギ ミダッケアネー アノー ホラ
仏壇を 片付けていると 見だら ほら

ガッコー／ キョーイン グ^{xxx} アノー キョーイン／
学校の 教員 あの 教員の
メンキョショーシスカ アレド カラテ／ ショージョーダノネ
免許證ですが あれと 空手の 賞状 での
ソンナ／ ヘッテ。（笑い） ンー アレネ チューガッコー
そんなのが 入っていんだよ。 うん、 あの子⁽¹¹²⁾もが 中学校
ミズサー ミズコーサ イッテアドギネ アノー
水沢 水高 に 行っていた時、 あの
ジスミトモギンコーサ マリデダクテ センセーカ。 (アンン)
住友銀行に やりたくて 先生が。
ジステ マッタッケ ソノトーリル ビンボーデ ソタデダノダガ
そして やつたら、 その通り 食えて 育てたのだから
ラ ダイイチキボーワ オヤンツアンモ アノトーリル
第一希望は、 父親も あの通り
チュータイチヨーニ⁽¹¹³⁾ ナッテシス マッタガラ ダイイチキボー
中風に なってしまったから。 第一希望を
シューショグニ^ス ジスタッタ。 ジステネ ダイニ^スキボーワ
就職 に した。 そして、 第二希望は
ソノー シンカグッテ ユッタッテ ジスンカ^スグナド ムロン
進学と 言っても、 進学など もちろん
サジセルキ ネガッタノス。 ジステ ネーヤンダジスモ コゴサ
させる気は すかって。 そして 姉たちも ンンの学校に
アルイテダガラ オメモ コゴノガッコーダッテ ユッテアッタ。
通っていたのだから、 お前も 此処の学校だよと 言っていた。
ジスタッケ ダイガ^スグサ イガレネガラ ミムンダド イッショニ^ス
そしたら、 大学に 行かねば、 から みんなと ハッショイ

マダ ケッコー イードゴノ ダンテサンダジズノ
亦、 とても いい家の 旦那さんたちへ
ムスコダジズド トモダジズダッタガラネー イーズガ
息子たちと 友達 どういたかうね、 そのうちいつか
コノ ワラシャド コノ ワラシス ミンナド ワガレネバ
ンの 子どもたち、 ヌの 子どもは みんなと 別れなければ
ネンダベナード オモッテダッタノ。 ガッコーサモ イレラエネ
どうないどううすと 思っていた。 学校にも 入れられない
ガラ。 システッケネ ソノ シェンシェーモ ソノキニス
から。 そしたらね、 先生モ その気一
ナッテ スミトモギンコーサ ヤリダデクテ サンニヌン サギ
すって 住友銀行に やりたくて、 三人、 最初
ナニヌン キボーシャ アッタンダド。(P. 1) システ
セ人 希望者が あつたそうだ。 そして
ソレ エヌ アノー フガネクテ イッカイ オドサレデ アド
それが 成績がダメで 一回 落とされて、 後に
サンニヌンニヌ ナッタノ。 システッケ ソノ サンニヌンノ
三人に なった。 そしたら その 三人の
ウジズノ ソノ アド イッカイ フタヅルデ ムゴサ
うちの あと 一回(落とされて) 二人で むニラデ
サンカイ アノー メンセズガ。 アッテネ ンード サンカイメニ
三回 あの 面接が あつたね。 三回目に
イガネバ ネガッタノス。(P. 1) ソノ ミヌ フズガ
東京に 行かなければ どうもかったのです。 その ニ日か
ハンニヌズダベガナー ゼーンブ オヤガラネ オラ オレ
半日 どうかすあ、 全部、 親から、 私 私の

ジズッカノ ホーガラ オヤンツアンノ キョーデーガラ ミンナ
実家の ほうから、父親の 兄弟から みんな
シスラベデガラネ ムスメ ゴニスン アッタノニス
調べてから 娘が 五人 あつたのは
アネダジズ ウエノ ゴニスン アッタノス。 ソイズノネ
姉たちが 上に 五人 あつたのです。 その姉たちの
ダンナダジズノ キューソヨーガラ ナニスガラ イズシニジズハ
夫たちの 給料から すにから 一日半だか
ンダガ フツカ ソゴノ ウジズノ ゼーンブ シスラベラレダノ。
二日ぐら、 そこの 家の すべてを 調べられ丁度。
ソシステ トード ソイズバ トッテ ムゴーサ イガネ
そして、 とうとう、 その調査を 通過して 東京に 行かず
バネグナッタノス。 シスタッケ ホレア ツチーセノニス
ればならなくなつたのです。 そしたら、 ほら 可變いがって
システ ⁽¹¹⁵⁾ ソダデダン アノー オガシスタンダガラ ミムンナ
育つた。 大きくしたので みんな
メンケガッテ アネダジズ キテ ミズサワマデ オグッテッタ
可變いがって 姉たちが 来て 水沢まで 送つていつた
モンダオ。 (B ンー) ント イワヤド デットギガラ
ものだ。 それで 岩谷堂を 出発した時から
ドカドカッテアッタンダド。 システネ キシマノナ バス/
ハジトカトカしてい丁度。 そして バスの
ナガデ ネーヤンヨー オラー アノ コンナニシスシステ
ゆで 姉たちよ。 僕は しんすに して
オグライデ イッタッタッテ ハ ジズシスンネーゾッテ
送られて 行つても 自信は ないよ、 て

ソータッタオネ。ソンデモ トード イッタ。イッタトダンニス
言ッタソウだ。 それでも とうとう 行った。本社についたんは
ガダガダガダガダガダッテ ソノ ギンコーヤ ヘッタトダンニス
ガタガタと ふるえて、 銀行に 入ったんは
フルエダッタド ドガドガドガッテ。^{（^笑い）} ソーシス テ
ふるえてソウだ トカトカトカと。 そして
ヘッタッケネ ミーンナ ジスホーガラ キタンデガスペジヤ。
中に 入ってみたら、みんな 全国四方から 来たらしいのです。
ジスッタッケ ソノ ジスミトモギンコーデネ ヤキュースンノ
ソイたら その、 住友銀行では、 野球でする人が
ボジスガッタンタド。 ジス テ ^{（^笑い）} ナンネンカ マエニス
欲しかったソウだ。 そして 何年か 前に
ネ タワラガラ イッテンノガ ヒトリル ソノ ジスミトモギン
田原から 行っているのが 一人 住友銀行^{（116）}
コーヤネ ヤキューノ ヒト トレデアッタノ ンデ ソゴザ
野球選手が 振れていた。 それで 面接の場に
ヤラレダレバ ホガガラ キタヒトガ ミーンナ カダルノサ
やうれナラ、 オソから 来た人は みんな 話をする。
ジスズモンスンタッケド。 オラ ドッカドッカッテ テンニスモ
質問をするソウだ。 僕は トカトカとふるえて なんにも
チシギネ。 トーチャンガ ヨワグナッタガラ ジスンブンモ
知識がない。 父親が 弱くすつから 新聞も
テレビも ネガッタノス。 ナンニスモ アダゾルノ アノ
テレビも オカッタソレ。 なんにも、 いろいろの
キヨイグツツーゴド ゼーンゼン オヤジズデバ ソレゴン
教育といふこと、 まったく 父親といふと、 それこそ

バシャヒギダガラ アレッテルッタッテ ナニヌモ
馬車ひきびから、歩いていると言っても すんいも
キヨーアイグカンケイ シャカイノ ゴド ワガネンダ ナンタラ
教育関係 社会の ことは わからず、どうして
オンライン トーチャンバリル コンナニス ワケワガネンダベナ
うちの 父ばかり なんばに 知識がないんだろうな
ド オラ オモウゲントモ カンケデミレバ マッコ クジズノ
と 私は 思うけれども 考えてみると、馬 ロの
タダネモノド アゲグレ イッショダモノネ ワガネハズダモノ
わけない馬と 一日中 一緒にから わからずにはずだよね。
ね。 ソイズニスネ ホガノ オヤタジス スッカリシステ
それい。 オヤの 父親は しゃかりしていつ
イードゴサ ミンナ コドモダジス シューショグサセル
いいところに みんな 子どもたちを 就職させる
オラエノ トーチャンバリル ショーガッコー オワット
うちの 父親ばかり 小学校を 終わると
シスグニス カサレデ ジューネン ホーゴー オメ エサ
すぐいに 他人にあざけられて 十年、奉公、「あせたが 家に
キタドギニス エサ クルノ シャネガラ ジューネンモ
帰って来た時に 家に来るなどを 知らずから 十年も (他人の家) (一)
イダベジャ ナンテ ヒズッテ オレニス イワレデス 杏
居たジラヨ」 子どと 馬鹿にして、私は 言われて
ソシステ イタッタ。 サア コドモダジス ミンナ オカッテ
きて いつまに居た。 まあ 子どもたちが みんな 大きく育って
シューショグド ナッタッケネ。 ナンニスモ ドゴサモ アノー
就職と すっアラ すんいも どんいも

ツッテガネーガラ ワガシネガッタノ。 カンケデミレバ
つてが“さ”いので、ナジメダッたの。 考えてみると
オヤンジズバリル イジズメダッテ ワガネナー コドバノ
父親ほ“カリ”を いじめても ナジメサのナジサア、言葉の
デネモノド イッショニヌ アルケノダモ オベルヒマ
言えない馬と 一緒に 歩くのナジから 知識をおぼえる時間が
ネーベジャド オモッタゲントモス。 ソーシス テ イダッタ。
ナーナラうさあと 思つたけれどもね。 そして ハツナに居たの
テレビモ シスンブンモ ネーガラ ナーニヌモ イエネガッタド。
テレビモ 新聞も ないから、 なんにも 言えなかたナラナ
ヌモトモ シスミトモサ イッテ ソンデ ソゴ オジャンニヌ
住友に 行って それで そんが ナジメー
ナッタ。 フタヅルトモ ドレモ トレネデ。 ン
ナッタ。 受験した二人とも 採れなかつた。

A テレビド シスンブント イエバ ムガシス シスンブンナンツ/
テレビと 新聞と 言えば”昔は 新聞などと、うもの
トッテットゴ ホントニヌ スグネガッタベネ。
ほ 取つていろところほ 本当に 少なかつたナラウね。

B ネーガッタダベオ。
ナカッタナジラうよ。

A ンー ラジズオワ アンダダジズ ナ イツコロガラ。
うん、ラジオは あなた方は いつにラジオかうさの？

C ソシス テネ。
そしてね。

B オラネ シューセンコデガスト ラジズオ ヴーン。
俺はね、終戦後ですよ ラジオは。

C シューセンマエ アノ マツコカネー ソノ タイ ショーワログ
終戦前に 松子が その 昭和六
ネンウマレノ ワラシスガ ライネン モスカモ ジョガッコーサ
年生まれの 子どもが 来年 しかも 女学校に
イレデナード オモッタキオグ"アッカラ ワレ ヘンネガラネ
入れたいなあと 思った記憶があるので、自分が 入らないので
イモートド ムスメ ジョガッコーサ イレタ"キオグ" アッカラ
妹と 娘を 女学校に 入れた記憶があるので
ゴジョーンズズ タメデダノデ ラジオ カッタタオネ。 ソノ
五 錢 ずつ ためててたので ラジオを 買ったのだよ。 その
シューセンノ ドギネ ワガマツツァント オラエダ"ゲダッタモ。
終戦の 時に 若松さんと 私の嫁だけだったもの。

A ラジオ ホー。
ラジオか？ ほう。

C ン ソーシスッタッケ ホラ ワガマツツアンテ マズ
うん。 そうしたら ほう、 若松さんといふ家は、 まあ
コユード"ゴダガラ ムガシスカラノ ダーレモ オショシスガラ
シハ"う立派な家だから 首からへ 誰も 驚くかなくて
イガネンデガステ。 オラエサ ミーント アズバッテサ アノ
行かずかったんですよ。 私の家に、 みんな 集まって あの
シューセンノ アイズ キーダンダヨ。
終戦の あれを 聞いたのだよ。

A アイズ キーダノ ラジオデ。
あれを 聞いたの？ ラジオで。

C ゴーセンズズ タメデダノデ ラジオ カッタノネ
五 錢 ずつ ためててたので ラジオを 買ったんだよ。

ワラスタズサ キカセシデクテ。 シス タッケ オヤズジニヌ
子どもたちに 聞かせてたくて。 そけたら、 父親(夫)い
モッテネー ソナモノカッテ。(^A笑い) (笑い)
勿体ない そんなものを 買って。

A ホンニヌネー。 (^C ウーン)

ほんといいねえ。

B ラジオオズノワ シュ ホニヌ シューセンマデワ ホドントネ
ラジオ というのは、 本当に 終戦までは ほとんど
イードゴデネバ ホニヌ ネガッタベ アンダ アノ テレビ
いい家でないと 本当に すかたがうね、 あすた方、 あの、 テレビの
フキー ハエンダー。
普及は 早かたまね。

C ンダオネー。 ソシステ ヒルマワネ アノー ウダ ミンヨーナン
えうデジね。 そして、 昼は あの 歌、 民謡などを
カ キカセデサ。 シス テ タダミヤデ カセーデル ヒタズサマデ
聞かせて、 そして、 畠屋で 働いている 人たちにまで
キケルヨーナ アリヤ ナンダガ⁽¹⁷⁾ ツケデ ヨルワ ソノ
聞こえろように あれ あんじかを つけて 夜は
オナゴワラシス タジズ イモートド ソノ ワラシス タジズ
女の子どもたち、 妹と その 子どもたちが
ゴニヌンモ ログニヌンモ アッカラ ソイズラサ ベンキヨー
五人も 六人も 居たから、 その人たちに 魁強
サセンノネ。 ヨルダゲダッタモ オラエデ(^A ンー) ワラシス タ
イセるのだよ。 夜だけだったものね、 私の家で。 子どもたちは
ジズ ミンナ バシャノ テズダイニヌ アルグノダオ アサダン
みんな 馬車の 手伝いに 歩くのだよ、 朝や

ヨル オレモ サセライダガラ ケッキョグ フラシス タズモ
夜、 私も させられたから 結局 子どもたちも
ソ一 サセダンダネ ヨルダケ ベンキヨー。
そう(手伝いを)させたのだけね。 夜だけ 魁強だつた。

A ～～～ ショーワニジズーネンアタリマデワ ラジオモ
～～～ 昭和二十年 嘘 までは、 ラジオモ
メズラシスガッタンダナ。
珍らしかったのだけよ。

B ン ホンデ ～～ マズ メズラシスガッタベネ。 オラモ
うん、 それで ～～ まず 珍らしかったうね。 僕も
シーセンゴナンダオ ラジオナンテ イレダノ。
終戦後だけね。 ラジオなどと、 うものを 置いたのは。

C ハー シューセンメニス カッテネ ログネンウマレガ
はあ、 終戦前に 買ってね、 六年生までは
シヨーフツ ジョカッコーサ ヘットギ ヘルメニス カッテ
女学校に 入るときに 入る前に 買って
アレシス タッター ホントニス ビンボーグラシス
あれをいたね。 ほんとうに 貪る暮らし
セーリッペー。 イヤー
精一杯 ね。

B マ シスカダネンダナー。
まあ、 仕方ないねえ。

A ～～～。
～～～。

C ンダガラネー ホーニス オラー フラシスカラ オカルドギ/
だけね。 本当に 私は 子どもの時から 大きくなる時の

ゴド ミンナ ヨメコサ キテノ ズーットノゴド ホニヌ
ニト、みんな 嫁に 来アカラ ずっとのんと 本当に
ナンニヌガ コー カイデ ミデモンダナド モッタッテ
何か 書いて 見たいものだ"と 思っても
ソノトーリル ヒマモネーシヌサ カゼシガネバネスス。
ンの通り ひまもすい(働かなければならなかつた)ね。

A カグ^タ カグツモリルデ コー カダラエンヤ (笑い) カグミダネ
書くつもりで 話してもすいよ。
⁽¹¹⁸⁾
一ガラ。

C ヒマネーシヌネ。 ホントニヌ ホニヌ イマ カングレバ
ひまがすいしね。 ほんとい、本当に、今 考えてみると
ヒデガッタナーッツゴド ハ ソロソロ ワシェルヨーダネ。
大変だったまあといランとは、そろそろ 忘れるようだじね。

B モー ワセスタベジヤ ハ。 ~~~~ ワラズシタズ オーキグ
もう 忘れてはしよう。 ~~~~ 子どもたちほ 大きく
ナッタオナー。

すつた)ね。

A ワーシエラエネゴド アルサ ヴーン。
忘れるシトガ" できむいシトも あるよね、うん。

C ワセダネー イズー イズー イショ コシエデ コノ
忘れたね、 いつ、 いつ、 着物を 作って
ワラシャドサ キセダッタベド オモイヤスガ。 ダーレ
子どもたちに 着せただろうかと 思いますよ。 おじせ
キヨーダエ イッペダ イエバダモ キョーデー イッペナンダ
兄弟が たくさんだった。 言ってみれば 兄弟が たくさんなんだ

オナ ホントニヌ。

よ、 本当い。

A マサカツツアン ナンボデ ヨメゴ モラッタ ヨメコッテ
正勝さんは 何方で 嫁を 貰ったの? 嫁って
ヨメゴ モラッタノガ ムゴサ キタンダガ ドッテ。
嫁を もう、たんのか 翼に 来たのだか、どっちか。

B オレワ ニ ニジュー オレ ニジューシス。
俺は ニ十 俺は ニ十四。

A ハー ゾノドギ。 (B ンン ジエ コドモワ ニジューシスズ。)
ああ、 その時。 うん。 子どもは ニナセガの時
ン マダ ヘツカ ヘッテガラ ケッテキタド チガウガ。
うん まだ 兵隊から 帰って来た時と 違うか、

B ア ケッテキタ。 (A ア) ウン。 (C ンー ンー)
ああ 帰って きたよ。 うん。

A カラマズジニヌ イダドギガ。
川原町に 居た 時分?

B ンダオ ジステー ヒサオウ (20) ニジューシスズツノ コガ。
そうだよ、 うて、 久男は ニナセガの時の 子どもかな?

A ンダベネ。 (B ンン)
そうだろうね。

D ゾノコロ ケッコンシキト イマノ ケッコンシキトワ ズイブン
その頃の 結婚式と 今 の 結婚式とは ずいぶん
チカッテレンデスカ。
違っているのですか。

B ンー ヤッハリ。
うん やッハリ。

- C アンマリル チップワネンデネガスカ。
あんまり 違わないのいやないですか。
- A ヨースルニヌッシャ イマー ホラ ソヨーグルヤナンテデ
つまり、 今、 ほら 料理屋などで
ヤッケントモ ツノ アダリル エデ ヤッタンダオ。 (エデ
やるけども その 境は、 家で やったんだよ。 家で
シス タダゲデネ。) モジズツイデ カナラジズ モジズツイダオネ
(たなだけでね。) 餅をついて 必ず 餅をついたものは
ゴシスユギノ ドギ ハ。
御祝儀の 時はね。
- C エデ シス タダゲデ ツチガワネーネ。 (シ ン ン マズネ。)
家で たなだけで そのほかは 違わないね。 うん うん ますね。
- A マーズ ソンデモ。
ます それでも。
- D コノアタリ シキタリッテ ドンナ シキタリノ ケッコンシキ
シのあたリの しきたりといふのは、 どんよ しきたりの 結婚式を
ヤッタンデスカ。
やったんですか。
- A ヨメガ一 ハー。
嫁が はあ
- C マーズ ミアイナンツゴド ネース。
ます 見合いすと、 うんとは まーいね。
- A ミアイナンツゴドモ オヤ キメデ シス マウンダガラネ。
見合いすと、 うんとも、 親がさめて しまうのナシからね。
(ムガシスアネ。) アド サッキ イッタトーリルネ。
首はね。 その他は、 オオ言った通りいね。

- C ソシス^テ チョット アレナドゴ^{デア} ソノ^一 カドイレッテ⁽¹²¹⁾。
 もう ちよ^と ソ^はは^す家^{では} その「門入れ」と言^つて。
- A ア カドイレズ^{ゴド} ジ^スタ^ノ。
 ああ、「門入れ」という^んとお^{した}の？
- C ゴシュ^ギ ジ^スネウズ^{ニス}ネ イッカイ ハシタ キタンダ^オネ。
 御祝儀を(す)^いうち^い 一回^一 姉家^先に入^つてき^たん^だう^け。
- A カドイレタ^ド。
 「門入れ」だ^{って}。
- C オラ^ー ソンナゴ^ド ツカゲ⁽¹²²⁾ テエデコライダ^ゲントモ。
 私は そん^なと い^ますり 連れて来^うれただ^けねども^ね。
- A ブツツ^ツ ブツツ^ゲホンバンダ^{ッタ}。(笑^い)
 ブツツ^ゲ本番^だった^ね。
- C ソ^ーユ^ー ブツツ^ゲホンバンダ^ガ。
 そ^うい^う ブツツ^ゲ本番^だった^ね。
- B コンダ⁽¹²³⁾ ア^ノ フグミサ タワラガラ ヤッパ^モ モ モラウゴド^{ニス}
 今度^五の「福三」^い田原^{から} やっぱり 嫁^をモラ^うん^{とい}
 シ^スタ^ノデ^サ シ^ステ^ノ ヒサオ^ナ マズ^タノマレナ^ゴ
 いた^うの^でね。 もう、 は、 久男^は まず 賴^まれ仲人^{ドニス}
 オレ^{ニス} ヤルノダ^ゲントモ マズ^ヒサオ^オメア^{クジス}
 い^は 僕^が やるの^だけれども、「まず 久男^は お前^が 口^を
 カゲダ^ノダカラッテ^ンデ^ア ナンダ^ッケ^ンド^ネ ン^一
 かけた^のな^から」と言^つて それで なん^だけ^ええと^ね う^ー
 ナンダ^ッケ⁽¹²⁴⁾ アイズ^ワー テウジ^ズザ^ゲガ^アレ タデ^デネ
 なん^だけ^あは 「手打酒^を」^か あれを^しフ
 ン^デ オレ サギ^{ニス} ホント^アー ア^ノー オラ^テイリド^ガ
 それで 僕^が 先^い 本当に^い あの 僕^が 「出入^を」^とか^ー

ナンツノ イマ カダル アレ ⁽¹²⁵⁾ (A デイリソメダ。) ン。
なんといふ、今 言っている、あれば、「出入り初め」だ。 うん。
デイリソメネ アレ ヤラネウジズニス オレ マダ アノー¹
「出入り初め」ね、あれを やうやく、うちー、俺は まだ、あの
ナンズダーリ アリヤ アノー ナンダ アイズ ナンツモンダッケ
なんと言、たゞうか、あれば、 あれば なんといふものだ。
アノー シード ナニスガ タデル。
あの、ええと それに、用意するもの。

C カドイレ。

「門入れ」?

B ~~カ~~ カドイレダネグ アリヤ。 ^(C サゲタデ。) ^{(A サコザケ}
「門入れ」ではなく、あれば、「酒たて」? ⁽¹²⁶⁾ 「小酒」
~~コザケ コザゲ コザケッコ~~ ^{コザゲタデダガラ} ソノアド
「小酒」「小酒」「小酒」? 小酒立てだから そのあと
デイリソメシスネデル ウジズニス アリヤ アノ ホラ アノ
「出入り初め」を (ないで)いるうちに あの ほら
アリヤ ナンダッタ アリヤ アノ ナンダガ アレ ヤッタリル
なんと言、たゞナ ¹ あの それに やつたり
トッタリルスルモノヨ。 ^(C ユイノー) ユイノー。
取つたりするものよ。 ^(「結納」?) 「結納」。

A ユイノー ハ ムガシスカラ ユイノーダ。

「結納」は 昔から 「結納」だ。

B ~~ユイ~~ ユイノー ユイノー サギ ヤッテカラ デリソメダド
「結納」、「結納」を 先に やつてから 「出入り初め」だ¹と
オモッタレバ デソソメヤッテデガラ アド ソノママ イーバ
思つていたら、「出入り初め」を やつてから、そのあと、そのまゝ良ければ

モラウノデ デイソソメワ サギ サシセエデデ イッテ
貰うので 「出入り初め」は 先に させていて 行って
トマッタリル キタリル スンノナンダモナ。(ホー。) デ
泊マタリ 来タリ するのだけものは。 ほう。それで
イマ ャッテルンダ デイソソメ。 ャッテネ ヨメコダ
今 やつていろのデジよ。 「出入り初め」を。 やつていろのデジ。 嫁御は。
イッテトマリサ イッテ トマッタリル アド。
行って 泊マタリ 行って 泊マタリ、 それから。

- C ムガシスフーダネ。 イマワ。 (B ンー) ンー ャッパリルネ。
昔 風だね。 今は やつぱりね。
- B ソシステ アレドッカラ イワレダンダヨ。 ジャー フグミクン
ケラ(タラ ある所から 言われたのデジよ。 やあ 福三君
ソイテ ディルソメサシェダノ サシェデ ナジョナゴドニ^ヌ
そのようす 「出入り初め」をさせて どんざことじ
システィアンス ダガラ オレ 丁ンダー コレ丁ノダッケ
するつもりですか。 デジから 僕は、 ない。 これがのデジよと
ツタノサ。 アノー マズー マルヤサー バンサ キテ
言ったのです。 まず 「まるや」に おばあさんが 来て
ソシスティ ナニ^ヌノ ヒ^ヌ システィ ディルソメ ナニ^ヌ
シテ 「出入り初め」を
シスタンダスケ。 ソシテネ イッテ トマッタリル シスタリル
(たんじとうだ)。 そしては、 行って 泊マタリ (タリ)
システィサ シスタバ アルヒトガラ ムガシスー ソノ
して、 そうしたら、 ある人から 昔は
ディルソメズノ サギ ャッテネー ソシスティ ナンボグ^ヌレ
「出入り初め」といふのは、 先に やつて そいで どれくら

ツトメル ヨメゴダガ ナンダガ ソイズミムデ。

トトカリヤリ 嫁ガカ デウガカを 見て。

A ンン オドッツアン オガサンナ。

うん、 父親と 母親がね。

B スッタネ オガサンミデ ソシステ アドア オガ オドッツアン
すると、 母親が見て そして そのあと 父親

オガサン モ モゴ ハ モジズロン イガベドモ ソシステ
母親 翁 は もちろん ハイデラうが そして

オイデモ オンツアマダノ オバサマ キテ ナニス
(翁の家) 置いていると、 おじさんや、 おばさんが来て、 なに

アンタノモ モラッタラ アド クロースンダッテ
あんち嫁を もうたら 後々 苦労するだらうと

ソイグナレンタド。 ンダネバ デイソルソメ サセルングラバ
そういうふうにするのだ、 と言われた。 だから「出入り初め」をさせるのならば
ハヤグ ハ アノー カレオ アソヤ アノ (A ユイノーガ)
早く あの 結納か?

ン チャント ハ ケッコントドゲシステ (A ン ユイノー
確実に 結婚届けをして うん、 結納

システ) ギッヅチソルシステ シスマネバ アト ハンザズニス
ト (トトカリ) ト (トトカリ) ほわすいと あとで 面倒すント
ナンダゾナンテ ユウ ムムユー ヒト アッタンダッケガネ。
するのデヨナビン 言う 人が あッナンデヨ。

A ナニス ソンデモ イマー ムガシスダレバシャ オドッツアン
すあい トモデモ 今、 昔 トモラボ 父親
ダノ オガサンダノ ソノー シスンセギノ ホー サギニス
とか 母親とか 親類の トモラボ 先に

キメンダ。イーマ ホンニヌンドーシスダオネ (B ン一 デモ
さめたものだ。今は 本人同士だからね。 うん でも
アノトーリル フグミタガラネ。) ホンニヌンドーシスノホア
あの通り 福ミタガラね。 本人同士 のほうが
ユーシエンシス テ キメラシェライツカラ。
優先して すめるんとになつていろからね。

B ンデ ャッパ ムガシスドーリルナンデネン デイリソメ シタリ。
でも やっぱり 昔通りなのだよ。 「出入り初め」を いたり。

A ンダ ホレ キメルヒトガ ホンニヌン。 ムガシスミデニス
そうだ。 それ、 すめる人が 本人なのだ。 昔のようにな
オヤズ オホ アノ一。
父親や母親、 あのね。

B デイソソメモ カドイレモ オンナジズガ。
「出入り初め」も 「門入れ」も 同じだのか？

C ソンダ"ネ ソダ"ベネ。
そうだね、 それでしよう。

A カドイレモ デイソソメ (B ン ン オナジズ) オンナジズダ。
「門入れ」も 「出入り初め」も ん、 同じだね 同じだ。

カドイレスノア カドイレ デイソソメ ドツツチ
「門入れ」というのは、「門入れ」「出入り初め」どちらを
カダツテダンダ ムガシス ソヨーホー カダツテラガナー。
言つていたのだろう、 昔、 両方 言つていたのかなあ。

ソンダ"ガモシエネナー。 (B ンダベナー。) (C オナジスゴドダ。)
そうだも いれそいす。 そうだろうね。 同じことだよ。

トニヌカグ オド ムガシスア一 オ リヨ オヤズダ/
トニカク 昔は 父親や

オフグロカ オモトノデ イマワ ホンニヌンドーシスカ。
母親が 主だったのが 今は 本人 同士が
オモトノデ タダ ソゴカ。チックダケダネ。 (B ンー
主なので、只 やんが 違うだけだね。 うん。
ンダベネー) アドア ゴシュキノー ンー ゴドナンツノモー^{うだうね} そのほか 御祝儀の ンとまだといふのは
ハ一 ムガシス ゴシュキノ バン モゴモー ヨー^一
昔は 御祝儀の 夜は 算は 用が
ネガッタンダオネ。 (B ンー ナニスー。) オメナド ソッチ
すかんんだよ。 うん、 がんば。 お前まだ もちに
イッテロデ ハ。
行、ていなさい。といふことで。

注記

- (1) 話者への祖母。
- (2) 魚・握り飯などを焼く時に使う金網。
- (3) 三種類の穀物。どれどれを指すかははっきりしない。
- (4) 朴の木の葉。広く大きな葉。握り飯を包むのに使う。
- (5) 背中に背負い、下風呂敷包を、胸のところで結ぶこと。
- (6) 「お振舞い」結婚披露宴など祝い事。
- (7) 「食わせられ」
- (8) 割り当てられた仕事の量。
- (9) 田圃にまく肥料の一種。大正時代から昭和10年頃にかけて、満州から輸入したもので、大豆のいぼりか可を固めて乾燥させたもの。60センチ、80センチぐらの長方形で、かなり重い。
- (10) 機械語。標準語で適当に訳可語がない。体にかかりこたえるよう体重をもち、しかも密度のある容量のものについていう。
- (11) 同上。
- (12) 春に田圃を掘り返すこと。田面をかき下ろして平らにすること。
- (13) 肥料店の店名。
- (14) 同上。
- (15) まるい玉にして重ねたもの。
- (16) 機械語。へんんでいる状態。
- (17) 「居るけれどもね」
- (18) 「鬼ジッコ」の遊びに似た遊び。
- (19) 「お手玉」の方言。
- (20) 人形遊び。厚紙などで作った人形に、色紙の着物を着せたり、ぬがせたりして遊ぶ。
- (21) めんこ遊び。
- (22) 蜂の巣を焼いたこと。
- (23) 家の両側面にあむ切妻屋根の端の山形としたところ。煙出し。
- (24) 巣を作るなどを「巣をくう」と言う。
- (25) 「ケッケナゲ」と「イシコハジキ」とは、別だという人と同じだとい

う人があつて。

- (26) 遊びの説明。
- (27) 遊びの一種。
- (28) 「じやんけん」の別の言い方を思い出そうとしている。
- (29) 開
- (30) 前後の意味があまり通じない。
- (31) 担当研究員に対する問い合わせ。
- (32) 擬態語。無理やりい。
- (33) 目を指す。
- (34) 「餅を下さいこんこ」という意味のとがえ文句。
- (35) 相手に対する呼びかけのことば。
- (36) 手で示している。
- (37) 髪の結い方の一つ。
- (38) 手で形を示す。
- (39) 「挑戦」を指す。
- (40) 女の子たちの髪の結い方に、注目していたことを言おうとした。
- (41) 「夫」を指す。
- (42) 「くすん落ちる状態をあらわす擬態語。
- (43) 「から」「けれども」の二つの接続助詞がつづいた表現。
- (44) 「うれそい」の約形。「出来ない」の意味。ただ、その直前から意味がはつきりしない。
- (45) ことばを続けようとして、そこで途切れる。
- (46) 同上。
- (47) 單隊で、自分の所属していた一分隊。
- (48) 量の非常に多いことの擬態語。
- (49) 「切れて」か「布で」かはつきりしない。前後の意味から「切れて」と「ておく」。
- (50) 地名。
- (51) 「タコズグ」の連用形。「つかまっていく」の意味。
- (52) くじ引き。

- (53) 「つばいもも」。桃の一品種。古くから東北・北陸などで栽培。果実は桃よりやや小さく、外面に毛なく、紅熟して光沢を有する。
(『広辞苑』)
- (54) 「ぐみ」。木に生る小さい赤い実の植物。
- (55) 木の実の一種。
- (56) 御飯を流し込む状態を示す擬態語。
- (57) 「そのようにして子ども時代を過じたんだよ」という意味のことを言いかけて、途切れる。
- (58) 意味が理解できない。
- (59) この部分、目の前を飛んでいた蝶を言っている。
- (60) 甲虫とは別種の虫。
- (61) これが甲虫。
- (62) 山の名。たゞ、当てる漢字があまりは、ナリしむういい。「ジ
ラジロ山」とも言う。
- (63) 「丹後塚」。会話ではタンモズカと言っている。間違って覚えてい
たらしい。
- (64) 間違、た言い方。
- (65) 娘の名前。
- (66) 来客の声。
- (67) 来客に対することば。
- (68) 来客のことば。
- (69) 来客に対することば。
- (70) 来客に対することば。
- (71) 来客に対することば。
- (72) 「リャグシテ」(略して)とも聞きとれる。
- (73) 旅館の人のことば。
- (74) 同上。
- (75) 同上。
- (76) 「地獄弁」。
- (77) 「集まる」の意。

- (78) 気取、下東京弁。
- (79) 同上。
- (80) 話が途切れている。
- (81) 「糞」の意味。
- (82) ツリ返し。
- (83) 意味不明。
- (84) 方言的な表現のつもりだが、実際は方言にはなっていない。
- (85) 「むしろ」や「わら」で方形に作、た袋。
- (86) 「値」
- (87) 靴全体がゴム製の短靴。靴先が丸いので、この名称があるのかも
わざい。
- (88) 「ゆづけ」と言う。雪の上を歩く時に穿くやう靴。
- (89) 町の実力者「依田栄二郎さん」の経営している店の屋号。
- (90) 「たける」。身につけること。
- (91) 「肥やし上げ」というのは、便所から人糞を桶に入れ、田畠に撒き
散らすこと。
- (92) 人名。
- (93) (94) いずれも地名。
- (95) 地名。
- (96) 「菊正」というところを「マルシヨー」と言い間違えている。
- (97) 店の屋号。
- (98) 「返答」。相手の言葉に文句をつけたり口答えをすること。
- (99) 「舅お父さん」。ここでは「姑親」つまり夫の親を指す。「うとめ」
のこと。
- (100) 話す人の夫の名前。
- (101) 「舍弟」。「弟」のことだが、話者の弟である。
- (102) 古くからのお土産品。
- (103) 「七やかましくないこと」。「いろいろうらさいこと」。
- (104) 録音を何度もきき返しても「カコッコヨメコ」と聞こえたが、あとで
話者に確かめたら、「カオッコヨメコ」のよし、つまり、「顔の美しい

ことでもうわれて「嫁」の意味。

(105) 運送業。

(106) 話があつたところに、そのままやってしまうこと。

(107) Cの話のこの部分は、話されたことばだけでは正確に意味をつかみとれぬ。内容は次のようすこと。夫の兄弟に女(の子ども)が多い。十二人の兄弟の最後が女だ、だ。

(108) 「オトコ」と言っているが、「オンナ」の言い間違い。夫の兄弟の最後に女が生まれ、それにつづけて話者の子どもが五人とも女だ、だ。
そこで、この家では六人つづけて女の子どもと言うことになった。
そして最後によく男の子が生まれた。

(109) 「カズ」とか「カズヤン」とか呼んでいる。話題の息子の呼名。だ。
正式の名前は不明。

(110) 「気性骨」

(111) Bは「空手」の意味がわからずか、だらしい。

(112) 水沢高等学校。

(113) 「中隊長」、「中風」のこと。

(114) 東京の本社だ。

(115) 「小さいのにして」。いつまでも小さい子どもとして。

(116) 「そこに」の意味。

(117) 「なんだか」。扩声器のことか。

(118) 意味不明。

(119) 川原町。岩谷堂の町名の一つ。

(120) Bの息子。

(121) 「門入れ」。結婚式を後でする」として、実質上の結婚をするなど。

(122) だしあせに。いきなりだ。

(123) 「福三」。名前。

(124) 「手打酒」。嫁、智双方の家の親たちがそろって、酒をくみかわすこと。また、その酒。

(125) 「出入り初め」。あとで説明があるように、「門入れ」と同じ。

(126) 「小酒立て」。結納の取り交わしをして、正式に婚約すること。

II. 宮城県 わたけん亘理郡 わたりぐん亘理町 わたりまち荒浜

収録・文字化担当者 加藤 正信

A 収録地点とその方言について

1 地点名 宮城県亘理郡亘理町荒浜

2 収録地点の概観

位置——宮城県東南部

交通——仙台から東北本線・常磐線で約40分、亘理駅下車、バスで東へ約3km、10分の終点。

地勢——阿武隈川の河口の南側に位置し、東は太平洋、北は阿武隈川をへだてて岩沼市・仙台圏に対し、西は亘理町中心部とその西の標高100～200mの阿武隈丘陵の最北端が横たわり、南は沼・潟および海岸小平野が福島県境へと続いている。県下一温暖な地域。

行政区画——この地方は古代陸奥の国から石城国に分割され、中世は亘理氏の支配、近世は伊達氏の支配下となる。亘理に伊達の分城が置かれ、荒浜はその亘理伊達氏の知行地であった。

明治22年に、北隣の高須加部落とともに荒浜村となり、昭和18年に荒浜町となる。昭和30年に荒浜町(人口5454人)、亘理町(人口2014人)、逢隈村(人口5143人)、吉田村(人口4014人)とが合併して、亘理町となる。

戸数・人口——昭和54年9月1日で、戸数6262戸、人口27864人。年々増加の傾向にある。

主な産業——近世、阿武隈川の河口港として、内陸の福島方面、海を通じて遠国との廻船で栄えた。現在は半漁、半農、南にある潟、鳥ノ海におけるカキ、ノリの養殖がなされている。

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

宮城県の方言は、東北方言の中でも、山形県内陸部や福島県と同じく南奥羽方言に属するとされており、全県下、旧伊達藩

領のため、県内の方言差はあまりないとされている。しかし、県北のアクセントのある方言と、仙台および県南のアクセントのない方言とに大きく分けることができる。さらに、県南でも、福島県境方面には単語などある程度、福島方言が侵入している。収録地方の方言は、その県南方言のうち、県境ほど著しくはないが、若干、福島的な現象もある。しかし、大きくは県南の代表的な方言であり、仙台方言などと似た性格を持っている。

② 音韻上の特色

- ① 「イ」と「エ」を区別せず、「息」と「駅」、「鯉」と「声」を同じに発音する。実現される音声は、東京語の「イ」と「エ」の中間的なものより、やや「エ」に近い[e][ē]であるが、これはこの方言のエ段音一般と同じであるので、この方言は「イ」を欠くことになる。
- ② 子音と結びついたイ段音とエ段音とは各行にわたって区別があるものの、イ段音は中舌の[ī]、エ段音は上述のようにせまい[ē][ē̄]で音声的には近い。
- ③ 「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」の区別をせず、「梨」と「茄子」、「知事」と「地図」、「乳」と「土」などを同じに発音する。実現される音声は、東京の「シ」と「ス」の中間より「ス」に近い中舌母音を持つ[sǖ][dzǖ][tsǖ]などである。これらは、体系上「ス」「ズ」「ツ」ということになる。
- ④ 上記以外の行のイ段音ヒウ段音はそれぞれ中舌の[ī]、中舌の[ǖ]で音声的にはかなり近いが、一応区別はされている。
- ⑤ 「シュ」「ジュ」「チュ」にあたるものが長音、短音とも、ほとんどの「ス」「ズ」「ツ」に発音される。「手術」[sǖ~dzǖdzǖ]など。
- ⑥ ア段音に母音単独音節のエが連なる連母音「アエ」(東京語の「アイ」「アエ」にあたる)は規則的に広い「エー」[ɛ̄̄]になっており、本来の「エー」[ē̄]と区別される。たとえば、蠅[hē̄] (媒) [hē̄]と区別される)。これは各行にわたって見られる。この方言には[ɛ̄, ī, ū, ē, ō]のほかにこのような[ɛ̄]もあるので、6

個の母音を持つことになる。

- (7) 「ユ」の音が摩擦で発音され[θ]となる。たとえば、「言う」[θü:],'あ湯'[oθü]。この音は、「凶」など本来の「ズ」の音[dzü]と区別される。「ヨ」「エ」についても、まれに、あるいはかすかにこの摩擦の聞かされることがある。
- (8) 語頭以外のカ行音・タ行音は、原則として、有声化し、「竹」は[tage]、「的」は[mado]となる。これは若い世代でも盛んである。ただし、無声母音に接する場合、促音、撥音の直後では有声化しないのが普通である。
- (9) 語頭以外のが行音は鼻音である。したがって、上記のカ行の有声化音とは区別される。
- (10) 語頭以外のダ行音・ザ行音・バ行音は、直前に軽い鼻音を伴って、たとえば、「窓」[ma~do]、「ひざ」[çü~dza]、「壁」[ka~be]のようになることがしばしばある。これによって、ダ行音は上記(8)のタ行音の有声化したものと区別される。ただし、この軽い鼻音を伴う現象は老人のみ、しかもまったく規則的というわけではなく、この録音においても時々しか現われていない。
- (11) 逆に、語によっては「あずける」を「アツケル」、「首」を「クンピタ」というように鼻音プラス無声音となる傾向へもある。
- (12) 「セ」「ゼ」は口蓋化して[ʃe][çe],[dʒe]と発音される。
- (13) 「ヰ」「ヰ」は口蓋化して「チ」「ジ」に近い[çü][çü], [tü]のように発音されるが、本来の「チ」は「ツ」、「ジ」は「ズ」と発音されるので、混乱は生じない。
- (14) 「シ」にラ行音を接する場合、促音的に[ʃʃ]が現われる。たとえば「白い」[ʃʃoe]、「知らない」[ʃʃane]など。
- (15) アクセント
「箸」と「橋」などを区別することのない、無アクセント方言である。その時の感情や言いまわしで、語にその場かぎりの高低のつく場合もあるが、一般には平らかやや尻上がりのイントネーションである。

⑤文法上の特色

- (1) 動詞の活用に関係するものとして、ラ行五段や一段動詞に「カラ」「ケンドモ」「ベー」「トキ」などが接続すると、「降ッカラ」「降ッケンドモ」「降ッペ」「隣ットキ」のように促音便となる。ほか個別的には「歩く」が「歩ッタ」、「行く」が「エンカラ」などとなる。
- (2) 推量、意志ともに「ベー」を使う。「ベー」が音便で「ペ」となる場合は前述の通りである。
- (3) 過去、完了だけでなく、現在の強調、存在の確認などに「タ」を使う。たとえば「居タカ」(居ますか)。
- (4) 過去の回想、大過去に「タッタ」を用いる。
- (5) 目的格を示す格助詞「を」にあたるものは使わず無助詞である。この位置に「本バ読む」のような「バ」が現われることもあるが、これは格助詞というより、むしろ強調の係助詞と思われる。
- (6) 主格を示す場合も比較的無助詞が多い。内省による文法調査では「カ」「ワ」「ア」などが得られるが、録音を勘察すると、主格の無助詞傾向も大変強いことに気づかれる。
- (7) 方向を示す助詞に「サ」があり、共通語の「へ」のほか「に」の一部(「東京に」など帰着点、「机の上に」など存在場所、「遊びに」など目的)に使われている。
- (8) 敬語はあまり発達していない、特に文中の主語になっている第三者への尊敬表現はほとんど使われていない。
- (9) 命令や勧誘をていねいに表現する「読マイン」「読マッセ」は比較的多く使われる。ただし、後者は福島方面からの影響か。
- (10) ていねい表現は「行キス」「読ミス」のように連用形プラス「ス」が用いられている。
- (11) 間投助詞には「ナ」「ナレ」「サ」「シャ」「ネレ」などがある、この順にていねいの度合が強くなって行くようである。「シャ」の発音は「シャ」と「ヒヤ」の中間音[χ̪]である。

(12) 終助詞のうち「ッチャ」が目立つ。これは「よ」「のはずだ」「じゃないか」などのニュアンスを持つ。これに推量・当然の「べー」のついた「ベッチャ」も使われている。

4 地点選定の理由

- ① 仙台市は都会で方言の残存度が少ないので、その郊外の当地を選んだ。仙台の北はアクセント、イントネーションが仙台と異なるので、南側の郊外を選んだ。
- ② この町は、担当者が昔居住し、また非常勤として高校に勤務したこともあり、仙台市以外では最も土地の様子を知っていた。
- ③ 50年、51年に仙台市の西側で加藤が収録した会話は、録音・話題ともよいものではなかったので、のち、ここに変更した。ここは、熱心で綿密な現地の世話係（教育委員会の木村氏）が得られて成功した。

5 作業分担

ここに収録したものは、協力者佐藤和之が録音作業を行い、文字化・注は担当者の加藤正信が行った。なお、文字化したもののは原稿を、後日、加藤が録音を再生しながら全部話者に点検、確認を乞い修正した。また、佐藤も録音ヒ文字化原稿を照合し意見を述べた。

B 表記について

音韻記号としてではなく、発音式のカタカナを用いている。特殊なものについては、次に箇条書きで示す。()内は、A3 ②「音韻上の特色」にしるした事象の項目である。

- ① 「イ」と「エ」、「シ」と「ス」「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」などの音声は中間的であるが、一応、「エ」「ス」「ズ」「ツ」などに統一した。ただし、特にはっきりした、きれいな「イ」「シ」「ジ」「チ」が聞かれる場合はそのまま表記した。(1)(3)
- ② 広い[ε:]は「ケアー」「テアーハ」とし、「ケー」「テー」などと区別して

示した。(6)

- ③ 「ユ」などの摩擦の強いものは「ズ」と表記した。そして「注」でその旨音声記号などで示した場合もあるが、多くは下の共通語記の単語との対比で見当をつけることになる。(7)
- ④ 語頭以外の無声子音の有声化は、録音で聞きとれればカナに濁点を施したが、程度の判定に問題も残る。中ば有声化した程度のものは原則として濁点をつけていす、また、特別な記号を用いていない。(8)
- ⑤ ガ行の鼻音は「ガ」「ギ」「グ」のように表記した。
- ⑥ 本末の濁音の直前に現われる軽い鼻音は「ヒンザ」のように「ン」を小書きにして示した。ただし、判定に迷う軽微なものが多く、また頻度も少ない。(10)(11)
- ⑦ 「セ」「ゼ」の口蓋化音は「シェ」「ジエ」と表記した。ただし、特に、「ヒエ」のように聞こえた場合のみそのように表記した。(12)
- ⑧ 「キ」「ギ」の口蓋化は多少目立っても「キ」「ギ」で表記した。ただし、特に「チ」「ジ」に大変近い場合のみ、そのように表記した。(13)
- ⑨ 語頭の[SS]は「ツシ」と表記した。(14)
- ⑩ 母音の無声化はときどき聞かれるが、特に印をつけていない。
- ⑪ アクセント、イントネーションの記号はつけていない。(15)

C 収録内容の概説

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 タイトル | 1.「電話交換嬢とのデート」～ 8.「アイスキャンデーとお婆さん」 |
| 2 録音年月日 | 昭和54年12月20日 |
| 3 録音場所 | 宮城県亘理郡亘理町亘理 中央公民館 |
| 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・居住歴・言語的特徴など | 内海春吉（男）大正8年3月28日生まれ
荒浜生まれ、荒浜育ち。荒浜尋常高等小学校卒業後、半漁・半農のかたわら農協その他にも勤務していたこともあった。戦時中2年ほど関東方面へ徴用に行っていた |

ほかは荒浜だけに居住。方言を多く保有し、しかも話がはっきりしており、話題も面白い。

本郷しげ（女）大正7年9月20日生まれ

荒浜生まれ、荒浜育ち。荒浜尋常高等小学校卒業後、電話交換手をつとめ、荒浜町間に嫁す。他に居住したことはない。夫は郵便局勤務。声に張りがあり話し方が生き生きしている。方言は普通程度持っている。

木村精一（男）大正7年10月6日生まれ

荒浜生まれ。荒浜尋常高等小学校を卒業後、宮城師範（仙台）を経、主として亘理郡内の小学校に教員として勤務。仙台圏に数年勤務していたときを含めて大部分荒浜の自宅から通勤。現在教育委員会に勤務。方言保存は、他の2人よりやや少ないし、話しぶりはやや沈んだ調子。話し手としてより、むしろ紹介者、世話役として協力してもらった。

5 録音環境

① 同席者

各話題とも、常時上記3名の話者と、収録者佐藤和之。話者うち木村氏は最後の2つの話題以外は録音中ほとんど発言せずに同席。

- ② 話者3名は小学校時代の同級生で、気のあけない同士なので、大変スムーズに自然に話がはずんだ。特別な話題や話の流れを決めず、ある程度自然に話せた。同級生が寄り集まつたせいか、話題は昔の思い出話が多くなった。
- ③ 外部ヒヘだてられた新築の公民館の和室で録音し、各自タイピングマイクを使用したステレオ録音。録音状況は良好。
- ④ 録音時間は連続1時間。

1 電話交換嬢とのデート

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

A アー オラー エロケ デガゲダ コロダオンナー
あれが 色気 出かかった頃のことだよな。
B アエズ ハズカズガラ ハズマッタンダオンナ ⁽¹⁾(A ソー) オラ
あれは 八月から 始まったもんだもんな。 わたしは
(A シ) スズカズニ コーシュ- ジョサ ヤラッテサ (A ソー)
七月に 講習所へ やられてさ。
エッカケズガソツー)ー コーシュ- ヤラシェラッテ (A ソー ソー)
一ヶ月間というものを 講習を (受け)させられて
ソーシテ ホソニ スボラッタモンダッタ エッカケズガソツノ
そして ほんとに しほられたもんだった 一ヶ月間というものの。
A ンダゲットモ スボラッタカモ スンネアゲットモヤー アラマサ
だけど しほられたかも 知らないけれどもね 荒浜に
デンワ ハズメデナンダオン (B フン) ホンドギ アノー
電話 初めてなんだもの。 その時
オメアーラ アレー ハガマ ハエデ アルグドギ オラ ホソニ
お前たち(が) 褒(を) はいで 歩く時 あれは ほんとに
ウッショガラ ミテ ホソニ ホレタ モンダッタナー
後から 見て ほんとに 懈れた ものだったな。

B (笑) マダ コレー ホンニ
また これ ほんとに。

A ホステ マダ ホンニ デンワ カケツード ホンニ アノ
そして また 電話 かけるというと ほんとに
コエ ナンツーが⁽³⁾ ワヒエランニエガッタ モンダドヤ シニ
声(が) 何というか 忘れられなかつた ものだつたよ。

B エマ スワクチャババニ ナッテ ワカンネアワナ
今 しわくちゃ婆に なつて だめだね。

A オダケニアニ コレナ (B ソー) ホンデモ
お互いに これね それでも。

B デモ ⁽⁴⁾ ハルサン カワシネアノー
でも 春さん 変わらないね。

A オメアラ ホンデモ- ナンダ (B シ) コエ エーガラ ハリ
お前たち それでも なんだ 声(が) いいから (声に)張り(が)
アッカラ エーケンドモヤ (B ソー) アノー トニズ マダ
あるから いいけれどもね。 当時 まだ
デンワバンゴー ナー アノー オラ ソー セリバ
電話番号(についてはね) あれは 魚市場に
⁽⁵⁾ エタンダエットモ ヨンバンダナンテ アンツケラッテナー
いたんだけれども 四番だなんて(縁起の悪い番号を) あづけられてね。
(B ソー) ステ アドー アレー ヨンズークバンツノ アノ クス
そして 四十九番というの 薬
リヤデ トッタンダエナ デンワバンゴー ネ (B ソー) ソエズ
屋で 取ったんだよな 電話番号 それ
ホガデ ヨン ^{XXXXXX} ヨンズークバンツノ スンジュー クロー スル
ほかで 四十九番というの 始終 苦労 する

スンジュー クロー スルッテ ダレモ トンネガッタ モン
始終 苦勞 するといって 誰も 取らなかつた もん
ダエ (B ソー) ホースタッケ アレ クスリヤノ オヤンズ
だよ。 そうしたら 薬屋の 親父が
オレ トルレッツテ ナンダツツタランバ ⁽⁶⁾ ヨク ナオルレッテ
あれば 取るといつて (いた)。どうしてだと質問したら よく 治るって
エツバン エーンダガラツッテ (B 笑) アノ ホノ バンゴー トッ
一 番 いいんだからって その 番号を 取
タモンダッタドヤ (B ソー) オラ アエズー キーテーテ ナルホンドト
たもんだったよ あれ それを 聞いていて なるほどビヒ
(笑) オモッタッタ ⁽⁷⁾ コド アッタッタナー (B ソー) ソー
思った こヒ あつたっけな。

B ヨーグ コノ ハルサンモ ⁽⁸⁾ ヨレサエ ナツツート テンワ
よく 春さんも 夜に なるヒュヒ 電話を
カゲデ ヨゴスタモンダッタ トマリデナー
かけて よこしたものだった 泊りでね。

A ンダー オラ マエニズ トマッテダガラ (B ホンニ) ソー
そうだ あれば 毎日 泊まつたから
マエバン トマッテダガラ (B アノー) ホエデモ テンワ
毎晚 泊まつたから それも 電話を
カゲデアクテ トマッテタンダモン
かけたくて 泊まついたのだもの。

B アー ンダノ (A ソー) ダレノガノ タカハス) コエ
ああ そうなの。 誰の(声)…。 高橋の 声(を)
キグデアグデダッケヤ (A ソー) ミヨコ)
聞きたくてだよね。 みよ子の。

- A アー ホンダ ミヨチャンラモ エダンダナ オンナ
ああ そうだ みよちゃんたちも いたんだな。
- B ミヨコチャンノ コエ キクテアクテ カケテ ヨコスンダベッケー
みよ子ちゃんの 声(が) 聞きたくて かけて よこしたんで"しょうよ。
- A アンドギー ホデネア ンダ アノ アレ⁽⁹⁾ ワダリガラモ キッタン
あの時 そうでないんだ あれ? 亘理からも(交換手が)来ていた
ダッタナー ワダリガラ (B アー ウン) ンー (B ウン)
んだったな 亘理から
ワダリガラモ キテデ⁽¹⁰⁾
亘理からも 来ついで-----。
- B ミサチャン
みさちゃんですよ。
- A オラー ナメー モ ツシャネア⁽¹¹⁾ カオモ シャネア ンダ マズ
あれは 名前も 知らない 顔も 知らないのだ。 だい
モッテ
いち。
- B ン ミサチャン
そう みさちゃんだ。
- A ネレ ホシテ アノ フタンデ⁽¹²⁾ デートスル ヤクソグステ (B 笑)
ぬ そして 二人で デートする 約束をして
ホシテ アラヤガラダナー⁽¹³⁾ ハラコメス⁽¹⁴⁾ フタッツ コシェアデ
そして 荒屋からだぬ はらこ飯を ニ人分 作って
(B ン-)ステ テンワデ⁽¹⁵⁾ ホノ ショーコーカイノネー アノ ポストン
それから 電話で 「商工会の あの ポストの
ドゴデ⁽¹⁶⁾ タッテ マッテッカラ ツー ハナス アッタ モンタガラ
所で 立って 待っているから」という 話が あった もんだから

(B ン-) オレ ズーズコロ ハラコメス モッテ エッタオンナー
あれば 十時頃 はらこ飯を 持って 行ったんだよ。

(B ン-) ズデンシャテ⁽¹⁵⁾ ホゴー トーッテ アルッタゲントモ
自転車で そこを 通って 行ったけれども
ン- カノジョノ ヨーナモン タッテネアド オモッテ エッショ
彼女の ような者は 立っていないと 思って 一生
ケンメー アルッタッケ ナンダベー ハルサンテ コエ カケ
懸命に 自転車を動かしていたら 「なんだ 春さん」って 声を かけ
ラッテ ミタラバ オラヨリ トス トッテ エタンダッタオンナー
られて、 見たら あれより 年を 取って いた(女)だったもんな。
ソノ トーズナー ンダガラ (B ン) バンサンニ ミエダオンナー
その 当時はね、 だから 婆さんに 見えたもんな。

(B ン-) オラ アノ アダリ ズーク グレア タ"ガラ ンダ"
あれば あの 頃 十九歳 ぐらい だったから。 そうだ。

マダ ワケアモンダド⁽¹⁶⁾ アノ ワケアースガダ⁽¹⁶⁾ スッタド
(相手も)まだ 若い 姿を していると
オモッテダラ⁽¹⁶⁾ ホデネアガッタモンダナー (B ン-) オレー アラハマ
思っていたら そうでなかったものだ。 あれば 荒浜
サ キッタトキ カオモ^{xxxxx} コエワ キータ"ゴド アッケントモ カオ
に 来てた時 (彼女の)声は 聞いたことが あるけれども 顔
ダゲ ジエンジエン ワガンネアガッタガラ マズガッテ エッタッタ
だけは 全然 分からなかつたから まちがって 行った
モンナヤー (B ン-) ンナヨーナ コトマデ デンワーニ ツエデワ
ものだよ。 そのような こじまで 電話に ついては
ホントニ セースンツーモノー オー タノスク^g ホンニ
本当に 青春というものを 楽しく 本当に

オモシェグ スゴサシテ モラッタナーノアダリ カンケアーテ
面白く 過ごさせて もうったな あの頃を 考えて
ミットナヤー
見るとなあ。

B ステ ホノ ハラコメス ナジョー ナッタノワ ホラ
そして その はらこ飯は ビう なったの?

A ホステ オエテ キタベッチャワ タダ⁽¹⁷⁾
そして 置いて きたよ, ただ。

B シタッケ (A ンー) ホノ
そうしたら?

A ンー アノ (B アノ) カノジョワ ホレ ウゲトッタダケテ⁽¹⁸⁾
うん。 彼女は 受けとっただけで
(B ンー) アド
あとは(べつに何も)。

B カオ ミネアデ キタノワ
顔も(ろくに)見ないで(帰って)来たの?

A ンー
うん。

B アノ ミサナヤンヒト^{xxxxxx x x x x} ミサナヤンツー ヒト ネレ⁽¹⁸⁾ (A ン)
あの みさちゃんという人 ね
アンドキ ニジューサンダッタガ スタラ
あの時 ニ十三 だったか そうすると。

A ニズーサン ケー
ニ十三 かい。

B ンー
うん。

- A ホスット オラヨリー
そうすると あれより。
- B ⁽¹⁹⁾ ヨツツモ ヨゲーナンダエッチャ ⁽²⁰⁾
四つも 余計なんだったじゃないの。
- A ヨツツガ エズズ ヨゲーダッタンダ オンナー (B ソー) ソー (B ソー)
四つか 五つ 余計だったものな。
- オラ マタ
あれはまた (もと)若いと思っていたが)。
- B ホイズ コエバリ キーテ
それを 声ばかり 聞いて。
- A ホンダ ホンダ ホーネダッチャ ウソブダガラ ホレ
そうだ、 そうだ、 そうだよ。 (自分は)「うぶ」だったから。
- B ドゴニ ハラコメス フタツ モッテ ホステ モーション
はらこ飯 ニつ 持って そして モーションを
カゲル キニ ナッタッタッテ ワガンメッチャ コノ ハルサンモ
かける 気に なっても だめでしょう。 春さんも。
- A ホイズ アッツア ウエダオンナ (B ソー) オラミデア アンニ
それ、 あっちは 年上だものな。 あれみたいな 若造に
オメア ⁽²¹⁾ チョコ チョコ サシェデ オガンネアサ ンダゲットモ
ちょこ ちょこ させて あかれないよ。 だけど
オメア エロケノ- デハズメツノ (B 笑) ホンニ (B 笑)
色気の 出始めというのは 本当に
ナニ スッカ ワケ ワガンネアガンナ (B 笑) (A 笑)
何を するか わけが 分からないからね。

注記

- (1) [う]。「もの」にあたる。「モン」のようにも聞こえる。
- (2) 「アラハマ」(荒浜)の「ハ」の子音が聞きとれない。[A]か。
- (3) [wagelannje]。
- (4) 話者A、「春吉」の略称、愛称。
- (5) 「セリバ」は魚のせりをする所、河岸(かし)、魚市場。自分はその魚市場に勤めていたんだが、その魚市場の電話番号が-----。
- (6) 「ナンダツタランバ」の部分は薬屋の親父ではない他の人が主語。
- (7) 「タッタ」は過去の継続、完了、確認、回想などに用いる。
- (8) 「ヨル」の頭音は摩擦の[ヌ]。
- (9) 昔のことを思い出そうとしている口調。
- (10) 現、亘理町の中心地、収録地荒浜の西約4キロ。当時、荒浜町と亘理町は合併前で別の町であった。
- (11) 大変目立つ尻上りイントネーション。このあひが聞きとれない。
- (12) [gōkōe]。
- (13) 料理屋の屋号。
- (14) 鮭の卵をまぶした弁当。
- (15) 乗り物などで、出かけたり、あちこち行くこと。共通語の「走る」「走りまわる」にあたる。
- (16) 「スッタ」は「していた」の縮約形。2行下の「キッタ」も「来ていた」の縮約形。ともに、過去の継続、確認の意。
- (17) 「べー」(推量)と「チャ」(強意の終助詞)の複合したもので、「当然のことながら～だよ」のニュアンスの強意の終助詞。
- (18) 「ネレ」は「ナ」よりややていねいな間投助詞。「ね」「ですね」にあたる。
- (19) 頭音は摩擦音の[ヌ]。
- (20) 「～エッチャ」は、「～ッチャ」(強意)よりやや柔かい終助詞。女性などが多く使う。
- (21) 対称代名詞「おまえ」に由来する間投詞。

2 自転車で土手から落ちたこと

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

A アド アズクラ⁽¹⁾ ホラ アニー フーリン⁽²⁾ ナンカ ナラシエ⁽³⁾
そして あそこら辺を ほら 鐘 なんか 鳴らして
アルエグ^{（自転車で）} ドギ ドテコ アルッタモンダヤ アノ ハルサーんッテ
行く時は 土手を 行ったものだったよ。 (そうすると)「春さん」って
アズクガラ オメアラ~~~~~ バガニ スナガラ ハンカズ フッタンダ
あそこから お前たちが (あれを) からかいながら ハンカチを 振った
ベケンド (B 笑) ハンカズ フラレツツート アダマサ
ようだったけど (若い女性に) ハンカチを 振られるというと 頭が
キタモンダオンナー クルクル (B 笑) メサキ マックラニ
カーッと なって (目が) くるくるとして 目の前が まっ暗に
ナルモンダオン ホレ ホースットー ズデンシャデ フーリン ナラステ
なるものな。 そうすると 自転車で 鐘を 鳴らして
アルエグワード オラ カラダ チッケエアエ ホーダガラ アス
走っていくと あれは 体が 小さい 方だから 足が
トドガネアガラ ホノ コス ヒンマケデ スッテ アルエグズド
ヒビかないから 腰を ひん曲げて 乗って 行くと
(B フン) カノジョニ ナンダヤ ハルサン コス マケデ
彼女に 「何だよ 春さん 腰を 曲げて

ヌッテ アルグガラ ⁽⁴⁾ズワッタンデ エメーズ ダウンダモン
乗って 走るのね」と 言われたんで イメージ ダウンだもん。

ンダガラ コツツノ ホーガラ アノー バリギ カゲデ
だから こっちの 方から 馬力を つけて
ダリョグオ ツゲデ ソゴノ メアダゲ サート スセーオ
情力を つけて その 前だけ さーっヒ 姿勢を
トドノエデ ホリ (B 笑) ノッテアルッタモンダゲットモ メアニ
整えて 乗って行ったもんだったけビ 前に
ショーガエブズ エダノ ホデナステ ⁽⁵⁾ウッチャ (笑) ブツケデ
障害物が あったのを 気がつかないで それに ぶつけて
ドデガラ タダギオッタゴド アッタッタガラヤ
土手から たたき落ちたこと あったからな。

B アー (A ソー) ホイナ コドモ アッタンズニ
そんな ことも あったのね?

A アッタッタネー (B ソー) モド アレー ドデサ エロンナ
あったもんだけね。 昔は 土手に いろいろな
モノ アケッタモンダエッチャ
ものが 上げてあったもんだけね。

B ソーダネー (A ソー) エロエロネー
そうだね いろいろ(なものが)ね。

A ホイツア オメー メーー ホー ミネーデ コツツノ ホーバガリ
それを 前の 方を 見ないで こっちの 方ばかり
キー ツゲテンダモン ハールサン ナンテ ハンカズ フラレン
気を つけてるんだもの 「春さん」などといって ハンカチを 振られ
ノデ (B 笑) アダマ コツツノ ホーサ キテンノ メーノ ク
て 頭が こっちの 方に 来ているの 目の(前が)

マックラニナンダガラ ホーテ アノー ホエッチャ ⁽⁶⁾ ノリアケ⁽⁷⁾ デナ
マッ暗になるんだがら そして それに 乗り上げてな
ホーテ タダギオッタゴド アッタッタガラヤー (B ン) ホシテ
そして たたき落ちたことが あったよな。 そして
ズデンシャノ リーム ヒンマガッタノ ジリジリ ⁽⁸⁾ ヒッパッテ
自転車の リムが ひん曲がったのを 無理に ひっぱって
(B笑) ホエオ ハヤグ ソコントコロ シカエガラ トーザ^{カン}
それを 早く そこの所を 視界から 遠ざから
ネアケア ナンネンダオン カノジョノ シカエガラ ンー
なければ ならないのだもの。 彼女の 視界から。
ヒドエモンダッタ アン ^(笑) (B ン) アエー ズダエモ
ひびいもんだった。 ああいう 時代も
アッタンダオンナー
あったんだもんなあ。

注記

- (1) 「アズク」は「あそこ」の意。
- (2) 「フーリン」は風鈴状の鐘。魚市場の開始を告げるもので、詰者Aは魚市場に勤めている、それを鳴らして町中に触れ回る役などもしていた。
- (3) 「ナラシテ」の「テ」の子音が弱くほとんど聞き取れない。
- (4) 「と言う」は[tsüü:],'言う'は[tsüü:]のはずであるが、これがいっしょになって[dzüü]になったか。
- (5) 「ホデナス」は「放題なし」からきたもの。「思慮分別がなく」「無中で」「あかまいなしに」「気がつかず」など之意。
- (6) 「ソイツサ」(そいつに)の縮約形。
- (7) 土手の上に置いてあった障害物に自転車を乗り上げて。
- (8) 方言の語形としては「ギリギリ」であるが、この地点の音声では[ジリジリ]と聞こえる。「無理矢理に」「力づくで」の意。

3 若夫婦の御年始

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

B ワカエドギナーアノ ケッコン スタ トーンジサ ウズノ ズッ
若い時はな、 結婚した 当時にね うちの 実
カサ オフグロノ ズッカサ (Aン) アノ ゴネンスニ エッタ
家へ 母親の 実家へ 御年始に 行った
ノサ (Aン) ムガスノ ゴドダガラサ (Aン) アノ フタンデ
のさ。 昔の ことだからさ, ニ人で
ソロッテ アルグッツゴド アノー エマノ ヒトダラゴッタラ⁽¹⁾
そろって 歩くということは 今の 人たちだったら
フタンデ テー クンデネ (Aン) アルグノー (A ナントモ
ニ人で 手を 組んでね 歩くの
シネケンドモナ⁽²⁾) ヘー ナントモ スネデ ヘーキナモンダ^{ゲッ}
何とも (気に)しなくて 平気なもんだけビ
トモ ムカシ ソロッテ アルクッツーノー (Aン) ハズガス
昔は そろって 歩くというのは 耳心ずかし
エモンダッタモンネー
いものだったよね。

A ケツツア クツツエテ アルガッタモンダ⁽³⁾
(昔は)後ろに ついで 歩いたもんだったな。

B ホステ エワヌマエキデ オリデサ ミナミハシェダガラ (A ンー)
そして 岩沼駅で 降りてさ (実家が) 南長谷 だったから
ホッカラ ホノ アルグンダオンネ (A ン) ズーット マズ
そこから 歩くんだものね。 す、と まあ
エズリ ツカグモ アルグンダオンネ (A ン) エワノ ⁽⁵⁾ センガン
一里 近くも 歩くんだもんね。 千貫
ムラダカラ ホレ センガンノ ミナミハシェダガラ (A ンー)
村だから ほら 千貫村の 南長谷だから
ホースト アノ ドーロコース ヤッテル オトコヒトラ ホノー⁽⁶⁾
そうすると 道路工事を やっている 男の人達が
ンー リョーガワニ エデ アノ ドーロ コシェデルワケサ
両側に いて 道路を こしらえているわけさ,
(A ンー) リースット アーエヤ アノー スンコンサン キタ
そうすると(彼等が) あれよ, 新婚さんが 来た,
スンコン ツーノカエ アエツラ ナンテ (A ヒヤガス ⁽⁷⁾ ガ)
新婚 というのかい あいつら なんて 冷やかしか?
ツヒヤガスアッテサ (A ン) ハズガスグ ナッテワ コンド
冷やか して さ, (私たちは) 耻ずかしく なってね, こんど
リョーカーサ ミキド ヒダリサド ワガレデ ソステ (笑)
(夫婦は) 両方へ 右ヒ 左とに 別れて そして
アルッテ ソステ アノー ゴネンスマワリ スタモンダッタ
歩いて そして 御年始まわりを したもんだった,
ホントニ ネー
ほんとに ね。

A ホントニ エッショニ アルガネア ガッタモンダナー
ほんとに (夫婦は) いっしょに 歩かなかつたもんだったな。

- B エッショニ アルグズード (A シー) ホンニ
 いっしょに 歩くヒューヒ。 ほんとに。
- A ハナレテナ (B ハナレテ) アルッタモン
 離れてな (離れて) 歩いたもんだ。
- B ハルサンラ ナジョスタモンデガスタ⁽⁸⁾
 春(吉)さんたちは どうしたもんでした?
- A オラー ハナレル チューヨリ オラー アニー リヤカーダッタワ
 おれは 離れる というより リヤカーダッタよ。
- ノンデ アルッテワ
 (酒を)飲んで 歩いてね。
- B リヤ (笑) リヤカーサ ノヒエラッテ
~~xxxxxx~~ リヤカーに 乗せられて。
- A リヤカーデ ムゲアニ キタッテワ (B シ ア) コンニズワー
 リヤカーデ 迎えに 来たよ。 今日は
- ナッテ アノ エグズドー ホッツ オンツァン エタオン
 なんア 行くヒューヒ そっちに あじさんが いたもん
 ネ オラエノ ガガノ⁽⁹⁾ オンツァン ダガラ オレモ オンツアント
 ヌ。 うちの 女房の あじさん だから おれにヒューヒ あじさんヒ
 オナズダベ コンド オズ オエタガラ ドオエ⁽¹⁰⁾ ゴネンスニ
 同じだろう。 こんどは あじ あいだから, 御年始に
- キスタド⁽¹⁰⁾ ナンテ アガッテナ ゲダ ヌケネアゲクテ コンド ツカラ
 来ましたよ といひて 上がってね 下駄が 脱げなくて, こんど 力を
 エレット ボーンテ エンナガサ ゲダ フットンデイ (B 笑)
 入れると ポーンと 家の中に 下駄が すっとんで(行く)
- トンデモネア ムゴ キタモンド⁽¹¹⁾ ナンテ ホステ (笑) (B シ)
 とんでもない 婦が 来たもんだ なんて セして

ゴシヤガッタ⁽¹¹⁾ モンダッタナ (B ン-) ホシテ ホゴデ コンド
叱られた ものだったな。 そして こんび

オメー モデル モノヤ (B ン) アー オメー
ね, (あれは、親戚に) もてるものね。

B ノマセラッテ ヒッ

(酒を) 飲ませられて

A ヨメコ[°] オメー モゴダ モン モデルン ホレ アー オメー
嫁御の ね, 婿 だ もの もてるんだ。

ツビツビ (B ン) サー メンドーダガラ オッケナサ ケセア⁽¹²⁾
(酒を)ちびちび やってさ, 面倒だから 大きなのに 下さい
ナンテ ホステ ホンド ゴータラ⁽¹³⁾ ヒットラッテ (B ン) ホンド
なんていって そして こんび ひっヒられて こんびは
ヨメコ[°] オメア リ^{xx} (笑) リヤカーデ ヒッパッテ アルグ
嫁御 ね, リヤカーデ 引っ張って 歩く,
アルエデダッタナ (B ン) タガラ ホンニ オラ ミデアーナノ
歩いたっけな。 だから ほんとに あれ みたいなものは……。

B ヨメコ[°] ヨメコサンガ リヤカーヒッパンノ
嫁御さんが リヤカーヒッパンノ?

A ン- ヒッパッテ エケサー
うん 引っ張って 行けよー」といって。

B サー ヨー ヨー (A 笑) (笑)
それは まあ まあ。

A ソーユーコト スッタンダ ン- (B ン) トナル トンデモネア
そういうことを していたんだ とんでもない
モゴサ (B ン-) ン-
婿さ。

注記

- (1) 「ダラ」は「なら」、「ゴッタラ」は「ことだったら」「のだったら」。
- (2) よく聞きとれないが、「何とも気にしないけれども」の意らしい。
- (3) 「尻にくつついで」と表現しているが、「二人で並んで歩かず、妻が夫の後をある程度間隔をあいて歩いた」の意味。「アルガッタ」は「歩く」の自然・自発形、過去。
- (4) 地名。南長谷部落。収録地点の亘理町と阿武隈川をへだてた北隣の岩沼市にある。東北本線岩沼駅の西南約四キロメートル。
- (5) 「岩沼」と言いかけて止めたものらしい。
- (6) 現岩沼市の西南部。明治22年に牛貫村は岩沼町に合併した。
- (7) [ցցացաւատէ]。「冷やかし合う」「あちらこちらから冷やかす」。
- (8) 「デガス」は「です」にあたるていねい語。「デガスタ」はその過去。
- (9) 「ガガ」は「鳴」にあたることば。「母」「妻」の意。また、面と向かって呼びかける場合にも用いる。他人の母親や妻についても使う。
- (10) 「動詞の連用形+ス」はていねい表現。ここはその過去。
- (11) 「ゴシャグ」は「叱る」の意。「後世を焼く」あるいは「業を焼く」(「業が煮える」の意)に由来するか。ここはその受身・過去。
- (12) 小さい孟でちびちび飲んでいるのは面倒だから、大きなもの(茶碗かなにか)でお酒を下さい。
- (13) 意味不詳。

4 むすみのお汁

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

B ホラ アノ (A ~~~~~) カンポー シャケ^ドキ アノ アラハマサ
ほら あの 艦砲射撃が 荒浜に
クル_{xxxx} クルナンテ エワッテサ (A ン) ホンドギ ソー ヨナガ
来るなんて 言われてさ その時 夜中
ツツーゴド アルンダ ムガス リヤカーナンテ ネアーガラサ
ということもあるんだ 昔は リヤカーなんて なかったからさ,
ニグルマサ アー アノ ニモツ ツンデ^{xxx} ヒトリムスメバ⁽²⁾
荷車に 荷物を積んで 一人娘を
オブ_ブテダオン デンキヤノ ウラニ エダガラ (A ン)
あぶってたもの 電気屋の 裏に いたから
ハガデンキヤノ ウラニ エダガラ (A ンー ソー) デンキヤデ
芳賀電気屋の 裏に いたから 電気屋で
コンドモ ズュー ニニンダオン (A アー) ホエッチャ ジューニニン
子供 十二人 だもの それに 十二人
ノ コドモノ アルガンネアノバガリ ニグルマサ ノシェデ
の 子供の 歩けないのばかり 荷車に 乗せて
アド オブーヤズ オブッテ コンド デンキヤノ アノー
あと あんぶする子は あぶって こんび 電気屋の

ハケアダマ アー ナワデ^ア アノ ニグルマ アノ ヒッパッテ
禿頭(の親父が) 糸で 荷車を 引っぱって
(A ンー) アド オラエノ オドーサンワ アノー カンズボー
そして 私の家の 主人は (車の) 梶棒を
トッテ アドー オナゴヒトラ ウッショー オスガダ^ア ステ
取って それから 女の人たちは 後ろ 押し方 して
ニモツ ヤマニ ショグリョー ヒンカラ ナニカラ ツケデ アノ
荷物を 山に 食糧品 から 何から つけて
ズングース⁽³⁾ノ ヤマサ ニケダデバ (A ンー) ホーステ アノ
神宮寺の 山へ 逃げたってば。 そうして
ボーケーゴー アノ ヤマダカラ リッパニ ホッテデネ (A ンー)
防空壕を 山だから 立派に 掘ってね
タダ^ミ シエデデ ソステ (A ンー) ホーステ ホゴノ ヤマサ
畳を 敷いて そして そうして ここの 山に
オラエノ オトクエノ ヤマサ ニケッセア⁽⁴⁾ ナンテ デンキヤニ
私の家の お得意さんの家の山に 逃げなさい なんて 電気屋に
エワッテサ (A ン) ホゴサ ニケデ (A ン) ホーステ コンド
言われてさ、 そこへ 逃げて そうして こんび
アサーン ナッテワサ ニケテ シタクタッテ エルウズ アサン
朝に なってさ 逃げて すたもんだして いるうち 朝に
ナッテワ ホーシテ コンドワ アサゴハン ソコデ アンドギ^ア
なってね。 そうして こんびは 朝御飯を そこで あの時
アノ カエゴ オエッタンダモンナー (A ンー) ホゴノ ウズデ
巣を あいて(飼って)いたんだもんな そこの 家で
(A ンー) ホステ コンダ^アサー ゴハンダッテ ジュージッコロ
そして こんびは 朝 御飯だって 十時頃

ジュージッコロナンダナ サケ ソコノ オバンチャン エー
十時頃なんだな、 そしたら そこの あばあちゃんが 良い
オバンチャンデサ アニー オスル ニデアケッカラ ナンテ
あばあちゃんでさ お汁を 煮てあげるから なん^々言って
ステ ゴハン ワダシラ アニー ベンドー モッテ キタンデガス
そして 御飯 私ら 弁当を 持って きたんです
ナンツッタッケ ンデ オスル アー^{xxxxx} ニデ アケッカラ ナンツ
なんて言ったっけ、 それでは お汁を 煮て あげるから なんて
ツタッケ アノ ザイゴ[。] アダリデサ コエナ オッキナ オケサ
言ったっけ。 田舎 あたりでさ、 こんなに 大きな 桶に
モロミ (Aン) ^{アン}_{xxxxx} アノ ニデ オグンダオンネ (Aン) ミツ^ツ
(醤油の)もろみを 煮て あくんだもんね。 三ツ
グレア (Aン) ナラベデ トローット ホエズ フタ^{フタ} ^{トト}_{xxxxx} トンネ
ぐらい 並べて、 とろったしたもの、 それを
フタ^{フタ} アゲデオエデサ ホテ シェッカク⁽⁵⁾ カンマガサナクテ
蓋を 開けて あいてさ そして しょっちゅう かきまわさなければ
ナンネンダオンネ (Aン) ホステ アニー エモダ^ナ_{xxx} タエゴンダ^{タエゴンダ}
ならないんだもんね。 セレテ 芋だ 大根だ
ナンダ カンダッテ ナスタッテ エレテ オスル ニデデ ホノ
何だ かんだって 茄子だって 入れて お汁を 煮ていて その
モロミバ⁽⁶⁾ エレデ ゴッツオ スルンダオン (Aン) ツタッケ
もろみを 入れて 御馳走 するんだもん。 そうしたら
ヨメサン ホノ モロミ カキマワス^{タッケ} オラ コヤッテ
(その家の)嫁さんが その もろみ かきまわしていたっけ。 私は こうやって
メズラスエガラ コヤッテ ミッタノサ ホスタッケ モコーツ^{タッケ}
珍しいから こうやって 見ていたのさ。 そうしたら むっくりした

ケー ハエタ タワス ミデアナノ コー デテ キタンダナ
毛の 生えた たわし みたいなものが こう 出て きたんだな。

(A ンー) ナンダガドモッタッケ ネンズミ (A アー オー ンー)
何だヒ 思ったら ねずみ！

ネンズミ モカーツケ オッキナ ネズミ ウルケデワ (A ンー)
ねずみ、 むっくりした 大きな ねずみが水ぶくれになってね

デテ キタノ ホーシテ コンド コイツ コノ ヨメゴサンガ^ム
出て きたの。 そして こんビ それを この お嫁さんが

ホテコノ ミッタガ ナンダガナドモテ チラツキ ミッタンダ^ム
見ていたが どうかと思って ちらちら 見ていたんだ

コエ ミネアフリ ステ ホッキ) ホー ミッタッチャワ (A ンー)
(私は)これを見ないふりして せっちの 方を 見ていたよ。

ツケ ホイツバ アノ チットリ モッテ キテ エレデ
そうしたら(嫁が)それ(ねずみ)を ちりとりを持って きて 入れて

ササット キエデ エッタンダ コンド ホレ カメサ ホノ
ささーっと 消えて 行ったんだ。 こんど 瓶に

ドンブロクバ コー エレデ (A ン) ソステ モッテッタノサ
ビぶろくを こう 入れて そうして 持って行ったのさ

(A ン) ホーステ コンド モッテッテ コンド ホノー ホノー^ム
そして こんど 持って行って こんど その

モロミバ コンド オツユサ エレルンダッチャ (A ンー) ホーステ
もろみを こんビ あ汁に 入れるんだよ。 そうして

コンドア エロエロ ンマソーナンダッケナー ニンズンヤラ
こんど いろいろ うまそうなんだっけなあ 人參やら

アー エモヤラ ササギヤラ ナスヤラ エレデサ (A ン) ホステ
芋やら ささげやら 茄子やら 入れてさ, そして

オバンチャン ホエ ツシャネアガラ (A ン) サーサー アラハマノ
あばあちゃんは それ 知らないから さあさあ 荒浜の
オバチャンダズ オスル (A ンン) デダガラ タベサエ⁽⁸⁾ タベサエッテ
あばちゃんたち お汁が できたから 食べなさい 食べなさいって。
ナンダ ホノ オスル (A ン-) タベランネアンダナー
なんだ その お汁は 食べられないんだね。

コノ一 ネズミノ
ねずみの ...

- A シー (笑) ン- ミネアンダラナー エーゲンドナー シー ン-
見なかったのならな 良い(のに)な。
- B アシ ツショグ ナッテ モヤントナッテ ケー ワートナッテ
(ねずみの)足が白くなって もやーっとなって 毛が わーとなって
エンノー (A シー シー) ミデ スマッタガラ (A ン-) ホエズ デンキ
いるのを 見て しまったから。 (ヒコロガ)電気
ヤノ カーチャン ホエズ ツシャーネアノサ (A ~~~~~) ミネア
屋の かあちゃんは それを 知らないのさ (ねずみを)見ない
ガラ (A ン-) ホシタッカー タベサイーン タベサエンテ
から。 だから 食べなさい 食べなさいって
ズーノサ (A ン-) ナンボ^{デモ} ハラ ヘッテンノヨ (A シー)
言うのさ。 (私は)いくらでも 腹が へっているのよ。
アー クルマ オス ステテ キテワ (A シー シー) ハラ ヘッテス
車 押しを して 来てね, 腹は へっているし,
オッパイ ノマレッペス (A シー シー シー) ダガラサ ハラ
(赤ん坊には)あっぱいを飲まれてしまったようだし だから 腹は
ヘッテンダゲットモ コノ ネズミ (A シー) ミダガラワ
へっているんだけれども ねずみを 見たから

ナンボ サ ヘアンネアンダワネ (A ンー ンー) ホーステワ
いくら (腹に) 入らないんだね。 そうして

コンドワ ナンツッテー ウソ コエダラ エーガナトモッテ コンド
こんビは 何と言つて うそを ついたら いいかなと思つて、 こんビ
ナンダガ ハラ キリキリット エデアクテー アノ ショグ
何だが 腹が きりきりと 痛くて あの 食が
ススマネッターナンダバ ナンダガ フズンベナガラ ハラ オガスクテ
進まないんだよ。 何だが 昨夜 から 腹が あかしくて
ナンテ エダサワ (A ン) ダッケ アラ ナンダベ コンナニ
なんて 言つたさ そしたら あら なんでしょう こんなに
オイシーダッケ コンナニ オエシエノ タンベネア ナンテ アノ
あいしい----- こんなに あいしいの 食べない なんて。

タベサエーンタベサエーン ナッテ ホノ オバンチャン ンメーガラ
食べなさい 食べなさい なんて その あばあちゃんは うまいから
タベサエーン アノ (A 笑) ハラ (笑) アー オッパイ
食べなさい 腹(へって) おっぱいも(赤ん坊に)

ノマレッペス アンダ ホンナニ シテ エンリョステッコダ
飲まれてしまったでしょうし、あなた そんなに して 遠慮 してることは
ネーンダガラ オラエデ ダレモ キ ツカウ ヒト ネーンダガラ
ないんだから、私の家では 誰も 気を 使う 人は ないんだがら
タベサイン タベサイン ハラナント エテアノ ナンテ スグニ
食べなさい 食べなさい 腹 なんて 痛いの なんて すぐに
ナオッカラテ (A ンー ンー) ハラ ヘッテ アノ ハラ エテア
治るからって 腹が へって (かえって) 腹の痛い
ドギモ アルガラ タベサインテ ズワレレンダエッチャ (A ンー)
時も あるから 食べなさいって 言われるんだよ。

カーンネアンダオナ アノ ネズミノ アノ モクット スタノ アノ
(でも私は)食われないんだもんね。 ねずみの むくむくとしたの

(A ソー) ケノ ナン ダラダラト ナッタッケ アノ (A ソー)
毛の だらだらと なっていたっけ。

コー ケ ミタッケワ (A ソー ソー) トートー カネーワ コンド
毛を見たっけね。 とうとう 食わなかたよ。それから

テ コノ ボークー ゴーサ ハエッテ コンド タダミ スカッテン
防空壕に 入って こんビ 疊が 敷かれていたん

ダガラ ボークー ゴーン (A ソー) ナカデサ シテ コンド
だよ。 防空壕の 中でさ、 そして こんビ

コンドモ ネシエナガラ アノヒトア ナーンシテ アンダ ゴハン
子供を 寝かせながら あの人(電気屋のかあちゃん)が どうして あなたは 御飯を

アノ タベネアーノ ツーガラ ズズワ ネレー デンキヤノ
食べないの と言うから、 実は ね、 電気屋の

カーチャンバ カーチャン カーチャン テユー ガラ^⑨ (A ソー)
かあちゃんを(いつも) かあちゃん かあちゃん と言っていたから、

ハテ アノ カーチャン ネレー アノ ズズワ アノ モロミノ
はて、 かあちゃん よ、 実は あの もろみの

ナガサ コエナ オッキナ ネズミ ヒトツ ヘアッテデ オラ
中に こんな 大きな ねずみが 一つ 入っていて 私は

アエズ ミダッケア ナーボニモ アノ ハラ ヘッテルンダ"ゲットモ
あれを 見たら、 どんなにでも 腹は へっているんだけど

カンネアガッタネー ツタレバ (A ソー) アヤヤ オラ ホエナンダラ
食われなかつたね。 と言ったら (電気屋のかあちゃんは)あれれ! 私 そんなんだったう

カネアガッタノ マズ オラー (A 笑) アンダ オシデ ケレー (笑)
食わなかつたの ああ 私、どうしましょう。 あなた 教えて下さいよ

ツーンダッチャ (A ンー) ダッテ オシェルダッテ アンダ アノ
ヒ言うんだよ。 だって 教えるといつたって あなた

オバンチャンノ ソバニ ベッタリド クッツガッテ アンダ
あばあちゃんの そばに ぴったりと くっついて あなたは

エロエロナ オハナス ステンノニ アンダ ホエッチャ モロミサ
いろいろな お話を しているのに それを もろみに

ネズミ エタガラ カーチャン タベサンナト オレ ユフレッケッ
ぬずみが いたから(電気屋の)あちゃん 食べてはいけませんよと 私 言われますねって

ツッタノ (A ンー) ホースタッケワ キモツ ワリードッテ
言ったの。 そうしたら 気持が 悪いと言って

オウェーッ ^テ ヘー^テ (笑) エ _{xxx} エルンダッエチャ エヤー エヤー^テ
ウェーッて 吐いて いるんだよ。 いや いや

アエナ コトモ (A ンー) アッタシネー (A ンー) エズデモ オモエ
あんな こヒも あったしね。 いつも 思い

ダステ (A ンー) コドモダツサ キカセットユード (A ンー) ナンダエ
出して 子供たちに 聞かせるというヒ 何だい

ナンテ _{xxxxx} エマタガラ ホダ ゴワッテル ホーデモ
なんて いまだから そんなこと言われているが それでも

ゼータグナ ゴド アッタジエッチャ ナンテ _{xxx} ムガス
ゼいたくなことであった(時代も)あったったよ。 なんて 昔

エクサケューニ ヒトノ ニクサエ クッタ ナニ ホダ ネズミノ
戦争中に 人間の 肉さえ 食ったよ。 何よ, そんなぬずみの

ツユ ナンデモ アンメアッチャ ナンテ コドモダツニ エマ
お汁(ぐらい)何でも ないはずだよ, なんて 子供たちに いま

バカニ サレテ エッケンド
馬鹿に されて いるけど。

A ダゲット ナ (B ン) オラ カンネー
だけど なあ。 あれは 食われないな。

注記

- (1) 太平洋戦争の終戦まきわの詰。
- (2) 「バ」は「を」にあたるが格助詞というより、そこを強める係助詞的なもの。
- (3) 地名。荒浜の西北方（海の反対側）約四キロメートル。
- (4) 「動詞連用形 + セア(サエ)」はていねいな命令。
- (5) 「せっかく」。方言では「始終」「しょっちゅう」の意。
- (6) 目的格はふつう無助詞であるが、特に強調する時には係助詞的に「バ」を用いる。
- (7) 我々がその現場を見て知っているかどうか気になって、嫁さんがこちらの様子をチラチラうかがっていた。
- (8) [təmbesæ̃], 主として女性が使うていねいな命令。語尾の微妙な鼻母音の響かせ方が特徴的である。以下、何回か出現する。
- (9) 「デンキヤノ----」からここまでには插入句。次の「カーチャンネレ」の「カーチャン」という呼びかけの説明のため。
- (10) [œwæ: ?], 吐く擬音。

5 昔の子供の様子

話し手

(番号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

- B ンダゲット ハルサン メンコエガッタガラ ミンナニ モチーラッ
しかし 春(吉)さんは 可^レ變かったから 皆に もてた
⁽¹⁾ タッチャ
さね。
- A ナランデ⁽²⁾ ホシテ エツバン サエバットーダベ⁽²⁾ ダガラ
(私は)並ぶと 一番 びりの方でしょう。だから
オドゴヒ⁽³⁾ ダズガラ オメア ナラブ⁽⁴⁾ ヒト ネアクテワ オンナノコニサ
男の子の中では 並ぶ 者が なくてね。女の子に
マジエ ラッテ エダ"モンタッタ
混ぜられて いたものだった。
- B ムガス マエカケ ステネ
昔 前かけ してね。
- A ンー
うん。
- B キモノ キテ マエカケ ステ
着物 着て 前かけ して。
- A キモノ キテ アルッタンダンダ"ガラ (B ンー) コゴラ ソンデ^クズ
着物を 着て 歩いたんだったよ。 こちら、袖口を

ピカピカニ ⁽⁵⁾ステ
ひかひかに して。

B (笑) ハナ カンデ ソデデ ハナ カンデ ピカピカニ ステ (笑)
鼻を かんで、袖で 鼻を かんで ひかひかにして

A ピカピカダ ウニエニ⁽⁶⁾ ウルス ヌッタ エジョーニ コータグ
ひかひかだ 漆を 塗った 以上に 光沢が
アッタンダ (笑) (B 笑) モド ソダガラ アノー オラ ガッコーサ
あつたんだ もとは。だから おれが 学校へ
アルグ ズデアツーノー カサッコ デタモンダエネ
行く 時代というのは あできが できたもんだよね。

B ナーステ アエズ カサッコ デダンダズ ^(A ナンナンダベー)
どうして あれ、 あできが できたのかねえ。 ^(どうしてかな。)
デダンダズー^ー
できたんでしょうね。

A カタ カサッコト ホレガラ
xxxxx あできと それから

B メッチャ⁽⁷⁾
目くされ。

A ンー ト ラホーム (B ンー) ヤッパリ アノ セーカズテキニ
(それに)ト ラホーム (にもなつた) やっぱり 生活的に
(B ンー) アレ ヌガ⁽⁸⁾ タエタリ ホレガラ ⁽⁹⁾スカガラ ヒロッタ
糊を 焚いたり それから 砂浜から 拾った
ケツ⁽¹⁰⁾ タグカラ ゴミ タズンダモンナ ^(B ウンダッチャネー ウン)
木屑を 焚くから、 ごみが 立つんだもんな ^(うだね)
エズキ⁽¹¹⁾ ツグリダタッテ エマ ミテアグニ ⁽¹²⁾エーセー テキニ
今 みたいに 衛生的に

デテネアガラ⁽¹³⁾ (B ン-) アムガス アノー カジエ アタンネア
できていから 昔は 風が 当たらない
ヨーニ ステ アメ アタンネアヨーニ ステ クラークバリ ホレ
ように して、 雨が 当たらないように して 暗くばかり
ヤネノ コーバエオ コー ツヨグ ステ ャッテダ"モンダ"ガラ
屋根の 勾配を こう 強く して いたもんだから、
カジエ アダンネアヨーニネ
風が 当たらないようにね。

B ダッテ オフロワ タデケアーシダベシネ⁽¹⁴⁾
だって お風呂は たてかえしだったろうし。

A ン- オフロ コンド タテケアース ツ-ノ クスリナンダ
お風呂は たてかえし というのが 薬 なんだ
ナンテネ (B ン-) ドロドロ スルサ エレラッテ ホンニ
なんてね。 ビロビロ するのに 入れられて
エマ カンケット ホンニ キモズ ワリー ホドダ"エット
今 考えると 本当に 気持が 悪い ほどだけ。
(B ホンニ ネ-) ヌラヌラ ツ-ノ (B ソエナ) コエズ
ぬるぬるしているのが これを
クスリナンダ ナンテ クスリナンダ ナンテ タテケアース
薬 なんだ なんて言って。 薬 なんだ なんて たてかえし湯を。

B ホエナ ソエナ オユサ エレラッテ カオ アラウガラワ メー
そんな お湯に 入れられて 顔を 洗うので 目が
(A ン-) ワルグ ナルンダ"ッチャネー ンダ"ッチャ
悪く なるんだよね。 そうさ。

A アエナノ バガリ フエーセーテギナ ゴドバカリ ャッテタモン
あんなことばかり、 不衛生的な ことばかり やっていたもの

ダネ ダガラ エーテ⁽¹⁵⁾ ナレ コー カサッコサ ヘアー
だね。だから 家で ね、 こう あできに 蟻が
タカッペッチャ⁽¹⁷⁾ ブーント ネンジュー トンデンダガラ コゴ
たかるはずだよ。ぶーんと 年中 飛んでたから ここに。
(B ウン) ガッコー マデ オッカゲテ グ⁽¹⁸⁾ンダガラ (B 笑) テ
学校まで(蟻が)追いかけて行くんだから。 で、
ガッコー テ ジュキョー ステ オワッテ マダ ケアッテ クレン
学校で 授業 して 終わって また 帰って くるん
ダモン コノ ヘアー (B ン) エッショニ コダ クツエデ (B 笑)
だもん、この 蟻が いっしょに こんなにくつついで。

注記

- (1) 「用いられた」。「可變がられた」「からかわれた」「ちょっとした用を言いつけられた」ほびの意。
- (2) 「最末等」という語。
- (3) 「男人達」。この場合は学校時代だから「男生徒」。この地方では、自分の子でも「この子は----」に当たる場合、よく「このヒトは----」という表現をする。
- (4) 「ニ」と「サ」は同じ意味の共通語形と方言形。これは言い誤りではなく、重言的な用法で時々現実の会話に現れる。「サ」はイントネーションから見ても終助詞ではない。
- (5) 鼻汁を袖にこすりつけるから。
- (6) 「あまえ」(対称代名詞に由来する間投的な遊び詞)か、単なる言いよどみの発音か不明。
- (7) 「目くちゃ」の転か。目がくちゃくちゃになっていること。ただれ目。
- (8) 「糸ガラ」を「ヌカ」と言う。(『日本言語地図』参照。)これを焚くと煙が多くて目にしみるので「メッチャ」になりやすいということ。
- (9) 「スカ」は海岸などの砂浜。
- (10) 洪水などで阿武隈川の川口から海に流れた木屑などが海岸の砂浜に押し返されてかわいでいる。
- (11) 聞きとれないが、「家の作りでも----」というようなことを言っているか。
- (12) 「ミタイ」が連用修飾になる場合、形容詞の連用形に似た形となる。たとえば「ミテアグナル」(みたいになる)。
- (13) 「できる」を方言で「デル」と言う。前負の「カサッコ デタ」もそのように解すべきであろう。
- (14) 何日も風呂の湯を変えず、そのまま焚いて入ること。
- (15) 摩擦音が入り、[nɛ:]となっている。
- (16) 間投助詞。「ナ」よりていねいで、しかも親愛の情を込める。
- (17) 「ペッチャ」は「ベッチャ」(強意の終助詞)の音便形。
- (18) 「行く」は方言で[enjū]のように鼻音。

6 学校の弁当

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 内海 春吉 男 大正8年生まれ
B 本郷 しげ 女 大正7年生まれ

A ベントーナンテ ツート ドコガ"デ" オフルメー シタ ドギ
弁当 なんて いうと ビコカで お振舞いを した 時

アレ カマボコナ (B ン) アエズ ツメデ モラッタラバ
蒲鉾をね。 あれを つめて もらったら

コレダワ⁽¹⁾ カマボコ
これだ 蒲鉾。

B ミンナサ ミシェ"デ"アルグノ
みんなに 見せて 歩くの。

A ン一 カマボコナンテナ ツメデサ ベントーサ ソア テンカ
うん 蒲鉾だなんて言ってね つめてさ、 弁当に それは 天下
エッピングダオン ン一 マー フンバッテ ホノ一 メス クードキ
一品だもん まあ ふんばつして。 そして 飯 食う時に
ホエズ ネック"ナント"ド オカズ ダエ クッタード ドナンダ
それが なくなるんだぞ。 おかずが。 誰が 食ったと ビ"なるんだ。
ア一 モド ベントー アッタ ウエニ ンーナ ベントー エレ
(というの)もと 弁当が あった 上に みんな(また)弁当を(重ねて)入れ
レンダ" ハゴサ ソステ アッタマル ヨニナッテ ジェンブ"
るんだ 弁当箱を そして 弁当が温まる ように 全部

A フグロ ト ホドエテ コー アッタメラレル⁽²⁾ アレ スット
弁当袋 ほどいて こう 温められる。 そうすると,
ニダヨーナ ベントーモ アッペカラ トッテ コー フタ アゲ
似たような 弁当も あるだろうから(他人の弁当を)取って こう 蓋を開け
ンダベー⁽³⁾ ホノウズ ホー ンメーモノ アッタド
るんだろうな そのうち あう うまい物が 有ったぞ(ということ)
ンダベ ネアグナッテンダネ ホダガラ ホレモ オモエデノ
(それは)そうだろう。(あかずが)なくなっているんだね。だから それも 思い出の
ヒトツダゲットモ ャッパリ メズラシエガラ ヒトツ クツサ
一つだけれども, やっぱり 珍しいから (あかずを)一つ 口に
エレレンダワナ ホタコト スッタ モンダッタ ベント
入れるんだよね。 そんなことをした もんだった 弁当(については)。

B オラダツワ ニンズー スクネアガッタカラネ (A ストーブモ
私達は (クラスの)人数が 少なかったからね (教室には)ストーブも
ナニモ) アンマリネ
何も) あんまり(紛れることはなかった)。

A ネアーガラネ ツステ タダ ゴハンタケワ ホレ スミオ エレ
ないからね, ただ 御飯だけは 炭を入れ
デ リシテ アッタメテ ケラエンノ⁽⁴⁾
て そして 温めて もらうの。

B オンパンキツーノネ (A ンーー) エマデモ エマ ナンシッタ
温飯器 というのね。 今でも(あるよ)。今 何で温めているか。

A エマデモ ヤッテッカ
今でも やっているの?

B エマ ナンタベ ナンタガ ガッコーテ ゴハン アッタメルニ
今は 何だろう 何だか 学校で 御飯を温めるに

ナニデ" アッタメルンダベ デンキスカワ ナンダガ" アラハマ
何で 温めるんだろう。 電気かな。 何だか 荒浜(小)
ガッコーデ アノー アエズ シタノワ ハルサン ツシャネアノ
学校で あれを しているのを, 春(信)さんは 知らないの?
アラハマガッコーデ オンパンキ アノ アエズ シタッツー)
荒浜(小)学校で 温飯器を, あれを しているっていうのを。

- A ショーカッコーデ (Bン) コシェアーダッツー)
小学校で? (うん) こしらえたっていうの?
- B エマ ナンダガ アレ オンパンキ アエズ アノー ゴハン
今 なんだか 温飯器を, 御飯を
アッタメンノー アエズ シタッツー) デンキーンダガ スミ
温めるのを, しているっていうの 電気でしているのか 炭
ナンダガ
なのか。
- A トエカグ ホダニ エマ ベントー モッテ アルガネア ンダベー
ヒにかく そんなに 今は 弁当を 持って 行かないんだろう。
- B ダッテ ネレ ゲズヨード スエヨービニ モッテグノ ダッチャ
だって ね。 月曜ヒ 水曜日に 持って行くんだよ。
- A モッテグノ アー ソー
(弁当を)持つて行くの? ああ そう。
- B ンダ ホエズ オ ^{xxx} ナンダガ ゴハン アッタメデ" ケラレレンダッ
そう。 それを 何だか 御飯を 温めて もらうんだっ
ツーンダケッドモ デンキナンダガ スミ ツカウンダガナード
っていうんだけど, 電気なのか 炭を 使うのかなど
オモッテ (A デンキダベー ンデ ソー) キクノ ワスエッタ
思つて (電気だろう, それでは。) 聞くのを 忘れていた

ゲンドモサ (A ン デンキダベー) オンパンキワ アノー
ケビもさ。 (電気だろう) 温飯器は
(A デンキダヨ) ホー エー シタッテ コト キータノ ムカシワ
電気だ。 そのように したって こと 聞いたの 昔は
スミダオソネ
炭だものね。

A ンダネ スミスカ ネアンネ
そうだね。炭しか ないからね。

B アノ コズガエ ズンツァンエサ ⁽⁶⁾ モラエサ エグドキナー
小使の おじいさんの家に (お湯を)もらひに 行くときね。

A オユ モラエサ エグンダモンナ
お湯を もらいに 行くんだもんな。

B オユ モラエサ エッテ
お湯を もらいに 行って-----。

注記

- (1) 両手の拳を鼻の上に重ねて、「鼻高々」という仕ぐさをしたもの。
- (2) 効果的に温めるため、個々の弁当袋（それぞれ色や模様がついていて識別できる）から、弁当箱を取り出して、じかに温飯器に入れる。
- (3) 「結局」か。(詰者にこの所 意味を問うても記憶になかった。)
- (4) 「呉れられる」(受け身)という表現。よく使われる。全体の意味は、「ストーブがあればその上に薬罐をあいてお湯をわかすこともできるが、炭で温飯器の御飯を温める」。
- (5) 「アエズ」は温飯器を指す代名詞のようでもあるが、単なる遊びこしばのようでもある。「シタ」の「タ」は、現在の事実を具体的に表現するのに使われている。過去ではない。この直後にこの句が三回現われるが、皆同様。
- (6) 「小使さんの家」。学校の一部に夫婦で住み込んでいて、子供たちは昼食時にそこへお湯をもらいに行ったりした。

7 お 祭

話し手

| (略号) | (氏名) | (性) | (生年) |
|------|-------|-----|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |
| C | 木村 精一 | 男 | 大正7年生まれ |

- A マー ナンデモー コレア オマズリデモー オショーガズデモ
 まあ 何でも これは お祭でも お正月でも
 ムガスノホー ナンダガ エー ヨーナ キースル ナー ネー
 昔の方が 何だか いい ような 気が する なあ、ねえ。
- C ンー ショーガッコーン トギノ コドナンカ オモエダステ ネー
 うん 小学校の 時の ことなんか 思い出して ね。
 (A ンー マンズ ンー) コエナ コトア シャネア ベガラネ⁽¹⁾
 こういう ことは 知らないだろうよ。
- オマズリン ドキ アノー サンチョーメノ キクジヤノ メーサ
 お祭の 時 三丁目 の 菊地屋の 前に
 アレ アノ ロテン (A ソー ソー ソー ~~~~~)
 露店
- B アズク ナランデネー
 あそこに 並んでね。
- C ンー アン ドキネ マダ ショーガッコノ サンネン
 あの 時ね、まだ 小学校の xxxxxxxxxx

ニネンシェーが エジネンシェー！ コロダナー (B ン) ソコサ
二年生か 一年生の ころだな。 そこへ

エッテネレ (Bン) コエナノ キッタンダエ アレ コレ
行ってぬ。 こういうのが 来ていたんだよ

ナンダガ コー ボーガラ ノゾグド (A ノゾギメガネ)
なんだか こう 棒から のぞくと のぞき眼鏡

(B シー) マ _{xxx} マンナカサ コー
 真ん中に こう

B エロエロナノ ン-

いろいろなの

C マンナカサ (A ~~~~~) (B ン) ノゴンノサ (B ン)
真ん中に 残るのさ

ソエツネレ ソースット コッタ エッカニニ ヤル ヒトモサ
それをね そうすると こっちに(人が)いるから やる 人もさ

エンピツナンカ モッテ クンダ ハー コッカラ ミット
鉛筆 かなんか 持って 来るんだ。そして ここから 見ると

エンピツノ シンノ フトサガ コッカラ ミエルンダ ナンテサ
鉛筆の 芯の 太さが ここから 見えるんだ なんてさ。

(B ン) ソシテ コンダ タマゴ モッテ クンダ (B ン)
そして こんびは 卵を 持って 来るんだ。

スット タコ^{タマゴ}ノ キミノ オーキサ ミエンダ" ナンテサー
すると 卵の 黄味の 大きさが 見えるんだもの。

(B ン) (A 笑) ナガミ アンノバリ (笑) モッテクンダ
中味が あるのばなり 持ってくるんだ。

(B ンー ンー) ホー・シテ ンダガラ ホー・テ クジ アエデ モッテ
 そして だから ほうと 口を 開けて いて

ホレ カウンダッチャ コレ (B ンー)(笑) カネ ダステ (B ンー)
買うんだよ これを 金を出して

ソシテ イヤ ナニ ヨロコンビ エサンデ エーサ モッテッテ
そして いや なに 喜び 勇んで 家に 持っていって
(B ンー) ナガ ミッツート ナンデモ コノ ミエンノワ アノ
中を 見るというと 何でも 見えるだよ

リー (B ン) ネレ ナニ コノ バカニ シラッテ⁽³⁾
ね, 何 だまされて

ミナ カッタンダオン ソー (B ン) エンピツ ミット ナルホド
みんな 買ったんだものさ。 鉛筆を 見ると なるほど
シン ミエッペケンドモ ダエド (笑) ホ ^{xxx} ホンダラ アト
芯が 見えるようだけれども, だけビ そんなら さらに
テモ ミシェラッタモンダ テ ネレ (B ン) ハー ホネモ
手も 見せられた もんだ 手 ね。 もう(手の中の)骨も
チャント ミエル ソー (B ン) ネ (A ホンダラ メーー) ア
ちゃんと 見えるのさ。 ね。 そしたら 前の
ホイナノ ナガカ^アンノ ミナ ミシェンノサ (B ン) ホノ
そういうもの, 中が あるものは みんな 見せるのさ

キシェル タノネレ ナガニ アノ コー クードートガ アット
煙管 だの ね 中に こう 空洞が あると
ホエナノバリ ミシェデ ナガ ミナ ミエンダドシャ ⁽⁴⁾ トゴロガ
そういうのばかり 見せて 中が みんな 見えるんだってさ。 ところが
エーサ エッテ コンド ホンデワ ユノミチャワン ミロ
家に 行って こんビ それでは 湯呑み茶碗を 見ろ
ナンツワッタオン (B ンー) ユノミチャワン ユノミチャワン
なんて(誰かに)言われたもの。 湯呑み茶碗を。 湯呑み茶碗を

ミタケア ユノミチャワンサ ホエズ ナカミ アンダワネヤ
見たところ 湯呑み茶碗に 中味が あるんだよね。

(B ン) コヤッテ ミット ホンダエッチャ (B ン-) ナンダベ
こうやって 見るヒ そうだよ。 何だろう,

ユノミチャワンニ ナカミ シン ネーベ ナンテ (B ン-)
湯呑み茶碗に 中味, 芯なんて ないはずだなんて

ワッテサワ エークラー シエズラッテ タダ バカニ シラッテ
言われてさ。 いいかけん からかわれて ただ だまされて
ソエデ コノ カネバ ツカッテンダ ナンテ ズワッテ サー⁽⁵⁾
それで 金を 使ってるんだ なんて 言われて さ。

ソングダッテ チーサエガラ ホガサ モンク カダッセ⁽⁶⁾ エク
それでも, 小さいから 他に対して 文句を 言いに 行く
ハズ ネーノサ ダマッテ ナキネーリ ソー
はずが ないのさ。 だまって 泣き寝入りさ。

A マズ アズク サンテヨーメサ コー デッタ モンダネ (C 笑)
あそこ 三丁目に こう(露店が)出でていたもんだね。

(B ホシテ) ホエズ マダ アノ タノシミデナー ンニ
そうして それが また 楽しみでな。

B オマズリツード アノ ハガマ ハオリデ チャ (A タノスミデ)
お祭 というヒ 裹 羽織で
カワケツズンジャサ⁽⁷⁾ オマエリ シテ ソレガラ ハヤグ
川口神社に お参り して それから 早く

サケラッテネ オマツリツート
下校させられてね, お祭 というと。

A ヨエマズリ ツト アンモズガ一
宵祭 というと 餡餅か?

B ン- ヨエマズリ ツート アンモズ
うん 宵祭 というと 餡餅だ。

A アッチノ オンツァン カエッテ キタ コッツノ オンツァン
あっちの おじさんが 帰って きた, こっちの おじさんが
カエッテ キタ (B ン-) ホストー ズー^{xxxxx} アノー ズッシェン
帰って きた そうするヒ 十 錢
グレア ネレ ケラッテサ (B ン) ン オマズリ アット ホレ
ぐらい ぬ もらってさ。 お祭が あるヒ
コンズゲー ナンテ ズッシェンケア エッシェンケア アノコロ
小遣い なんて 十 錢 かい, 一 錢 かい? あの頃
エッシェン アレ
一 錢 だった あれ?

B ホントニ オエワエダ オンネ
ほんとうに お祝いだものぬ。

A エッシェンバ ズーメアグレア ズッシェン ケラレッ ツート
一 錢 玉を 十 枚 ぐらい, 十 錢 もらうヒ いうヒ,
カ-⁽⁸⁾ コノグレア- アルナンテ ナ- ヤ ヨロゴンデ シタン
ああ この ぐらい ある なんて なあ 喜んで したん
ダッタ⁽⁹⁾ (B ン-) シテ オマズリア ホ) サンチョーメサ
だった。 お祭は 三 丁 目 に
デル ヤデーサ エッテ アノ モト ハヤッタノ テッポーダナ
出る 屋 台 に 行って, もヒ はやったの 鉄 砲 だな,
(B ン) ピストル (B ン) ン- アノー コーヤッテ コー
ピストル こうやつて こう
アレ タマ ツット ハサンデ デ プツット (B ン) ツト ソテ
玉を つと はさんで それで ぶつと そして

プツット ソテ トビアガンノ タマデ^(B) ツブツブ シテ
ふつと 飛びあがるの 玉が つぶつぶして

(B ツブツブ) アレ キレー ナッテル ヤズネ アンナ
きれいに なっている ものをね。あんなのを

カッテ ホシテナー アノ エー エー エクサン コロニネ
買って そしてな

B スカス トーリキランネア クレー ヒト トーッタンダオンネー
しかし 通ることができないほど 人が 通ったものね。

オマツリツートネ
お祭 というとね。

A ホステ マダ タメットキ オマツリダガンナ マダ ガクヨー
そして また(金を)貯めるときも お祭だからな、また。学用
ヒン カウ タメットギ アレ (B シン) モラッタナー
品を 買う(ため)金を貯めるときだ。 (金を)もらったなあ
ツカワネー^デ タメットギ オマズリド オショーガズダガラ
それを 使わないで 貯める時機は お祭と お正月だから
アレ アレ
あれ あれ。

C アト オマズリア ニショーメノ アタリサモ ミセ ダス^タ
そして お祭は ニ丁目の あたりにも 店を 出していた
ンスカ キンタローサン テーウズ
のですか。金太郎さんの家の所

A マー ニショーメ アド マ カワグツツアン⁽¹⁰⁾ ネ
ニ丁目のほかには、川口神社の境内(にも店が出ていた)ね。

B ンダネ アノ ヨエマズリツート カワグツツアンネ
そうだね。宵祭 というと 川口神社の所だね。

C アト ナニカ カンケー ナクトモ デタ ヨク アメッコヤ
あヒ、 何か(祭と)関係 なくとも(店か)出たよ。 飴 や
ナンカ マエ アメ ナガスデサ (B アメ ナガスデ) カタグ
なんか、 昔 飴を 流してさ (飴を 流して) 固く
(B カタグ) (A ンー ンー ンー) コー コワスン ダッチャ
固く こう こわすんだよね。
(A ソー ソー ソー) ナガ クンビレデデサ⁽¹¹⁾ (B ンー ンー) ホエズ
中が くびれていてさ それを
(A アエズ) シマー ケットノ オッキナ アメ クルンダ
うまく やるヒ 大きな 飴が くるんだ
(A アメ クルンダ アエズ アレー) ホエズバ ナンボ ャッ
それを 何回 やっ
タッテ ホノ クンビレンドッガラ ポキント (B ポキントネ)
たって くびれているところから ほきんヒ (ほきんヒね。)
オレデ スマウンダ (B ンダオンネ) ンー
折れてしまふんだ。 (そうだね。)

A アエズ アレ ズンツァンダネ チョーシェンズンダッタネ (B ンー)
あれを売っている人は おじいさんだったね。 朝鮮人だったね。
アノー アレ クルマ ヒッパッテ (B ンー) ソステ コー
車を 引いて そして こう
フクベン ミデーナノ ナニ コー (B ンー) ステ ネー
ひょうたん みたいなの こう して ね。
(B ンー ンー) カニデ エッشن ヤッテ カッテ カーシテナ
一錢 やって 買って こうして
ケツツア⁽¹²⁾ ベロベロ ナメット エーンダ ナンテ ケツツア
その尻を ペロペロ なめると いいんだ なんて 尻を

ナメット ホレ ポロット トレルワケ ソエ ウスグ ナッカラ
なめると ぼろっと 取れるゆけ 薄く なるから

コエズ ウスグ エナー ナンテ ナメダナ ズワッテ (C 笑)
これは 薄くて いいな なんて なめたな

ナニヤ コンド ハリ モッテッテ ハリ コーヤッテナ (B ンー)
こんビは 針を 持って行って 針を こうやってな

ホステ ポツット モケット アリヤー ナンテ ガッカリシテナー
そして ほきっと もげると あれれ なんて がっかりしてな

ホーシテ ドゴガニ エッシェン ツケ ホロガッテネアー ベガド
そして どこかに 一 錢 落ちて いないだろうかと

エン ナガ ズート サガステ (B 笑) カズマカズマ サカスタ
家の 中を ずっと 探して 隅々 まで 探した

モンタッタナー ンー

もんだったな。

B ムガス オマズリニ ズッシェンナンテ ケラレッド ⁽¹⁵⁾ オニ
昔 あ祭に 十 錢 なんて ちらうヒ 鬼の

クビダ¹⁶⁾オ¹⁷⁾ンネ

首を取ったようなものだもんね。

A アー オド¹⁸⁾ケデネアー ズッシェン ナット
ああ 大変だったね。 十 錢 になると。

B ンー ズッシェン ナットネ ケラッタンデワ
うん、 十 錢 に なるヒ ね。(それを) もらったんでわ。

注記

- (1) 録音者に対して言った発言か。
- (2) この話と関係なく、「お茶を持ってこい」と誰かに言っている。
- (3) 「バガニスル」は、「だます」「ばかされる」の意。「狐にバカニサレル」というように使う。
- (4) 「シャ [ɸa]」は「サ」にあたる間投助詞。「サ」よりややていねい。仙台方言では頻発されるが、この話者たちは稀にしか使わない。
- (5) [ɸüwätte]。「ユ」の頭音が摩擦音となる。
- (6) [kadassæ]。「カタリサ」(語りに)に「エグ」(行く)の「エ」が影響してこのような発音になったか。
- (7) 荒浜の町の中にある神社。
- (8) [gab:]。口蓋垂を震えさせる。方言の感嘆音。
- (9) 「いろいろなことをしていた」の意か。
- (10) 「川口サン」にあたる形。前出の川口神社の通称。
- (11) 「マメコワシ」とか「カタコワシ」とか称されるもの。飴を型に流して固くして取り出そうとするが、ひょうたん型にくびれていて、そこから折れて失敗する。成功すると大きな飴がもらえる。
- (12) 「ケツサ」(尻に)、あるいは「ケツバ」(尻を)の縮約形。
- (13) 「ホロク」は「落ヒス」「落として失くす」。「ホロガル」はその自動詞。
- (14) 「カズマ」は「角間」「隅」。
- (15) 「ケル」(呉れる)の受身形で、「もうう」の意に使っている。
- (16) 「おどけでない」にあたる形。「大変だ」の意。

8 アイスキャンデーとお婆さん

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

- | | | | |
|---|-------|---|---------|
| A | 内海 春吉 | 男 | 大正8年生まれ |
| B | 本郷 しげ | 女 | 大正7年生まれ |
| C | 木村 精一 | 男 | 大正7年生まれ |

A アド アレ ナズニ ナットード スケンカンサ アノー アエツ
夏に なるといふと 試験管に あれを

エレテ アレ コーリ エレデ バ トガスンダベ エマノ
入れて 米を 入れて 溶かすんだろう。 今の

キャンデー (B ン キャンデー シー) (C アエス キャンデー)
キャンデー (うん キャンデー) アイス キャンデー

(B シー) エヤ シャ-----⁽¹⁾

B アエズ ネレ アノー タガハッシャデ エズバンサギ ハズメダノ
あれは ね 高橋屋で 一番先に 始めたの。

(A アー ンダガ) ホースタケ タガハッシャデ ホントニ
ああ そうかい。 そうしたら 高橋屋で ほんとに

ナズ ハズ ⁽²⁾ ナズダエッチャ アノ アタリ タノクサ ハズマッ
夏 ^{xxxxxx} 夏だよね。 あの頃 田の草取りが始まっ

タノサ タノクサ アタリンドギ ナーンスタノサ ホスタッケ
たのさ 田の草取りの頃 (アイスキャンデー売りを)始めたのさ。 それで、

タカハッシャデ トナリグミサ ジッポンズズ ミナ クバッタノサ
高 橋 屋 で 隣 組 に 十本ずつ みんな 配ったのさ

(A ン-) ハンズメデ ハンズメタンダガラ (A エ- エ- ハズメデ)
はじめて 始めたんだから (ええ はじめて)

ホーステ コンド ホレー トナリグミサ ミナ アノ サラッコサ
そして こんど 隣 組 に みんな 皿 に

コ- ホノ- ジッポンズズ チャンデ⁽³⁾ クバッタノサ
こう 十本ずつ(乗せ?) キャンデーを 配ったのさ

(A ン- ン- ン-) スット オラエ アダリデモ モラッタノサ
するヒ 私の家 あたりでも もらったわけさ。

トコロガ オラエノ オバンチャン ツ- ヒト ホレ アノ-
私の家の お婆さん という 人は

チャンデーツ-ノ ハンズメデダガラ (A ン-) ムカシビドダガラ
キャンデーというもの はじめてだから 昔 者 だから

(A ン-) コノ キャンデーツ-ノ エズマデモ ノコッテット
キャンデーというのは いつまでも 残っていると

オモッテル)サ (A ン- ン- ン) ネ トゲネアデ (C ン)
思っているのさ ね, 溶けないで

トゴロガ⁹ ホノ ア- ワゲ-ヤ やズラ エマ アノ アズグデ
ヒコロガ¹⁰ ああ 若い 者たちは 今 暑くて

ケアッテ クッペガラ (A ン-) エガラ アノ コエズスマッテ
帰って 来るだろうから いいから これを しまって

オゲ ナンテ ホーステ アノ- アエツ トダナン ナガサ
あけ なんて言って、 そうして (キャンデーを) 戸棚の 中 に

エレデ スマッテダ (A ン) スット オラワ エッポン
入れて しまっていた。 私は 一本

カシェ ラッタサ (A ンン) スタラ ジュッポンモ アッタッケ
食べさせられたさ。 すると 十本も あったが
ホノ ズンブンガ モー エッポン ナンダガ シャッコク ⁽⁴⁾ テ" ャン
もう一本を お婆さんは 自分で(食べて), 何だか 冷たくて いや
ダナ ナンテ ホステ ハンブン ンー クッテ オレサ ヨゴス
だな なんて言って そして 半分 食って(残りを)私に よこし
テサ アドワ ハツホン エマ タノクサガラ ケアッテ クッカラ
てさ。あと(残り)は 八本。 今 田の草取りから(みんなが)帰って来るから,
アズグテ ケアッテ クッカラ (A ンー) アド クッテ ワガンネア
暑くなつて 帰って 来るから あとは 食っては 駄目だ
ガラナ ナンテ トダナサ エレッタッチャ ホ) タノグサガラ
からな なんて言って 戸棚に 入れたんだよ。 (みんなが)田の草取りから
ケアッテ クル ウズワ ワリバス (A 笑) ハツホン ノゴッテ
帰って くる うちに, 割り箸が 八本 残って
タッチャワ (A ン) ドロドロッツーノー サハッツア ノゴッテサ
いたんだよ。 どろどろというのが 大皿に 残ってさ。

A ダレ クッタンダッテガ

誰が 食ったんだ てことになったか。

B オーワレア スタコト アッタガラサ サー ネー

大笑い したことが あったからさ。 ね。

注記

- (1) 「いや シャッコエ（冷やっこい）」と言あうとしたか。
- (2) 七月頃、田んぼの中の草取りをする農作業。
- (3) [çɔ̃ande:]。
- (4) [çakkoküde] 「冷やっこくて」。
- (5) アイスキャンデーが溶けて、中の棒が割り箸のようになって皿の上の溶けた水の中に残っていた。

III. 千葉県館山市相浜

収録・文字化担当者 加藤信昭

A 収録地点とその方言について

1 地点名 千葉県館山市相浜

2 収録地点の概観

位置——千葉県、房総半島の最南端に位置し、千葉駅から南南西へ約80km、館山駅（国鉄内房線）から南南西へ約10km弱。

交通——千葉駅から国鉄内房線で下り約2時間、館山駅下車、国鉄バス富崎線で南南西へ約10km、約30分終点で下車。



地勢——房総半島の最南端、南と西は太平洋に接している。東は100m程度の山地、北は神戸地区南部の狭い平地であるが、神戸地区北部は150m程度の山地である。平地はほとんどなく、海岸沿いのわずかの土地に集落が形成されている。北と東を山で囲まれているため、海洋性気候で冬でも割合に暖かいが、冬には西の季節風がよく吹きである。

行政区画——館山市は約390年前に里見氏が城を築いてから城下町として発展したが、この地はそのころすでに漁村として存在していた。古くは関西方面からの漁民が住みついたものといわれ歴史は古い。明治22年市町村制により、北条町、館山町、西岬村、神戸村、豊房村、館野村、九重村、凧原村（那古）。

船形村とともに富崎村も形成した。昭和14年、館山北条、那古、船形地区をもつて館山市制施行。昭和29年5月3日、市町村合併促進法により、西岬、神戸、豊房、館野、九重と一緒に富崎村も館山市に併合された。この相浜と、隣りの布良とを合わせて、現在富崎地区と呼んでいる。

戸数、人口——昭和51年1月現在

館山市 世帯数 17038戸、人口 56953人。

富崎地区世帯数 604戸、人口 2274人。

相浜 世帯数 261戸、人口 995人。

主な産業——平地が少なくて、農業はあまり振れない。海を利用した水産業が主である。しかし、若い世代は、漁業離れをしていて、現役で働いている漁民は、50歳を超えた人達ばかりである。

3 収録した方言の特色

①方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

千葉県方言は、隣接する利根川以北の関東東北部の方言（栃木、茨城など）の崩壊アクセントの方言）とは一線を画し、また隣接する江戸川以西の関東南西部の方言（埼玉、東京、神奈川の方言）とも、語彙やアクセントなどでやや異なる面を持ち、関東方言の中にあつては、関東南部方言として位置づけられる。

千葉県方言を大観すると、まず、上総と下総との境で南北に分けられ、北の下総では、東北部と、西北部とに細分される。また、南の上総と安房との間に、かなりの点で、差異が認められる。収録地点は、安房に属する。この安房の中でも、相浜は、その南端に位置し、歴史的にはとも、現在に至るまで主要交通路から外れた地域にあるため、古いことはの相を多々みることができる。

②音韻上の特色

(1) 老人層の間で、限られた語に「合拗音」が認められる。たと

えば、「菓子・火事・食われない」を「カシ・カジ・カシネー」のように言う。/ka/ (ka) が認められるのは、関東方言の中では珍しい。二の「合拗音」は安房地区で広く聞くことができる。

- (2) グ行音の前に促音が立つ。たとえば、「自分・やられのた」と「オッダ・ヤラレッダ」のように発音する。
- (3) 「イ」と「エ」の混同がみられる。ただし、「イ」と「エ」と発音する傾向の方が強い。
- (4) 連母音 [ai] や [ae] を [e:] のように長音化させる。たとえば、「見たい・お前」を「ミテー・オメー」のように。
- (5) 長音を短音化する傾向がある。たとえば、「祝儀・先生」などと「シユギ・センセ」のように。
- (6) ラ行音の「ル・レ」と [i] と発音する傾向がある。たとえば、「あれ・～に行くと」などと、「アイ・～ナイト」のように。
- (7) 語中・語尾のカ行音の子音が脱落する傾向がある。たとえば、「ニニ(場所)・焼く」などと「コー・ヤウ」のように。
- (8) 語中・語尾のガ行音の子音は [g] である。
- (9) 語中・語尾のカ行音・タ行音の子音を有声化させる傾向がある。たとえば、「坂・道」などと「サガ・ミジ」のように。ただし、二の有声化の傾向は、県の北部地方に比べると弱く、語彙も限られるようである。
- (10) アクセントは東京式で、二拍名詞の二拍目に [a・e・o] を含む「跡・稻・船」などとの語も、[o o ▷] に発音される。(▷は一拍の附属語を示す)。

③ 文法上の特色

- (1) 方向を表わす格助詞は「サ」を使用する。
- (2) 格助詞の「の」は、しげしげ「ン」に発音する傾向がある。たとえば、「昔の人」は「ムカシニヒト」のように。
- (3) 推量や意志を表わす助動詞は「～ッペ」を用いる。

- (4) 否定の助動詞「ナイ」は、「ネ」が使用され、たとえば、「知ら_タない」は「シラネ」である。
- (5) 接頭辞を多用する。たとえば、「叩く」は「ヒッパタク」のように。

(補注) 同じ富崎地区でも、相浜と隣りの布良との間に、多少の方言の差がある。たとえば、人称代名詞（一人称）の場合相浜では「ワレ（常体）」、布良では、「ワガ（常体）」と言うし、二人称でも、布良では、「ニシ、ウンダ（いすれも尊体）」を用いるが、相浜では使わないなどの差がある。その他、語彙の使用で差のあるものと拾うと、「お爺さん、お婆さん、沖」などと、相浜では、「シーバー・オイ」と言うのに対し、布良では、「ジーチ・バーバ・オキ」などのように言うことなどを挙げることができる。ただし、両方言は、_タのよう_タ違いがあり、もし、大きくみれば、ほぼ似た方言と言えよう。

4. 地点選定の理由

- ① 房総半島の南端に位置し、歴史の古い地点であるため、方言の保有量が多いこと。
- ② 漁村である、_タ、漁師の間に、まだ_タは、きりして漁業関係の方言が生きていることによる。

B 話者・録音環境など

- 1 昭和50年12月7日録音
- 2 千葉県館山市相浜7601（武田由蔵氏宅）
- 3 話し手

H 広瀬ます（女） 明治25年生まれ 無職

相浜生まれの相浜育ち。広瀬さんの御両親は、ともに館山市出身である。

S 鈴木チ一（男） 明治28年生まれ 漁業（相浜に四代続いて住まわれている）

相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

T 武田金市郎（男） 昭和11年生まれ 教職員（司会者）

相浜生まれの相浜育ち。御両親の出身はともに館山市。

4 録音内容とその環境

・二人の共通話題である地曳網漁業に従事した当時の回想から、海付網漁業、棒受け網漁業等の各種漁業における苦労や自慢話等を男女それぞれの経験から話していくだけ。また、広瀬さんは一家の主婦として育児に携わる立場からの苦労話、駆けのめり方などにも触れている。関東大震災には二人とも、大きさは被害を受けた経験を持ち、印象も強烈であるとのことで、当時を回想していくだけだ。

・できるだけ平素の状態で話していくだけのように努力したが、広瀬さんはやや丁寧な語り口である。鈴木さんは、ほぼ平常通りの状態で話されていくようである。会話の進行は自由な雰囲気を重視したため、時々話題から逸れがちである。

なお、司会をしていただいた武田金市郎氏には並々ならぬお世話になりました。深く感謝申し上げます。

昔の漁業

話手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 鈴木 与一 男 明治28年生れ

H 広瀬 ます 女 明治25年生れ

T 武田 金市郎 男 昭和11年生れ <司会者>

T アンダーテンキガ ワリッケン ジイオンアンカ アンシテ
あれだねえ 天気が 悪いけど じいさんばんか 仔にレマ
カノーメンキノー。
いなかねえ 毎日ねえ。

S ニベツニ アンモ ナニモシテネアデ ハー アンモシテネア
ル 別に 何も ばんにもしていいで。ほあ ばんにじしてない
テ ハー。
で ほあ。

T デー ケーズケア[“] アレカイ シー コトシ ナンカイグライ デ
(それ)で 海付 はあれかい んー 今年 何回ぐらい 出
タカノー。
たかねえ。

S マー ヨーカ デタッケン/ ヨーカ デタッケンアト ハー
まあ 八日 出たけどね。八日 出たけど 後は ほあ
ホントニ ハタラッタ/ タッタ ミッカカ ヨッカシカ ネー/
本当に 働いたのは た、た 三日か 四日 しか ないね

一 エー。

え ええ。

T フーン。

ふうん。

S アトワ ランナ ヨーカノウチ イツカグレー カ カテ ^{xx} ^{xxx} アイ
後 ほ ええと 八日のうち 五日ぐらいい ^{xx} ^{xxx} あの
カラデ" ケッテキタカンナ一。
空 て" 帰って来てからねえ。

T (咳) シテ サカナワ イネンカナ一。
んで 魚 ほ いはいのかねえ。

S サカナワ アンマリ タ タクサンデワ ネーーー スクネ スク
魚 ほ アンマリ 淀山 でけ ほねえ 少すい 少す
ネ トシダ一。
い 年だ"よ。

T シテ ^{xxxx} ャッパリ ャッパリ アレカナ一 ホンデ一 エー ヨーキア
レ" やっぱり われかねえ われで 云え 陽気な
シカト カンケーアンカナ一。
くかと 関係 わらのかねえ。

S リーサー マー ヨーキニモ カンケーモアッペケン アンダナ
きうさねえ まあ 陽気にも 関係 もわらだうけと" われだ"ほ
ー マー ^{木/トシ} ^{木/} 木/トシ 木/トシ ホノトシデ サカナガ" ク
あ まあ きの年 きの年 て" 魚 が" 来
ルトキモアル コネトキモアイカナ一 ホンナ一 ャッパリ コ
ろと きじある 来てよいとももあらからねえ。 なんすみ やっぱり こ
一ユーフーニ シケ シケデモッテイカシ一 ャッパリ ^サ ヨ
うゆうかうに 時化てしまつているかねえ やっぱり 陽

一 キ / グエデ / 一 サカナモ ヤッパ オニモイ キガウワ /
気の 具合 ^{がね}え 魚 も や, ほり 大 変 違うわね
一 ズーット ヒョーリツズキバッテモ オイネシ アメツズキバ
え。 すう, と 日 和 続きばかりでも かけよし 雨 続きば
ツデモ オイネシ / 一 サカナアンカチュー モンア ヤッパリ エ
かりでも かけよし ねえ。 魚, ほんか といふものは や, ほり え
一 トーカニイッペングレー アメガ" フッタリ カゼモ フイタ
え 十日 一 遍ぐら、 雨 が 降, たり 風 が 吹い
リ シナウテア エー ヤッパリ タメダ / 一。 (咳)
たり しごくつは ええ や, ほり だめだ ねえ。

T ニデ ムカシ トレタツキュー / 一 アジヨ アジヨダカ アノ
んで 昔 採れた, といふのは どう どうだろか あの
一 ヤッパリ ヨガ⁽²⁾ イタンカノー。
う やっぱり 魚 が いたのか ねえ

H ヨモ イタワケダデネー。
魚 も いたわけだ ねえ。

S マー ムカシト イマデワ アッタ / 一 ジューブンダラ イッケ
まみ 昔 と 今 は あれだ ねえ 十 分 ほら いいけ
ニ ニジューブンモ サンジューブン マー ヒヤッピ / ウチ イ
と ニ十分 も 三十 分 (も) まみ 百 匹 の うら 一
ッピグレシカ イネー / 一 (咳) テ コ / コガツ
匹ぐら しか いほい ねえ。 みみ て こう 小 鰐
アンカチュー / ガ アンダモ / イッピモ イナウナッキマッタ
ほんか といふのが あれだ もの 一 匹 も いほく ほ、 ましき、 た
モン / 一 コンデ コトシラー。
もの ねえ。 これで 今年 あたつは。

- H コトシラ マンデ イネダモンノ一。
今年 うは まるで いたいたものねえ。
- S アジ アジモ マレッキリ イネダモンノ一。
鰯 鰯も まる、きり いたいたものねえ。
- T アノ一 バーアンアンカーサー アノ一 ジビギ⁽³⁾ ヤッタッペ。
あのう ほあさんとんかほあああのう 地曳 やつてげしう。
- H アイ。
あい。
- T アノシブンワ ヤッハリ ヘーザウラニ⁽⁴⁾ イタニカノ一。
あの時分は やつて 里砂浦に いたのかねえ。
- H アイ。ヘーザウラニ イタデスワデヨ。コマシユ一ネ。
あい。里砂浦に いたげすよう。こましとへうね。
- T ウン。
うん。
- H アノ一 ナニガ コマッケ ホラ アミ アミチューデスワデネ。
あのう われが 細かい ほら 醬蝦 くわいすわよねえ。
- T ウン。
うん。
- H アレガ ショッキュ一 ナザニ イタデスッテ ダカラ テーゲナ
われが いつも 渚に いたんですよ。だから 大抵
ガエト ホノ エサ タベベガタメニ アンノ サカナニヨラズ
渚へ えの 餌 たべたいがために 何の 魚 によらず
マ一 ナザエ イタデスダヨ。エン イタカラネ ニデマ一 イワ
ヨリ 渚へ いたんですよ。 いたからね いわあ 鯨
シアンカラダテモ ヤッハシ キタキニワネ ホントニ タマテ⁽⁵⁾
ほんか でも やつて 来たときにはね 本当に たま

スールヨニ キタデス タカラ デ アントカスルト アノモト
拘ラモウニ 来タガフ たから て 何とか するこ あハ 元(a)
トメシクワエネ ドーット イワシガ ヘエーッテ ホラッチュテ
留ハ川ヘタ どうと 魚が 入テ そち, て, 7
ミシナ スーッテ アンタ イッコ スールシデニ スーッテ モ
モん仔 拘, て あひて 一向 拘ハレドリに 拘, て 持
ツテキテネー シタダカンネ ホントニ ハー アンデスマデヨ
7 来テね しただからね 本当に ほみ あれどモト
モトト マッテ アノ サカナ ダカラ アノ一 オニデスマダヨ
元モト まろで あハ 魚は だから あハラ 何でモト
イトー ヒトガ アノ一 シリサガリッチツテネ マインチノヨ
伊戸ハ 人ハ" あハラ 後下リと ひ, てね 毎日ハ よ
一ニ キテ スズキ アノ ツツテ ホツ カゴサ イレテ ソイ
うに 来テ 鰯 あハ 鈎, て ほ, 籠に 入れて そし
テ" ⁽⁷⁾ ワタシラ ホノ ハンバイサ ケールトキア イトーマデ" 三
7 わたしら あハ 販売に 帰るときは 伊戸 ま" 背
ヨツテ イガンネカラ オイテアネ オツテ ケーッタデスマヨ ホ
貰, て 行かればから 置, てね 置, て 帰, た"モト そ
イガ" ユツタリッチューテ メンチ ナギサデ" ツツテタデスマダヨ
ホガ" 級 人とい, て 每日 渚で 鈎, てた"モト
ズーット ネ ユツタリッテ ネ ホイデ" コイ一 カゴイ ミン
チラ, と ぬ 級人, て ぬ それで" ミニヘ 籠へ みん
ナ ショツテ デ" テネ カゴサ イレテ ソシテ マ一 ショツテ
モ 背貰, て 出てね 籠へ 入れて そし, て まみ 背貰, て
イツタクレネ ダカラ イナダ" ⁽⁹⁾ ダテ アンタ" ッテ ヤッハ" リ アノ
行くこね たから ひげだ" ダ, て 7 ほんた, て や, ほ" リ あハ

ホ！ コマシガ" イナウナッタ セデスダ"ヨ コマシガ" イマ イ
タの こましが" いたくては、た セ"ハ"モド こましが" 今 い
ネソデスヨ ヘーダ"グラニ ホガ コマシ ワタシラガネ ア
ナ"ナ"ナ"ナ"モ 平砂浦に そが" こまし わたしらが"わ あ
の ワケトキヤネ (笑) コマシ ヨル ヒーイッタデスダ"ヨ ホシテ
若いときはね こまし 夜 引きに行つた"モ そして
ア！ ナミ！ コナミガ" アルトキア アタマゴシン ナッテ ヨ
あ"の 波の 小波が" あるときは 頭越しに 丁子、て 夜
ルデスダ"ヨ イクラ スキッキュッタテネ アキタ"カラ サビ"デス
て"モ へくら 温いといつた"ては 秋 だから 寒い"モ
タ"ヨ
よ。

ソシテ アンタ ホイテ ア！ コマシブロッキュー"テネ コノッ
そして あんた それで" あ"の こまし 袋、て い、て ね この
ケグレー ナガサ！ アンデ" ユッショーグレ ！ー ア！ スー
ぐら" 長さの あ"れ" 何 けぐら" のう あ"の 捏
ツテサ ！ー コー マッセナ マッセナッテ コーヤッテ フタ
、てさ こ"う や、せ"モ や、せ"モ、て こ"うや、て ニ人
リツツ コーヤッテ ナニシテ マンナカエ ヘーッテ コーヤッ
テ"モ こ"うや、て 仕にして 真中 へ 入、て こ"うや、
テ シヨンビテ ボ"ット ナンバンジロチ"ツテ アスコマデ" イ
テ し"モ、引"モ" う"と 何 番 代 とい、て あ"るこ"まで 行
ツテネ ソシテ ア！ ハー アスコカラ マー コンダ" ケール
、て ね そして あ"の ほ"あ あ"る"から ま"あ 今度は 帰
トキア カツツ"テ ケンデスダ"ヨ ホシテ ソレガ" イナウナッタ
るときは 担"い"て 帰る"んで"モ。そして ソレガ" いたくては、た

カラ ヤッハイ ナダエ サカナガ" ヘーラナウナッタモニヤラ
から やはり 渚へ 魚が" 入ラドくドモ, たものやら
コノズーット アッデスワ ヘーダウラヘ ズーット マツガ"
平砂浦へ 松が
ネ ベツモリガ" ミンナ クラガニデ イタデ"スヨ クラガニデイ
ね 松森が" みんドモ 暗が"て いたで"ヨモ 暗が", て
タノガ" コノ ミンナ イクサカラ ミンナ キツキマッタカンネ
たのが" ニの みんドモ 戦から みんドモ 切, てしま, たからぬ
アカルーナッタセモ アンダ"ッペッテ ユーケン ダイイチ エサ
明るくな, たせ, も あるだ"ろう, て ハ"うけと" 第一 餌
ガ" ナウナッタデスモ! ヨ コノ コーバガ" デキタタメニ コー
ガ" ほくドモ, た"で"す ものと ニの 工場が" 出きたために エ
バ! ナニガ" リー ナ ~~カ~~^{xxx} カワエナガレテ ヘーカウラ工
場の ほにが" ろう 川へ 流れて 平砂浦へ
オキルカラネ コマシガ" アラガ"ッチャッタデ"スッテヨ キット
落ちろからぬ こましが" 離れて しま, た"で"す キ, と
リ"セデスヨ エン ダカラ コノ マー コーバガ" デキテ ミ
メのせ, "すよ た"から ニの まみ 工場が" 出来て ミ
ンナ カセガ"レーッカラ イーデ"スケンネ リヨーシガネ" リラ
ん作 縁が"れすから よ"う"すけと"ぬ 漁師が"ぬ そら
コマツ"チャウデ"サア"デ"ヨ ネ カナラズ" アニデ"ッサア アノ一
回, こ"し"まう"で"すよ ぬ こ"す" あれ"ア あ"のう
ホノ一 ナニ キツタネモニガ" タガレネバ" イママデ"シヨニ コ
メのう ほに 汚"物"が" 流れだけぬは"今"す"の"う"に ニ
マシガ" イタカンネ イロンナ サカナガ" キマスヨ デー アン
こしが" いたからぬ いろん"魚"が" 来す"す" で"え みん

タ 一 アレ ホラ アノ一 マルヤマダシ⁽¹⁾ ホラヨ ヒロネ
ト のう あれ ほら あぬう 丸山出し ほらす 広根
ネ アノ一 カミア アラ アンダテヨ 一 ジサン ホノ一
ね あぬう 上に あら 何んだてよ のう じいさん ぬのう
~~~~~ ネネニハ エー サカナガ "ハッタデ"スヨ。  
根根には よい 魚 が ついていた。す。

S アン。

ぬん。

H ネー。

ぬえ。

T ジサンワサー アノ一 ヤッパリ ジビキ イッタタ"ッペアテ"一。  
じいさんほさみ あぬう や,ほり 地鬼へ 行,たんだ"ろう。

S アン。

ああ。

H ヤッパリ イッタデサイアテヨ。  
や,ほり 行,た でます。

T エー ジサン ユツツグレントキカラ イッタカイ。  
ええ じさん 繰りぐらいのときから 行,た かい。

S ホダ ニジユーゴノ トシカラ イッタノ一 ニジユーゴノ トシ  
そだ"ニ十五の 歳 から 行,たぬ一 ニ十五の 歳  
カラ 三一 ハ一 シューセン ニジユーゴノ トシカラ シュ  
から ほあ 終 戰 ニ十五の 歳 から 終  
セン マ ョンジユーネングレ イッタッペノ一 ョンジユーネン  
戦 ま 四十年 ぐらい 舉,ただ"ろうぬえ。四十 年  
イッテ (咳) ジビキデ イロシナコトモ アッタヨ ヒトオ タス  
行,た 地鬼で いろん行ニセキ あ,たす。人を 助

ケテサ コ コドモオ ヒトリ タスケテ シンジマッテカラ オ  
けでニ 子供を 一人 助けで 死んでレモ、マカラ 陸  
カエ アゲテ、 ホッカ イロンナコト、シロ ミンナ シロトダ"  
ヘ 上げて、 それから いろんに しろ みんな 素人だ"  
ツペ イロニナゴト ~~ミ~~ ~~タ~~タッケン ~~シタ~~ッケン アンダ"一  
う いろんに しろ しにけと" めれで"ねえ  
エー イッコ イキ ~~ダ~~ タ"サナウテサ (咳) ホイカラ アシツカ  
一向 見" 出さなくて、 それから 足摺  
メテ サンニン ヨッタリ" アシツカメテ オガサン シテミタ  
まえ 三人 四人で 足摺まえ 逆に してみた、  
リオ オゴシテミタリ オガサンシテミタリ シタトロ イクラカ  
リコ 起しゃみたり 逆に してみたり したところ 幾らか  
ミズ ヘータトコアシダ" ヘタダ"ヨ ヘタ エー コンデ コンデ  
水 吐いたことあらんた" 吐いたんだよ 吐いた。ええ これで これで  
マー ゴロッカイ ヤッタトロ イキダシタカラオ一 エ コン  
まえ 五・六回 や、たところ 生き出したからよう え これ  
デ"ウ タッシャニ ナンナシッテ ホイカラ マー / ハラ タ/  
でけ 達者に ほろほといで それから まえ 野原 頼  
ミ イッタッケン / ハラガ イナウテサ ホッカラ フルカワサ  
みに行たけれど" 野原が いなくて、 それから 古川<sup>(43)</sup>  
ン タ/ンデキテ ホシタトロ アトウ アトウ ワカラネット  
ん 頼んできて めれでところ 後は 後は めからねかった  
ケン / イシャガ" ウエーテ イッタカラ ホイカラ ホノオト  
けれどね 医者が 達れて 行たから。それから その男  
ゴウ タッシャン ナッテ タッシャン ナッテ アンダ" (咳) 木  
口 達者に ほつて 達者に ほつて めれで" そ

アスコ ドーダ アラー スノミヤ<sup>(ア)</sup> スノミヤダ ゴロベ<sup>×××</sup>  
あすニ ビニド<sup>ア</sup> あれは 州の宮<sup>ア</sup> 州の宮<sup>ア</sup>  
ゴロベ<sup>(ア)</sup> チュ<sup>ア</sup>キノ セガレダ<sup>ア</sup>オ ホイガ<sup>ア</sup> デース ホ<sup>ア</sup>  
五郎 兵衛<sup>ア</sup> 家の 伴<sup>ア</sup> だ<sup>ア</sup>よ。それが<sup>ア</sup>それ<sup>ア</sup>で そ<sup>ア</sup>  
セガレウ アッダナ コンダ<sup>ア</sup> センソーデ<sup>ア</sup> シンダ<sup>ア</sup>。

伴<sup>ア</sup> は あれだ<sup>ア</sup> 今度の 戦争<sup>ア</sup> 死んだ<sup>ア</sup>ねえ。

コノマエ イクナガ アッテ マーノー ミンナ チガッテ 三マニ<sup>ア</sup>の前 戦<sup>ア</sup> あ<sup>ア</sup>て まみねえ みんな 違<sup>ア</sup> レ<sup>ア</sup>  
ッテ。

ア<sup>ア</sup>。

デ<sup>ア</sup> バーサンアンカウ ヤッパリ ジビキオ ヤッタングッペケン<sup>ア</sup>  
て<sup>ア</sup> ば<sup>ア</sup>みさんばんか<sup>ア</sup> や<sup>ア</sup>ほ<sup>ア</sup> 地<sup>ア</sup> や<sup>ア</sup>たんだ<sup>ア</sup>うけ<sup>ア</sup>  
アンデ<sup>ア</sup> オンナモズイブン ジビキ ヤッタダ<sup>ア</sup>ッペ<sup>ア</sup>。

あれ<sup>ア</sup> 女<sup>ア</sup> 隨<sup>ア</sup> 分<sup>ア</sup> 地<sup>ア</sup> や<sup>ア</sup>たんだ<sup>ア</sup>うねえ。

ソーサナ<sup>ア</sup> ナナジュー。

う<sup>ア</sup>み 七<sup>ア</sup>十<sup>ア</sup>

ア<sup>ア</sup>ンデ<sup>ア</sup> ユ<sup>ア</sup> ユッタリグレー フキキヨ<sup>ア</sup> フキコガ<sup>ア</sup> アッタダ<sup>ア</sup>  
あれ<sup>ア</sup> 級<sup>ア</sup>人<sup>ア</sup> ぐら<sup>ア</sup> 引<sup>ア</sup>き子<sup>ア</sup> あ<sup>ア</sup>た<sup>ア</sup>う。

マアミ サカミイ タテワカッテ カゲマシテ ホシテ ア<sup>ア</sup>  
真<sup>ア</sup>網<sup>ア</sup> 逆<sup>ア</sup>網<sup>ア</sup> 縦<sup>ア</sup>に分<sup>ア</sup>かれて 掛<sup>ア</sup>け回<sup>ア</sup>して そ<sup>ア</sup>して あ<sup>ア</sup>  
ナダエ ヒキヨセテ<sup>ア</sup> リシテ(咳) フ<sup>ア</sup>ロオ<sup>ア</sup> シメテ<sup>ア</sup> ア<sup>ア</sup> サ  
渚<sup>ア</sup>へ 引<sup>ア</sup>き寄<sup>ア</sup>せ<sup>ア</sup>ね そ<sup>ア</sup>して 袋<sup>ア</sup>を 締<sup>ア</sup>め<sup>ア</sup> あ<sup>ア</sup>  
刀ナオ<sup>ア</sup> ア<sup>ア</sup> ヘッタ<sup>ア</sup> フ<sup>ア</sup>ロオ<sup>ア</sup> マー ミンナ オンタタキ<sup>ア</sup>  
魚<sup>ア</sup>を あ<sup>ア</sup> 入<sup>ア</sup>、下<sup>ア</sup> 袋<sup>ア</sup>を まみ みんな 女<sup>ア</sup>達<sup>ア</sup>  
コ<sup>ア</sup>シバッテ<sup>ア</sup> リシテ<sup>ア</sup> フ<sup>ア</sup>ネオ<sup>ア</sup> オキエ<sup>ア</sup> ダシ<sup>ア</sup> ヤッテ<sup>ア</sup> ニ<sup>ア</sup>  
ニ<sup>ア</sup> 繩<sup>ア</sup>、ア<sup>ア</sup> そ<sup>ア</sup>して 船<sup>ア</sup>を 沖<sup>ア</sup>へ 出<sup>ア</sup>して や<sup>ア</sup>、舟<sup>ア</sup>し

タデスケン メンチ メンチ マー ナギテセシアレバ メンチ  
たのですかね。毎日 每日 まあ 皿でさえあれば 每日  
ホノ マー ミズアゲガネ デキテ マ ジビキガ イチバン ハ  
その まあ 水揚がね 出来て 地曳が一番  
ンバイノ 一 マー ブエ アゲルトカッテユ一 ハナシデシタ  
販売の う まあ 歩合 上げろとかいう 話 でした  
デヤ ダカラサ マー アノ ムカシヨニ ダカ イマデモア  
よ。だから まあ あの 昔の ように だから いまでも あ  
ノ タイ ア アラ アンチュー ネダガナ タイトネ ホノ イ  
ノ 鯛 あ あれは 何ニラ 根下(18)たかは 鯛とね その 良  
一 サカナガ ツーテル ナニ ウシマツ(18)ノ アノ ツリブネ(18)  
ノ 魚が つづつ ほに 丑松の あの 鈎舟の  
ミシナ アノ ヒトオ 1セテ ソシテ ホレ ミョベニ ヤツテ  
みんす あの 人を 乗せて そして ほれ 商売に やつ  
シデスケンネ ホシテ ホノ ヒトガ ホノ ネオ オボエテ ソ  
い3の うけどね。そして その 人が その 根を 見えへつ  
シテ ソコデ タイ ヤッパシ ツッデスッテヨ ツルト ホカノ  
して そんで 鯛 やはり 鈎るんで す。鈎るこ 他の  
サカナワ デワ ミンナゲ クレティツテ ソシテ ジブンタチ  
魚は では みんなに くれへつて そして 自分達  
ノ イ一 サカナオ モッティイグツテ ハナシデスケン マダ ホ  
は 良い 魚を 持つて 行く。と 話すけど。まだ イ  
ノ イ一 サカナガ ネガ アッテスダデヨ ダカ マ ムカシ  
の 良い 魚が 根が あるんで すよ。だから ま 昔の  
ヨニ ジビキオ ヤレバ マ アノ ネジビテユ一 ジビキ ムカ  
のように 地曳を やれば まあ の 根地曳と いう 地曳 昔

シ オカミ ナニ ツキトシテ<sup>(19)</sup> アッタデスチャデヨ ソシテ  
お上 ほに 月として あたたかうござります。そして  
ヘーザウラ ホノ一 ナギサオ ホノ一 イクラッチャ ケンリ  
平砂浦 その 渚を その いくらと いう 権利  
オホノ ジビキガ モッテネ ソシテ アノ マー アノ一 三  
を その 地曳が 持つてお そして あの まみ あのう 指  
キ シタデオーデヨ ホレ マー ミンナツ シラネカラ アノ一  
揮して ます。ほれ まみ みんなは 知らばから あのう  
アンデスケン シテ ヘーザウラ ダー／＼ ナニガ キソクガ  
あれど けど いへ 平砂浦 だまねえ。何が 規則か  
カワツテ ソシテ イマ ヘーザウラガ アイノハマノ ヘーザウ  
変、て そして 今 平砂浦が 相の浜の 平砂  
ラデ ネートカツテユ一 ハナシデサ アイノ ヘーザウラツテ  
浦で ほとかと言う 話でさ 相の(浜) 平砂浦、ア  
ユッテイタデサアデ アイノハマノ ヘーザウラ ソシテ ジビキ  
言つてお ます。相の浜の 平砂浦 そして 地曳  
ガ ホノ ケシリオ モッテ ソシテ マー アノ ナギサ イク  
が その 権利を 持つて そして まみ あの 渚 いく  
テユ一 フタシラ ホノ アイノハマノ ケンリデシタデヨ ソ  
うと いう わたしら その 相の浜の 権利でして ます そ  
レガ ケンリ ナクシタカラ マ アッデサアデヨ トド アッキ  
れが 権利 ほくしてから ま あれで ます あ、ち  
／ スノミヤジタノモノワ キッカリ ナギサマデノ ケンリダキ  
の 州の宮下の者 は き、り 渚までの 権利だ  
ユ一デネ フジヤラジタワ ナコ ナニスル イヌイシノモン  
いうの づね 藤原下 は ほ こ ほにする 犬石の者

ワ イスイシ/モンデ コ セメテ アラ アンナニ ナッチャッ  
は 大 石 の 者 で 攻め て あら あんばに す。 てしま  
テ ナギサガ イクラモ ネデサアデヨ ズーット ナギサカラ  
テ 渚 が いくらも す。 すう、と 渚 から  
ナシケンッテネ アイハマノ ケンリニ キャント ナッテタデ  
何 間 、 てぬ 相の 浜 の 権利 に ちゃんと す。 ていた  
スッテヨ ソレオ アンタ ドー キケタン シラネツ ノー ナ  
でます。 それと あんた どう 違えたのか 知らす。 のう す  
ニ 下 / イミ <sup>(21)</sup> ア / カズマヤン <sup>(22)</sup> オトツアシヨ ドー アレ  
に みの 伊衛門 みの 数馬屋 の お父 さん よ どう あれ  
シタダニ シラネッケンネ ソシテ ケンリオ ホンダカラ ハル  
したのか 知らす。 けれど ソレで 権利 を もうだから 売る  
トキニ ホ / ケンリオ ア / ナニシテ シラベテ ソシテ ハ  
とき に みの 権利 を みの すに して 調べて そして 売  
レバネ イマデ ア / ジビキ / ナカマエ ホ / ケンリガネ  
ねばね 末だに みの 地曳 の 仲間に みの 権利 が  
モラワレッテスッチャデヨー ホレオ ガラ ムヤミニ ウツテシ  
貰わねるんです。 てす。 それと つ。 ムヤみに 売る、アレ  
マッテサ コイバイワ ビックリシチャッタノー マッタク ア  
ま、 てこ これがかりは びくりしてす。 てぬえ。 全く みの  
トキヤ。  
とき は。

ト ニデ アイカノー ア / ジブンワ ヤッハイ トッタンカノー ジビキワ。  
んて あれか。 ぬえ みの 時分 は やはり 採れたのかぬえ。 地曳 は、  
ト アー ジビキワ アンタヨー アレ。  
ああ 地曳 は あんた よう あれ。

S アー マ ジビキワ アッタノ ジビキワ ソートー カネンナツ  
あれ す 地曳は あわだれ 地曳は 相当 金 に て、  
タッケンノー。

だけと“ねえ”。

H カネンナツテ ソシテ。  
金 に て も ソシテ。

S カネニワ ナッタッケン。  
金 には て、だけれど。

T アンガ ヘエーッタシカノー。  
何が 入、たのかねえ。

H エー サカナガ ヘッタデスヨ。  
良、魚 が 入、た で すよ。

S マー シマアジ イオキ ホイカラ タマニワ タエモ ヘエーッ  
まあ 縞 鯵 伊佐木 それから たまには 鯛も 入、た  
タッケンノー (咳) マ イー サカナデワ シマアジ イオキタ  
けれど ね ま 良、魚 では 縞 鯵 伊佐木  
ー イオキ タイ ンデ ナ ン一 ナカニワ アジダトカイ  
れ。 伊佐木 鯛 いそ たまには 鯵 たまとか  
アイ ハカシャー アーユー サカナワ マスッタダオ イマワ  
昔 は あわやう 魚 は 安か、たまよ 今は  
ネガ イッケンノー アジダトカ アンカチュー サカナワ アン  
値が よいけどねえ。 鯵 たまとか たまかという 魚 は あん  
まり。

H イオキモ カタマッタキニワ カタマッテネ ノー アレー ソ  
伊佐木も 塊 す、たときには 塊 す、れ。 のう あれ 曾

ータロネトカッキュー マー ネー カエルト カタマッテテテ  
太郎 根とかと いう まあ 根に 懸けると 塊まで いつ  
ホラ ヨッホド ナギ/ ショー/ イー トキデネバ アレー<sup>(23)</sup>  
ほら 余程 風の 潮の 良い ときで だければ あれ  
オキカラ 力 <sup>xxx</sup> カエルカラネ ショー/ ゲエーテ アンタ チヨ  
沖から 懸けるからね 潮の 具合で あんた ちよ  
ット ヨコニ ミタリアンカスルト ホラ サカナ/ ナニガニ  
っこ 横に したリ すくかすると ほら 魚の アモニが 逃  
げてしまふから その 具合が あかねか 容易で あくた  
ー。マママキ/ ナゲマハナシデノ。ムカシワホ  
ねえ。ままま 気の 長い ま 話 べねえ。昔 は 本  
ントニ タイヘンデシタ アレー ネオカガッテワ ネオオコス/<sup>(24)</sup>  
当に 大変 でした。あれ 根に懸っては 根を起すのを  
マッテテテワ マタ ヒキアゲテサネ マタ ネサカガッテワ ヤ  
待つて は また 引き上げて さぬ ま 根に懸つては ヤ  
メテ ホシテ ヒキアゲテ ソシテ ナダエ ネー ツケルマテ  
めて そして 引き上げて そして 渚へ ねえ 着けるまで  
ヨイトデ ネデスモ/ ハンニキ ハンニキズツ カガツチャウデ  
容易で あつて るもの。半日 半日 すつ かかる てしまふ  
スモ/ ソレ アンタ アッツー スナ/ ウエエサネ ソシテ  
ぐもの。あんた 暑い 砂の 上に こね そして  
オシタキヤ ソシテ ベックリシテア シタエト オリテワ ツ  
サ達は そして びくくりしては 下へと 降りては  
シテ マタ コー ヤツアヤツア ヤツアヤツアッテ ヒーテサネ  
して また ニラ や、さや、こ や、さや、こ、て 引いてさわ

(25)  
ホッホッ マータ アンタ ホラッツァイテ ノー サッケエン  
ほ、ほ、まみ下 みんた ほら、さあ、て ねえ 左久衛の  
アノ アソノ ジーサンノ メダッケン サッケノ ダンナガ  
あの あそこの レーマンの 前だけど 左久衛の 旦那が  
イキド<sup>(26)</sup> シリサ アノー シッテタオソニ キテ バサンガ<sup>(27)</sup> ホノ  
一度 後に あのう いっておりに 来て ばあさんが<sup>(28)</sup> その  
オヤガネー アッツペッテ ホラ アッツペカラ ア ホラ アー  
おやべ<sup>(29)</sup> 暑<sup>(30)</sup>たう<sup>(31)</sup> ほら 暑<sup>(32)</sup>たうから あ ほら ああ  
リテ キョード<sup>(33)</sup> ミシナガ<sup>(34)</sup> オッ ジイー ジビー フアーズ<sup>(35)</sup>  
とい<sup>(36)</sup> ちう<sup>(37)</sup> みんすべ<sup>(38)</sup> お、 地鬼<sup>(39)</sup> 地鬼<sup>(40)</sup> 引か<sup>(41)</sup> に  
オヤジ<sup>(42)</sup> ア ジブン<sup>(43)</sup> ムスコ<sup>(44)</sup> ヘー ホー オッテレキュッテ  
おやじの<sup>(45)</sup> 自分の 息子の 蹤<sup>(46)</sup> を 追<sup>(47)</sup> いふ<sup>(48)</sup> に  
ワ ミンナ ワラッタッタッケンネ マッタク アッソーデスカラ  
ほ みんた ねら、たこが<sup>(49)</sup> あ、だけ<sup>(50)</sup> わ 全く 暑<sup>(51)</sup>て<sup>(52)</sup> から  
ヨ アッツー サナカオ ソシテ マー ヨー マーッテ ワタシ  
ト 暑<sup>(53)</sup> 最中<sup>(54)</sup> と えし<sup>(55)</sup> まあ よう 全く わたし  
ラ ~~ミツツ~~ コドモ ブッティッテ ソシテ マー ホーン ホント  
ら 子と<sup>(56)</sup> 飛<sup>(57)</sup> 背負<sup>(58)</sup>、 て えし<sup>(59)</sup> まあ ほふく ほんと  
ニ マー ヤッタッケンネ。  
に まあ や、たけ<sup>(60)</sup> わ。

T ナンガツカラ ナンガツグレマテ<sup>(61)</sup> ヤッタシカイ。  
何月から 何月ぐら<sup>(62)</sup>す<sup>(63)</sup> や、たのかい。

H エー。  
ええ。

S サンガツカラ。  
三月から。

H モトワ ミガツダツタデノ一 ミガツダツケン コンダ ハンガツ  
元は 四月だ、たゞねえ。四月だ、たゞねえ。今度は 三月  
一。  
のう。

S サンガツカラ ロクガツマテ ゴガツ イッペダノ一。  
三月 から 六月まで 五月 いはばいだねえ。

T (咳) ナンジゴロカラ ヒーダスダカ。  
何時頃 から 引き出すだか。

S エー マー シヨトキニヨッテダカンノ ~~ア~~ アサ ニジゴロ イ  
ええ まみ 潮時によつてだからね。 朝 二時頃 行  
ケトキモアル ジュージゴロ イグトキモアルシサ マー シヨト  
くともあれ 十時頃 行くともあれして まみ 潮時  
キ シオノ カゲニデ イグダ ヤニダカンノ ニダカラ ナンジ  
潮の 加減で 行いだ やろんだからの だから 何時  
チユーコトワ デキネ 1ワシネーワ。

とこうことは てきねい かわねばいわねえ。

T アサノ ニニゴロカラ ヤシノカイ。  
朝の 二時頃から やるのかい。

S アー ニジゴロカラ デテッテサ。  
あみ 二時頃から 出て行くね。

T 木一。  
ほう。

S テンタマ ~~アガラ~~ ~~ア~~ アガルカ アガラネートキ シヨーベーシ  
天道様が 上がるか 上がらないとき 商売 し  
テサ チュートキモアル マタ (咳) シヨトキニヨッテ ジュージ  
マタ とこうともあれ。また 潮時によつて 十時

ゴロ ミナトカラ デルトキモアルサ マ ~~ニサ~~ アサ ジュージ  
頃 港 から 出るときもあらさま 朝 十時  
ゴロ イグトキガ ~~~~~~~~~ ニシゴロ イグトキガ イチバン コ  
頃 行くときが 二時頃 行くときが 一番  
1 イダオ (咳) マー アンダナー オカナアンカキューワ ~~ヌ~~  
ア ~~ハハハ~~ まみ みれた まみ 魚 なんかと いうものは  
~~アノシブン~~ ~~カシケシタグレ~~ ヒヤクブンノイチシカ イ  
みの時分の 考えましたら 百 分 の 一 しか  
ネーーー アジアンカ アンナモワ トッタッテ ゼニンナラネ  
下さい。 鮎 なんか みんなものは 採ったて 錢に ~~下り~~ <sup>下り</sup>  
ハ ナラネカラ アンナモナ ミンナ クレタリ オカズニシテ  
た う ~~下り~~ <sup>下り</sup> から みんなものは みんな くれたり おかすに <sup>して</sup>  
マツタリ <sup>(8)</sup> シタツケン一 イマ ホノ アジガ ネガ ヨーテー<sup>一</sup>  
しま, トニリ したけど ねえ 今 その 鮎が 値が 良くて  
-----。  
-----。

T ニテ アイカノイ イクラグレ トレタンカノイ。  
ルビ みゆかねえ 級らぐら 採れたのかねえ。

S ノーサノイ マ イキンチ マ イイギガ イサギアンカデ アッ  
う ねえ ま 一日 ま 伊佐木が 伊佐木なんかで みゆ  
ダノイ イキンチ ~~三~~ <sup>××</sup> ゴヒヤツカシモ ヘーレバ イホーダッタ  
た ねえ 一日 ~~四~~ 五百 貢も 入れば 良い <sup>アタマ</sup> だ、下  
ノイ アン シマアジアンカタ ニヒヤツカシ ヘーレバ ダイリ  
ねえ みん 緝 鮎 なんかだと 二百 貢 入れば 大  
ヨタカンノイ (咳) テ シマアジキュ サカナワ アンマリ タ  
漁だからねえ。 び 緝 鮎 なんかと う 魚 ほ あまり 汁

クサンナ シナデ"ネタ"カン! ヒトアキニ サンビ"ヤツカシ ヨン  
山下 品"アフ"の下"からね ひと秋に 三百貫 四  
ヒヤツカシ トレバ マ ヨツキ イツツキノウチノ ヨンヒヤツ  
百貫 採れば ま 四月 五月 のうち 四百  
カントレバ イーホーダッタノー マー イヤギ"アンカワサ マー  
貫 採れば" 良"オ"だ", たねえ。 まみ 伊佐木 ほんかほさ まみ  
三 <sup>xxx</sup> ゴセンガニグレ <sup>xxxxxx</sup> フトアキ ヒトアキダカン! ゴセンガング  
四 五千貫ぐら ひと秋 ひと秋だからねえ 五千貫ぐ  
レ トランバ オイネッタッケン マー コッテ <sup>xxx</sup> ヨンヒヤク  
ら ひ 採らなければいけないか, たけねど。 まみ こねど 四百  
エン カセダ <sup>xxxx</sup> トシガ 1千バン デーリヨダッタノー ヨ  
円 締いた" 年が 一番 大漁だ", たねえ。(四  
ツキテ" ヨンヒヤクエン。  
月" 四百円。

丁 ンデ" ダイリヨントキワ アイカノミシナ ヤツハリ マイウ  
ム" 大漁 のとき あれかねえ あれは やつぱり 万祝  
エ アンカ キタンカノー。  
ほんか 着下のかねえ。

ソ アー キタノー。

まみ 着下のねえ。

ハ マイウエ ナンカイ キタカイ ジサン。  
万祝 何回 着下かい じさん。

ソ サンカイ マイウエ サンカイ キテノ。  
三回 万祝 三回 着下ね。

ハ ハーーー オラ イマダニ-----。  
まみ のう おら 乗下"に-----。

S マー ナニ エート ヨンジューネン/ウチ マイウエ <sup>××××××</sup> マイウエ  
ヌメ 丁子に 元々と 四十 年 のうち 万祝

チュー/ウ サンカイ キタッケン/。

マハラハは 三回 着たけれども。

T (咳) アイカノー マイウエ チュー/ウ ヤッパリ アノ タノ  
ヌメかねえ 万祝 マハラハ やっぱり ああ 頬

ンデ" ソメテモラウンカノー。

んで" 染めつもらうのかねえ。

S マー。

ああ。

H アイ タノンデ" ソメテモラウ。

あハ 頬んで" 染めつもう。

S ダー ホノ ホノ マイウエオ アンダ"デ" カイ <sup>××</sup> カイ キタモン  
ヌメ ヌメ 万祝を あわだす 買いに来た者  
ガ" アッテノ ミンナ ウッキヤツタッペオ ダカ イマ アイノ  
ガ" あ、マハ みんな 丁子は ました、たたこう。だから 今 相の  
ハマテ" マイウエ アンカ キモ/アンカチュー/ウ ネー ゼン  
浜で" 万祝 なんか 着物 なんかといふものは 無.. 全  
ゼン ネー/ー。  
然、無..ねえ。

T アイカネ バアサンアンカサー アノー シヨトキニヨッテ ニシ"   
ヌメかねえ ばあさん 丁子かまみ あらう 潮時によつて 二時  
ゴロカラ フネガ" デタ アンカーチュバ" ヤッパリ イッショニ。  
唄から 船が" 出た なんかといふは" やっぱり 一緒に。

S ヤッパリ イッショニ デネバ オイネノー。

や、は"リ 一緒に 出たければ" いけばねえ。

H イッショニ イッテー。

一 緒 に 行 て 。

T ウン。

うん。

H イッテテ ミシナ ホラ アノー ミシナ ヨソノ トヨリカ" 行 えーと みしは ほら みのう みしは よそ の 年 寄 か" アルカラ ハヤ デテクレテノ シルケン ワタシラワ アンデシ あるから 早く 出てく やつ すろけと" やたしらは あゆびレ タヨ デー コドモン ガッコーイ イグニモ コマッキマウカラ たゞ。 でえ 子どもの 学校 へ 行くにモ 困ニ レモうから ホレー ヘー ホ オッテランネカラ チヨイミン <sup>(30)</sup> アノ コドモ けれえ 蟻 <sup>ミツバチ</sup> 追 て から あゆはから 長衛門 みの 子ども ガ" イグモンデネ タノンデワ ホシテ オメラワ イグトキニワ が" 行くもの や 願 ねがは そして あんたしらは 行くときには ツレテッテ クラッシエー チッテネ ホシテ デテイッタデス 連 やつ 行 て くた" よ といつ や そして 出て行 た" す ヨ ウン マー マッタク ヨーイトネ ワタシラー イッコネ ようん まみ ま たく 容易 げはい やたしらは 一向 に や アンタ オブッテ イグダカラ オブッテ カゴオ コー ヨコニ あんた 背負 て 行くの だから 背負 て 篠 <sup>スズメ</sup> と ニラ 横 に ショッテ ホシテ デテイッターネー ンダカ ワスレラレネモン 背負 て そして 出て行 た みゆえ んだから ちゅうあゆは もの ネ デー ジゼキノ オカゲデ ワタシラモ ネ アントカ マー ゆ。 でえ 地図 の お陰 で やたしらも ゆ 何とか まみ アッデスヨ タベテイカレタデスヨ デネバ ナカナカネ オヤ あゆびす よ 食べて かかれた です よ あゆびす やは てす やは 親

ジ ヒトリ / カセギ"デワ コドモ タベオセテネ クラスゴト  
父 一人の 稲 では 子どもを 食べさせてぬ 蓋 ヨシヒ  
デキネッタデスヨ デン マ ジビキ / オカゲデ ソシテ マ  
でミタガ、たゞます。 もま 地鬼の お陰で そして モ  
アッデシタワ ナントカネー。

あゆみしてたよ ほんとかぬえ。

T ダッケン サビ"タ"ハヤデ" アサ ハヤク。  
だ"けと" 寒か, だ"うに 朝 早く。

H エー サビ"ニ アンタ ~ ホッカブリシテサー ホーヤッテ  
云々 寒"の" みんた 頬 冠リしてさみ うや, 7  
コドモニモ ヤッハイ ナニスンダカラ ワタイレガモヤオ <sup>(1)</sup> アノ  
子どものも や, ほり すに すんたから 綿入れかもや みの  
オイテキキヤッタリ カモ カンコ <sup>(2)</sup> オイテキマッタリシテネ  
置"つて 來"つて, たり かも かんこ 置"つて 來"つて, たりしてぬ  
ソシテ アノ シテ マッタク ヨイトデネッタデサ アッツト  
そして みの して 全く 容易"すか, たゞみ 暑"と  
アッツトキワ アンタ マタ バカマッタテサネ ヒルエン  
暑"とき あはて また 馬鹿暑"てさぬ 風の 盛りに  
ナレバ テッテ タイヘンデシタワ マー ミンナ カサ カブ"ツ  
ひゆげ" 照, て 大変"でしたけ すみ みんけ 篠 かぶ",  
テ ナイシ ワタシラー コドモガ イテテ カタ <sup>xxxx</sup> カサ カブ"ラ  
て ひがし わたしらは 子どもが 居"つて 篠 かぶ"う  
ンネ ウットシカン! カサ <sup>xxxx</sup> カサナシデ" セナカワ ビ"ッショリ  
れす" としいからぬ 篠 ほして" 背中"は び"レドリ  
ネー アセケテ デン コドモモ オトナシュー アレ シテ ダ  
ぬ 汗"かつ。 も 子どもも ぶとてましくて みれ して だ

カラ ワタシラーネ コドモガ アッテシタデヨ カミサマミタヨ  
から ゆたしら わ 子どもが あれでアリ 神様みたいな様  
ニ マー オトナシュー シテクレタカラ マー アントカ コー  
に まみ おこはしくて してくれたから まみ ほんとか こう  
ヤッテ キリスイテ ケーラレタダカラ ダカン マー オヌヌヌ オ  
やア て 切り抜けて 来られたのだから。だから まみ 親  
アワ ヤッパシ コドモデスカラヨ アンモ ニクーテ マー ネ  
は や,はアリ 子どもでアからよ。アホにも 憎くア まみ わ  
一 シツケルワケデ ネックン ヤッパリネー コドモワ シツケ  
え 襲 けろ わけで ほーけで や,はアリねえ 子どもけ 襲 け  
テ いマワ ホラ カワイカラネ フタリグレシカ コドモガ ネ  
て。今は ほら 可愛いからね 二人ぐらしあ 子どもが ほ  
カラネ オヤガ カワイガッチャッテ トシヨリガ アンタ コト  
いからね 親が 可愛いが,ちゃア 年寄が みんた  
アノー コゴト ユート ヤッパリネ イクラ コドモ! コダ  
みのう 小言を言うと や,はアリね いくら 子どもの うだ  
カラッキュテ マー エンリヨナシニ シタクレネ キモキフルガ  
からといへ 遠慮すしに けたりするね 気持ち悪が  
ルカラネー ハー (笑) コノゴロア アキラメテネ (笑) スルケ  
るからねえ。ほあ この頃 け 諦めア うるけ  
ンネ マー ~~袋~~ コドモデスヨ センセー エー カワイバ ヤ  
どね まみ 子どもですよ。先生。ええ 可愛いければ や  
アパリ ~~カワ~~ ア! カワイガッテ ソダテタ コワ イママデワ  
ハアリ あの 可愛いが,ア 育てた 子は 今まで  
ネ オヤココシタ コドモワ アリマセンヨ。\*  
わ 親孝行した 子どもけ ありませんよ。

T デビキアンカ ヤリナガラモ ミンナ ウタアンカ ユー ウタイ  
地曳 ほんか やり下がらも みんな 唱 ほんか ニウ 歌い  
ナガラ ヤッタンカ！一。

下がら や、下のかねえ。

H ウタ ウタイナガラ ヤッタデスヨ オンナタキワ。  
唄 歌い下がら や、下ですよ。ダ 達は。

S アー オンナタキワ！一。  
みみ ダ 達はねえ。

H ワーン。  
ううん。

T ド<sup>\*\*\*</sup> ドシナ ウタ ウタッタンカ！一。  
どんば 唄 歌、下のかねえ。

H ウン アゲテ〈(唄) ハーエー アゲテ オクレヨ エ ウワゴシオ<sup>(33)</sup>  
うん 上げて はみええ 上げて ぶくれす え 上腰<sup>ミ</sup>  
チュートネ ホカ！ シトガ〈(唄) アラ ヨーイトネ アー ア  
って言ひぬ ほかの 人が めう よういとね みみ み  
リアアリア アリアサ〉ツッテネ ホシテ チカラ イレテ コーや  
リあ みりあ みりあさ つい、され。そして カ 入れて ニウヤ  
ツテ ツツ ヒヨーシテ コーやッテ。  
ツツ うの 拍子<sup>ア</sup> ニウヤ、ア。

S アー。  
ああ。

H 〈(唄) ハー エー オキ！ マネ<sup>(34)</sup> ミロ センリヨバコ アラ  
ほめ ええ 沖の 真似 見ろ 千 両 箱 めう  
ヨーイトネー アラ ヨーイトネ アー アリア アリア アリア  
よういとね めう よういとね みみ みりあ みりあ みりあ

サ>ソシテネ ソシテ ミンナ ソシテ ャッテタデスダヨ ニー  
サ>といひね。 うしろ みんな うしろ やっていたですよ。

ハシニキ。

半日。

丁 ハー。

はみ。

ハ ハシニキ ャッテ ソシテ マタ ケールトキヤネ ハー コッテ  
半日 やって それで また 帰る ときはね ほみ これで  
イヤエッキテネ ホッテ" マー ア! ホ! ニー ホットシテサ  
良いだろ、うわ それで まあ あの その ほ、としてさ  
ネ シテ" マー ナガ! ウラダカラネ ダマッテ コネ ワタシラ  
は して まあ 長の浦 だ"からね 黙って 来ない。 わたしら  
一 ア! ア! 一 ナニ! オー ホラ オッキエ! ア! 一 ト  
は あの あのう ほにの おう ほう 船頭の あのう 藤  
ースケン<sup>(35)</sup> バーサント ロクオーガ<sup>(36)</sup> ウタ ウタッテネ ワタシ  
助の ば"あさんと 六 佐 が" 唰 歌、て わたしは  
コドモ ブッテーカラ ハマシ シテ ウター ウタッタコトネー  
子ども 背負ひから 嘘 して 唸み 歌、たこにはね  
! ムカシヤ アウブシ! 一 ヨー ウタッタケン ツイシカ  
の 背 口 安房節ねえ よう 歌、たけれど つーに  
ワレワレウ ホ! アウブシオ ウタッタゴト ネーカンネ ャッ  
われわれは その 安房節を 歌、たこにはからね。 や、  
ハイ ダカラ コドモモ アンデモ ヤリ"ケサシタホーガ イッ  
は"り だから 子どもも でも やりつけさせた方が 良い  
ペネ クチグサニ シタリ マ マッタリ シタリ シグト ウ  
だろ、ね 口癖に したり ま や、たり したり すると 德

ツクーデナクテ マー キガリイテ アレル ョン ナリマスカラ  
劫 で下くて まあ 気がついて やれり ように ほりまえから  
ヨ ホレ アタシガネ マッパイ いつ コーシテ ウタ ヒトツ  
よ。それ わたしがね や,ぱり 今 こうして 喰 ひとつ  
モ ウタウヨニ ナッテシマスケン ウタドコテ ネッタカンネー  
も 歌うように ほ, てしまけど" 喰 ど"こうで" ほか, だからねえ  
ウタワネッタッケンネ。  
歌わねか, だけれどね。

T ジサンモ アイカイ アー ジビキ / オッキエー マッタンカ  
じいさんも あれかい あう 地曳の 船頭 や, たのか  
い。  
い。

S ン アラネ ホノウキ ハー ウッチャッタモン。  
ん やらねい。やうら はみ 売, てしま, たもの。

T ウン デ" ジサンワ ケズケノ オッキエフ ズイブン ~~ナガ~~<sup>xxxx</sup> ナ  
うん て" じいさんは 海付の 船頭 は 隨分 長  
ガウ マッタッペ。  
く や, たげよう。

S アーン ソラー マッタッケンノー。  
ああん そらあ や, たげどねえ

H ウタシラー アッダモンネー。  
わたしみ みれた" ものねえ。

S コガ コガ マイベッキュー ジキガ キタトロ! ハー モー  
子どもが" 子どもが" やうといふ 時期が" 来下とこう ほめ もう  
ダメタカラ ウッチャウベー シッテ! ハー シューセンダッペ  
ダメだから 売, てしまふう とい, つの ほめ 終 戰 た"う

シユーセンデネ イクサガ<sup>(37)</sup> ハジマッキヤッタッペ ンデ ハ ア  
終 戦<sup>アフリ</sup> 戰<sup>ア</sup> が 始<sup>マ</sup> ち<sup>マ</sup> た<sup>マ</sup> た<sup>マ</sup> う それで て  
ンモカンモ ハー ダメタカラ デア ハルベーシテサ マ キヨ  
にモカニモ た<sup>メタ</sup>から て<sup>は</sup> 克<sup>ト</sup>うと いつこ ま 朝  
一センジンガ キテ イヤンベー=アノ トージ アンモカンモ  
鮮 人 が 来<sup>テ</sup> いい接<sup>ハ</sup>排<sup>ハ</sup> に みの 当<sup>タ</sup> 時<sup>ト</sup> て<sup>モ</sup> も  
ゼンブ<sup>デ</sup>モッテ ロッピヤクエン グレタ<sup>ッタ</sup>ネ ラン。(咳)  
全 部<sup>モ</sup>とめて 六 百 円<sup>メタ</sup> ぐら<sup>マ</sup>だ<sup>タ</sup>ね。ん。

ロクシ<sup>ッ</sup>キヤクエンデ ウッテ エ ロクセンエンカ ロクシキセ  
六・七 百 円<sup>メタ</sup> 克<sup>ト</sup> え 六 千 円<sup>メタ</sup> 六・七千  
ンエンデ ウッタナ ナナセンエン<sup>グ</sup>レ<sup>テ</sup> ウッタッペオ イッケ  
円<sup>メタ</sup> 克<sup>ト</sup> 七 千 円<sup>メタ</sup> ぐら<sup>マ</sup> 克<sup>ト</sup> た<sup>マ</sup>うよ。一軒  
ンメ ゴヒヤクエン<sup>グ</sup>レス<sup>ツ</sup> ワクタカ<sup>シ</sup>ー。  
前 五百 円<sup>メタ</sup> ぐら<sup>マ</sup> 分<sup>ク</sup>たからね。

丁 ニー ケース<sup>ズ</sup>ケン<sup>一</sup> オッキエ ヤッテット ヤッハ<sup>リ</sup> ムツカシ  
うん 海 付 の 船<sup>ボ</sup>頭<sup>モ</sup> や<sup>フ</sup>いると や<sup>フ</sup>は<sup>リ</sup> むずかし  
ノア アンカ<sup>シ</sup>ー。  
いのは 何かねえ。

5 マー ケース<sup>ズ</sup>ケ<sup>ノ</sup> オッキエ ニテ ムツカシモア ムツカシ<sup>ッ</sup>ケ  
まみ 海 付 の 船<sup>ボ</sup>頭<sup>モ</sup> して むずかしいもの<sup>ハ</sup> むずかしいけ  
ン アンダ<sup>ノ</sup>ー ヤッハ<sup>リ</sup> メカ<sup>リ</sup> メカリダ<sup>ノ</sup>ー アー ソ<sup>ノ</sup> ワ  
ど<sup>ハ</sup> めれた<sup>ねえ</sup> や<sup>フ</sup>は<sup>リ</sup> <sup>(38)</sup> 目<sup>メ</sup>錨<sup>リ</sup>だ<sup>タ</sup>ねえ。みみ や<sup>フ</sup> 若  
ケーラ<sup>タ</sup>ダカラ ヤマ<sup>一</sup> キヤッカイ ワカ<sup>ツ</sup> ダ<sup>ッ</sup>テモ ワカイ  
うう<sup>タ</sup>だ<sup>タ</sup>から 山<sup>ハ</sup> し<sup>ツ</sup>か<sup>ツ</sup> わか 誰<sup>ハ</sup>れ<sup>モ</sup> わかる  
ケン<sup>ノ</sup>ー ワカル<sup>ケ</sup>モ マー コノ コノシオガ コッキー<sup>一</sup>  
け<sup>ビ</sup>ねえ わかるけど<sup>ハ</sup>も まみ この この 潮<sup>ハ</sup> こ<sup>ト</sup>う

ト マワルトカ アッキート マワルトカシテ / ハアタマ  
ヘヒ 回るとか あ、ちへと 回るとか してね その 頭 み  
ツカラ ~~ツカラ~~ ヤッパリ ツカウダカンノー (息を吸う音・咳) コノシ  
や、ほり 使うだからねえ。 ニア

ヨニア コノショニア ハリイカリガ<sup>(40)</sup> イートカ エ コノショデ  
潮には ニの潮には 脳 鎆 が いいとか 云 ニの潮で  
ア ツボイカリガ<sup>(41)</sup> イートカ / デ マ イロンナゴト ジブン  
は 壺 鎆 が いいとかね。で ま はろんほシモ 自分  
デ カンゲテ ヤッテ ホイガ マ フツー フツーワ ミッカ  
で 考えテ や、で それが ま 普通 普通は 三日  
デレバ フツカバタライ / デ ワリニンゲンガ<sup>(42)</sup> ヤツタグレ ワ  
出れば 二日 働きね で 悪い人間が や,トリヨと 悪  
ルーシタグレ フツカガタ イチニチデモッテ ミッカガ イチシ  
く すると 二日 え 一日 でもって 三日が 一日  
キテ フツカガ ハズレチャウカン / ノコダ リヨーシキューモ  
で 二日が 外れて しまうからね。そこで 漁師, というも  
ンウ / メイカリシツテ (咳)。

の18 目 鎆 といつ。

H デ タイヘンタツタペノー ムカシヤノー ボーケ<sup>(43)</sup> / アンカ セン  
で た、へんた、たろうねえ 背 けねえ 棒 受の てんか 船  
ドースル トモツタトラ オラ マタベ<sup>(44)</sup> / オジサンガ コノ  
頭 ある と思、たとこ がら 又 平の 伯父さんか ニの  
ボーケガ ヤ アンテユーカ アタマガ ワリリタシニアジヨダニ  
棒 受ハ ヤ 何て言うか 頭 が 悪いの たかどうだか  
イッコ リヨーガ キャーナウテノ オラー アノ ナニ オッカ  
一向 漁 が 利かなくてね おうみ みの なに お、か

一ガ コッバカリ トッテキテ ヨソノ オカズグレン モンダト  
あが これ位ばかり 採つてきフ よその おかずくらいの ものだ<sup>(45)</sup>  
カ アンダトカ シテ アノ トキオッカキューノガ モグッテ  
か 何だとか いつ めの とき おかみといふのが 潜つ  
ジブンガ カセグカラノ ホシテ オジアンガ オラー カワイイ  
自分ガ 緯ぐからね そして 伯父さんが おらみ かわいい  
ガッテ ホラ オンダガ<sup>(46)</sup> オンナオヤガ セーハチ アンダーヨ  
がつて ほら おれらが 女 親が 清八 みねだみよ  
キヨワ<sup>(47)</sup> アレ サンヤサマダカラ オチャガ デキテカラワ  
今日はの めれ 三夜様だから お茶が できて ひろから  
オチャノンデ<sup>(48)</sup> イガッセヨーツテ ユッテノ ホシテ シタッタ  
お茶 飲んで 行きなさいよ、と 言つね そして したけ  
ツケン タイヘンデシタヨ ミンナ アノ ホノ アレ ユツン  
と 大変 でしたよ みんな めの やの めれ 何艘  
デテタガオカ アイハマデ<sup>(49)</sup> ノ一 ボーケノ 一 ナンニヤ  
出で下だうか 相の 浜で のう 棒受の のう 何には  
ナンバッテ アッタッペ 一。  
何 艇と あ、ただうねえ。

T ホジブンワ ナンゾグレ アッタシカノ。

その 時 分 は 何 艇ぐらひ あ、たのかねえ。

S ソーサ ボーケカイ。ボーケワ ヒヤクニジュー ヒヤクニジュー  
棒受かい。棒受は 百二十 百二十

ナンベッキューノガ イチバン ヨケダッタノ。

何 はいっていのが 一番 多か、たねえ。

T ホ一。

ほう。

H ホカノ タビビト イレテヤッタデ"スダヨ ムカシア ラーン タ  
外の 旅人を 入れてやつたんですよ 昔 は。 うん  
ビカラ キーキンドリオ タンデ" イレテヤッタ ダカラ ト  
旅から 給 金 取りを 賴んで" 入れてやつた だから 採ら  
ネット タイヘンダ" ウン アノ センドワ ヨイトデ"ネッタ ウ  
ねと 大変 だ" うん みの 船頭は 容易で"つかだ。 う  
ン ノー リヨー！ キューモンモアル キャーネモンモ アッテ  
ん のう 漁の 利く者もあら 利かね者も あつて  
ノー ボーケガヨ リヨー！ キューモンモアル キャーネモンモ  
ねえ 棒 受かよ。 漁の 利くもんもあら 利かね者も  
アッテ ホシテ オメ ゴンシロマリワ<sup>(48)</sup> ノー イッコ リヨガ  
あつて そして お前 稽四郎丸 はねえ 一向 漁が  
キャーナウテ トトーノー アレシキマッテ。  
利かねくつ とうとうのう みれしてしまつて。

S ハチ ハチジッペ。 グレン ジブンガ イチバン サカリダッタ！  
ハ ハナはい ぐらいの 時分が 一番 盛りだ。 たね  
一 ウーン ダンダン ダンダン スクナウナッチャッテサ 三。  
え。 うん だんだん だんだん 少なくしてしまつて。 いい。  
H モトワ イチイチ ワセンオ ヒータデ"スヨ ノー イマワ キカ  
元は いちいち 和船を 引いたですよ。 のう 今は 機  
イセンデ ウケッハナシデ" ツート イグニモ ナニカラ クツヘ  
械船" 浮け、ほげして" つうと 行くにせ ほにかう 転はい  
テ ピョットト イガレッケン モトワ ハタシデ"モッテ ア  
ツ ひよ、と 行かれると" 元は 裸足で"もつ みの  
ホノ アンデ"ツカデ" イチイチ ノセジラ<sup>(49)</sup> コー ナラベテ フネ  
その あれで"すわで" いちいち 乗せじら こう 並べて 船

タシテ ヤッターカラ オンナタキモ タイヘンダッタ ノー 木  
出して や, たのた"から 女 たらも 大変だ, た のう ほ  
ントニ ヨイトノ ハナシデネッタ オンナタキモ オトドモト  
んとに 容易の 話 て" すか, た 女 たらも 男 共と  
イツショニネ イツテサ シラオ アゲテ クッダサデヨ シラオ  
一 緒 にね 行, てこ しらを 上げて 来るんで可" す しらを  
イチイチ アゲレダカラ ヨイトノ ハナシデネ ノー。マッテ  
いちいち 上げ"るのた"から 容易の 話 て" すい のう。すか?  
コンドア サンマンナッテ サンマオ オトハマンホエ ヘーッテ  
今度は 秋刀魚にほ, て 秋刀魚と 乙 浜 の方へ 入って  
ノ (ネー キョーダイ) ホッテ アレー マー オトドモモ ヨ  
ね <子"もが"入, てくろ> それで めれえ まみ 男共 も 容  
一イトデ ネッタワノー。

易 て" すか, たわねえ。

丁 ホンデ アノー ハナシガ カワッケン アノー シンサイデワ  
それで めのう 話 が 变るけど めのう 震 災 て" ほ  
木 木ノ シタマデサ ナミガ キチャツタツキヤデ ノー。  
ほ うの 下 ま"こ 波が 来フレマ, た, ついで" ねえ。

ソ ウン ウン ソダノー。  
うん うん うだねえ。

ソ シンサイア アッダオー マ キョード オラー ハマカラサ オ  
震 災 ほ めれだ"よ。ま ちようご おらみ 浜 からで み  
ヒンネ ウチエ アガッテ キタダオ ウチエ アガッテ キテ  
風 に 家 へ 上が, て 来た"よ。家 へ 上, て 来  
ホイカラ ハマ ~~ハマ~~ ハマカラ オマンマダヨシテ ヨビー キタカラ  
それから 浜 から おまんまだ"よ, て 呼びに 来たから

キヨード デタシタロ ンデ ジュニジ マー ジュッパンメ  
ちようど" 出だしたところ それで ナニ時 まみ ナ 分 前  
グレダッタリ一 ホット キヨード ジンジヤ ウチカラ ジンジ  
ぐ"らいだ",たねえ うすと ちよと" 神社 家から 神社  
マ/ アイダグレ イツタトロ ジシンダッペ ンデ" バイ昂ガ"  
の 間ぐらい 行,たところ 地震だろう それで はあさんが  
ヒトリ ネテカン/ ホラシテ ウチ一 モド<sup>モド</sup> モドッテ アルア  
一人 寝ているからね から,て 家へ 戻,て 歩かれ  
シネットオ モドッテ イッテ バサン ブーベシッタトロ バ  
行か,たよ。 戻,て 行,て はさん 背負うとしたところ は  
サンワ オラ シンデモイーカラ ネグロネグロシテ オガゴト  
あさくは から 死んでしいから 逃げろ逃げろとい,て 倦ればシ  
ユーダ"オ キヨード コマッチャッタ フトッデモッテ エホノ  
言ひた"す。 ちよと" ニモ,アレ,た 一人 で"も,て。 その  
ハレ イーヤンベニ(咳) オジサンガ キテサ ホレ ブッテ デ  
うち いい接排(?) 伯父さんが 来て それ 背負,て 大  
一カインヤママデ<sup>(32)</sup> ネグタダ<sup>~</sup> デーカイン ニワマデ ネグティ<sup>~</sup>  
鑑院山 まで 逃げた" 大鑑院 庭 まで 逃げて行,  
テ ホイカラ ハマエ キタッタラ ハ フネマン<sup>フネ</sup> ハ ナ  
テ それから 浜へ 来てみたら は 船 なんか 船 は 流  
ガレティッチャウサ ホイカラ アンモカンモ ミシナ ハ ナガ  
れてい,アレ,アレから 何もかも みんな は 流  
レテ ナガレチャッタカラ ウチ一 キテ アンシタッケン アン  
れて 流れ,アレ,から 家へ 来て あれをしたけど あれ  
ダ"一 ハー シンサイデワ ミシナ ズイブン ナンギ" シタッ  
た"ねえ はめ 震災では みんな すいぶん 難儀 した

ペオ一、

た"さう。

H マッタク ナンキシタワノ一。

全く 難儀したわねえ。

S ツブレタ ウケガ ナンゲン ゴロッケン アレシサ。

潰れた 家が 何 軒 五・六 軒 あるレマ。

H ジシンデ" ツブレタ —————。

地震で 潰れた —————。

S マ ナミワ アンダノ一 ナミワ ソト <sup>xxx</sup> アガ" <sup>xxxxx</sup> アガ" テ  
ま 波は あれた"ねえ 波は 相当 上が", 7  
マ ジンジヤノ ウシロマテ" アガ"タタカシノ ジンジヤ ナミ  
ま 神社の 後 まで 上が", たんだからねえ 神社 波  
ワ アゲタニネカノ一。  
は あげたのでは無いかねえ。

H コシドリデ" キット スンダダヨ キット ナンミヤノ一。

腰取りで" き, と 清んだん"よ き, と 波はねえ。

S サカナアンカ ヘンナ サカナ オンモリ ブッチャガ" テタカン  
魚 ほんか 変な 魚 洋山 打ち上が", て いたか  
ノ一 (笑) ブッチャガ" テ オヨッテッダヨ タマリコエ ウン  
らねえ 打ち上が", 7 泳いでるんだ"よ 溝り穴へ。うん  
ホイカラ <sup>xxx</sup> シンサイノ アシタダナ アシタワ (咳) ヒヨガ  
それから 震災の 翌日だ" 翌日 12 潮が  
ズート ヒチャッテルモンダ"カン! ハマエ ハマエ イッテ  
ずう, と テテレ, たものだ"からね 浜へ 浜へ 行, 7  
アワビダノ一 トコブシダトカ アワビトカ サデトカ トッタモ  
鮑 だ"のね 常節 だ"とか 鮑とか 菜螺とか 採, た者

ンガ アルヨ ウーン。

か わるよ。ララん。

H ヘーザウラガ！ ヘーザウラエ ズート ……オラ コドモー カ  
平砂浦がね 平砂浦へ づうと うちの 子ども 牡  
キオ アノ ハンギリテ<sup>(53)</sup> イッペ トッテキテノ ホシテ マ シ  
鰐とみの 羊 切て<sup>(54)</sup> いは<sup>(55)</sup> 採、<sup>(56)</sup> きつね そして まし  
タ ホーノトキ ミンナ アノ ショテ<sup>(57)</sup> エー モノガ オケコバ  
だ。 その とき みんな みの 潮<sup>(58)</sup> 良い 物が 稲・小  
牛ニヨラズ アンニヨラズ ナガレテ キテテ<sup>(59)</sup> ノー ホシテ マ  
鉢によらず 何によらず 流れて 来へいたのでねえ。それで<sup>(60)</sup> ま  
一 アノ ヒトノ ナンヤダカラ ヒロウンネテ キチジロン<sup>(61)</sup> ジ  
み みのう 他人の 難儀<sup>(62)</sup> から 拾わね<sup>(63)</sup> 吉次郎の<sup>(64)</sup>  
サンガノ ココニ イテテ ~~~~~ ヤッドモ アノ<sup>(65)</sup> モッ  
さんかね ここに 居<sup>(66)</sup> 野郎<sup>(67)</sup> 何を 持,  
テキタ アンカッテ オコラレテ<sup>(68)</sup> ホシテ ミンナ ア ホエ  
て 来た ほんかといへ 憲られて<sup>(69)</sup> うれ みんな み そにへ  
ウッキヤッテキタ ナンキテ ハナシガ アッケン オラ コドモ  
打ち捨てて 来た ほんとか 話が あるけど<sup>(70)</sup> うちの 子ども  
モ モッテキタカラ ホレ ワタシラ ニテ タベタデスヨ ソシ  
も 持<sup>(71)</sup> て 来たから それ わたしら 罷<sup>(72)</sup> たべたんですよ。それで  
タラ オガ シャク オコラシテヤッテ ソラホドノ ハンギリテ<sup>(73)</sup>  
たら わたしが 瘦<sup>(74)</sup> 起こしてしまって<sup>(75)</sup> それ程の 羊 切て  
イッペ トッテキタノモ モッテネ ネ キットバイ タベテ  
いは<sup>(76)</sup> 採、<sup>(77)</sup> 来たもの 持<sup>(78)</sup> ね ね 少しがり たべ<sup>(79)</sup>  
ホシテ ウッキヤリーアイッテ ウッキヤッタコトガ アルケモ マ  
そして 打ち捨てに行<sup>(80)</sup> て 打ち捨てた これが<sup>(81)</sup> あるけれども ま

一 アッデシタヨ アラホドノ ウテエ アッデシタッテヨ ドロ  
あ われでしたよ あれ程の 浦へ われでし、てよ も  
一イト イッペデシタッテヨ ミシナ シタドシ<sup>(55)</sup> ナガサレタ  
ラリと いはしてよ みんて 下通レの 流された  
アノ シヨドーグガ ネー キモニヨラズ オケコバキニヨラズ  
みの 諸道具が ねえ 着物によらず 桶小鉢によらず  
タイヘンデ<sup>(56)</sup> シテ コノ オテンドン<sup>(56)</sup> シタドシ/モナ ミシナ  
大変で<sup>(57)</sup> ニの お天道の 下通の者け みんて  
アノ アライ キマシタ アノ コンナナ センタクモ! アノ  
みの 洗いに 来ました。みの このよは 洗濯物 みの  
ヘスケン<sup>(58)</sup> バサンダ! アノネ ミシナ ナガサレテ チヨード  
兵助の ばあさんだの みのね みんて 流されて おうと  
マー ビックリシテ \*

まみ びっくりして

丁 ンデ<sup>(59)</sup> ユレテルトキ バーサン ドニイタタガイ \*

んて<sup>(60)</sup> 震れていろとキ ばあさん どこにいたのかい。

ハ コー! コーガ アンタ ハタケミタオニ ナッテテテネ コイ  
ミニの ミニが みんて 烟 みたいに てす、てす、てす、てす  
ミシナデ<sup>(61)</sup> アノ ヒナシシテタデスヨ ソシテ メン ジヤンモキ  
みんてす<sup>(62)</sup> みの 避難しててすよ。そして 前の じいさんも来  
テ コニ マツガ<sup>(63)</sup> アッテネ アメマツシッテネ マツノ オーキ  
丁 ミニの 松が<sup>(64)</sup> みてね 天松といつね 松の 大きい  
1ガ<sup>(65)</sup> アッタデスヨ アッテ ホノ エダガ<sup>(66)</sup> マー タオレッテネ  
のが<sup>(67)</sup> みたんですよ。みて その 枝が まあ 倒れると  
ダオカテ シンペシタッキエガ<sup>(68)</sup> ワタシラ ホンナノ シンペシテ  
ほから、て 心 配して、てうふ わたしら がんばの 心 配して

ネッケンネ アノ アンギナシテ イタッケンネ ユイ ミンナ  
ほかたけにね みの 何の氣なしで いたけどね ニシに みくに  
ワタシラ ユイ スワッテ ヨル マー ムコネ アノ アノ ヒ  
れたしら ニシに 座、て 夜 まみ 向うね みの 避  
ナンシテタッケンネ カー ホノ アッデッサ ホノゴニ ホノ  
難して いたけどね ほの みれて みす その後に その  
マツガネ エタ"ガ" コンナデシタヨ エダ"デ"ネ マ アノ コッタ  
松がね 枝が こくねで したよ。 枝 ぐわ ま こく  
ドテナンニ オレタカラ イーデスダヨ ホシテ コンタ"ワ" ニド  
エチアリに 折れたから いって したよ。 そして 今度は 二度  
メニ コノ一 ザブリト ホノ オレタトキヤネ ヤツバシ コッ  
目に こう ザブリと その 折れた時に は や、ほり こ  
キエ ジドサマ ムコンホイト アノ オレテネ カラ コー エ  
ちへ 地蔵様 向うのオヘと みの 折れてね。 だから こう 枝  
ダガ コー エゴッテ ワタシラ ヤネノ オニガフラ ハラフレ  
が こう 動かして わたしら 屋根の 鬼瓦 手われ  
テナモ ムキューダカラ ワカラネッタッケンネ オニガフラン  
ても 夢中 だから わからずか たけにね 鬼瓦 なん  
か ト ラレチャッテネ ソシテ ホント アノ ミンナ アレガ  
か 取られちゃ てね。 そして 本当 みくに みれか  
オトドミウ ミンナ コイラ フネガ アンダ"キユッテ ナミガ  
男 共に みくに こう 船が みれた" といって 波が  
クレッキユッテ ヒトッコ ヒトリ イナウテネ ホノ マタ エ  
来ると言つて 人、子 一人 いなくて その また 枝  
ダガ デンキンバシラガ タッタ イッポンシカ タスカッテイネ  
か 電信柱 が だ、だ 一本 しか 助か て いい

デンキンバシラガ コーヤッテ ホノ マツガ フッカガッテ ホ  
電 信 庄 が ニラヤ, て その 松が 引, 掛か, て そ  
ノ ストント ~~シ~~ シネテ" エダガ" コウ ユラユラ ユレテテテ  
ア すこし い なつて 枝が ニラ ゆらゆら ゆれて  
キヨード" コマッキヤッテネ ワタシラデ" シヨガネカラ ハマエ  
ちよと" 困, てしま, てね。 わたしらで" じょうがなから 浜へ  
イッタラ ハマー オトドモが テガ アリ アワナウテ アンタ" アントカ  
行ったら 浜あ 男共が 手が あの あかなくて あれだ 何とか  
ナミガ" クッタ" ペキッテ ミンナ ホエ デバ" テテ" テ シヨガ  
波が" くるだ" う, て みんな そにへ 出張, ていつ じょうが  
ナウテ ソッカア" シヨーボニ ホノ一 ナニシキテモラッテネ  
行く? それから 消 防に そなう ばにし来て もら, てね  
キッテモラッテ タツカッタ アレガ" ドフント ワタシラ" コー  
切, てもら, て 助 か, て あれが" どふんと わたしらみ ここ  
エトネ リブ" レキヤウデシタヨ。  
えと つぶれてしまうところでしたよ。

## 注記

- (1) 敷網漁業の一種。根付きの魚（鰈仔）を三隻の舟で台形に敷いた網に、餌付用の小舟によし、て誘い出し捕獲する漁業。
- (2) 日常でも、ほ、キリ発音するときには「いを」と発音する。
- (3) 地曳網。
- (4) 千葉県館山市・伊戸地区から相浜地区まで続く約10キロの砂浜。
- (5) あじ、むろあじ仔と採る時の餌。
- (6) たも網
- (7) 釣糸を沖の方へ投げ、陸の方へ下りながら引く釣の方法。
- (8) 相浜漁業協同組合の水揚げ場所及び事務所を通称「販売所」と言っている。
- (9) 魚師の初期の名。この地方では、いよだ・わらさ・ぶり、と大きくなりに従って呼び名が変わる。
- (10) 網代につけた番号名が地名化したもの。
- (11) (12) 共に漁場の名前。
- (13) 死んでしまってから意識不明の状態にあつたこと。
- (14) 館山市本郷の野原医院。
- (15) 館山市大石の古川医院。
- (16) 館山市州の宮。
- (17) 家号
- (18) 家号
- (19) 月の当番として、浦を使用する権利を持つ月。
- (20) 館山市藤原。
- (21), (22) 共に家号。ここでは、数馬屋さんに対し、間違えて伊衛門と言いかけて次に改めている。
- (23) 漁場名。
- (24) 海底の岩に懸つた網をほどくこと。
- (25) 家号
- (26) 地曳の引き上げを網を丸く輪に纏め子係。（一番渠仔仕事のため、半人前的存在である）。

- (27) 繩を追いまわすニとから、余分ほんとをくるの意に用いられてゐる。
- (28) 漁業組合に水揚げしても、水揚げの低い漁種は、乗組員で各自の家庭用に又は自由に処分してしまうこと。
- (29) 年間を通して大漁続きのときに、万両祝いを行はう。万両祝いを記念して、めでたい図柄を描いた着物を乗組員に配る。それを万祝き着るといふ。
- (30) 家号。
- (31) 綿の入、太長い防寒着を「綿入れかもや」と言った。
- (32) 綿の入、太短い防寒着。
- (33) 地曳の綱を引くときの構え方で、腰より上のところに綱をあてて引くこと。
- (34) 沖にいる船から陸へと送る動作。合図。これによ、て綱を速く引いたり、止めたりする。時には綱に入、ている魚の多寡ほども知らせる。これによ、て魚市場では受け入れの準備をしておく。
- (35) 家号。
- (36) 家号。
- (37) 第二次世界大戦
- (38) 錨の打ち方を予測すること。転じて甚かの鋭い人間のことを「目錨の利く男」といふ。
- (39) 沖から陸の山の位置を見て漁場を確認する。
- (40) 潮の流れのゆるい時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (41) 潮の流れの速い時に綱を張るために用いる錨の打ち方。
- (42) 技術の下手船頭の意。
- (43) 棒受け綱漁業。
- (44) 家号。
- (45) 海女「稼ぐ」と、人によ、ては一夏で一年の生計が立つ。
- (46) 家号。
- (47) 「神にたのんでかげわれぬ時は、二十三夜の月を待て」旧暦の二十三夜の月の出を待間、お茶などと飲みながら時を過す。月の出を見

了解散する一種の宗教的行事。

- (48) 船名。
- (49) 船を引き上げる時に用いる横木。櫓の木に可へりとよく可るために油を塗る。
- (50) 安房郡臼浜町乙浜。
- (51) 大正十二年の関東大震災。
- (52) 大鎧院山。
- (53) 半切桶。
- (54) 家号。
- (55) 海岸に近い一帯を言う。
- (56) 家号。
- (57) 家号。

IV. 静岡県静岡市南字中村

収録・文字化担当者 日野資純

## A 収録地点、との方言について

1. 地点名 静岡県静岡市南字中村（旧安倍郡麻機村）<sup>アサバタ</sup>

### 2. 収録地点の概観

静岡市中心街から北へ約4キロの農村地帯。中心街へは昼間10分間隔でバスの便がある。西側の賤機山<sup>シカヒタ</sup>の斜面にはミカンの栽培が盛んである。

静岡市は明治22年（1889）4月1日に市政を施行し、同7月1日市役所開設時の人口は37,681人である（静岡市政要覧）。

そのころは安倍郡麻機村である、7、麻機村としての人口は、その後大正元年（1912）の記録によると、男1599人、女1585人、計3184人で、戸数は442戸となる、いろいろ（静岡県安倍郡誌）、昭和8年末（1933）には482戸、3386人と記録されている（同資料）。昭和9年（1934）10月1日には、麻機村は、安倍郡千代田村、<sup>竹</sup>谷村、久能村、長田村とともに静岡市に合併された。当時市全体で35,734戸、人口191,005人とあるから、市全体から見るとほぼ1.7パーセントにあたる寒村である（同資料）。

しかし今日では、ミカン農家だけではなく、麻機は新興住宅地として発展しつつある。自然会話の中に話題として出てくる「沼のは<sup>注</sup>あさん」（「通称麻機沼」）は埋め立てられて団地と化した。

### 3. 収録した方言の特色

#### ①方言区画上の位置

静岡県の方言を、i)伊豆の方言 ii)駿河の方言 iii)遠州の方言のように分けるとすれば、静岡市麻機方言はii)の一つの代表とも見られよう。伊豆・遠州との細かい比較は別として、形容詞・助動詞につく回想の「ケ」、逆接の「ケーガ」、反語の「ジャ(-)」、限定の「バカ」「バッカ」などがその特徴の一部である。

錄音には出でないが、「せいせいした、や、ぱいした」をあらわす「ゴセ・ホイ」は特に駿河の特徴的俚言と見られている。また伊豆や遠

九州に比べて、母音の無声化が少なくて、無声子音間の [i] [u] が有声のままでほとんどないのも、駿河の一つの特徴である。

## ② 音韻上の特色

### モーラ表

|   |    |    |    |    |    |    |      |      |      |    |   |
|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|----|---|
| / | a  | æ  | i  | u  | é  | ó  | িja  | িju  | িjo  | wa | / |
| / | ka | kæ | ki | ku | ke | ko | ିkja | ିkju | ିkjo | /  |   |
| / | sa | sæ | si | su | se | so | ିsja | ିsju | ିsjo | /  |   |
| / | ta | tæ |    |    | te | to |      |      |      | /  |   |
| / | ca |    | ci | cu |    | co | ିcja | ିcju | ିcjo | /  |   |
| / | na | næ | ni | nu | ne | no | ିnja | ିnju | ିnjo | /  |   |
| / | ha | hæ | hi | hu | he | ho | ିhja | ିhju | ିhjo | /  |   |
| / | ma | mæ | mi | mu | me | mo | ିmja | ିmju | ିmjo | /  |   |
| / | ra | ræ | ri | ru | re | ro | ିrja | ିrju | ିrjo | /  |   |
| / | ga | gæ | gi | gu | ge | go | ିgja | ିgju | ିgjo | /  |   |
| / | ়া | ়ো | ়ি | ়ু | ়ে | ়ো | ়্জা | ়্জু | ়্জো | /  |   |
| / | za | zæ | zi | zu | ze | zo | ିzja | ିzju | ିzjo | /  |   |
| / | da | dæ |    |    | de | do |      |      |      | /  |   |
| / | ba | bæ | bi | bu | be | bo | ିbja | ିbju | ିbjo | /  |   |
| / | pa | pæ | pi | pu | pe | po | ିpja | ିpju | ିpjo | /  |   |
| / | T  | N  | /  |    |    |    |      |      |      |    |   |

共通語との比較で言えば、/ kæ, sæ, tæ ... / の系列が九州、以下ののが第一の特色で、例えば /kæ/ と /ିkja/, /sæ/ と /ିsja/ とは区別がある。また /ca, co/ は比較的の自由に現れる。

$\left\{ \begin{array}{l} /sæ/ \quad /ciisæ/ \quad (\text{小さい}) \\ /ିsja/ \quad /wିsja/ \quad (\text{わしゃー(わしゃー)}) \end{array} \right.$

$\left\{ \begin{array}{l} /tæ/ \quad /kuboTtæ/ \quad (\text{くぼー, 大い}) \\ /ିcja/ \quad /hiTpacja/ \quad (\text{ひ, ぱー, ちやー}) \end{array} \right.$

|        |                    |            |
|--------|--------------------|------------|
| { /næ/ | /kake <u>næ</u> æ/ | (かけない)     |
| /n̩ja/ | /i̩ <u>n̩ja</u> a/ | (いにゃー〔稻印〕) |

|        |                        |         |
|--------|------------------------|---------|
| { /ræ/ | /hanbun <u>ŋuræ</u> æ/ | (半分ぐらい) |
| /r̩ja/ | /kura <u>ber̩ja</u> a/ | (比べりゃあ) |

|        |                      |               |
|--------|----------------------|---------------|
| { /dæ/ | /dæ <u>æ</u> z̩jobu/ | (大丈夫)         |
| /z̩ja/ | /kore <u>z̩ja</u> a/ | (これじゃー〔これでけ〕) |

ただ具体的な音声としては「一杯」が[ippæ:]のようにも[ippja:]のようにも実現されることがある。またまれに[æ:]が[e:]になる。  
例 /cumāneet̩keya/

また /ca/ の例で

|                      |        |
|----------------------|--------|
| /gi'i <u>T</u> can/  | (義-さん) |
| /too'i <u>T</u> can/ | (統-さん) |

がある (/T/ のあとのみ)。

タ行音の前に促音が現れるのも注意される。

|                            |          |
|----------------------------|----------|
| /'ii <u>T</u> de/          | (いいので)   |
| /so'eddamonda <u>T</u> de/ | (それでもので) |

### ③文法上の特色

#### 1 助詞

##### 1-1 副助詞

○限定をあらわすものに /-baTka, -baka/ がある。

mukoonibbaTka 'itadajo.

korebaTka no ninzuniha

z̩jungohjoobbaka

○動作の並用をあらわすものに /-yacura/ がある。

kasi'o jariyacura

gohan cuiyacura

##### 1-2 接続助詞

○順接に /-dante, -dande/ がある。

sot<sup>edante</sup> sa

koncurida mond<sup>dande</sup> nanno kota<sup>a</sup> nee

○逆接に / -ken, -ke<sup>nya</sup>, -ke<sup>ja</sup>, -dat<sup>temo</sup> / がある。

nonbirisitetaken Kjonewa jatarecjaTTada

zjoo<sup>r</sup>joo cukuruda ke<sup>nya</sup> sono perade kanzjoosita<sup>h</sup>oonya  
hajææda

senseeni juTTada<sup>keyana</sup>

tatamija dat<sup>temo</sup> dæækudat<sup>temo</sup> sjakansandat<sup>temo</sup>

I-3 終助詞

○反語に / -zjaa, -zj<sup>d</sup> / がある。

'azee taT<sup>ç</sup>januzjaa

micisitano sjuudat<sup>ke</sup>zja

○強意に / -dee / がある。

jakuboo made iTTadee

○回想に / -ke / がある。形容詞・助動詞の終止形に / T / を付してつ  
き,自分の経験を回想する。

niyijaka'i<sup>T</sup>ke

hija<sup>T</sup>keet<sup>T</sup>ke

micisitano sjuudat<sup>ke</sup>zja

2 助動詞

○話手の意をめられずものに / -zu / がある。

sinudara i<sup>T</sup>sjoni sinazu<sup>r</sup>joo

○現在の推量に / -zura /, / -ra / がある。

'ore 'otoko hito<sup>r</sup>izura

'atemo siTterura somatci

○過去の推量に / -cura / がある。

kanyææ neet<sup>T</sup>keTcurana

○断定の / -da / 助動詞・形容詞・助動詞など の終止形につく。

'ano koomo jarudade

kan<sup>ey</sup>ja nææda ken

## nisjoomo to Ttadajo

以上のほか、語彙の面から言うと、/s̩jonbai/（塩からい）、/c̩inbii/（小さい）などの形容詞が本県方言としての特徴形をなすと見られる（前者は、もちろん/s̩jonbææ/が古形である）。

## 4. その他

### ① 地点選定の理由

2に記したように、麻機地区は新興住宅地として人口の流入が多いのではあるが、古くから住みついている農家の人们も依然として多いので、そういう人を求める、ことによつて、古い状態の方言を探る、ことができると思われたことと、被調査者A氏は以前から面識があり、且、比較的気軽に引き受けてくれたと予想されたこともあつた。

また疑問点が出た場合も、事実何度も拙宅まで来てくれて、それに答えてくれたので、ありがたか、た。したが、A氏は協力者であるとともに出演者でもあり、談話の進行係をも同時につとめてくれた。

### ② 協力内容

A氏は自分の幼仔じみのB・C両氏を下り、且、A氏の自宅で座談会を開いてくれた。その内容が収録されているわけである。

(注) 昭和45年10月1日の国勢調査時における静岡市の人口は、  
男205,470人、女210,908人、計416,378人とす、且、おり、  
麻機学区だけを見ると、男2,553人、女2,641人、  
計5,194人である（静岡市編「昭和45年静岡市国勢調査結果  
概況」による）。

## B 表記について

麻機方言の音韻体系は共通語（東京方言）とほとんど変わらないので、片仮名表記ですすめだが、前述A②音韻上の特色と合わせて、いきらか補足的解説をしておく。

① /kæ, sæ, tæ…/ の系列は /ケア, セア, テア…/ で表記した。

|          |               |
|----------|---------------|
| ヘアーキャット  | /hææTcjaTTa/  |
| クボットアートコ | /ku보Ttæætoko/ |
| シンメア     | /sinmææ/      |

しかし、音声として [-ja:] のようにする場合は、

|       |           |
|-------|-----------|
| イットピア | /iTTpjaɑ/ |
|-------|-----------|

のようにした。

② /ca/ は「ツア」とした。

|       |             |
|-------|-------------|
| ギイツアン | /gi'iTcaN/  |
| トイツアン | /too'iTcaN/ |

③ /ja, yæ, yj, …/ の系列は /ガ, ケ, キ…/ で表記した。

|         |                 |
|---------|-----------------|
| カミナリサンガ | /kaminarisanya/ |
| カンケアーテ  | /kankeæte/      |

④ わいづらの (uN) (N:) 等は「ンー」に統一した。「ー」[so:] とまぎらわしいかもしれないが、すぐ下段に共通語訳があるので区別がつくと思う。

⑤ 特に著しい上り音調は↑であらわしたが、下り音調は特別に記号化していない。「。」が基本表示である。

コドモウ ドーナッタ↑

### C 収録内容の概説

1. タイトル 「静岡の集中豪雨」—「昔の生活の思い出」
2. 録音年月日 昭和50年10月4日
3. 録音場所 話し手A氏の自宅（静岡市南字中村1603）
4. 話し手  
(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生まれ

（Bは「サワバタノオジサン」と呼んでいる。）

小学校卒業後農業。昭和6年（満20歳）～7年兵役（浜松航空隊）。昭和16年（満30歳）～17年南支方面出征（台湾・フィリピン・ミンダナオ島）。純度の高い方言の話し手。ただし「自分の歴史へ刻んである」とか「川が断層には、ある」とか折々漢語が出てくるのが、女性B・Cとの相違点である。話し好きの方だと特に早口ではない。

B 後藤百合代 女 大正2年生まれ

（Aは「モモサン」と呼んでいる。）

小学校卒業後農業。他地へ出でていない。やや早口だがCより頭の回転はよい。話した量もCより大分多い。A・B・Cはいずれも幼なじみだが、Bの方がCよりもAに対する「親密度」が高いようだ。またCよりもはるかに話し好きだ。声の調子も高いので、録音を聞いてもCとは明瞭に区別がつく。

C 佐藤 とし 女 大正4年生まれ

（Aは「オトシサン」と呼んでいる。）

小学校卒業後農業。他地へ出でていない。Bより話し方をおそく、お、とりした口のきき方である。前項に書いたように、Aに対する「親密度」はBよりもやや低いようだ。話への参加もBに比べてやや積極性を欠いていた。年令の開きといふこともあるのだろう。

### 5. 録音環境

私と私の家内が同席していったが、家内はAに菓子をすすめられた時に一回礼を述べただけで、もちろん積極的な発言はしていないから、全体への影響はない。全体としては、Aのリードの下に、非常に自然に

話が進行したと思う。私も何も言わなかつた。A, B, Cは幼なじみだったのぢアット・ホームな雰囲気にならつたのぢあるう。

# 1. 静岡の集中豪雨

## 話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生まれ

B 後藤 百々代 女 大正2年生まれ

C 佐藤 とし 女 大正4年生まれ

- A ~~~~コツチワ コズニカ一<sup>(1)</sup> キヨネンノ(笑) ボーフー二  
(台風が) こちにけ 來なつて。去年の 暴風に  
ヤ一 ヨウツタッケナ一。  
け 弱, 大, け けぬ。  
C ヨウツタッケナ一。コトシャー アエデモ イネン エーンテ  
弱, 大, け けぬ。今年け あれども 稲(出来)はいいの?“  
アレタ“ケドナ一。  
ハハけれど“ねえ。  
B コトシャー イネア イ一ネ。  
今年け 稲(出来)はいハね。  
C イ一ツテ<sup>(2)</sup> タノシミタ。  
ハハの?“ 楽レメだ”。
- B ア一 アンタッキモ チット……。  
ああ あほだの家も(去年の暴風の時)少レ(被害があ, 大かね。)
- A ヤケタ一。カミナリサンガ<sup>。</sup> オチタ一。  
焼けたよ。雷<sup>アモハ</sup> 落ちたよ。

B ウツツテクント コマルナンテ シンパイシテタヨー。 (笑)  
(火があなたの家に) 移ってると 困るなんて(私は) 心配しちゃう。

A ヤー ソレダケン アレデ オワリダデー。 シー。  
やあ それで“けれど”“あれで” 終わりだ“よ”。 うん。

C リーダエナ。  
そうだ“よ”。

A シー。  
うん。

C シー。  
うん。

A イーッケタケガト。 シー。  
(今年の稻の出来は) とか, だんだが“が”だ。 うん。

C シー。  
うん。

B オラウチニテー スゴク イニヤー エーヨー。  
私の家では すごく 稲(の出来)がいいよ。

A シー。  
うん。

B オワバタ<sup>(3)</sup> ウチニ ウツツテクルト コマルト オモッテ シン澤端の 家に(火が)移ってると 困ると 思って 心  
バイシテタ。 (笑)  
配をしちゃう。

C ウチラッキナー キヨネンワ アレダ ジョソーガイオナー……。  
私の家の家ではねえ 去年 は 除草剤をば……。

B キヨネンワ スチガッテナ……。  
去年 は 間違って「よ」……。

- C マチガッテ カケタモニデ ツマンネー、ケガ。コトシャー ソイ  
間違、て (稻に)かけたもので ますか、たゞ 今年 は それ  
デモ……。  
でも……。
- B ジョソーザイ ウント ドンドント カケネアーッケ。  
(今年)除草剤を 沢山 どんごんと かけたか、た。
- C キヨネンワ アレジュー ジョソーザイ カケネアーッテモ イネ  
去年 は あれだけ (刈り)除草剤を かけたくとも 稲(出来)  
ワ ヨク ネアーッケガサ。  
は よく ほか、たとうべね。
- B アー タイフーデ ダメニ ナッチャッタ。  
台風のために (稻が)だめに た、れました。
- A キヨネンワ オレンナー アー モテコメンナー ナンニモ トレ  
去年 は おれけほみ もち米がさ 何も とれ  
ネアデ。ホー。タイフーデナ アー マー カワカ。ハシラシシ  
ト。 台風 で 川が 汚濁レ  
チャッテオ……。  
れました……。
- C ンー。  
うん。
- A リエデ アー スマガ。カブッチャッタ。  
それで (田に)泥が かぶって しました。
- C ンー。  
うん。
- A ンー。リエダモンダッテ……。  
うん。それだもんて……。

C ダメダ…ケナ。

だめだ…だよ。

A ゼンブデモッテ ニシヨーモ トッタダヨ。

(私の用の)全部で“二升もと、だんだよ。

C ハー。

まあ。

A ニー。ソシナシコンダ。キヨーワ<sup>(4)</sup> アー シケルガシテニトコモ  
うん。そういうことだ。今日 1月 茂さん家の家でも  
アーニー イヤマノシユカ ソコ カッタダワ。デ アー  
油山の衆がその土地を買ったんだよ。そして (笑へ)  
ソーワキョー タッタ。ナ一。  
家を建てた。まあ。

B ドコ。

(それ)どこ?

A ウチオ。アーニー ハニジヨーカンカ<sup>(5)</sup> ソレ アー ノコニ 夕  
家を(建てる。) 半ナさんが。それ 倉庫に建  
ツタケジヤンカ。  
てたのでは? まあ。

B ニー。

うん。

C ニー。キヨゾーコノ アスコントコノ  
うん。貯蔵庫か。あれの所か。

A ニー。オーオー アスコントコモカ……。  
うん。そうだ。あれの所もカ……。

C ニー。

うん。

A アー マチノ シューカ° カッタカ……。  
町の 衆 が 買つてた……。

C ンー。  
うん。

A ソエテ アー……。  
それで“あのー……。

C アレ アー マチノ シュージャナイ イヤマノ シューダッテ  
あれけ 町の 衆 で“ほほい 油山の 衆だ”と(皆が)  
イッタッケジヤ。  
言つた“ほほいか。

A ンー 似ヌイ イヤマノ シューモ イリヤーハ……。  
うん。 油山の 衆 も “ほほい”……。

C ンー。  
うん。

A アスコダ<sup>(6)</sup>ケガ<sup>6)</sup> アー マチノ シューカ° カッタダ。ソレカラ  
あれこだ“けが” 町の 衆 が 買つたのだ。それから  
アトワ イヤマノ シューカ° カッタダ。  
あとこの町は油山の 衆 が 買つたのだ。

C アー ソーカ。  
あれ そうか。

A ンー。  
うん。

C ミシテ イッショジヤ ネアーハ。  
(あれ土地)皆一緒に(買つたの?)ほいの?

A ンー。アノ シンセキドーシナンダナ アレ。  
うん。 (町の衆と油山の衆)親戚同志だ”ほいの”あれ。

- C シーン。  
うん。
- A ン。ソイテ アレ アー ヤッハリア……。  
うん。それで めれ や、 けりや……。
- C シー。  
うん。
- A イシカケオ リンデオ……。  
石 壁 を 積んで ジ……。
- C シー。  
うん。
- A アスケー コイテ クレラシーヨ。  
みやこへ ひ、越して くららしいよ。
- C アー イシカケー アー アレ サイガイノ アレテ ツンデア  
みの 石 壁 は めれ 災 害 の 防止の目的で 積んであ  
ルネ。アー ウチノ シューノ  
るね。(積んだのは) めの家の 衆か。
- A アー シタワナ サイガイデモッテ シヤクショテ ツンデクレテ  
みみ 下はね 災 害 防止のために 市役所で 積んでくれて  
カ……。  
カ……。
- C シー。シタワ シンダダケンネ。  
うん。下 は 積んだんだけれどね。
- A ソイカラ アー リー アレ イッペアーワ ツマレネアーモ  
それから めれは 津山 は 積めば、も  
ンダカラ……。  
の 大から……。

- C ンー。  
うん。
- A ネー。シャクショノ ホーテ"……。  
ねえ。市役所の 方で"……。
- C ンー。  
うん。
- A アー。ヒトツ オカツテオ"……。  
ああ。一段 下がってさ"……。
- C ンー。  
うん。
- A ツンダンダヨ。ヒトツ"……。  
積んだ"のた"よ。一段"……。
- C アー。ウチノアツ ソイジャー ソノウチノ シューカ。ヤッタ！  
ああ。(その人の)家の石垣は それでは その家の 衆が やったの？
- A ンー。ソノ ジヒデナ。  
うん。自費でな。
- C ンー。  
うん。
- A ンー。ソエデ オマエ キヨーモオ アリソノ タイフーグ。キ  
うん。それで お前 今日 もソ 台風が 来  
テ ヒドカッタッテ イッテナ"……。  
て ひと"か、た"と 言つて(話せれたのた"よ。)
- C ンー。  
うん。
- A ココマデ キタダ"ナーナンッテ キヨーモオ"……。  
(水が)ここまで 来たんだ"おれすと"と言つて 今日 もソ"……。

C ニー。

うん。

A ニー。シケルガシナノ ウチエ ホー ハイッチャッタンドナ。  
うん。茂さん の 家 へ (冰川) 入って しまったんだ" す。

C ソーダ" す。

そうだ" す。

A ニー。

うん。

B ソシテ マタ アリ トコトコノ アレテ" マタ ニー ダイ  
ケレテ モタ と" 二の 責任" モタ (その上の方を) 第  
ニージコージテ"----。  
ニ 次 エ 事"----。

A ニー。

うん。

B ヤレダカナート オモ" す。  
やるのか" と 思" ていた。

C ソーダ" す オモ" す。

やるのか" と 思" す。

A アノコモ ヤレダ" ニー。マー ダイイッキワ アスコデ オ  
れの奥の方も(事)やろしだ" す。 まあ 第一 期口 めきこで 終  
ワリ"----。  
カリ"----。

C ニー。イッキワ オワリデ" ナ"----。  
うん。 一 期口 終わり" す"----。

A ソエカラ アレカラ ウヨーナ"----。  
それから あれから 上を" す"----。

- C ニー。  
うん。  
A コンダ" ヤルラシーダヨ。  
今度 やからしゃんた"よ。  
C ニー。  
うん。  
A マー イツニ ナルカ シランケーカナ。カネガ" ネアーダケン。(笑)  
まあ いつに ほろか 知らば" けれど" ほ。金が" ほ"のた"から。  
ニー。エ モーカ" タノワ オテラタ" だ。  
うん。もうか, た"のけ お寺 だ"よ。  
B オテラワ ヨクナッタナ。  
お寺 け 立派に" ほ, ほ"。  
A ニー。オテラワ ソー アノー……。  
うん。お寺 は そ" う……。  
C ノー……。  
そ"う……。  
A ヘッコンデ" カケテ トレチャッタコサ……。  
(台風のために)へ、こんで"かけた 取れてしまひ" ほ……。  
C ノー" だ。  
そ"うだ" ほ。  
A マタ ボキン デ"キテ アレン ヘリヤー エーカン<sup>(ク)</sup> ゼニニ ナ  
(おにい)まだ 墓地が" ほ"キテ あれど あれは" 相当 収入ニ ほ  
レタ"。  
るのだ"。  
B オテラワ ホント アレダネ。アノー タイフーデ (A 笑) ミハ  
お寺 け 本当に 台風で 見晴

ラシン ヨクナッチャッテ ~~イー~~<sup>イー</sup> イーオテラニ ナッチャッタネ。  
らしへ よくは、アレモ、ア ハハお寺に は、アレモ、アね。

A シー。アトキニヤー モモアンチアタリヤー ヤッパ アー  
うム。みの 時 には 百々さん家の は、(や、は) (水べ)  
ツイタッケダカ。  
ツハタの は、アカ。

B シー。エンノシタマデ" ハイッタ。  
うム。縁の下 まで(水べ) は、ア。

A エンノシタマデ。  
縁の下 まで。

B シー。  
うム。

A アー サトークンワ。  
佐藤君 は?

C ワシラ! イーッケダヨ。  
私たちの(家は) よか, だよ。

A イーッケ。  
よか, だ?

C シー。  
うム。

A アー。  
みみ。

C ワシラ! ハチワ イーダ"ケーグオ ヤツク<sup>(8)</sup>チニ ヒドク ヤラレ  
私たちの 家 は いいの だ"か ハ津ロ(の家)が ひとつ やられ  
チャッテカ。  
アレモ、ア。

- A シー。ヤツクチナー。  
うん。ハ津ロ住所。
- C シー。  
う。
- A シー。ガイショガナー。  
うん。在所か住所。
- C ガイショガ。ヒドク ヤラレチャッタモンデ アリ。ソレコノ  
在所(の家が)ひとつく やられてしまつたので それニシ  
ヨナカニ オコサレテ……。  
夜中に 起こされて……。
- A シー。トシデッタ?  
うん。かけつけに行、たか。
- C ウチニヤー イトクテ ムコニバッカ イタダヨ。  
(自分の)家には いたくて むこう(ハ津ロ)にはがいいたんでよ。
- A シー。  
うん。
- C ヒトバンジュー オキテ……。  
一晩中 起きて……。
- A シー。  
うん。
- C ソレコガ ミテタ。ミキントコ ナガレルノオ。モノスグー、ケナ。  
それニシ 見ていた。道路を (水べ) 流れるのを。ものすくか、たな。
- A シー。  
うん。
- C ホントニ……。  
本当に。

- A ナンセー アントニニー マー シニモノグレハイタッケアナ。  
アントニーニー あの時にナフ まあ 死に物狂いた", たまえ。  
ア一。  
まあ。  
C ニーー。  
ううだ"まあ。  
A アーー ノアシタノアサナー オレ ヤクボーステ イッタデ。  
その翌日の朝で 私は 谷久保まで 行たま。  
C ニー。  
うん。  
A ガ"ブガ"ブガ"ブガ" ペーー、テ-----。  
か"ぶ"か"ぶ"か"ぶ"か"ぶ" (浸水した場所へ) 入、テ-----。  
B ニー。  
うん。  
C ニー。  
うん。  
A ノシタラ アー キャー リニサー アノ サンカクヤシキノ カ  
うしたら 帰りにこ あの 三角屋敷の  
ーサンカクノ アノ クロニ アー コシカケテサ オワバタノ  
奥さんが"在" (地所の) 端に 腰かけて「澤端の  
トーサンテ イッテ ナンダーッテッタラ オリヤー コマッタヤ  
父さん」と 言うので「何だ」と言たら「私は 困たま。  
ゴケドンジャー アルシ オランウキオ ミヨーレーッテッタ  
ヒヒリ者では あるし 私の家を 見てくれよ (こくねい)  
ッケ。(B 笑) テメー! ウチバッカジャネーワ。ゼンブ ソー  
被害を受けた)と言たま。(そして"私は")「お前の家ばかりではなあわ。全部(の家が)う

ダ。オンナシコンダ。ソンナコンデ ナクナッテ ソーイッタ。  
ア。(被害を受けた点では)同じことだ。ソルトヨコテ 泣くなよと そう言つた。

B アイ トーオン シンダダカヤ。  
みの 父さん(主人)は 死んでしまつたからね。

C シンダ。  
死んだ。

A シンダガ。  
死んだ。

B ハー。  
了解。

A ン。ソイテ アイ コイ アリナガ<sup>(9)</sup>ナガ----。  
ラム。それで 有 永の、----

B ン。  
うん。

A アイ シエージュータクナ。  
市営 住 宅 だ。

B ン。  
うん。

A アッキエ ヤッタダ。  
(そこへ)(三角屋敷の奥へ入る)入れるようにしてやつたのだ。

B アイ ホント。  
ああ うたつた。

A ソイカラ アイ サトーキンイクウンナ----。  
それから 佐藤 金作 君 のだ----

B ン。  
うん。

A オカミサンナ アレガ<sup>(10)</sup> アノー シエージュータクノナ オヤカタ  
がかみさん<sup>ト</sup> もの人が<sup>”</sup> (40)市営住 宅 の<sup>ト</sup> 親 才<sup>ミ</sup>  
一 シテルラ<sup>ノ</sup>  
しゃべりた<sup>”</sup>う。

B ニー。  
うん。

C ニー。  
うん。

A ノイテ<sup>”</sup> アノー イッカケ<sup>”</sup> ニカケツッテ ユーカモ<sup>”</sup> シンネー  
それで<sup>”</sup> (その住宅の責任者は、入居期間を)一ヶ月 ニヶ月と 言うかも しれ<sup>”</sup>すい  
ケーハ<sup>”</sup>……。  
カ<sup>”</sup>……。

B ニー。  
うん。

A マー オンナナンデ<sup>”</sup>……。  
まあ (奥さんは) がむか<sup>”</sup>……。

B ニー。  
うん。

A イラレルッタケ オメーワナ アノー マクショノホーエ ハナシ  
居られる<sup>”</sup>け (居られる<sup>”</sup>け) 役 所 の<sup>ト</sup> へ 話  
ヨーシテ ヒヤーデ<sup>”</sup>テケ ヒヤーデ<sup>”</sup>テケナンテコトワ イフネア<sup>”</sup>  
モ レ<sup>”</sup> 早く 出<sup>”</sup>行<sup>”</sup>け 早く 出<sup>”</sup>行<sup>”</sup>け<sup>”</sup>と<sup>”</sup> といふことは 言われ<sup>”</sup>すい  
ヨーニ カヤーカ<sup>”</sup>テ ヤッテクレヨ<sup>”</sup>テ オレ ノイッタッケ  
ようにして かれ<sup>”</sup>が<sup>”</sup>て や<sup>”</sup>くれよ<sup>”</sup>と 私は う言<sup>”</sup>た<sup>”</sup>。  
タ<sup>”</sup>。

- B シー。  
うん。
- C コドモモ アルズ"ラケンド" コドモワ ドーナッタク  
子供 も めるだ"ラウカ" 子供 は ど"うす, た:?
- A コドモワ ドーナッタクナ。ソレマテ"ワ (笑) シラネヤダ"ケーガ"……  
子供 は ど"うす, た:か。それま"は 知ら"よ"んた"けれど"……
- C アヒト オカシナコガ<sup>ヒトリ</sup><sub>xxxxxx</sub> ヒトリ アッタッケジ"ヤ。  
みの 人け (頭の) おかげ子が" 一人 あ, た"は"すいか。
- B シー。  
うん。
- C アー <sup>アヒト</sup><sub>xxxxxx</sub> アヒト! コデナイ アー マエヒト"……。  
みの 人 の 子で"すい。 前妻(の子が)"……。
- A マエヒト!  
前妻 ?
- C シー。  
うん。
- A アー アヒトワ ジヤ ゴサイカ。  
ああ みの 人 は で"け 後妻 か。
- C ゴサイダ"ヨ。  
後妻 だ"す。
- A アー。  
ああ(うか)。
- B トシン キガウダ"モ! アー ダンナサント"……。  
年が" 違うんた"もの 旦那さんと"……。
- C リー"エナー。  
うすだ"すけめ。

A ア！ ダンナサンワ オメー ヨレナンチャ一 オメー サキョー  
みの 旦 那さんは お前 夜 仔どは お前 酒を  
ア！ サキョー ノンジヤーサー……。  
酒を 飲んでいた され……。

C ンー。  
うん。

A ヘーカラ アー ジテンシャー モッチャ一 グラングラン……。  
それから 自転車を 持てては (うらうら(しおがら歩いていた))。

B ドッカ アッキ！ エキナンノ<sup>(1)</sup> ホー！ カワヤエ<sup>(2)</sup> ドジョーダカ  
どこか あららの 駅 南 の オの<sup>(1)</sup> ハ とじょうだん<sup>(2)</sup> カ  
ナンダカ トレー イッタナンテ ヨク イッタッケジャー。  
何だか 捕りに 行たなどと よく 言たでは(ほいか)。

C ンー。ヨク ビクモッチャーナー ジテンシャニヤー ビクツケチ  
うん。よく びくを持てては あ 自転車 に付か びくをつけ  
や……。  
てば……。

A クロー シターナー アノヒトモ……。ニー。  
苦勞を して 付か あのかみさんも……。うん。

B イマモ アスコニ スンデル！ アー……。  
今も あそに 住んでいるの？ あー……。

A ドコ！……。ヒヤー や<sup>XXX</sup> ヤクボエ イッタジヤネーカ。  
どこ……。もう 谷久保へ 行たのでは(ほいか)。

B ンー。  
うん。

A ンー。ナセ イマデモ オモイダスヤー、チワケダ。ンー。ソイ  
うん。何レろ 今でも 聞い 出すほみというわけだ。うん。それ

カラ アー ソー シー オランウチ一 キタ アー イシオ  
から キウダ" うん 私の家へ 来た 石尾  
クン。アヒヒター ヤネニウエー ナー ダ"シダンダ"ンダン オマ  
君。あの人は(自分の家の)屋根の上へ だ"ムだ"ムだ"ム お前  
エ ミズガ" アガッテキテサー イクトコ ネーダ"ッテサ。ソエデ  
水が 上が" てきてさ 行く所が だ"ムだ"ム それで  
ヤネノ テンジヨー ツキヤブ"ッテ イタラ タスケー テテクレ  
屋根の 天井を 突き破, 7 いたら 助けに 来てくれ  
タ。

だ。

B シー。

うん。

A デ オランウチ一 キテ イッショーカンバカリ イタ。シ一。  
それで 私の家へ 来て 一週間 げ"カリ いた。うん。

B ドコノヒトノ ソレ。

どこの人? えむけ。

A ソリヤー アノ タビ"カラキタ シューダケンド"サ……。  
それけ オモから 来た 衆 だ"けれど"サ……。

B シー。タビノ

うん。 オモから?

A シー。ソエデ オランウチワ オテラノシュー"ガ" ニケ"テキテサ……。  
うん。それで 私の家には お寺の衆 が 逃げて来て……。

B シー。

うん。

A ミニナ ニケ"テキテサ……。ソエカラ アサンナッタラ ゴハンシ  
皆 逃げて来て……。 オモから 朝になると たら 食事の支度を

ヨーッテ ユートキニサ……。オンナシユワ ミンナ ナクマンナ  
レキウと ハラ時にア……。女人は 皆 共同してくれ  
レヤー……。

よ ……。

B オテラ/ウチノ シューモ モー ジップン オクレリヤー……。  
お寺の家の 人もあと 十分 遅れれば……。

A シンジヤハタヨ。  
死んでしまったよ。

B ナガオレチャッタ。  
流されてしまふ(うとうだだ),だ。

A オレガ オメー ツレ イハタダモン。シ。オレン ツレイッ  
私が お前(やのんたち)連れてに行きたのだ。 私が 連れてに行  
タ。  
だ。

B シ。  
うん。

A ニ。ソーシカラ オテラ/ オシヨイ イワクダヨ……。  
うん。 そうしたら お寺の 和尚が 曰くだ"よ"……。

B シ。  
うん。

A イワバタヨーテンデ" ナンダッテッタラ アケッキノ <sup>(13)</sup>ヒガナケ  
「澤端 よう」と言うので「何だ」と言たら 「上土の 灯が 消  
一タラ ニゲヨーッテコト (B笑) イワレテレンテ マダツ  
云たら 逃げろと へうんと 言われているので" まだ"(やのんが)  
イテレジヤーネーカッテ ユーケン バカユーナ オマエ オテラ  
つहहहह"はほいか"と 言うので「ほ"か"を言うだ。お前 お寺

ナ オメア アンナカ コノクレアーレジニアーネー<sup>(44)</sup>カ。ドン  
のア お前 めの中 (水かご)この(らい)あろて"はア"か<sup>(3言, 2)</sup>どん  
ドンドンドンキテ ミタラ オマエ オラー オーダン<sup>(45)</sup>ノホーカラ  
どんどんどん来て ミたら お前 私は 大段のオカラ  
ウラカラ キタ。

(アリ)裏から 來た。

C シー。

うん。

A コリヤ タマランテッテ ハヤク ニケヨーッテッテ ヘーカラ  
これは たまらばいと言ひて 早く 逃げようと言ひて それから  
ソーシタコロ アー ソー ケンキョーエ イッテル アー  
どうしたところへ 行く"県"県庁 へ 行つていろ(人)私の  
オクインガサ……。

奥 さん が"ア"……。

B シー。

うん。

A サイフー ワスレタッテ サイフインテ イラネーワッテ ヘーカ  
財布を 忘れたと(言つたが)「財布をもって いらす"よ", T(私が言つたの)それか  
ラ ウチー ニケテキタ。  
ら (私の)家へ 逃げて來た。

B シー。

うん。

A ソエカラ ノノアト オレガ ノーット ミカニ キカラ イッ  
それから そのあとで 私が オー, と 麦畠の 木の所から 行  
タウケダ。イッタラ アー オテラー デアージョブダッタケド  
たれけだ。行, たら お寺は 天 文 天だ, 天けれど

サ。

さ。

C シー。

うん。

A シー。シケルサン！ ウチ一 ニケテッタ。  
うん。(寺の人は)茂さんへ 逃げて行った。

C ソーダイ。

そうだ"だ。

B ヨツツタッケナ。

弱,だ, 1丁目。

C シケルサン！ ウチ一 サケ一 アー モタジヤネアノ オテラ  
茂さん の 家へ 先に 来たので ほほほいか お寺  
ノシュー。  
の 駆(1丁)。

A シー。キタ。ソイカラ オラントコエ キチャッタ。  
うん。来た。それから 私の家へ 来てレホ,だ。

C シケルサンチマデ ミズ ヘアーチャッタ。  
茂さんの家まで 水が 入,て レホ,だ。

A ナイヤガラダッケヨ。

(ナイヤガラの流の下に) ものすごい水勢だ"だよ。

C シー。

うん。

A ダケンガ。ソ一 コンクリタ"モニタ"ンデナ インノ コターネー。  
だ"けれど" (私の家は)コンクリート造り 1丁目で 何の 被害もない。

C シー。

うん。

A ハイテ ソノアシタノアハ アハ ゴハンオサ シヤクショノ  
それハ オノ翌日ノ朝 御飯モ、市役所ノ  
シユーカ クレレツッタッケカ……。  
衆 ハ くれると言、アハ……。

C シー。  
うム。

A イーッテッタダヨ。シー。コレバッカ / ニンズニナ。  
ハラドリと言、アハ。うム。これ("らいの (少) 人数) にアハ。

B イスマジヤニ ネー ココラ ナシニモ オイグロイナシテ ノーユ  
今オズハ ねえ ハラハ 何 も 災害 アハ うハラ  
ーノ ナクテ ノンビリシテタケン ~~コン~~ キヨネシワ ヤラレチ  
の(が)ハクテ のンビリシマハタケン 去年 12 ヤラレテ  
ヤツタッケジヤ。  
レモアタハ。

A ヤラレチヤツタ。  
ヤラレテレモアタ。

C ハーダ"ヨナ。  
アハ"ヨア。

A アー。ゴヒヤクゴジュー ミリジヤーナー ヘーヤン ゴジューイソ  
ああ。 550 ミリアハア、 平均 5 3  
センチダモン ハレー アハ クボツタートコエ クレンテ……。  
センチ(の厚)アハ"降、アハ"もの それに(水が)低、場所へ 来るアタハ"から……。

アハ。  
アハ。

C ハーダ"ヨナ。  
アハ"ヨア。

- A ア ツマルトカ一 イッピ一ノウケタ"ヨ。ア一 ソレモッテ  
(水が) 集まる所は 一 碗に丁るわけだ"す。 クの上  
ツテ リューソーノカワ一 キレテサ ミサ一 シタエ イクジヤ  
ニ 竜 化 の ツバ 切れて、水は 下へ 行くので  
ネー ラエ一 ハンランシテキチャッタ。ノイダモンダカラ ゼン  
ない、上へ 泡 濡して 乗つれそだ。 それだ"ものだ"から 全  
てコネア ア一 タンボンナカノシューワ コレ ヤネノネ テ  
部 田 の 中 (に家のあた)衆は 屋根のわ  
シジョーマテ" ツイチャッタ。 タ。 ガブガブガブガブ"……。  
天 井 ま" (水が) つづれそだ。 丁め。 がぶがぶがぶがぶ"と……。
- C ワシラン ヤツミチデモ アレダニナ アンナンナレトワ 不モワ  
私たの ハッ道 でヒ みれだ"す みんすに丁るときは 思わ  
ナカッタ。 タ一 ラエ一 ホーダッテア一……。  
丁か, た。 丁め 上の 方 だ, て丁め……。
- B ホント。 ラエ一 ホーデネ コッキノ シタノホー一 コトバッカ  
本當だ。 上の 方 でね, こちの 下の方 の ミコハ"カリ  
シシハイシテ……。  
心 配して……。
- C ン一。  
ラム。
- B ア一 アレダッケ フント一 コンド シタエイキャ一 ア一  
本當に 今度は 下の方へ行けは"  
ミズガヒヤーツチャウ。 ラエカラ クリヤ一 ド"シャテ" フントニ  
(低いから)水が入, つれそう。 上 から くの1す 土砂で 本當に  
ドーシヨモネーツケ。  
どうれどうも 丁か, た。

- C イチバン イチバン タカクテ アノ タタミノウエマテ タタミ  
一番 高く(水が来た場合は) 置 の上 まで(来て) 置  
ノウエ コニナ ツチニ ナッチャッタダ。ニー。  
の上か こんだけに エノ 仔レモ、タカタ。うム。  
A オラシテキノ キヨゾーコワリ コメー ツカナイツテバッカ イ  
私の 家の 貯蔵 庫は(浸水した)米に(水が)つかないとは"か" 言  
ッタダケンナ。  
アヒトのだけれど"ね。  
C ウラカラ ガンガンガンガン ヒヤーッテ キチャッタダ。  
裏から ざんざんざんざん(水が)入り、て 来てレモ、タのだ"仔。

## 注記

- (1) 昭和49年7月7日の静岡県集中豪雨の話題から録音に入り。冒頭は、今の時台風が静岡県へ上陸するかと思、たら来はか、たといふ話から入っている。
- (2) タ行音の前が促音化しているが、それほど強い習慣ではないと見られる。
- (3) 「澤端」は男性話者Aの屋号。以後「澤端のおじさん」などと、よく出でくる。
- (4) 「今日1丁別の所でその話が出了のだが」というつもり。
- (5) Aにあとで聞いたら「半才さん」と言、たと言うが、どうしても(han-dzɔ:san-ja)と聞こえる。
- (6) 「あそびだけ」との意。
- (7) (i:kayen → e:kayen → e:kaen → e:kan)。静岡県方言では(e:kan)の形で安定している。「よい加減→相当(の量)」の意。
- (8) 女性Cの実家がある場所。
- (9) 収録地である麻機の近郊。
- (10) 「管理人」。
- (11) 静岡市内を国鉄東海道本線が東西に走、というが、今の国鉄静岡駅の南側一帯(登呂遺跡などのある地域)を「駅南」とよぶ。
- (12) 「カワヤエ」は「カワエ」の言い誤り。
- (13) 「上土」は静岡市東北部の地名。話者の居住地の麻機から東へ2キロほどの所。
- (14) 「コノクレア」は「膝頭ぐらいます」。
- (15) 寺の裏側の地域。

## 2. 米作状況

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 男 大正4年生れ

- A オガフラワズニ<sup>(1)</sup> コトシノ コメワ ドーナッタ。キヨネン ソー  
めけくの果方に 今年の 米は どうだ, だ(と思う)。去年も それほど  
トレネアズラ。ターラ ゴヒヨー モッテ クリヤー ミント モ  
豊作で ないだろ。(それでも) 俵五俵 持, てくれば(私が貸してやる) 皆(俵も)  
ツテ クリヤーッテサ モット カセルダッキダケガ<sup>(2)</sup>……。  
持, てくれば(貸してやる)と言, だ も, こ 貸して み, だ方か「よか, だのだ」か……。
- B ドコ ドコダッケ。コメン ゼンゼン タベラニナクナッチャツテ  
ど“こだ”, け。米が 全然 食べられなく だ, てしま, て  
コマッタツテッタノワ。  
困, だ と言, だ家け。
- C ミキシタノ シューダッケジヤ。  
道下の 衆 だ, だよ。
- A いーだ。  
そうだ。
- B ドコダ。ンー。  
ど“こだ”。うん。

- A オクサン ャッテクレ。<sup>(3)</sup>  
奥さん 食べてくれ。
- X エー アリガトゴザイマス。<sup>(4)</sup>  
ええ ありがとうございます。
- B ワシラン アツミチデモ エーカン ハンブングレヤー アレダヨ  
私たちの へ道 でも 相当 半分 ぐらゝけ  
コー ミズ ハイ、ヤッテナ。  
(家に)水が 入、てしまつた。
- A コトシモガ一 オラーハチ一 コメア マワリワ フケチャッテナ。  
今年も 私の家の 米は まわりべ ふやけてしまつた。
- B ン一。  
うん。
- A コーイッテ ホントー(笑) ユート アレジヤー ミンタ カセレ  
本当と 言うと あれだけ(去年)24万(私の家の米)貸  
タッケン。(B笑) カセリヤーサ コトシ シンメアーデ クレン  
いがくねばよかだ。 貸せば 今年(それが)新米として もどつくる  
ダ"ナ一。 オ一。  
んだけよか。 おお。
- B シ一ダヨナ。  
うだつた。
- A ン一。  
うん。
- B コトシャー……。  
今年は……。
- A トクオ シタッケダケンガ……。  
(貸してあげば)得をしたのか……。

- B ホントニ……。  
本当に……。
- A ミンテモ エーシテ……。  
皆(僕)たまも都合ば)いいしょ……。
- C コトシャー マタ エーダナ。  
今年は まだ(米作は)いいしょだ。
- A マタ" ジューゴヒョーバカ アルダ"ヨ。シ一。コメン。  
まだ" タ 五俵ばかり あるのだ"よ。 (去年の)米ア。
- B シ一。イツ! キョネン!。  
うん。いつ? 去年の?
- A シ一。キョネン!。ソイテ ミンナ モッテッテ クッテルダ"ヨ。  
うん。去年の。それで(あれ)皆ば 持つて行って 食つていいんだよ。  
シ一。テキニ アルダ"ヨ ジューゴヒョーバカ。ソレン フケチャ  
うん。家に あるしょだよ。タ 五俵ばかり。それが 3いやけで  
ツテカ マルテ シヨンネア。ムシン イッピャーテ。  
レモテダ。全く しょうべない。虫か" いは"いつ"。
- B シ一。  
うん。
- A コーイツツアンナンチャ一 オメー ワ ワライキレネー。ソエダ"  
光一さん ほと" は お前(去年米を貸しておいたの)笑い切れほい(ほに利益がある。)  
シテ イット モッテクトナ ヨクツクト ロクショーバカシカナ  
だが 一斗 持つて行くば よく春くに 六 千ぐら しかだ  
イ。  
い。
- C コメモ マズイツケダ"ヨナ。 キョネンワ。  
米も ます"か, たのだ" は, 去年の。

B アジワ ドー?

味 は ど“う?

A アジヤー キー・ト ミズオ ヨブンニ イレナイト シヨンネー  
味 は、少 し 水 と 余分 に 入れ て お いと だ“めた”  
ナ。アーマタ コトシモ タイフーも クル。アメガ キタホー  
ナ。ああ、また 今 年 も 台 風 も 来る。雨 バ 來 た オ  
ガ エーヤ。ダケーガ ソーカガッカイ! シューワナ コーユー  
ガ い“や。だ“け“と 創価学 会 の 衆 は こ“う 言 う  
ヨ。タイフーもナ サイガイモ アッタホー“ガ エーツテ。  
よ。台 風 もナ、災 害 も あ、た“オ バ い“い、ア。

B ナセ?

ナセ?

A タイフーガ アリヤー“ナ タタミヤダッテモ デークダッテモナ  
台 風 バ われ け“ナ、畳屋 で“も 大 工 バ“も  
シヤカンカンダッテモ ミンナ ヤッパリ ゼニオ トレル。ダン  
左 官 屋 で“も 皆 や、け“) もう かる。だ“  
テ タマニヤー“ナ アッタホー“ガナ クーキンヨクナッテ テン  
から だ“ナ け“ナ、あ、た“オ バ 空 気 バ よく け“ア (い“) 天皇  
一 へー“ガ / ウマミテアーニ イツモ タタミノウエニナシカ イ  
陛下 の 馬 みた“ナ い“つも 畳 の 上 に だ“ビ “  
タッテ オモシロクモネー。(笑) ヨーヤク……。  
ても おもろく だ“かう。(下) は 一般の馬の みた“ナ 葉 の 上 に かいた“う。(笑) ヨーヤク……。

B アー“ヒヤクショーノシューガ (笑) ラローヌテ ネ クローヌ  
百 姓 の 衆 バ 苦 劳 し て わ 苦 劳 し  
テ アー“……。  
ア “……。

- C サイカイガ。アリヤー モーカルヒトワ モーカルグヨナー。  
災害が あれば もうかる人は もうかるくて すため。
- B ハー タヨ。
- うたうよ。
- C ハー。
- ああ。
- A ハエカラオー ハー アベカワガ イタンダ ワラシナガワガ  
それからアム 守倍"ハ" いたした、藁料"ハ"ハ  
イタンダ"ハ" ト---
- ハトムト"ハ" ト---
- C ハー。
- うん。
- A ミキー イタンダッテ イヤー コケーラノシユーダッテ ドカタ  
道路が いたした"と いえは この辺の衆 ても エオ  
ニイキヤー ヤハリ カネガ ヒャーレダ。(C笑)  
に行けば" やハリ 金ハ 入るのだ。
- A アレー オトナシク チタジヤー ドッコエモ ハカウトコモ  
あれハ(何の災害が)無事にいた"のではな、 ど"ハ"ヘヒ(人)使う場所セ  
ネーダ。シンジヤウエ。ハー。ホントニ。  
すいした。(あれでは)首(駄)湯がけ(?)死んでしまうよ。うん。本当に。
- C ホントニ。
- 本当に。
- A ダケンカ サイカイナンテノワ ハスレタトキニ クレダンテナ。  
レカシ 災害 ほと"と"うもの(人)をれた時に 来るのだから。

## 注記

- (1) 話者 A は [anekunohateni] (舉句の果てに) と言っていると主張。
- (2) 去年も、と貸しておけば、今年も、と返、今まで得をすら頂げた、だといふこと。
- (3) A が、同席者 X (私の妻) に茶葉子をすすめたもの。X は最後まで積極的発言はしていない。
- (4) X の答。
- (5) たまには変、たまとがある方がよからう、という意味を、天皇の馬は畳の上に寝ているだろうから (ユーモア)、たまには普通の馬のように藁の上に寝たいだろう、というつもりで言、だもの。

### 3. 関東大震災の思い出

話レテ

(用番号) (氏名) (性) (生年)

- A 山本 俊男 男 明治44年生れ  
B 後藤 百々代 女 大正2年生れ  
C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ジシンナンテ ミヨーダヨ。カントーダイシンサイダ。アントキヤ  
地震 だと" めでた"。関東大震災 だ"。あの時は  
一 モモサンナンテ……。

百々さん だと"……。

B イママテ シズオカ ワスレタ ジブンナンテ ユーコト モナク  
今すゞ(それまで) 静岡は 忘れた 時分に(災害が来る) び"といふと もびく  
マレダ"。ネー。コンタ" ~~ヤラレ~~ ヤラレキヤッタ。  
(何時来るか、どのくらい) ねえ。今度は やられマレド、だ"。

A ダイシンサイン トキニヤー オマツキワ イケツグレアーノ  
大震災 の 時には お前 だらけ 級歳ぐらの  
キダ"。アノ トキヨー!……。  
時だ"。あの 東京 の……。

B ンー。アントキヤ ワシラ 云々 ニネンダ"。  
うん。あの 時 は 私 は 二年生だ"。

C ワシラ イチネン……。ニネンダ"。  
私 は 一年 ……。(ヤ) 二年生だ"。

B ココノツ ジャネー。

九歳 でけけい?

C イチネンダト オモッタッケヨ アタシラ。イチネンダラ。

一年生 たゞ 魂、たゞ 私 17。一年 たゞうう。

B ジャ ワシラ サンネンダ。

でけ 私 17 三年 たゞ。

C サンネンダナ。

(あけたけ) 三年 たゞ。

A オラモ ドーモ アレグナ コシーッケダ"ンテナ。<sup>(1)</sup> リイデ"オマエ  
私も どうも 幼い 時 たゞ。それで お前  
ヤシノコノ ヤブエ ネタリガ。ウラカタノ アリ マヌエト。  
ヤシノコの 蔵 へ 寝たり。裏 側 の 山へと(逃げた)。

C ワシラン ワラノアブワ ホントニ ニキヤカカッタ カヤー ツ  
私の家の 裏 の 蔵 は 本当に(文勢集)にキヤカタ、カヤモ 吊  
ツタリナニカ……。  
、たゞ 17にかけて……。

A ン。

うん。

C ~~マキノ~~ ~~マキノ~~ アキヤンガ<sup>。</sup> アカ……。  
牧野の アキヤンガ<sup>。</sup> ……。

B ~~モトキヤン~~ ~~モトキヤン~~ イタナシテ アブニナカデ……。  
モトヒヤムモ ハツニヒテ。藏 の 中 で……。

C ホントニ……。

本当 1:……。

A アントキダッテ ウキガ<sup>。</sup> オマエ イッシャクノヨー ユスレタゾ。  
あの 時 でも 家<sup>ハ</sup> お前 一尺 以上 摺れだ。

イッシューカンバカ オマエ ビクビクビクビク……。

一週間ばかり お前 びくびくしてた……。

C アントキニヤー アー ナカムラノ シューカラ ヤツミチノ  
みの時に 中村の衆 も ハッ道の  
シューから ミシナ アソコノ オーヤノ ヤブエ イッチャッタ  
衆 も 背 みちの 大谷の 駄へ 行ってます、大  
ンダナー。

LT:“TOKO”

B アソコノ イマノアーノ アソコニアノ コーミンカンノトコ……。  
みちの 今ノ みちの (みち) 公民館の所……。

C ンー。

うん。

B アソコガ キバタケン ナッテタジヤ。  
みちの ババ 茶烟に TF, ていつたう。

A ンー。

うん。

B ソエテ<sup>(2)</sup> オギンサンテ アノ シンヤーサンテ バーナン……。  
それで<sup>(2)</sup> お銀さんとアノの しょさんと云う おばあさん……。

A ンー。

うん。

B アノ バーサンガ リリ ユスレル アノ テ コー カラタガ<sup>(2)</sup>  
みの おばあさんが うとうとうと揺ゆかれて う 体 が  
ユスレタモンド<sup>(2)</sup> リリ キバタケニ コー シガミツイテ シ又  
揺ゆかれた ので<sup>(2)</sup> みの 茶烟に レガツツハテ 死ぬ  
ダラ イッシュニ シナズヨーッテサ……。  
がら 一緒に 死のうよう、ママ……。

A シー。

うん。

B ワシラ コーニ コーニ チャバタケンネ……。

私たちには こういふうには こういふうには 茶 煙 に ね……。

C シー。

うん。

B イッショーケンメー シガミツイテ コー ユスレチャッテルカラ  
一 生 懸 命 いかみつひいた。こう 摺れマレモアリから

……。

……。

C シー。

うん。

B ハレ メニツクヨ。

それが(今も)目につくようだ。

A シンダラ イッショニ シナズ<sup>(3)</sup>テ……。

死ぬばら 一 緒 に 死のう、?

B アハ ミチデ ワシラ ジテンシヤ ナラッテタタタヨ。(笑) ハハ

みの 道で 私たちは 自転 者を 習 て い た ん だ よ。 その

ドーロデ……。

道 路で……。

A アハ。(笑)

ああ。

## 注記

- (1) 「コニー(ニスイ)」は「量が少ない」意から、「年令が少ない、幼い」の意にもなる。ニスイはこれにあたり。
- (2) 「レナ」という女性名を第一音節と第二音節の間に撥音を入れ、第二音節を伸ばして (finna:san) としたもの。
- (3) ニの前の部分で B が「シヌダ"ラ イ"シヨニ シナズヨー」と言つたが、ヨのニヒバの意味を、A が私に解説したもの。

## 4. 静岡地震の思い出

話題

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ハレカラ イシャシクサー アノ リシンヤナニカ ネアートオモ  
それから 久しく さ。 地震や何か 何かと思  
ツテ イズノホー！ リシンヤ アノホー カイドー！ リシン  
ツテ(以下) 伊豆の方の 地震や 北海道の 地震  
ツテアツテモオー ネアートオモッタラ コンダ ハマノオーヤ  
は あ、 でもさ、 何かと思、 たら 今度は 渋の下谷の  
リシンガ<sup>(1)</sup>ナ……。  
地震が“ア……。

C ンー。

テム。

A アレモ シッテルテ オマッキ。  
あれも 知、 どうだ？ お前たち！

C シッテルアネ アノ……。  
知、 どう？ めの……。

A ロウガ<sup>(2)</sup>ツダガ シキガ<sup>(2)</sup>リジブン……。  
六月六日か 七月の三日……。

C アノトキニワ ヤマニイタグヨ。ヤマニ イタラ カックターサンガ  
あゝ時(いは)山に(いは)山に(いは)す。山に(いは)ら 両(りょう) さしか  
-----。  
-----。

B ンー。  
うん。

C リシタラ コンナノ いシ イケアーリシ ゴトゴト オチテキタ  
やれたら こんな 石 大きい 石が どこどこ 落ちつけた  
ナ ンー。  
ア うん。

A ソレダンテオ キヨーモ センセーニ ユックタダケガナ<sup>(4)</sup> シズダイ  
それだ"から" 今日セ 先生に 言(いた)が"だ(後に)静岡大学  
ガ アノクレアーノ イキヤーモノ ボッタッタケガサ ホント一  
が" あ(い)から" の 大きい 建物を 建(た)いた"が" 本当  
ワ アノ一 ウドヤマノシターリューキシタトコデモッテナ ア  
は あ(い) 有度山の下 の 隆(たか) 起(おこ)レタ 地点(てんてき)  
ノー アベカワノ ジャリミテアーナモ)ト ナニカ コー ダン  
守(まつ)信(しん)の 研(がん)利(り)の ほ(ほ)ものか" 何(なん)か う 断  
(だん) ノー ナッテルノニ-----。  
層(そう) に 丁(とき) いるの に-----。(ぶつかって地震が"大き(は)" )

C ノーゲナ。  
うだ"ア。

A ンー。アスコントコワ フーントニ アノトキノ リシンウ アス  
うん。あ(い)の 町(まち) 本(ほん)当(とう)に あ(い)時(いは) 地震(じしん)で(いは) あ(い)  
ケーラノシユーワ タッテルウキヤー ネアーハケダ"。  
アドリの 衆(しゆ) が 建(た)てた 家(いえ) は 丁(とき)か, 大(おお)き"。

C シー。

うん。

A シー。アノ シズダイカラナー アノ タイショージナー<sup>(5)</sup> ハマ  
うん。あの 静大 から行み 大正 寺行み 渋  
/ ----.

の ----.

C シー。

うん。

A シー。アスケーラ オメア オラン クジーテヤンダ<sup>(6)</sup>。  
うん。あの辺を お前 私は 崩して歩いて(も)た)。

C シー。

うん。

A シー。ト アリヤー ジャー アノ シズオカノ タイカ一 モッ  
うん。あと あれは て"は 静岡 の 大火は も、  
ト コッキダックカ。  
と めとた", たか。

B アレワ ショーワジューゴネンダ<sup>(7)</sup>。  
あれは 昭和十五年だ。

C ショーワジューゴネンダナ。

昭和十五年だ。

A ショーワジューゴネン。シー。ソイジヤー ハマノ オーヤノワ  
昭和十五年。うん。それでは 渋の 大谷(地震)イクネンタ。  
幾年だ。

B ジシンノ

地震?

A ンー。

うん。

B イケネンタローナー。

幾年だ"ろ"う。

A ナンセ シキガツジブンダヨナー アー タノウオトルトキダン  
トドレ 七月こ"ろだ"す 田の草を取る時だ  
テ……。

から……。

C ンー。ソーダナ。

うん。そうだ"す。

A ンー。

うん。

C シキガツダッケテ。

七月だ"、"。

A ンー。シズオカノ ア ———。

うん。静岡の あ ———。

C エーカケンマエ——。

相当以前——。

B ソレワ マダ セン ~~xxxxx~~ センソーチュ——。

それはまだ 戦争中——。

C センノイ オウッタ

戦争 終わった(か?)?

A バカ オメー センソーメーデー アレー——。

ばか お前 戦争前だ"す めはは——。

C センソーメーダヨ。

戦争前だ"す。

A リーサ。

行きだす。

C ヨシチャント シゴトシテタモン アノ バンバー！……。<sup>(8)</sup>  
ヨレチャムと 仕事をしてたの、あの バンバーの……。

B ホー。

ほう。

A アノ タイカントキカ。

あの 大火の時か。

C ンー。ジシンノ トキニナ。アノ ケーボーチャンキデシヨ  
ラーン。地震の 時にね。 けー坊 らやんでしまう。  
ヨシチャントダ！……。  
ヨレチャムだの……。

A ンー。

うん。

C ヨシチャント ヘーカラ ハマチャンカ。  
ヨレチャムと それから はまちゃんか。

A ンー。

うん。

C ハマチャン。リリシュー！ シゴトシテ……。  
はまちゃん。そういう人たちと仕事をして……。

## 注記

- (1) 昭和10年7月11日の、静岡市・清水市の地震。
- (2) 特に静岡市~~焚~~<sup>焚</sup>谷・~~木~~<sup>木</sup>鹿・高松方面に被害が大きかった。  
全潰237戸 半潰1412戸 死者8 重傷26 軽傷192  
(静岡市編「静岡市史・近代史料」[昭和44年4月1日発行]による。)
- (3) 「角太郎」の「角」を(kakku:sAN)と略したもの。
- (4) 録音の前にA氏が“私に話した”と。
- (5) 静岡市東南、西~~焚~~<sup>焚</sup>谷にあり寺。駿河湾から800mくらいのところ  
ので「浜の」という。
- (6) 地震で崩れた家を、当時青年団の一員としてこわして歩いた、  
というと。
- (7) 昭和15年1月15日。被災者約28,000名、5275戸焼失。
- (8) 「バンバー」は静岡市麻機地区山田あたりの通称。表記は定かで  
ない。

## 5. 復員のころの思い出と戦後の復興

話レキ

(略号) (氏名) (性) (生年)

- A 山本 俊男 男 明治44年生れ
- B 後藤 百々代 女 大正2年生れ
- C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A オリィーナー センノーニイッテサー ウキー キャーッテクルト  
私は ひみ 戦争 に行ひ、アミ 家へ 帰、 ついろ 時  
キニナ アーー アー ダエタ アーー エンドー／ナ ホリウチ  
に「よ、 あの だれだ」 遠藤の「よ 堀内  
クン ト イッショニ キタダヨ。ホリウチクンワ オレン ブタ  
君 と 一緒に 来たんだよ。堀内君が 私の 部  
エニイレッテコトワ シラネーモンデ オメア ドコマデ" キヤー  
隊にいたといふことを(私は)知らばいの? (堀内君が)「お前ほどこまで 帰  
レダッテ シズオカダッテ オレモ シズオカダヨッテ オマエ  
るのだ」と言うの? (私が)「静岡だ」と(言う)「おれも 静岡だよ」と言うから(私が)「お前は  
ドコノブタイダッテッタラ ナニオ イッテヤカレンダイ ハンチ  
どこの 部隊だ」と言、 たら(堀内君は)「何を言ひて やがるんだい、 王長、  
ヨー オマエ オラントコノ アレジヤネーカ。ヨウ ナタヤナニ  
あたたけ 私のところの(班) 班長では無いか。(私は)よく 銃や何  
か コシラエニキタジヤネーカ ナンティイッタケカ。ホーカーナン  
かミレラエに 來た?「はははいか」アミと"と 言、 たが、「ううか」アミと"と

テナ オリタダ"ネーカ。アレダ"ッケヨ アー コノ カナヤノナ  
(私は言へ)(汽車)降りたのだが、 金谷の住所、

一 トニネルオコエテナ ズーットクルト コンダ" アノ オーイ  
トニネルを越えてよ、オーナと来ると 今度は 大井  
ガウノ テッキヨーエ ワタルダ"ケガ。トーッテキタラナ ラッス  
川の 鉄 橋 へ 渡ろめた"が(往)通ってきたらよ、うす  
リナ フジサンカミエテ イツモナガラヤ フジノヤマインテナ。  
リとす、富士山が 見えて、いつも すからや 富士の 山ほど"と(う感じす。)

ニ フントニ ノー オモッタッケヨ。ノエカラ アレカラ ズ  
ム 本当に う思、た よ。それから あれから す  
ーットキテナー アノー コノー サイズイキ ヘーカラ アノー  
ー、と 来て、 焼津へ行き、それから  
アスコノ トニネルオ コスト アー アレダ" モチムネノ ハマ  
あそびの トニネルを 越すと 用宗の 海  
シ メールオモッテ ヘデ" シズオカノ エキ キテナー ウ  
岸が 見えるなと思、(いるがに)咲れ" 静岡の 駅 へ 来つけみ、う  
レシーッケナー ユメジ"ヤーネー カトオモッテ <sup>xxx</sup> フタリテ  
れしかった すみ、夢 では すかと 思、(堀内君と)二人で  
ツメキリッコーシテ……。  
つねりあひをして……。

B \_\_\_\_\_。

A オー。ホーシタラ コシン スケキヤッテナ。ニー。コシン スケ  
おお。うレたら 腰 バ 抜けてしま、す。うん。腰 が 抜け  
キヤッタ。(笑) ノレガ。ヒー ナンジ"ユーネンダ"。アー。ウチ  
てしま、た。 それから もう 何 タ 年も下つ。ああ。(幼時)家

— キャーッテキタラ コンナノウチデモ オリヤー ネラレルダ  
へ 帰って来たら こんだけ 家でも おれは 寝られる  
カナート オモッタッケ。(C 笑) イキャラウチニハーッカ イ  
かたあと 思うだけ。 大きだけ 家には“かり”  
タモンダ”ンデ”。 二。 ヘーデモ オリヤー オトシサンナー イテ  
たもので……。 うん、 それでも おれは おとしさんすみ、 一  
パン ウレシーコトワナー マー タンボーワッテ ウチヨータッ  
番 うれしいことはすみ、 まあ 田んぼを売って 家を 建て  
タッカモ シレネアーケーガ。 マー ミンナ トモダチガナー キ  
だかも しれすい が まあ 背 友だちがすみ キ  
レーナウチニ ヒヤーッタッテコトガナー コレガ。 オレ ナニヨ  
れいだけ 家に 入るといふとか“すみ” これが“私は 何より  
リダ” オモーヤー。

(a:と) だと 思うよ。

C ハーダナー。

うだだすみ。

B ハーダナ。

うだだす。

A 二。 二。 クローカシタケーがナ。 二。 マー ナイチニイルシ  
うん。 うん。 苦勞はしたけれどす。 うん。 まあ 内地にいる  
ユーダッテモ ゴハンモ クワズニサ……。  
人 でも 御飯も 食わぬにさ(苦勞はしたうが。)

B 二。

うん。

A アハニゲテモ ヤーニダリ セーカラ アハニ シヨイタシニモ  
逃げて 歩いたり それから 買い出しにし

イッタリ マー アノ ジバン/キモノナー シテ ャット ア  
行、たり 時分の衣類(続、たり) レテ や、ヒ  
ノベーグンニ アノ トニモロコシ/ウマノハノヨーナノオ  
米軍に トウモロコシの 馬の歯のようだのを  
モラッテクッテサ。ソイデモ イマンナリヤー セカイデモ ヤー  
もら、て食べてさ。それで今 にほれば“世界”でも  
ケーライコクニヤー ナッタワ。  
経済(大)国には てよ、たり。

C ソーダナ。

うだつて。

A ソーシテ カクジンノ ウチャ一 ミンナ エーラキン ナッチャ  
うレテ 各人の家 は 脇 立派な家に てよ、てし  
ツタダケン……。  
ま、たのだから……。

C ニー。

うん。

A ニー。ソレダケモ マー シヤウセダト オモーナー。ニー。ニー。  
うん。それでけでも まあ しあわせだ“と 鬼うほみ。うん。うん。

C ソーダナ。

うだつて。

## 6. ベトナム僧のお経

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A リンサイジーナー オラン オフクロク シンデナー ノーシキオ  
臨済寺の 私の母親が死んで了あ 葬式を  
シルトキニ マクラグ<sup>(1)</sup>ンゴーニ キテクリヨーッテッテナ、リンサ  
イの時に 枢団子に来てくれと頼むために了<sup>(2)</sup>臨  
イジー イッタ。ノーシテ アノ リンサイジーナー オショーカ<sup>。</sup>フ  
済寺へ行いた。了として 臨済寺の和尚がニ  
ターリキタ。  
人來た。

B ン一。

うん。

A オリヤー ニホンジンダト オモッキヤー イタラナ一 ヒトリヤ  
私は 日本人だと 思って いたらぬ 一人は  
一 オメヤー ベトナム人 ニシケンダヨ。  
ベトナムの 人間だよ。

B ン一。

うん。

- A ニー。ホンカ。キガウダヨ。  
うん。(お経といふ)本が(漢字)違ひます。
- B ニー。  
うん。
- A オンナシコニナーローロートシテナヨンデルダケーカナ……。  
(普通の日本語の本)同じようにして読み朗々と 読んでいました"か"です……。
- B ニー。  
うん。
- A ホンカ。キガウダ。  
本が違ひます。
- B アー ホント。  
ああ そうかね。
- A オリヤー シラナイッケダケンナ ミティルヒトガ アノヒトワ  
私は 気が付かなかつたが丁度、(本)見ている人が「あの人は  
ベトナム人 ヒトカヤー ジガキガウデニテユーダ」。オカーシ  
ベトナム人 人が好み 字が違ひます」といいました。 も  
ナ オシイカサンノヨーナジオ……。  
丁度 お経 地 さん の よう 丁度 (形の)字を……。
- C アー ジワ キガウダナ。  
ああ 字は違ひました"です"。
- A ニー。  
うん。
- B ソイデ ジワキガウタッテモ ノノ オキヨーッテノワ……。  
それで 字は違ひます ものの その お経 というのには……。
- A オキヨーッテモノワ オンナシ……。  
お経 という ものは 同じ……。

C オキヨーワナ……。

お經 はす……。

B オシナシ……。

同 レ……。

C イントデモ シナデモナ ドコデモ ミーンナ イッショダッテ  
イントデモ シナデモナ, ドコニでも 皆 同レ だ", て

オキヨーワ。シ一。

お經 は。うん。

A ノエカラ……。

それから……。

B ジカ ジヤー リック! ホー! ジデ キヤーテアル。

字が では そちらの 方 の 字で 書 いつめる?

A シ一。

うん。

C ノーダナ。

ナラダ"す。

A ヘーカラ キータラナ ベトナムダッテユーダ。

それから 聞 いたら「は、(やがて)は)ベトナム人だ」と言ひた。

B シ一。

うん。

A シ一。ヤー オジサンケモ イッテタダ"ヨーナンテッタラ ノーデ  
うん。「あ 私 も(そちらの方へ)行, がほんに"す」と言, たら 「う

スカーナンテッタッケ。ヒヤー オランウキニキテオ……。

「すか」すと言, ていた, け。可く 私 の 家 へ(ゆく)来て……。

B シ一。

うん。

A ナンキューカト オモッタラ ナサケネーカナ ベトナム ベ  
何と言ふかと思ふ、たら「情けねえ」だよ。  
ベトナムイッテナ コノ ミンナシテ タッタルウケワナ コラ  
ベトナムへ行つては、共同で建つてある家は  
エーウケモ アルケーガナ コシ"ンテキデ"モッテ アノ一 ウケア  
よ"家"も ある が"は"個人で"建てた 家は  
一コケラノヨーナウチャ一 ベトナムニヤー イッケンモネー"ツ  
(日本に普通にある)よ"家"は ベトナム には 一軒 も"よ"い  
テ ノイイタッケヨ。  
と う言ふ、だよ。

B 二一。  
うん。

A ジイニダトカナ……。  
寺院だとか……。

B 二一。  
うん。

A ヘーカラ ガ"のコードトカッテノワ アルケガナ ダ"イガ"ダトカ  
それから 学校だとかといふのは あるけれども 大学だとか  
……。

B 二一。  
うん。

A ハニキヨーダ"トカッテノワ アルケーガ"……。  
県庁だとかといふのは あるけれども"……。

B 二一。  
うん。

A ダケーカ。コジニデナ アー……。  
だ“けれど”個人アーテ……。

B ニー。  
うん。

A コーユーナ ニホン/ヨーナ ア/ ミンカ/ヨーナナ……。  
ミラハラハ日本のようにア (ya) 民家のようアタマア……。

B ニー。  
うん。

A ウキ一 ヘアーテルッテウキ一 オジサンア マー ナンニ  
家へ 入、ていろという人 は おじさん 何に  
モネアーツテ コーイッタヨ。  
もすい と こう 言ったよ。

B ニー。  
うん。

A ソエダシテ ニッポン/ナ ミナサンワ シアワセダッテ。ニー。  
それだから 日本のア 背さんほ しわせだつて。うん。  
ガクモンワ ハッタツシテルシナ……。  
学問は 発達 していろレ……。

B ニー。  
うん。

A ハウキモ ハッタツシテルシ……。  
家も 発達 していろレ……。

B ニー。  
うん。

A ソエカラ アー ナニカラナニマデナ イクラマケテモ セカイ  
それから 何から何まで(発達いつ) いくら(太平洋戦争には)負け世界

ナ ヤッパリ オーコクダッテ……。シ。マ イワバサ イシ  
ア ヤハリ 王國だ。うん。ま いわは 石  
バシワ ツバレテモ <sup>(3)</sup> ヤッパリ クオッテモ テアッテユーヨー  
橋は 磨滅しても やはり(石橋だ)腐ても 鯛 というよう  
ナモンダナ。シ。(笑)ア。ホントニ……。  
すものだ。うん。ああ。本当に……。

## 注記

- (1) 「私の母親が死んで、臨済寺に頼んで葬式をする時に」の意。
- (2) 死者の枕もとに、枕に掛か「よい米を盛、了供えるもの。
- (3) 「ツブ」は「磨滅する」の意。「イシバシワ ツバレテモ」とは、立派な石橋は、たゞ磨滅してもやはり石橋だ"という意とて、直後に出来る「腐、とも鯛」と同趣好。(「石橋のあ、た家は旧家だ、たから今でも權威がある」の意)。

## 7. 昔の生活と今の生活

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

B ヴィデ"ムカシ"カラ クラベリヤー<sup>(1)</sup> イマノショーワ シアワセ  
それで"昔"と 比べれば"今の人"は しめわせ  
ダ"ヨー。

だ"よ"。

A シアワセダ"。  
しめわせだ"。

B ミシナ ソレコヤ エーウチ ヘアーテル。  
みんな 立派な家に入っています。

A ソレニヤ キヨービノ コドモナンテ ワレワレワ オマエ エ  
それにさ、 ハニ"3の 子供 すと" われわれは お前  
メニモ カンケータコタ一 ナイヨ。ア! テレビダ"ナンテコト  
夢にも 考えた ミヒは ないよ、 テレビ"だ"すとニヒ  
ウ。

は。

C ヴィダ"ナ"。  
うそだ"子め"。

A ゴハン クイガツラ エーガミルナンテコターネー。  
御飯を 食いつながら 映画を見つめて こじけぬえ。

C ニー。  
うん。

A ニー。  
うん。

B ナシテ"モ いカシカラ クラベリヤー イマノ コドマー シアワ  
何でも 昔 と 比べれば 今 の 子供は しみれ  
セニヤー シアワセダ"ヨナー。  
せには しみれせだ"すすみ。

A シアワセダ。  
しみれせだ"。

B キルモノカラシテ……。  
着る物からして……。

A アー。  
ああ。

B ムカシヤー ネ ズーット(笑) オサガリ オサガリテ"(笑)……。  
昔 は ずーと おさがり おさがりテ" ……。

A ニー。  
うん。  
C ノーダ"ヨナー。  
うだ"すすみ。

A イマノナ オメア ホシナシテ イケネンツカヤー ウッヂ  
今 の 者 は お前 本 てど" 一 年 使えば" 捨  
ヤツキヤウモンデ"ナ。ムカシヤー オマツキヤケノ コドモニヤー  
アレ しまうものでは。昔 は お前の家の 子供には

ホンカ<sup>(2)</sup> アウカシラ<sup>テ</sup> アルカシラナシテッテ ヤーンダ" / ガ"ト……。  
本ガ あるから下などと言、て 歩いたのか"ト"……。

B ソーダヨ。

うだ"ト。

C ソーダヨ。

うだ"ト。

A オー。モラエーヤンダリ カレーヤンダリ……。  
おお。もらひに歩いたり 借りに歩いたり……。

B シッテルウキ / コンノ カレリヤーイーワナンテッテ イッキ  
知人 の家の 子の(本を) 借りれば"…わ下など"と言、て 言、て  
ヤー……。  
う……。

A ニー。

うん。

B ソーシャー ヒトリノホンデ エーカン アレ アノ一 オーセ  
うしては 一冊の本で 相当 大勢の  
一トーッタ ソノホンデ" マニアワシテ……。  
人が" すんだ"。その本で" 間に合わせて……。

C ソーダヨナ。

うだ"ト"ト。

A ニー。マニアワシテ……。ニー オラ マー ヒトリコダ"モンタ"  
うん。間に合わせて……。うん 私は まあ 一人、子下"もので"  
ンデサ マー ズー、ト カツタケーガ"サ……。  
さ、まあ す、と 買、だけれど"サ……。

B ニー。

うん。

- A タケーカ。……。  
タケト。……。
- C オーボーアルウキジヤー。……。  
大勢 いろ家 てす。……。
- A ン。オラホー／ シューワナ ア／ サーバタ／ウキ／シューン  
ウム。私の(近くの) 人 はす 澤端の家の人  
／ アノー アルカヤーナンテ キタシユーカ。オハナサンキアタ  
／ (木は)あらかよ ほと" 乗下人 が" お花 さん家の木下  
!! シュア ッタヨ。  
リの人 に あ、たす。
- B アルヨ。  
あらす。
- A ン。ショージキン。  
ウム。 本当 に。
- C ン。  
ウム。
- A ン。  
ウム。
- C サイショ ニューガクシルトキニヤー アタマ ワニユッテ。……。  
最初 入学 する 時 には 頭を 輪の型に結, 7。……。
- A ン。  
ウム。
- C ナ ハマカ ヒヤーテ。……。  
ほふ 補を はいて。……。
- A ン。  
ウム。

C キモ/キテ ハカマハイテ イッタダヨナ。  
着物を着て袴をはいて行、大陆にまで来た。

A タケーカ キヨービワ オリヤー アレダ"キヤー シタホーカ" エ  
タ"けれど" ビニ"ス"は 私は われだけは レトオ が  
一ト オモーク。コナ一 アノ ヤツハリ ヘーカノナ オイ  
ハと 思う仔だ。(つま) やはり 陛下のお祝  
ワイノトキニヤーク……。  
この時に仕事……。

C 二一。  
うん。

A アー ナンテッタツテ ヤツハリ ヒノマルノハタ一 アゲ"テイ"……。  
ああ 何と いとも やはり 日の丸の旗を 揚げて……。

C ソーダ"ヨナ。  
そうだ"よだ。

A カクシ"ンガ……。ナ一。  
各人 が……。仔だ。

C 二一。  
う。

A ヘーカラ オマエ ガ"コーエイツテル コドモニヤーナ タエ  
それから お前 学校へ行つた子供には仕事 だとえ  
ヒツツデモ イーンテ センベー/ヒツツモナ ムカシノヨー二  
一枚でも いいから 煎餅の 一つも仕事 昔のように  
クレテモライタイヨ。ジブン/コドモアルンテ ユーワケジマ一  
とえてもらいたいよ。自分の 子供がおもてために 言うわけでは  
ネアーテーク"……。  
す"けれど"……。

- B ムカシヤー コーハクノ マンジュー ダカ クレタヨナ。  
昔は(往々)紅白の 饅頭ダカをくれたよ。
- C ンー。ムカシワ コーハクノ マンジュー クレタヨナ。ヨク。  
うん。昔は 紅白の 饅頭ダカをくれたよ。よく。
- B ヒノマルガ ハタノツイタ アノ フクロイレキヤー クレタケ  
日の丸の 旗ハタのついた 袋カケに入れば くれたけれ  
ガ……。  
と……。
- C ンー。ソーダナ。ニーン。  
うん。うだたよ。うん。
- B ナツカシクナツキヤウ。  
すまへかしくダカ、アレまう。
- A ソシキヨーサンガ。キンオモウニナンテツテ ヤッテナ……。  
村長 さんが「朕 惟 フニ」タヂと や, タヂ……。
- C ンー。  
うん。
- A アレ ヤッハリ シキラシーッケ。ンー。ダケン キヨービ"ヤー  
あれは や, は"リ 式ハタケしかった。うん。だ"けど" ノ"ニ" 3 は  
オメ"ヤー ヒノマルノハタノ アケルワケジ"ヤナシナ。ナ。  
お前 日の丸の旗ハタを 揚げるわけではなし, よ。
- C ソーダ"ヨナ。  
うだたよ。
- A ンー。ソレテ" イータ"カモシレンケーガ。ヤッハ。ニッポンジンワ  
うん。ソホ" いのかもしけば、が やは"リ 日本人は  
ニッポンジンラシーヨナ ガクモンノアリカタン イチバン イ  
日本人 らしいようだ。學問ガクモンのありかたが 一番 い

ージャネーカト オモウダケンナ。ヤッハ。キミガヨウ ヤリタ  
いのうはすかと 見うだけれどすみ。やはり 君が代は 歌いた  
イヨ。マズナ一 コケーラノシユーワ マダ カンジネアーダケー  
いよ。ます ニの邊の 人は まだ(やいうじと)感じずといけれ  
ケ十一……。  
どすみ……。

C 二一。  
うん。

A ガイコクイ イッテ ヒノマルノハターミテミロ オメア コノク  
外 国へ 行, て 日の丸の旗を 見てみる。お前 二〇(レ  
レー キモキノ イーコターナイゾ。  
らい 気持ちの いいことはすみ。

C ソーダ<sup>(3)</sup>ヨナ。  
うだよす。

A 二一。ホントニ……。  
うん。本当に……。

## 注記

- (1) 「ムカシツカラ カシガエルト」と「ムカシト クラベリマー」との混交。
- (2) 「アルカシラ」の言い誤り。
- (3) Cはこうこう体験がすいはずだから、この「ソーダヨナ」は、單なる相づちである。

## 8. 兵隊生活と君が代

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A へー オマエ カンタンナコトダケーガ オマエ オラー へータ  
お前 簡 て二ことだ"けれど" お前 私は 兵隊  
イニイッテナ一 オマエ オリヤー イロー キューカ イチニチ  
に行つてみ お前 私は 慰勞 休暇 一日  
モラッタコタ一 アルケーガ ソーシタラ ビンタトラレタト。  
もらつた 二ことが" あるのだ"か" どうしたら ビンタを食わされたよ。

B 二一。  
うん。

A キミガヨ! イミヨー ユッテミヨッテイッタラナ ダーレモ テ  
(上官が)君が代の 意味を 言つてみよと 言つたら て"れも 手  
オアケネアーンデ" オレカ ヒトリデ ヤツタヨ オメア。ソ一  
をあけ"て"いして" 私が" 一人で" 言つて お前 。う  
シタラナ イチニチ ホーショーキューカー モラッタ。モラッタ  
したら て, 一日 報賞 休暇を もらつた。もらつた  
アカツキニヤー一 ビンターナ サンジュータ"カ モラッキヤツテ  
翌日 には て, ビンタ て 三十 だ"か もらつてしまつ

……。ソシナモンナ一 ダレデモシッテラーッテ……。ア一。

……。スルハモノの子 たれべし知り、ア ト ……。ああ。

B (笑)

A ソイデ"ニネシヘニ ナッテナ一 ハンキヨーガナ一 ジツア一  
タレベ"ニ年兵 に トアツアみ、班長 が「ほみ、「実は  
ヤマモト オレモ シラネーッケダヨッテ……。ウタウコタ一 ~~シ~~  
山本、おれも 知ら「か、た よ」、ア(言、た)。「歌うニヒ  
ラテ<sup>(1)</sup> ソラデ"ウタウケーガナ オレモ シラネーッケヨッテ オ  
ソラデ" 歌うけれど「は 私も(意味を)知ら「か、た よ」、ア「お  
メアニ オソワツテ ハジメテ キミガヨノイミヨー シッテル  
前 に 教 わ、ア はじめて 君 が 代の意味を わかる  
ヨーニナッテルッテ(笑) ハンキヨーモ セーイツタッケヨ。シ  
ょうに「は、ア い」、ア 班長 も う言、ア、けよ。う  
一。ウタ ウタウニヤーウタウダケン イミガシラネーッケ。ソエ  
ル。歌を 歌うには 歌うのだけれど 意味を知ら「か、た(と)。たか  
ダンテ ア! モモサン イマ! ホタルノヒカリデモナ ヒトリ  
う 百々さん 今。『蟹 の 光』でも「一  
/ボリテ<sup>(2)</sup>モナ一 ソエカラ ア! アレデーナー コ! 一  
のほり! でも「あ、それから  
キガツイキンチ! タ一 カドマツ! ウタデモ ヤッハ。アレア  
月 一 日 の 門 松の 歌 でも や、は! みれ  
一 エーモンダヨ。  
は い、ものた"す。

C ニー。

うん。

B ニー。ナ一。

うん。まあ。

A ニー。イマノシユーワ ドーカ シラネーケーガ。ワレワレンキク  
うん。今の人にはどうか 知らぬよ。けれども我々が聞く  
トナ一 ヤツハリ アノコノ ショーカツテモナ一 コノ一ガ  
とまあ、や、は。唱 歌といふのは(つまり) 学  
校で 国家を歌うとか まあ、まあいう 紀元  
ンセツノ ウタ一 ウタウナンテコタ一 ヒジヨーニ ムカシヨー  
節の歌を 歌うほど"と"いうことは 非常に昔を  
オモイデ"アーテ エート オモナ一。  
思"出でて いと 思うまあ。

B ソーダナ一。

ううた"まあ。

A ニー。オラ スキダヤー。イミガ。ワカレダ"モノナ。

うん。私は好きだ"よ。(やいわんとある)意味が"(よく)わからん"のです。

B ニー。

うん。

A ニー。

うん。

## 注記

- (1) 「ソラデ」の言ひ誤り。
- (2) 小学校の卒業式で歌、下歌。「一つのぼりてもつまじく 歌い合  
いたる野辺の鳥」で始まる唱歌だという。「螢の光」のメロディーで  
歌う。

## 9. 昔の生活の思い出

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 山本 俊男 男 明治44年生れ

B 後藤 百々代 女 大正2年生れ

C 佐藤 とし 女 大正4年生れ

A ソーシテミルトサ ムカシオ カンゲーター テミルト タケー  
どうして みるとさ 昔を 考え? みると 長い て  
オラモ……。

私も……。

B タケー マッタク……。  
長い 全く……。

A ンー。  
うん。

B ヨク イキテルト オモー。(AB笑)  
よく 生きていろと 思う。

C ミンナ ソー オモーヨ。ヨク イキテルト オモーダナ。  
皆 よう 思うよ。よく 生きていろと 思うんだよ。

A ナニセアーネ ナニセアートキニヤーサー イマ アノ リユーネー<sup>ル</sup>  
小さい 時には今 今 流通  
センターナンテ アンナンナッテ デキタケガサ アスコントコ  
センター てども あれいうふうに(立派に) でさけられども わきの所

1 メアーノ カワナンチャ一 ソイジヤッテナ。シ一。アノ一  
の 前 の "ウチ 仔" は えぐれマレモ、マテモ。うん。  
コ一 アノ一。

C スマノ バーサン。<sup>(1)</sup>  
沼の ば"め"ん。

A スワジン……。オ一。スマノ バーサン……。  
諏訪神……。沼の ば"め"ん……。

C スマノ バーサンナシテ イッテッケヨ。  
沼の ば"め"ん"と"へ 行、行、行。

A スワジンジヤ。  
諏訪神社。

B イッタヨナ一 ヨク。  
行、行、行、行、行、行、

C オベーテルヨ。  
覚えていろよ。

A アノトキニヤー一 ヤッハ。フネ一 サキヤ ~~xxxxxx~~ サカダルオ リン  
みの時に仔"と" や、ほり 船へ"と" 酒樽を 積んで"……。  
て"……。

C ノ一。フネ一……。  
うう 船へ……。

A イセーオンドー ラタッテ一……。  
伊勢音頭を 歌、歌、

C アスコノ ヤクボ一……。  
みちの 谷久保 一……。

- A ヤクボーカラ  
谷久保 から
- C ヤクボーサージリカラナ フネテ"モッテナ イッタダ"ヨ。  
谷久保 沢尻 から行。船で 行、た"モッテ"す。
- B ヤクボーサージリ……。  
谷久保 沢尻 ……。
- A アー。アー。スマバーサンテッテ イシバシ / バーサンガ コ  
ああ。ああ。沼のは"みやん"とい、石橋のは"みやん"が そ  
ドモ一ツレテナ……。  
僕を連れていこう……。
- C チーセアートキノホーガ コー……。  
小さく 時の音が こう……。
- B ムカシノホーガ コー アレダナ アー ナニカ アー コー  
昔の音が 何か  
アレダネ オーキクナッテッカラ エーオモイデ"ガ" イクツモアッ  
大きく は、から いい思い出か" いくつもみ  
テ ムカシノホーガ タノシミー (笑)  
て 昔の音が 楽しい。
- C タノシ一チ。  
楽しい。
- A タノシ一。アー。アー。  
楽しい。ああ。ああ。
- C イマワ ソレコソナ アレダケン……。  
今は それこそば(それがうぶうば)から)……。
- B イマワ ナンニモ ネー。  
今は 何にも ない。

- C ハカシヤー アレダヨナ ノーエー オマツリナシテノワ……。  
 首 け う が祭りなどといふのは……。
- A ジブンノ レキシエ ノネ アタマエ コノ キガシテ アレダ  
 (首のことは) 自分の歴史へ (つり自分の) 頭へ 刻み込んじるる  
 不。シ。 う。
- C シ。 う。
- A シ。 ナカナカ アー ヌマノバーサンダナンテネ アノ スワ  
 う。 テカハカ 沼のは“みさん て”といつて 謙訪  
 ジンジヤナンテモンガネ コノ オドリオ オドッテオ チンチキ  
 神 祀(の祭り)がみ、て 踊りと 踊、て ちんちき  
 チンチキ チンチキ チンチキヤッテ……。  
 ちんちき ちんちき ちんちきと踊、て……。
- C オドリ オドッテ……。  
 踊りと 踊、て……。
- B イマノ イマノコドモワ ヘーダンテ ノーエッタ アー ジブ  
 今の 子供は それだから うい、た 自分  
 ノネ ラマレタトコノ フルアトノ……。  
 のね 生まれた所の ふる里の……。
- A シ。 う。
- B ノーエー ネー コー エー オモイデナシテ イマノ コドモワ  
 う がい、う “想い出” 今 の 子供は  
 オーキウ ナッテカラ コー ナイ ネアト オモーヤ。  
 大きく ほ、から ばい、ほ、と いふよ。

- A ネアダガナ。  
アハムトニタ。
- B ヘーダンテ……。  
シカトニカラ……。
- A オモイデツテコトガナ。  
鬼出といふことがナタ(アハムト)。
- C ソー。オモイデツテモノガナ。  
ナタ。鬼出といふものガナ。
- B スマバーサンナンテ フネニツテ イッタダネ。フネル シュ  
沼のほあさん(といふ沼) 船に乗って行、トムトム、船の人  
一ト ミカンオ ナケタリ モラックリシテ アシラ リア  
と ナカムを 投げたリ もら、トニリして 私モリ
- カウル クロオネ……。  
リル 3.ちをね……。
- A ソー。  
ラム。
- B ズーット イイツタノオ オベ<sup>xxx</sup> オベーテル。  
アーッと (歩いつ) 行、たのぞ 覚えていろ。
- A ソー。  
ラム。
- C オフドーサンダツテモ オフドーサンナンテ ヒヤー ニジユーシ  
お不動さん でも お不動さんすして もう ニナセ  
キンキル ヒニヤ ゾロゾロゾロ オバーサンキンニナ……。  
日 む 日には ゾロゾロゾロゾロ おはあさんのいる家に行く……。
- B ソー。  
ナタ。

- C コー。  
こう。
- B ンー。  
うん。
- C アー タカク レツツクッチャーサー……。  
長く 列を作、ははー……。
- A アー。  
ああ。
- C タンボ / ホーカラ タンボミキオ クレヒトモアリヤー コ/  
田んぼの オから 田んぼの道を 来る人もあもし こちの  
ミキオ トールヒトモアリ ニキヤケヤーッケダケント。  
道を 通る人もあり にさ"ヤハタ",ト: ト:。  
(2)
- B オトモ / シレシユ……。  
おともに ト:ト:レタレヒテ……。
- C コノゴラー ナンノコタ一 ネーモノナ。  
この"3"は 何の(変わった)こには"は"ものト:。
- A ソイツガサ イチバン ハジミヤー コ/ ネ ミキガネ(C.ンー。)  
ソレ"う"場合に 一番 初めに 道スル  
コレバツカダカラネ。  
これ"1"か"1"(狭か)からね。
- C ンー。  
うん。
- A ニシヤクバカリノ ミキタ。  
ニ尺(らいの(幅))道ト:。
- C リータ"ツカナ。  
えうだ",ト:ト:。

A ソイリカ イマワ オマエ アイ イケヤー トランクガ オメア  
ソルハ 今日 お前 めあ 大きす トランクが お前  
一ズースーズー トールヨー＝ ナッテネ。  
おん おん 通るよう(は広い道)に行くな。

C ソーダヨ。 シ一。  
ソラトニ"す。 うん。

A フナトナンテ ユーモワ アイ アンタッチモ シッテルダロー  
船着場アビトハ うじのは めはてテモ 知、アビトハ"う  
ケカ。 アイ フネカ。 ドコデモ マーッタダカラネ。  
か" 船が(多くの船着場)どこも 回、たのだからね。

C ソーダヨ。  
ソラトニ"す。

A シー。ソレカ アンナ キーセヤー カワニ ナッチャッタ。ア一。  
うん。 ソルハ あくは 小さい ハトニ 行、レモ、ト。 ああ。

C ソレコサ アイ ビヨーイン！ ホーカラ ズーット アーイ  
(音)ソルハ あく 病院の 方から すー、と(長距離を)  
ネデモ ナンデモ ワシラ アー サガツタバッカ！ コロワサ……。  
箱でも 何 も 私たちが 卒業レモ"か"の こうけね……。

A シー。  
うん。

C アイ ショッテ キタダ"ヨ。  
背負、ト 乗たの下"す。

A シー。  
うん。

C ショウタリ カチーグリシタ。  
背負、トリ カチー だ"リレタ。

A ンー。

うん。

C ソイデ アー フネデモッテ ヤクボーサージリノ ホーエズ  
先れて 船で 谷久保 淀 広の てへ お  
ーット ツンジヤー ヒトリ アノ ヒッパッチャーサー……。  
一ヒ 積んでは 一人ハ 引、12、14、17 てみ ……。

A ンー。

うん。

C アナオ オトコシユラガ コー アー ナンダッケ フネオ フ  
男の人たちが 船を  
ネオ コー アー……。

A ロオ コイダ コイダナ。クレマモナシ リヤカモ ネアーダモン。  
櫓を 潜った所。車もなし リヤカモも ほとんどもの。

C ワシヤ イクドモ コー フネ ヒッパッタコト アル。ツナデ。  
私は 何度も 船を 引、12、14、17 てみる 網で。

A ナンセ センソーニ マケテッカラ ブンカッテコトワ キューニ  
何レ3 戦争に 負けてから 文化、ということは 急に  
ヤッテキタダヨト。

や、てきとんとす。

C ンー。

うん。

A ンー。ソノマエワ オナジ ブンカッテモ……。  
うん。その前は 同じ 文化といつも……。

B オセガキ オセガキッテト マキノ アノ ミセガ コト一ズ  
が施餓鬼、が施餓鬼 というと 町の 店が ここへ(近付)

——ト……。

アーット……。

A ニー。

うん。

B ナランジヤー……。

並んでいた……。

A ナランジヤッタナー。

並んでしまったみたい。

B ネー ソーユー／——……。

ねえ どうううのを……。

C ホントニ……。イロイロ コームカシノシュー オモイデガ

本当に。いろいろ 背の衆は思へ出が

アッタ。

あつた。

B ソーユー／ミンナ ナツカシク オモイダス。

どうううのを 背 つかれく 思へ出す。

A ムカシヤー オメー／アリナガ<sup>(3)</sup> カンノンサンダナンテキ……。

昔 は お前 有 祓の 観音 さして つかれて……。

C カンノンサンダニ ソー。

観音 さして どう。

A ハナビヨー ハッテ……。ソイデ ムスメドマーマー……。

花火を 打て……。それで 娘 じもは……。

C ホントニ……。

本当に……。

A ネー。アーネ コー アケヤー オビヨー シメテ……。

ねえ。こう 赤い 帯を しめて……。

C ニー。

うん。

A ソエカラ アー ナンダキ アー ユカタ キテ ソイカラ  
おれから 浴衣を 着て おれから  
ワケアーシューワ ヨコブヨー フイテ ナー。  
若い衆 は 横笛を 吹いて ねえ。

C リー。

うう。

A ピーヒャラ ピーヒャラ。  
ピーヒャラ ピーヒャラ。

C スイカノ アノ タタキタリト ナントナ……。  
西瓜の 叩き壳リと 丁にと丁……。

A アハハ。アッテ イッチャ ケンカガ ハジマリ コッチ イッテ  
あはは。おちへ 行、行、けんかが 始チリ こちへ 行、  
ヤ ケンカガ ハジマリ……。  
は けんかが 始チリ ……。

C アー サー デイツツアンキウチ フレヤギイツツアンキウチ。  
義一さんの家 古谷義一さんの家。

B ハン ノーーー。

うん うううう。

C アノウキデ ミセヤ シテキャラト アノウキデ コーリ ノンダ  
あの家で 店屋としていて、あの家で 氷を 飲ムト  
リ……。(笑) (B ホントニ。)  
リ……。ほんとには

B ノンダリナンカシタナー。カエッテ ハエッテ ハエッテ クレトガ ソコ  
のんた"リ 丁と"レ丁とみ。 帰って くろとさ う二の

イバ／ イバノウキエ ヨッキヤー ユーリ／ンジヤー……。  
湯場の家[温泉湯]へ寄、ては 氷を飲んではほみ……。

A アノトーシワナ トンモロコシ／ ニオイガ タマーンナク エー  
み。当時はたゞうセラシレの にがいが たまらなく いい  
ニオイダッケヨ。ビシビシビシビシ ヤエーテナ。ソリョー カッ  
にがいだつたよ。ひ"レビ"レビ"レビ"レ 焼いてた。それを 買、  
キャラ クッタヨ。ニー。ソエカラ オデンガナ イクラタッテモ  
ては 食たよ。うん。それから おでんがた いくら食ても  
オデン クイテアーケッヨ。ニー。イマジヤー アンゼリ クイテ  
おでんを 食いたか、たよ。うん。今では あまり 食いた  
アート オモワネー。  
ひと 魂れ仔。

C ムカシヤー トンモロコシダッテモ ソーダエネ……。  
昔 は とうセラシレ でモ うだよね……。

A ニー。  
うん。

C アリ ヒオ スミオ クベテキヤー ウキワデ アオッテキヤー  
火を 炭を くべて いは うちわで みがいていた。ああ。  
一。(笑)

A ソエデ オメー……。  
お前……。

B 人ニカク イマ／ コドモン アリ イカナッテ ナン／ コー  
トシカく 今 の 子供が 大きくな(から) 何の  
オモイデ"ガ" アルト オモウ。ネー。ムカシ／ アシラ ソレコソ  
思…出が めどと 思う? ねえ。昔 の 私たちは ソれニシ

アレダ"ヨ フントニ アレモ コレモッテッテネ イローアロナ  
本当に あれも これもといつて 色々 色々 トト

コトガ コー オモイダサレテ……。

シカ" 思ふ出されて……。

A シー。

テル。

B ター アレダケン イマノコドマ<sup>マ</sup>ソ<sup>ソ</sup>シルト マー<sup>ト</sup>  
今<sup>ハ</sup>子供<sup>ハ</sup> そうあると それ  
ハコ ミニナリヤー ハタシテ ツマンネアカドーカ ノリ  
その子の 身<sup>に</sup>付<sup>け</sup>はたして (昔<sup>の</sup>にか) つまら<sup>な</sup>いから それ  
ヤー マー ワカラネアツケガ<sup>ト</sup> フント アシラー コー カン  
ト<sup>ト</sup> わから<sup>ト</sup> が<sup>ト</sup> 本当に 私た<sup>ト</sup>が<sup>ト</sup> キ  
ケ<sup>ト</sup>ア<sup>ル</sup>ト<sup>ト</sup> ネ<sup>ト</sup> ジ<sup>ト</sup>ン<sup>ト</sup> イマ<sup>ト</sup> マ<sup>ト</sup>ガ<sup>ト</sup> ネ<sup>ト</sup> イカ<sup>ト</sup>ナ<sup>ト</sup>テ  
えると ね、自分の 今<sup>の</sup> 孫<sup>が</sup>ね 大<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup> ト<sup>ト</sup>、<sup>ト</sup>  
ツカラ ネー……。  
から ねえ……。

C イマ<sup>ト</sup> シューワ ツレコサナ テレビバッカ<sup>ミ</sup> ミチャーメル  
今<sup>ハ</sup>の 人<sup>ハ</sup> それ<sup>ハ</sup>テレ<sup>ト</sup> テレ<sup>ト</sup> は<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup> 見<sup>ト</sup>は<sup>ト</sup> いる  
モンテ<sup>ト</sup>……。  
も<sup>ト</sup> ト<sup>ト</sup>ト<sup>ト</sup>……。

B シー<sup>ト</sup>。

タラタラ。

C シー<sup>ト</sup> オモイデ<sup>ト</sup> ネアダヨナ。トシトツテッカラ<sup>ナツカシ</sup>  
タラタラ 思ふ出で つよい<sup>ト</sup>よ<sup>ト</sup>。年<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>から<sup>ト</sup> ほつかし  
一ヨー<sup>ト</sup>。  
ハチ<sup>ト</sup>。

A ムカシヤーネー アリー オチャツミヨー タムトネ アリ オ  
昔 けむ お茶 摘みを 頬 ほお (その) み  
チャツミントケー アスベーイッタモンデス。ソイデ ジブンガネ  
茶 摘み(はせり)家へ遊びに行ひたものです。それで 自分がね.  
アリー クワモッテネ ヤマエ コーサクニ イッテネ ヘーカラ  
鉢を持ちぬ 山へ 耕作に 行く それから  
アリ トモダキン オチャツミントコデ アスンデルダロ。ソース  
友 だらけ お茶 摘みの家で 遊んでいた。ううす  
ト サーバタ ソンナニ アリー シゴトナンカ シナクッテモ  
ひと(の反対が)澤端、そくばに 仕事 てすと してよくとも  
イージヤンカ。クワエナ アリー ベントーバコ クツツケトキヤ  
いへば けすいか。鉢へて、 爪 当 箱をく、つけておけば  
クワ ヒトリデ シゴトシテー。ア ホーカシラ。ジャ オレモ  
鉢は ひとりで 仕事をする(と)「あ、とうかう。」(おやや)私も  
アスバゼー。(笑) アスピテー! イッシンダモンダシテ ヒヤ  
遊びう。」(いふうに遊んだ)遊びたへの 一心 てすので あくに  
一ムスメドモントケーイッテ ミッカツニ カエッテクル。フン。  
娘 たちの 所へ行つ 三日も経つから帰つた。  
ソイデ イッテミリマー ヤクボーヤマニヤー ヤー ハー 木ニ  
それで(畑へ)行つ それば(畑のある)谷久保山には 草が  
ホガ サエチャツテ……。ナ (笑)。オヤジワ キレーニ ナツ  
(ぼうぼうにはえつし)テ……。ハム (私)。父は(畑が)きれいにて,  
テレト オモヤー カタイッポワ 木一 木ニホガ オエテ……。(笑)  
いうと 思つたところが その一木では 草がほれぼうて……。  
ソエテモ オコラネマーッケナ。(笑)  
それとも(父は)怒らすか、たつ。

- C ムカシノ シューウ ミンナ ノーダッケダヨナ。ホントニ。  
昔の人は皆 そうだったのです。本当に。
- A ヘーカラ ヤツクナカノサー トクチャン トクチャンキントコナ……。  
それからハロの下 德ちゃん 德ちゃんの家の所だ……。
- C アー。  
ああ。
- A アスコントケー ヨク アくーブリニ イッキヤーカー ヘーカラ  
あきの所へ 行く 雨降りの時に 行くは それから  
アノ ジョーリヨー ツクルダ。ジョーリヨー ツクルダケーカ  
草履を 作るのだ。草履を 作るの下が  
リ ペラテ<sup>(5)</sup> カンジョーシタホーカ ハエアーダ。イッソクニ  
(草履片一才ずつ勘定したほうが 早いのだ) 一足ニ  
ツクジヤー<sup>(6)</sup> ニメーが イッソクダモンダ<sup>(7)</sup> ナー。  
足(と数えた)二枚 が 一足にあたるものだ……。まあ。
- B ムカシヤー トニカク ノンビリシテタダナ。  
昔はとにかくのんびりしていたのです。
- C ノンビリ<sup>(8)</sup>……。  
のんびり<sup>(9)</sup>……。
- A ノンビリシテタ。ンー。  
のんびりしていた。うん。
- B ヒト ツッコロカイテモ<sup>(10)</sup> ジブンカ<sup>(11)</sup> シュツセシルトカ ナントカ  
他人を ミコハレ<sup>(12)</sup> しても 自分が 出世するとか 何とか  
ソーキー カンガエ……。  
そういう考え……(の者はいなかつた。)
- A ノレモ ノンビリシテレワケイ。アノー ノー オマッキノホー  
それも のんびりしているわけさあ。 が前の方の

／ナ一……。

アホ……。

B ニー。

テム。

A アハ一 ターコー……。

タ一公……。

B ニー。

テム。

A ターヤー。

ターヤー。

B ニー。

テム。

A ト ジサヤー。ナ一 アハ一 シャテート ノーリヨート ケンカ  
(争) と ジサヤー。弟 と 総領 と けんか  
バッカ シテケ一……。ジサヤー ナワ ナッテルダエナー ナワ  
ばっかり していい……。ジサヤーの 繩を ほ、ひるんじ"す" 繩  
一。エエデ" アトデ"ミタラ ミニナ ヒダリマワリ……。(笑) ハナ  
を。それで" みて"見たら 皆 左 回リ……。 (繩が) 鼻  
ツクソ一 シー コニニヤー ナッテルヨーナ。ソエデモツテ ア  
糞を こく丁子(ぬめたまうしれく) ほ、ひるんじす。それで  
ミヤー フッテタルシサ。ソイカラ アハ一 セニーガ"ヨンデ"  
雨は 降って くまレコ。それから セニー(という況費分) ベ(私) がんて"  
ツツリーナンテ オイ タンボ"ガ" ナガレレンテ<sup>(9)</sup> クイオ ラテート  
ツツリ一 ほんて(出来て)「おい、田んぼ"が" 流れろんで 杭を 打フ。」と  
コーエー。タンボ"ガ" ナガレル。ナニオ シルダート オモツタ  
こう言う。「田んぼ"が" 流れる? (争) 何を あるのだ。」と 思ふ、大

ラ ニケン<sup>ク</sup>レアーノ クイオモッテナ セーカラ ドーユーウケ  
ラニ間く<sup>ハ</sup>いの 杖<sup>ス</sup>持<sup>マ</sup>チ, それから「ど<sup>ア</sup>うゆけ  
テ」ナガレルダヨ<sup>ク</sup>タラ ウエタタンボ<sup>ガ</sup>ネ ミズ<sup>シ</sup> クルモンダ<sup>ゲ</sup>  
テ(田んぼが)流れる<sup>た</sup>「す」と言<sup>う</sup>たら、植えた田んぼが<sup>ゆ</sup>水<sup>が</sup> 来る<sup>せん</sup>だ  
カラ コー ウイキヤ<sup>ウ</sup>ンデス<sup>ヌ</sup>ネ。コニ<sup>ノ</sup> ポ<sup>ツ</sup>カリ<sup>ク</sup> ウイキヤウ  
から 漢<sup>ハ</sup>い<sup>レ</sup>し<sup>ム</sup>う<sup>レ</sup>す<sup>ム</sup>。い<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>に<sup>は</sup>、カリ 漢<sup>ハ</sup>い<sup>レ</sup>し<sup>ム</sup>  
ンデス<sup>ヌ</sup>ネ。ソシテ コノ ウキノウチノ ホノ<sup>ノ</sup> アレ イッキヤ  
ム<sup>レ</sup>す<sup>ム</sup>。ソレ<sup>テ</sup> 脇<sup>アキ</sup>の 家<sup>ハ</sup> 方<sup>カタ</sup>(方角<sup>カタカタ</sup>) (流<sup>フ</sup>れ) 行<sup>フ</sup>レ  
ウシダ<sup>ヌ</sup>ネ。ソイタ<sup>モ</sup>ンダ<sup>ン</sup>デス<sup>ヌ</sup>ネ アノ<sup>ノ</sup> ナケ<sup>ア</sup>クイオ<sup>ヌ</sup>ネ ホー<sup>ノ</sup>  
モ<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>だ<sup>ム</sup>。ソレ<sup>テ</sup>「もん<sup>レ</sup>」 長<sup>シ</sup>い 杖<sup>ス</sup>持<sup>マ</sup>チ<sup>ス</sup> ポ<sup>ツ</sup>  
ボ<sup>ツ</sup>エ<sup>ス</sup>ウツ<sup>ス</sup>ンダ<sup>ヌ</sup>。モキヤ<sup>カツ</sup>テモ<sup>ス</sup>ネ アノ<sup>ノ</sup> コレ<sup>カ</sup>ナ<sup>カ</sup> ナ<sup>カ</sup>レ<sup>テ</sup>  
々<sup>ハ</sup> 打<sup>ハ</sup>ん<sup>タ</sup>。(用<sup>ハ</sup>)持<sup>マ</sup>上<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>、でも<sup>ハ</sup> ニ山<sup>カ</sup> 流<sup>フ</sup>れ<sup>テ</sup>  
カナ<sup>イ</sup>ヨ<sup>ク</sup>ニ。イマ ソンナトコワ ネーモン<sup>タ</sup>。  
行<sup>ハ</sup>い<sup>ム</sup>よう<sup>ニ</sup>。今<sup>ハ</sup> ソレ<sup>テ</sup> 戸<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup> は<sup>ハ</sup>モ<sup>レ</sup>。モ<sup>レ</sup>。

C ソーナー。

ソレ<sup>テ</sup>モ<sup>レ</sup>。

A イマワ ソンナトコワ ネー。

今は ソレ<sup>テ</sup> 戸<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup> は<sup>ハ</sup>い。

C シー。

うん。

A タンボーカ<sup>ス</sup> ナガレル。ウエタ タンボ<sup>カ</sup> ナガレル。バカナ ハ  
田んぼ<sup>カ</sup> 流れる。植えた 田んぼ<sup>カ</sup> 流れる。バカナ  
ナシダ<sup>ス</sup>。シ一。トナリノウチ イッキヤウデーナー。コー ミズ<sup>シ</sup>  
語<sup>ハ</sup>だ<sup>ム</sup>。うん。隣<sup>ハ</sup>の 家<sup>ハ</sup>へ 行<sup>フ</sup>レ<sup>ム</sup>。ニラ 水<sup>カ</sup>  
ヒテクルト。

モ<sup>レ</sup>く<sup>タ</sup>。

C シー。

うん。

A シー。シー。ホーットニ。コドモ！ トキナンテナ一 モモサシオ  
うん。うん。本 当 に。子供 の 時 はと“ 仔 犬 百々さん”  
エーカケン ナグッタリ ケッタリシテ イジメタモンダ。  
相 当 はぐく“、た“り 蹤“、た“りレフ “ハレメタモのた“。

C シー。

うん。

B オッカネーッケヤ。(笑)

こ山か、た“す。

A ダケー カ“ナ ヤッハ” ソーダモンダシテサ。

た“け わと“セ やは“”(幼い仔みとは) そんはモアヤアタ“。

B シー。

うん。

A コノメー“ナ マリ一 オーシューエ イッタトキサ……。  
この 前 仔 犬 奥 州 へ 行 た 時 や……。

B シー。

うん。

A マリ モモサント トシチャソカナ。オレ オトコヒトリズラ。ア  
百々さんと とし ちやんか“た“、おれが“男 一人た“う。み  
一 オトコシユウ オトコシユテ” ドコノシユーモ オンナシコン  
み。 男 は 男 て“ ど“こ 人 も 同 レニヒ  
テ” トマルダ“ト オモッタタ“ヨ。インナシユーワ オンナシユー  
テ”(男は男同志) 油ちのた“と 思 た“のた“。 女 は 女  
テ”……。  
テ”……。

C ドコイッタキダッケ。アレ アー。  
どこへ行、だ時だうけ。あれ(は)。ああ。

A アレア オマエ バンタイザンダ。  
あれは お前 磐 梯 山だ。

B ウラバンダイ……。  
裏 磐 梯 ……。

C ウラ ウラバンダイ イッタキ……。シ一。  
~~xxxxx~~ 裏 磐 梯(へ)行、だ時(だ)。うん。

A ダケン オマッキガサ オレオ トッテクレテナ ソシタラ マタ  
とくが お前たちが(私) 私を 叫び寄せてくれて、うしろに まだ  
オマッキモ コッキ キテクレヨ……。イーカケンナモンダ" オマ  
お前たちも(私)叫いこらへ来てくれ(まだと言、だ)。いいか(げんはもだ)" お  
エ。(笑) オテラ! バーサンダ<sup>(1)</sup>。  
前。 お寺 の ば"あさんだ"。

B マー アー コドモ! コラー ア! ナエシロ! ズイムシヨー  
子供 の こは 苗 代<sup>(2)</sup>の ズイムシ と  
……。

A シ一。  
うん。

B ア! コー トッテヤンダジヤ。コドモ! コロ。  
捕って歩いたジヤ(つか)。子供のこは。

A シ一。  
うん。

C シ一。  
うん。

B ソイデ" ヒレヤ ~~ナニ~~ ナニカガ"クレト オッカナク ナツチャツ  
それで" 蝋や 何カバ" 来ると こわく トモマレホ、  
テ アゼー タツチャウジヤー。

て 雉に 立ってレモラジヤ(ひいか)。

A ニー。

うん。

B ソースルト コノ サーバタノ オジサンガ(笑) アオダ"キヨー  
ううううと 澤端の おじさんか" 青竹を  
モツテキテ アシオ ピーンテッテ……(笑)。  
持、て来て 足を ピーんと(払う)。

A (笑) アノトキニヤー リイ ズイムシオ トルトナ……。  
みの 時に は ズイムシを 捕るうと……。

B ニー。

うん。

A アリヤー……。  
あれけ……。

B エンピツオ クレタダ"ネ。  
鉛筆を くれたんだ"ね。

A ニー エンピツオ クレタリ アノ キョーメン クレタモンダ"。  
うん 鉛筆を くれた"り 帳面を くれた(り)レ"モア"。  
ミンナシテ トッタタ"ケー"か……。  
(下から) 皆で 捕ったんだ"か"……。

B ヒレ クレモンデ" オッカナクテ アゼー タツテルト……。  
蝋が 来るもん"で" こわく て 雉に 立、て いきと……。

C ヤー。  
みか。

B アシノ シンボー タタカレチャッタ。(し笑)  
足の へい 棒を 叩かれてました。

A マー ヒトツ カシオ ヤリガツラ……。オチャ一 ネアカノラ……。  
まあ ひとつ 菓子を 食べてから(話して)お茶は すかレラ……。

C イーヨー。オチャナンカ……。  
いよう。お茶すと“は”……。

A オチャモー /ンデサ……。アノ……。  
お茶も 飲んでさ……。

C イーヨー。アトデ”モラウデ”……。  
いよ みて”もらうから”……。

A ノー オチャモ /メヨ。ホントニ アノ ナンダゼ。ネア ノー。  
まあ お茶も 飲めよ。本当に (お茶がい)ないや。まあ。

B エーヨ。  
(お茶は)いらすりす。

C ホントニ アレダナ ムカシノシユーワ オモシロイックダノー。  
本当に 昔の人は おもしろがってた。  
アメデモ フツタリシレト ミニナ アリマッチャ一 ジョーリ  
雨でヒ降りて みと 皆(て) 集まつては 草履を  
ツクルヒトモ アリヤ一 ナワナウヒトモ アリヤー一……。  
作る人も あれば 繩を打つ人も あれば すみ……。

A ソレニナ一……。  
それにはみ……。

C ヨク トクチャンキワ キタダヨ ワシランキ……。ニ一。  
よく 德ちゃん は 来たばよ 私らの家へ……。うん。

B イマノシユワ テンデンバラバラダ。  
今の人 は(共同ひとばせば)ばらばらだ。

A ソレニヤ アスコントコリヤ オマエ ニワオ ホジクリタテ  
ソウニハメ オモニの所 のハメ、お前 庭ミ 掘リ返し  
テヤ フカーグ。(笑) オモテノホーワ ヴエダケーガ シタニ  
テハメ 深く。 表のオは 表面を掘るが(もと内側の庭)  
ナレト ハエチャッテ ハエチャッテ オメア ツキヤードコ  
下のネモ"掘返す(草が)生えています 生えています お前 土は ど"ニ  
ダカエ モッテツキヤッテ……。ナ。  
かへ 持って行なはします……。ナ。

C ヨウ ソユーワキガ アッタッケヤ。ニワン ムカシワ コン  
よく ソラハラ 家ガ わたし、けたま。庭ガ <sup>(12)</sup>昔 け コン  
ケリモ ナンデモネー……。  
ケリモ なレモモナい……。

A ソリヤ ミシナ ホータッケ。コンクリテ" ネーダンデ……。  
ソホは 皆 ソラドッケ。コンクリテ" 仔ハモハ"……。

C コンクリテ" ネーモンデ……。  
コンクリテ" 仔ハモハ"……。

A エーワキテ" タタキグレヤ/ モンダ。  
ハハ家ガモ たたき(て作、あ)ぐらのモハ。

B ヘーカテ ムカシワ ア/ ウケンナカデ" ソユー サヂヨーシ  
それから 昔 け 家の中 で ソラハラ 作業エレ  
タモンダンテ ドコノウキモ ニワ/ ア/ エーカンナトコ コ  
たものたから ど"ニの家セ 庭の 適当な場所に  
レバカ/ イシ イヤッテレジヤ。  
れ位の 石ガ うめであるでレトウ。

A ン一。  
うん。

- C ワラト……。  
藁と……。
- A ワラト タ……。  
藁と タ……。
- C フレダ。アノ テノ アノ リイタ アレテモッテ ポクポクポク  
キノ ついで 稚でも、ア ポクボクボク  
ボク……。  
ボク……。
- B ニー タタイチャ オーザイケオ ヤッタ。  
(藁と) たたいては 大工事 と や、た。
- C タタイチャ……。(笑)  
叩いては……。
- A ダケーカナ モモサンキトナ アノ キーチャントナ オラ ニケ  
だ(け)と(は) 百々さんと 千枝さんと(は) 私がニ  
マーテ アソブトキナンガーラレオ ナー オマッキ アノ 千  
階で 遊ぶ時 ほび(は) が前  
一チヤン! ナー アリヤー ドコタッケナ……。  
千枝さんの(家)はみ われは どんだい、けは……。
- B キーチャン キーチャンテバ タカジヨーマキノ  
千枝さん 千枝さんといは 鷹匠 町か?
- A タカジヨーマキ。オレ アノー イッテ コッキーサント<sup>(13)</sup> イッタ  
鷹匠 町だ。私が 行く 小郎 次さんと 行く  
トキニ<sup>(14)</sup> センコ アゲテキタダヨ。  
時に 線香をあげてさしとんだよ。
- B ニー。  
うん。

- A シャシンマテ" キャント アル。  
(千枝さんの)写真までちゃんとある。
- B シー。  
うん。
- A シー。エー キリョーデナー。アー。ナンセ ワケアーシューラム。いい キリョラ" ほみ。あみ。何といても若い衆のトキニヤーナー オマツチホー！ ブンキヤンチニ ニケアーラ 時には ほみ お前の(家の)前の 文ちゃん(次)の家に 二階(上)に行" キヤーサー……。  
うそほ ほみ……。
- C アノコントコ トールニ オツカネーツケナ アノ ミチオ トーめタニの所 通るのには こわかく下 ほみ おの 道を 通ルニ……。 (笑)  
るのには……。
- A シズヤナンテ……。  
静や(静天)ほび(ヒビ奴)
- C イツモ アノ シー……。  
いつも うそほ ほみ……。
- B ア ヤツミチノ アノ ミチバタントコニ ニケアーカ。アッタ  
お ハツ道の 道端の所に 二階 か めた  
ツケ。アスコ?  
うそほ。あそく?
- C キヨーシローサンキ！……。  
長 次郎 さんの家の
- C アノコニ イツモ ニケアーカラ クビヨー ダシキヤー イキヤ  
おそに うそほ(男の子)二階から 首を 出し うそほ うそほ

— 6 —

— 8 —

- A (笑) フリヨーセーネンダシナー ゴニンバカ……。  
不良青年 たゞすみ。五人ぐらいい……。

B タマリバタッケ。(笑)  
(お男だらの) たまりは「だ」だ。

C タマリバ……。(笑)  
たまりは……。

A ムスメドモン クリヤー シヨンベンシタリ……。(笑)  
娘 たちが 采れば 小 便をした……。

B アンタッケ アノ ニケヤーエ ヨク イッテ……。(笑)  
あはたの家(a) 二階 へ よく 行, て……。

A シズヤラー タカナカ オヤダマダッケダヨ。ゴーヤダノ……。ア  
静天の奴は ほかほか(チビテ) 親分肌だ, だ。五郎たの……。あ  
一。  
あ。

ブンキヤンワ エーヒトデナ ハジメカカラサ。シ。ブンキヤン  
文ちゃんは い 人で, 初め からさ。うん。文ちゃん  
ワ オトナシ。  
は おとす し。

C ブンキヤン オトナシ一ヶダナー。シ。  
文ちゃんは おとすしか, たゞすみ。うん。

A シ。ホンバッカ ヨンデ……。デ マクラダナンチャーナー ア  
うん。本ほかり 読んで……。それで 枕 ほんかほすみ  
タマ一ソレ アブラシルズラ。イッペヤーニ アラッタコターネ  
頭に 油をつけるだけ, ハツにも 洗, たんとけつけ

一。

い。

テカンテカン ヒカッキヤッテナ。(笑) ヒヤッケーッケ。ア一。  
(下から) へかへか 光 こしまつてす。 冷やニカ, ト。 ああ。

ア一。ホントニ。

ああ。本当に。

C ムカシヤー オモシレーッケナー。

昔 は おもしろか, ト。 あ。

A ソイデ ア一 ヤッパリサ ア一 エーカンテモノワ ソレ  
それで や, ほり下す 映画 ねと"といひも

ナカナカ ユネアーモン。カラセエナー ア一 カレススキニ キ  
丁か丁か(麻機) 采なみの。唐瀬へすみ 薄 薄 が 采  
タ。(レ笑)

ト。

ア一。カレススキガ……。ハジメテミタヨ アレ……。

ああ。 薄 薄 ガ……。始めて見下す あれ……。

C ン一。

うん。

A カレススキ。

薄 薄 。

B ナニ エーカノ

何 映画(の)ニ?

A エーカ。

映画(下)。

B ア一。

ああ。

A アー。ソレカラ オースマ/ナ アー ミツアキサシニ ツレラ  
ああ。それから 大沼の 光影 ぐに 連から  
レキヤー ア/ デンキカンエ イッタリカ。  
れ/は 電気館へ 行ったりカ。

B ニー。  
うん。

A ニー。ムカシヨー カンケアールト ナケアーダ。アリヤー。ニー。  
うん。昔 を 考えると 長い(もの)だ。あれは。うん。  
ソレカラ……。  
それから……。

C ソノコレ アー マチー アレ メークッテモ ヤーンデッタ  
ソヌニヨイ 町へ 映画を 見に行くとい、も 歩いて行つた  
ダナ。  
ウタ"丁子。

A ヤーンデッタ。<sup>xxxxx</sup> エー エートキニヤーナ……。  
歩いて行つた。<sup>(都合の)</sup>いい い、時に は丁子……。

B ヤーンデッタ。  
歩いて行つた。

C ニー。  
うん。

A ロクシ"センド"ナ……。  
六十 錢"丁子"……。

C ニー。  
うん。

A サカキバラ/ ジドーシャヤンナー ジテンシャヤー<sup>(15)</sup> ジドーシャ  
柳原の 自動車 屋に はみ 自転車 屋に 自動車を

カツテアツテア……。

買、てみってよ……。

C シー。

うん。

A ハナシ"センダ"カ ロクシ"センダ"ルケヨ。テンキカントコマデ……。  
八十 錢下"か 六十 錢下"たよ。電気館の所まで……。

C シー。

うん。

A シー。ソイデ ニシ"センダ"カテ エーカー ミテサ……。  
うん。それで ニ十 錢くらべ 映画を 見てよ……。

B ムカシヤー……。ムカシヤー ヨウ ヤーンデタ。  
昔 は 昔 は よく 歩いてた。

A カツベンノ トキダモナ。シー。  
活弁の 時下"もの下"。うん。

C シー。

うん。

A ハナオカキクコノ オヤジ"ガ"ナ……。シー。  
花岡 菊子の 親じが"下"……。うん。

C シー。シー。

うん。うん。

A アノ カツベンデ……。コノコロマタ カツベンダナシテユー/  
活弁で……。このじろはヌ 活弁下"ほんて"いのハ  
シンブンニ ノッテレデー。  
新聞に 載っていろよ。

C ノーダエナ。

うだ"よ下"。

A ンー。カツベンモ エーッケヨ。  
うん。活弁も よかってよ。

C ンー。  
うん。

A ンー。ホントニ……。  
うん。本当に。

C カツベンモ エーダヨナ。  
活弁も いいんだよ。

A アー。  
ああ。

C ワキラモ ミタコトアレヨ カツベンワ。  
私も 見たことがあるよ 活弁は。

A ホースラ。  
うだうだ。

C デンキカン デンキカンダッケカ。  
電気館 電気館だとか。

A ンー。  
うん。

B リレコリ アシラー コート一イネンダカ ニネンノトキニ ア  
私たちが 高等一年 だから 二年の時に  
「アレダモノ トーキーが ハヤッタ。コンダ トーキーが  
トーキーが はやった。」今度 トーキーが  
デキタ。ナンテハ一イッタ。」マエワ ズームト ベンシガ  
「はやった」ほんとうに言った。次の 前日 おー、と 弁士が  
ツイタ。  
ついで。

A シー。

うん。

B ソイデ"ミタダ"ヨ。

それで"見た"んだ"よ。

A トージワ オマエ オマッキン メーナンキヤー オーヨシッテ  
当 時は お前 お前の家の 前 ねど" は 大 吉 と 言  
ッテナ----。

うそ ねえ ----。

C シー。

うん。

A オーヨシ ソエカラ コヨシオントアッテ マワリン イキリバカ  
大 吉 それから 小吉ねどといふ(地名が)あ、(その)あたりが"一里ばか"リ  
アルノニ----。アンナカ ヘアーツタラ デ"テキエネーツケデ"----。  
あるのには----。あの中へ 入ってたら 出て来られなかつた"----。

C シー。

うん。

A シー。

うん。

B ドコ。オーヨシッテ。

ど? 大 吉 , て。

A オーヨシッテ イマ オメア アリ アレジヤンカ アノ アス  
大 吉 , て 今 お前 われはハハカ あの アス  
ハルト コシャエテルアタリ アリヤー オーヨシダ"エ。  
アレト(舗装の)工事をしそうあたりが"われが" 大 吉 だ"よ。

B シー。

うん。

- A シー。セーヨードンブリダ"ナンテ……。ナ一 アッタ。  
うん。(あのあたりは)西洋井戸"ばして(いわゆる壳)。すみ み、T=。
- C シー。セーヨードンブリッテ アッタッケナ一。  
うん。西洋井……、T あ、たっけTすみ。
- A シー。セーヨードンブリ……。  
うん。西洋井……。  
ソラ カエンドリ<sup>(16)</sup> セーッテナ コレバッカ! アナダトオモッテ  
そら 替えん捕りを しよう、Tは これぐらいいの(いは) 実だ!と思つて  
エート オモッテ オレト セーチャント カエンドリシタラ イ  
わけTけTか!と思つて 私と 清ちゃんと 替えん捕りをTだら  
ウラ タッタッテモ ミズン ヒネマーダ。ヒネマーウケダ。アシ  
くら(時間が)経つも 水が なくてはいけないんだ。Tは(もうTか)わけだ。足  
オ ヤッテ コーシテミタラ ミンナ クッキーTレデー。(B,C笑)  
E おろして こうして(深,?)Tだら(穴が)背くへりなんだ。(水が底へ連絡しある。)
- A ウワツカーバッカナ ソー クサ!ネガ イッテ……。ナ一。ア一。  
上側Tは"かり Tは 草の根がみ、T……。すみ。みみ。
- C ハカシヤー カエンドリニ ヨク(笑)イッキヤーナー。  
昔 は 替えん捕りTはく 行Tは Tすみ。
- A ア一 ドウナガシニ イッタリ……。シー。  
みみ。毒流レに 行Tはリ……。うん。
- C T/ オースマ/ ホエ ア/ ト-イツツ/アン/ タンボ" "  
大吉のテへ 統一 さん の 田んぼを  
クッタ トキニヤー……。  
作,た 時にこ……。
- A シー。  
うん。

C ハハ ミキノクロニ カワアッテ コレバカリ(18) カワ……。  
道へ 腹に "ハハ" が、今 こな 仕あ(幅の) "ハ" ……。

A ニー。

うん。

C ノコントコ カエンドリシテ ナ オジーキャント フタリデ カ  
モノの 行を 脊えん捕りレフ タ(和の)おじいちゃんと 二人 イ(木の)  
エタダッケンナ。ノーシタラ ウナギン タント トレテナ ノノ  
かい出した。けた。 そうしたら 鰻 が たくさん とれてた  
ノントキ……。ニー。  
その 時に……。うん。

B ニー。

うん。

C コー アー カジクレトナ イックラデモ デ"テクル。  
ニラ ほじくろと いくら イ"モ 出へくろ。

A ニー。ソーダ" ソーダ"。

うん。 そうだ" そうだ"。

C ニー。

うん。

A アー トージワ ウナギン カエンドリ シリヤー ウナギ。オー  
めの 当時は 鰻 を 脊えん捕り あれば 鰻 が 多  
イッケダ"。ニー。  
か、た ほめ。うん。

C アンナントコノ カワニ イルトワシラズ"ナ"。  
あんた 行 a "ハ" は いろとほ 知らす"にほめ。

B ムカシヤー ウシラ アー ヤクボノ ニーサント イッショニ  
昔 は 私が" 谷久保の 兄 さんと 一緒に

イルコロ ワシラ ガッコー ニネンカ サンネン！ コロダシラ<sup>(19)</sup>  
いろいろ 私が(小)学校 二年か 三年の ころかでは

-----。

-----。

A ンー。

うん。

B ヨク シマッテ！-----。  
よく 「島」 というの-----。

A ンー。シマ シマ-----。  
うん。島 島 -----。

B ショッキュー シマー カエンドリ シキャラ-----。  
いつ でも 島を 替えん捕り レスは -----。

A ンー。  
うん。

B リエダンテ ア！ フナ！ カエンドリナンテ！ ワ リコラー  
それだから 鮎の 替えん捕り(レス)には そのころは  
ヨク タベタツケヨ。イマジヤー ソレコヤー リンナ！ ワ-----。  
よく 食べたもんだよ。今 だけ それニヤ ソム子の(食べかねがい)。

A ンー。  
うん。

B アレダケンカ。ア！ ダイズ！ マメトサ-----。  
大豆の豆とさ-----。

A ンー。  
うん。

B ホイテ リ！ フナト キニ ア！ -----。  
それだ！ 鮎と キニ みの -----。

- C ニニ。  
うん。
- B トロトロトロトロ ニルダヨ。  
とろとろ とろ とろ(一緒に)煮るんだよ。
- A ンー。  
うん。
- B チーセアートキニ……。イマ リンナ! タベタコトナイ。  
小さい時に……。今は 負けもの 食べてことはい。
- A ツイテサ ニ コナ一 アリ ソノトシニ アリ カモダ  
それでは、  
その当時に 鴨だ  
トカサ ソエカラ ガン……。  
とかさ それから 雁……。
- B ンー。  
うん。
- A ガンデユーヤリ イテサ。チーセアートキニヤー アリ ユーグタ  
雁 というやつは いって。(私が) 小さい時に タテ  
ニナレトサ コー ガンガ スーットナ トンデクトキ……。  
にけると 雁が さーと 飛んで行く時(があたた)。
- C ソーダヨ。  
そうだよ。
- A アレ ミタコト アルラ アルラ。ガン! ガン! トンデクトキ……。  
あれを 見たことが あるだろ、あるだろ。雁の 雁の 飛んで行く時……。
- C イッペン イッペン ミタヨ。アリ コクジラガイケ 不一  
一度 一度 見たよ。  
鯨ヶ池の方
- E イケダヨナ。  
へ(雁が) 行くんだよ。

A シーンー。

うんうん。

C コー ハイテ……。アレミタッケヨ。アレガンダッテ……。

う 向いて……。あれを見た、け。あれは雁だ、う……。

A ハ トージナ……。

うの 当時だ……。

B アハ ソレコハ カキニナリ サオニナリッテ ハタハトージテ  
鉤に付リ 棒に付リといふ歌のとおりで、

コーエイ カキニナッタリ マッスクニナッタリ シレダナー ア  
シレダナリに 鉤に付、付リ ま、木くに付、付リ するんだすみ、あ  
リヤー。

れは。

A ー。ー。ー。ー。ー。

う。う。う。う。

C ハー……。

う。

B マッスクニナッタリ……。

ま、木くに付、付リ……。

A ガン ガン ハタレナンテッテナー。

雁 雁 渡れほとと言、付め。

B, C ー。

う。

A オーキナガニガ サキニナリ キーサナガニガ アトニナリ……。

大キ付雁ハ 先に付リ 小マ付雁ハ 後に付リ……。

B イマジヤー ヒヤー ソンナノウ……。

今イハ モニ イムナハノハ……。

A ネー。ネー。

チ。チ。

C シンナナ ミタコトネー。

シテのは 見シシとはチ。チ。

A ノイデア一 オーマイシ ヤマ一ー……。

それで 大沼さくの山 まあ……。

C ニー。

テム。

A ア一 リボ一 イッペア一 クッテサ サーーーッテ トーレダ  
(雁が)トーレダ 泽山 口に含んで サーーと 通るんで  
リテサ。

カカト。

C ニー。

テム。

A ノイデ ノ一 ナ一 サマナニニシヤクグレア一 トコト  
それで 山の下(下から)ニ尺ぐらハ所を通  
一レダ。

カムタ。

C ニー。

テム。

A ウヨー トーレナクテ。オモタクテ。

(も、と)上を 通水行く。(口の中が)重く

B, C ニー。

テム。

A ノイシテ シモムラ/イケ<sup>(21)</sup> イッタズラ。

そして 下村の池へ 行、たんてう。

- C シー。  
うん。
- A ヘーカラ ソレーナ コー アミヨーハッテ……。  
それから それには 網 を 張, て……。
- C ニー。  
うん。
- A ハー・シテ ガンオ トッタッテ……。  
そうして 雁 を 捕, て, て(?)……。
- C シー。ソーダナー。ヤマノ ミネー アノー アミヨー ハッテ  
うん。 そうだねえ。 山 の 峯 に 網 を 張, て  
トッタッテッタッケナー。  
捕, て, て 言, て, け す。
- A シー。シー。ソイデ アノー ハタカーナンテユーモノモナ キヨ  
うん。うん。それで 羽高 けどと いうものもね、今日  
一モ ハナショ一 シタケ一ガサ<sup>(22)</sup>……。  
も 話 を したんだがさ……。
- C ニー。  
うん。
- A コノ ガン / ナ……。  
雁 の て……。
- C ニー。  
うん。
- A ハオトガ タカクシテナ……。  
羽音 が 高く響, て す……。
- C シー。  
うん。

A トーッタダッテ……。

通、たんた、ト……。

C 二一。

二七。

A ソエデンテ ハタカ一。

それだ“もて” 羽高一。

C ハタカ一。

羽高一。

A ハネガ タカイ。タカイ ハネ。ナ。ハタカーッテノワ ソーユー<sup>イ</sup>  
羽が 高い。高い 羽。ナ。ハタカと“いうのは そういう  
イワレカラ ハタカーッテ ユー。  
いわれから ハタカ と 言う。

C 二一。

二七。

A アムコーッカーニ ソー クジラガイケ アルモンナ。  
みの向こう側に そう(いえば)鯨が 池が あるもな。

C 二一。

二七。

A アレ一 イッチャウタ。

みのへ 行、アレモの下。

C クジラガイケナ……。

鯨が 池下……。

B アスコナ一 ハタカ一 ウラトーッテ ヘジヤ一 イッタダ一。

みのけ下の 羽高の 裏を通って それで行 行、たの下(下)。

A 二一。ソイダモンテ ハタカーッテ イッタダ。

二七。それだ“から 羽高 と 言、たの下”。

C アー。

ああ。

A ソイテ アハコーカーガ クシラガイケデサー アスケ一  
それで めの 向こう 側の 魚泉ヶ池でさみ めうにへ  
イキヤー リー ヒヤー テッポーワ キカネーダ"モン……。  
行けば" 行だ" もう 鉄砲は きかねば"もの……。

C ニー。

うん。

A アスコワ リー ネンニ イッペンシカ リー カモバレーーテ  
魚泉ヶ池は 一年に 一度 レカ 鴨払い"いの  
……。

(モヤラがいから。)

B イマテ"モ リリ ガンチュートリ イレア  
今でも その 雁 と"う鳥 いろ?

A イヤー イマー イナカンナナー。イヤー イナカンナナー。ミズ  
ハヤ 今は いはいだ"うすみ。いや いはいだ"うすみ。(今は)水  
モ ネマーダ"モン。  
も ほんに"もの。

C コノ ヘンニヤー イネー。

この 近くに(は)雁は いはいだ。

B ニー。

うん。

A カモワ クルケンド"。ニー カモワ コマ……。  
鴨は 来るけれど"。うん 鴨は こま……。

B テレビテ" ナニカ アハ ソユーノ ミルケド ガンナンテコ  
テレビ" 何 ハ う(ニュース)を見かけば 雁すくべ

- ト アンマ<sup>(23)</sup> キータコト ナイ。  
とは みんまり 開 いたことが“下さい。
- C ニー。ガ"ンナシテナー。  
うん。雁 たんてすみ。
- A ニー。イケマーツケダ"ネ。ガ"ンワ。ニー。ニカニメケ"レア - ア"ツ  
うん。大き か た す、雁 は。うん。ニ貫目 ぐらい み、  
タツテツタモ！  
たとい、たもの。
- C ニー。  
うん。
- A イケマーツケ。  
大き のは。
- C アー ソンナ イケマーツケ トリガ"-----。ニー。  
みみ そんばに 大き のか 鳥 が"-----。うん。
- A ハレコサー ハクチヨーケ"レア - ツタズテ。アー。  
それ なまは 白 鳥 ぐらい あ、たう。みみ。
- B アー。  
みみ。
- C トニデニ ミタツテ ワカシネアナ。ニー。  
飛 して いるのを 見 ても (雁たんてすみ) 中から ほいす。うん。
- B コドモ/コロ ミタツケヨ。  
子供 の う 見 た す。
- A アー ジ"ッハ"カラ ジ"ューゴ"ワケ"レア - -----。  
ナ 羽 から ナ 五 羽 ぐら すみ -----。
- C ニー。  
うん。

- A ハタハタハタハタハタ シテテ ドコー トーン/モ ヨクワカル。  
ハタハタハタハタハタ レハハ ビニモ 通るも よくわかる。
- B ヘーデモ リコーナ トリダズラナ。コシナ サオンナツタリ カ  
タレバモ 利口仔 鳥たゞうす。こくすに 棒にす、タリ  
ギンナツタリ シタミタイ……。  
鉤にす、タリ レタムタリ(?)……。
- C 二。  
うん。
- A 二。ダケン ニタカラ ミルニ ノーユーヨー＝ ミエタズラ。  
うん。だけれど 下から 見ると うううううに 見えてんたゞう。
- B コドモ/コロ ホント コー カギンナツタリ サオンナツタリ……。  
子供のころ 本当に 鉤にす、タリ 棒にす、タリ(い見てた=)。
- A ハナビヨーミルヨー モンデサ。ハナビヤー マレーク ラツ/  
花火 みたゞす ものでさ。花火 は 丸く 打つ  
オ コッキカラ ミルモンダンテ コー＝ ミエルダケンナ。アレ  
と 麻機がゆから 見るもののたゞから ハ(平らほ円のよう)に見えるのがたゞ。あれ  
ヤツハリ オメア一 アベカワ/ ホーカラミテモ アーユーフー  
は やはり お前(反対)に 安倍川の オから見てヒ みみいうふう  
ニ ミエル。ハマ/ホーカラ ミテモ オンナシコンデ"アレ マ  
に 見える。海岸のオから 見ても 同じこと" みれば 丸  
レーク コー デルンテ ナー。カタエッポーカラ シルモンナン  
(出るのて) すみ。打上げて(湯舟の)片方の側から 見るものが  
テ" リー マンナカン/ヤラナニカ コー アーユニ ミエルダ。  
で 中央の 所 や 何か みみ(平らほ円のよう)に見えるのがたゞ。  
ホントワ ミンナ オンナシコンニ コー デルズラ。  
本当は 背 (ビニギモ) 同じようには 出るたゞう。

B 二二。

うん。

A 二二。

うん。

ソイカラ ムカシヤー アイ コイツキイシナンテナ。  
それから 音 は 鯉つき石 たんてすみ。

B 二二。

うん。

A 二二。

うん。

B コイツキイシツテア ツタナ。  
鯉つき石といふのが“ぬれ”たすみ。

A 二一。

うん。

C コイツキイシツテナア ムカシヤー ムカシツテヨリモ  
鯉つき石といふのは 音 は 音といふよりも  
アシラ コドモノコロ コアアメー／ホーニアア／  
私が“子供のころ(いつのば) 前の方(に)て  
コイツキイシ ~~タニガ~~アル トコタカラサ アイ ヒガシムラ  
鯉つき石、 石が“ぬれ”た場所だから 東村  
ホーエ カケテナ コミテルトナ ヒトツヒトツノヤツニ  
の方へかけては 見るといふ 一つ 一つの石に  
ハカツト ツクダヨナ。  
ハカツヒ(あかりが)つくばむすみ。

A 二一。

うん。

- C ハースト ムコーイイッテ コロコロー アハ ソレ パカット  
ソウスルと(おあいが)先の方へ行、ア ハカッヒ  
ケーレトナ……。  
消えちとす……。
- A シー。  
うん。
- C コッキ！ アハ ヒガシムラノホーエイッテ イツツニモ ハツ  
ニカラム 東村の方へ行、ア(おあいが)五つにも六つ  
ツニモ ナルダヨ。シー。  
ハモ テモレタシ。うん。
- A ゴロゴロゴロゴロナ。  
ジヨジヨジヨジヨナ。
- C ホイデ" ハーナツテレト マタ パカット キエチャーナ マタ  
それで" ソウスルカと思ふとまた ハカッヒ 消えちとす また  
ズーット コンダ" コッキ！ホーエ ポカット ハクダヨイ。  
ズー、と 今度は 別の 方へ ポカッヒ つくして" す。
- A シー。  
うん。
- C ハユー！ イケドモミタヨ アタシャー……。ヤマ！……。  
ソルヘのを 繰度も見たよ 私は……。山の……。
- A ハリヤー ミタ。  
ソルヘ 見た。
- C ダケン ソレ フーントニ アッタダヨナ。シー アレ フシギダ  
タケビ" ソルヘ 本当に めたんじ" す。うん ソルヘ ひレマ" た  
ハケナ。  
トト。

A ソイテ ハイエ/ホーカ。ズズナリイシテサ……。  
それハ やの上の方ガ 鈴鳴り石で……。

C ン。  
ラム。

A ゼニオ イレテアルト キリキリーツテ ナッチャーナ……。  
(それハ) 錦を入山へやると キリキリーツテ 鳴りけたす……。

B イシガ ナッテレナシテ ユーヒトアツタッケヨ。  
石ガ 鳴っている所んで 言う人があつた。

A ン。 ハリヤーナー アノー アナガアツテナ。イマデモ アレオ  
ラム。 それけたすみ (石に) 穴があつた。今でも あれを  
オツツタイテミタラ ムカシカネン エーカゲン ハイツテルダ  
タタヒツ ハタカラ 著の音ガ 相当に 入っているんだ  
ヨ。  
よ。

C ン。 ハーダ"ナ。  
ラム。 うたづけ。

A ン。  
ラム。

B ハイシ イマデモ アルノ  
その石は 今でも ある?

A アル。  
ある。

B アー。  
ある。

A イマ ノザラシニ デキヤツテサ。  
今 野ざらしに(ほ, て)出でしゃま。

B ヘー。

へえ。

A トージワ アー コー アレダ"ヨナ シナ! タイユーザンミ  
当 時は 支那の 太 行 山 み  
テアニ クレアーヨーイ ウスツクビ! ウリートコダツケダケガ。  
たゞに 暗 い ようは 薄 気味の 魔 い 所 だつだけれど  
イマワ オメア / デンニデ"チャツテ ネアツケタ。  
今 は 野 天 に 出 し ま す (セミ石は) よひの天"。

B ンー。

うん。

A アソコデモツテ センケンサン<sup>(25)</sup> イシドリーガ。ソー トレタタ。  
あそ こで 浅 間 さん の 石 鳥居 ガ" でさたの天"。

B ンー。

うん。

A セツハ<sup>(26)</sup> イッペアーナンダ。  
「セツハ」ガ"一杯 さんだ"。

B ンー。

うん。

A ソシテ アスケーラガ。ソー イッタイニ ツー ヌマダツケズ  
ソレテ あのみたりハ" 一 帯 に 沼 だつたろ  
テ。

う。

B ンー。

うん。

A ノイデ" ツー フネン ツイテ シデア / コイツキイシ コイツ  
それ" や (沼) 船が" (や石) 付いて それ" 鯉 つキ 石 鯉

キイシッテ ユーケーガ。 フナツキイシッテナガ。 ホントー。  
つぎ石と いうけれど(船がういてたから) 船つき石といふのが 本当(だ)

B ニー。

うん。

A アー アバタナナ アレカラ ミテミルト……。  
麻機の 歴史から 見てみると……。

B ホー。

ほう。

A ニー。 フナツキイシッテユ。 コイツキイシコト。  
うん。 船つき石と いう(べきだ)， 鯉つき石のこと。

B ニー。

うん。

A ニー。 フネオ ツツ ツネマーダ。  
うん。 船と (船の石に) つけていたのだ。

C ノコッカラ センケンサン(27) イシガ トレタ。  
(えい) そこから 淺間さんの 石が できた。

A ニー。 イマ イッタツモ コンナ セッハバッカタヨ。  
うん。 今 行ったとしても こんな 「せっか」 だけが あります。

C アー ホント(28)。

ああ そういうのか。

A ニー。 イッペアーダヨ。 ザラッザラ シテルヨ。  
うん。(それが) いい感じです。 ザラ ザラ いい感じです。

C ニー。

うん。

A センケンサン オー イシドリーガ + アスコカラ トレテサ。  
浅間さんの 石 烏居 がほ あきこから できてさ。

C シー。

うん。

A ヘーカラ アンドー／ ジュニーノマートノウエ アガッテイ<sup>(29)</sup>  
ソれから(石のせた船が)守東の十ニヌ マートの上(アホ)上かつて行  
タダケーガ……。

たんたか……。

C シー。

うん。

A ノノ イチバンウエイ カオオナ オトシタガタメニ……。  
ソの 一 番上の 箕 を下 落としたために……。

C シー。

うん。

A ソイツタケフ テキネアズラ<sup>(30)</sup>  
ソの 部分たけ(鳥居とい)完成してよいたう。

C シー。

うん。

A ソイテ イサーシク アイ センゲンサンノヨコニ コロバツタタ  
ソレで 久 レイ (箕にあたる所が)浅間さんの 横に ニコバツいた  
十。

の下下。

C シー。

うん。

B アー。ソーダナ。  
ああ。うう下下。

A イジンサンノ ウキノ アイ モンゼンニ シー ナツタリナニカ  
(石の所)外人の 家 の 門 前(アホ)に 下下, 下川下んか

三千ヤツタツケタ。

レマレマ、T=のT=。

「コロバッタ コロバッタッケナ イカイ！ ナーセアートキ。  
「コガハ、ナヒト、コガハ、ナヒト、ナヒト 大ヨハ(石)が(私)の)小(い)時(イ)。」

A シー。

うん。

B ソーダ ソーイナー ホントニ センケンサン！ メアーニ アイ  
うそだ！ ううひえは 本当に 浅間さんの 前 に  
一 コンナ マーレナッタ イケアーラー……。  
こひは れく てす、 大 大きい(石が)……。

A T-.

新月。

（アッタヨト。

其，則  $\mathcal{F}T\mathcal{F}$ 。

B ウスウス オベーテルケド……。  
うすうす 覚えていろけれど……。

「ジユーニーマートッテ ユーケン ジューニーデ” フネデ” ハ  
「ナニ 艇マート」と ハラから ナニ 艇で” 船で”(石)エ  
コンダズラヨナ。  
運んだ”のア”うよア。

A アー サエダント ジュニナー……。イマ アンドー/ナ。イマ  
ああ それだ"から ナニ 艦……。今 安東 のア。今は  
ヘー ソンナ/カワー マー オンラク ミゾッキヨミテアニ  
もう そんは "いは まみ 恐らく 小さい 溝 のように  
ナツキヤツタズ"ラケンド"……。  
ア。アします ただうけれど"……。

C ノーダナ。

ううだ"ト。

A ニー。

うん。

C ニー。

うん。

A ノイデ" ヤマノ ミネー イキャーナ……。

それで 山の 峰へ 行けば"ト……。

C ニー。

うん。

A ハコ"カ"カ" / シュート ケンカシキャラオー……。

向こう 側の 人と けんか しゃはさ……。

C ニー。

うん。

A ナー。

うぬ。

C ニー。

うん。

A ノエデ" モー ア"イ" イマ" シューワ ミラレネ"ア" ア"イ" ケ

それで もう 今の人 は 見られ ない みの 軽

一ベンガ"……。

便 が"……。

C ニー。

うん。

B ケーベン"……。

軽 便"……。

A ピーーーナンテナ。ア一 イノミヤカラ オメア ウシズママデ  
ピオーーーイフシテ(音を出い)トモ 井官 から お前 牛妻まで

イッテタンダ"ナ。

行、ハ、トモトモトモ。

C ケーベンガ ナリカシイ。ンー。  
軽便か" トモフカシイ。うん。

A アー。

あれ。

C ヌー。ソーダ"ナ。  
うん。そうトモトモ。

A アレカラ ハヤー オメア一 ミンナ カリキ"ナ……。  
あれから 上は お前 皆 (荷物) 担いでトモ……。

C ヌー。

うん。

A アスコントケー トマッテナ……。  
あれの所 へ 泊、マサ……。

C ヌー。

うん。

A ハシズマエ……。  
牛妻へ……。

C ヌー。

うん。

A ヘーカラ オマエ ウメガシマダ"トカ イカウエ イッタタケト"サ。  
それから お前 梅ヶ島 だ"とか 井"リ へ 行、トモだ"けホド"サ。

B ソエテ" コンドウ……。  
それで" 今度は……。

C トキュー エトマッチャ イカナケリヤー イカ ~~イカ~~ イカレネイツ  
(えいとうれい)途中に泊、<sup>（31）</sup>行かなければ 行かれなかつ  
ケダナ一。

レト: 下み。

A アー。

ああ。

B イマデモ ナンダカノ<sup>(31)</sup> アトガアル。ソノ ケーベン! ....  
今でも 何だかの 跡がみる。その 軽便の ....。

C ニー。

うん。

A アー。

ああ。

B ナンダカノ アトガ アルッテ。ソイデ アレ テレビ"デ" ヤッタ  
何だかの 跡がみる(いは)。それで あれ(いつか) テレビ"デ" 放送  
ツケ。ケーベン! ....。  
レト:。

A アー。

ああ。

C ウシズマニ フルダヨナ。

(えの跡は)牛妻に あらんじてます。

A リリヤ オラン ホン センコロマデ" オベーテリヤツダナ。  
それは 私は つゝ 先ままで 覚えているものだつた。

C ニー。ケーベンワナ。ウシラ イッタコトモアルシ イクト"モ....  
うん。 軽便 はつ。 私 乗つたこともあらし、 級度も ....。

A リリトージツカラサ ミカシガ"ナ一....。

その 当時 からさ みかんが"下み (よくとれて)。

C シー。

えん。

A ミカンオ リクッテリヤー ヒヤー オッカネアーコトワ ネア  
(当時は)みかんを作っていたいわけ"もう ニホ ハニヒは すかわ  
ワ。アノー ミカンワナ ヒヤー モー コケーラ! イチバン!  
い。 みかんはす もう もう この辺りの 一番繁盛  
アレダ" アノー オチャドコ! シューナンチャー モンデアージ  
レーハ み茶作りの 家の人ほと"は 問題"は  
ヤーネアーワ オンテッタ! カ"ナー。イマノー ミカシジャー  
すかわ"ほと"と言っていたのか"すか。現在の みかんでは  
ミカンノトコ! シューカ"ビンボーシテテ オチャドコ! シュ  
みかんを作り 人が 食えとしめて み茶作りの人  
ヤラナニカ! ホーガ ラクオシチャウダケドサ。シ。コレジヤー  
やら 何かのオガ" 楽をレレモうのだ"が"さ。うん。これ"は  
ヤツテケネアーダ"ンデ"……。ワシャー。ハハ。コマッタモンダ ヨ  
や, て 行けすか"から"……。私は。 困, たもので"世  
/ナカッテ"……。

A 中 と"うものは"……。

ソイデ" オトシサンダ"ッテモ モモサンダ"ッテモ アレズラ。ウチ  
うれで" おとしさん でも 日々さん でも みれだ"う。家  
テモッテ ヒーナサン! クビ"ヨー コシャエタリナニカシテ て  
て" がひげさまの 首 と ニレらえん"リ 何かレテ(ひねだうね)  
サカ リトージヤー ソンナコター カンケマーネーッケツツラ  
とか その当 時 は そん"ニヒは 考えはからだ うす。  
ナ。 (B 節) イマワ ミーンナ ノーダ"。ヒトリ! コラズ。  
今は 背が"う(ひねだう)だ"。ヒトリ残らず。

C ムカシワ コドモモ タント ランダニヤー ランダダケーカ。ア  
昔 は 子供 も 沢山 産んた"には 産んて"のた"か"……。  
レタ"ヨナ"……。

A ニー。ニー。  
うん。うん。

C ミーンナ ヒヤー トショートリヤー コドモモリヨーシキヤー  
(昔は)皆 もう 年を とれは" 子供 の 守りを しれは  
アッキノウキー アツマッタリ コッキノウキー アツマッタリタ  
あららの家へ 集まつたり こららの家へ 集まつたり (レ:ん)  
ナ。  
だ"だ"。

A アー。  
ああ。

C ミンナ アソンデイタッケガ。イマジヤー ソンナヒトワ ターレ  
皆 遊んでいた カ" 今" 17 んて 人は だ"れ  
モネア。  
もねい。

A ターレモネー。  
だ"れも ねい"。

B コモリシタリ シルヒトワ……。  
子守りを しれり ある 人は……。

C ワシラウキアタリヤー ホント オバーサンキノ スタッケ。(笑)  
私の 家 18 は 本当に (子守り)おはあこしてら 葉だ"だ"。  
ミーンナ コドモ ツレテキキヤー……。  
皆 子供 を 遊れてきて は……。

A ダケン オトシサンナ……。

下:“けと” おとしまんてよ……。

C エ?

え?

A オレン ヒトツ オモーケーガナ オラン カーサンガ よク イ  
私は ひとつ 思うの下:“か”てよ、私の 妻 カ“ よく (私を)  
ジメルダケーガナ……。

“じめるの下:“か”さ……。

C ー。

うん。

A オネンブ<sup>(32)</sup>ツワナーマー アルトシークルト ヒヤー モー ジブ  
お念 仙はなみ まあ 一定の年令が<sup>(33)</sup>くろと(つり) もう 自分  
ン/コガ<sup>(33)</sup> ヨメツコオ モライハジメテクルト……。  
の子カ“ 嫁 エ もらうようにてよろと……。

C ー。

うん。

A トシナニ ワカクテモ ヒヤー イッコクメアーリッテノ ヤッタ  
どんてに 若くとも もう 一国まつりといふを や,下:  
タケーガ カレダケーガ……。  
の下:“カ”, 下:“カ”……。

C ー。

うん。

A ヒヤー ソラ オラン トナリ/ナ イヨデセヤー オマエ……。  
それ 私の家の 隣 の 「いす」で<sup>(35)</sup>アエ お前……。

C ー。

うん。

A イッコクマイリニ イクダ"ケーガ"……。  
一国 ま"リニ 行くのだ"が"……。

C ニー。  
うん。

A コーイツ"リアンチウキノ ヨメ"コモ イッタズ"ラ。  
光一さんの家の嫁さんも 行ったろう。

C ニー。  
うん。

A イクズ"ラ。  
行くだ"う。

C ソイダ"ケーガナ"……。  
それだ"けれど"だ"……。

A ニー。  
うん。

C フリシュー"ガ" ウケアートオモーケンナ"……。  
あの 人 が" 若いと(あだたは)思"うけれど"だ"……。

A ニー。  
うん。

C ヤッハ"リ ワカカネマ"ダヨ。  
や, 18"リ 若くはだ"よ。

A ヤッハ"リナ"……。  
や, 18"リだ"……。

C ニー。トシ"アレシルトナ"……。  
うん。年"で 考えるとだ"……。

A ニー。  
うん。

C ヤツハ。ノーダヨ。

ヤ、18°11 そうだ"す(若くはすます)。

A ヤツハ。11。

ヤ、18°11。

C ニー。

うん。

A オマツキノトキ オンナシコシカ。

お前が"行な時も 同じようだとか。

C ノーダヨ。ニー。

そうだ"す。うん。

B ノーダヨ。

そうだ"す。

A ノー。ワケアーモ! ----。

3、-ん。若、もの ----。

C シジューニデ" シジューニデ" イッタダヨ。シジューニデ" イッテ  
四十二歳" 四十二歳" (私は) 行なムだす。四十二歳" 行、  
ナシロサ----。

ナムレコマ----。

A ニー。

うん。

C ノイデ" ア! ムカシノショーワ ホー カゾエデ" ネア----。

それで" 昔の人は 数え年でない----。

A ニー。

うん。

C カ カゾエデ" ネアネア。<sup>(36)</sup> マンデナクテ カゾエダ。ナ一。  
数え年でなくない。満てて(ア) 数え年だ。ア。

A シー。シー。

うん。うん。

C ホイダ"モンデ" シジユーニダッテモ モット ワケアーッケダ"ヨナ。<sup>(37)</sup>  
それが"から 四十二 でも も、と 若か、たんて"モテ。

A シー。

うん。

C イマノショーワ ノー マンデ" シレンデナ。  
今の人 け 真打" 満て" 数えろんで"モ。

A シー。

うん。

C ソエダ"ンテ マイコサンワ サンジュー ワシラナン<sup>テ</sup><sub>XXXXX</sub> <sup>(38)</sup> シ  
それが"から 正子<sup>マサコ</sup>三十一 私が(考えろ)モ<sup>ト</sup>  
キグレアーテ" イッタジヤネアーカナ。  
セ<sup>シ</sup>"ら<sup>シ</sup>て" 行、下<sup>シ</sup>て"モ<sup>ト</sup>か<sup>シ</sup>。

A マダ ムスメトモデ"一 ヨメッテ カンジ"デネ。  
(三十七)モ<sup>ト</sup>娘<sup>マサコ</sup>も下<sup>シ</sup>て 嫁<sup>マサコ</sup>という 感じ<sup>シ</sup>け<sup>シ</sup>。

C ソエダ"ンテネ<sup>一</sup> マダ ハヤイミタイダケンサー<sup>シテ</sup>。  
モ<sup>ト</sup>からね(四十二)モ<sup>ト</sup> 早<sup>シ</sup>みたいだ<sup>シ</sup>けれ<sup>シ</sup>さ<sup>シ</sup><sup>シ</sup>。

A シー。

うん。

C ハヤカ一 ネマーダ"ヨ ヤッハ。シー。  
早く<sup>シ</sup>モ<sup>ト</sup> 下<sup>シ</sup>んて"モ<sup>ト</sup> や、18<sup>度</sup>。うん。

A アー。アー。

ああ。ああ。

C ヘ ミエキヤンキワ シジユーニグレアーダッケナ。  
三枝ちゃん<sup>マサコ</sup>四十二<sup>シテ</sup>下<sup>シ</sup>て"モ<sup>ト</sup>。

A トコロガナ リリヤ エーダ"ケーガナ オネンブ"リガナ一 ムカシ  
ところが"たゞ されば いのた"か"たゞ お念仏 が"たゞ 昔  
オネンブ"リ/ホーカ" ドーモ オリヤー+コ+ニ+タカ  
の お念仏 の オカ" どうも 和けたゞ 他  
イシタナ ホトケサンガナ コ+ゴ"クラクエイクヨ+カシジン  
界したゞ 仏 さん が"たゞ 極 楽へ行く うたゞ 感じズ  
シルダケン ドーユーモンダママー。  
するのた"か" どうううものた"うたゞ。

B ソイタ"ケーガ"……。ムカシ / ……。  
しかし ……。昔 の ……。

A モットモサ ジ"テ"アーツテモノワ アルンダ"タ。  
も、こもたゞ、時代(の変化)というものはあるんじ"たゞ。

B ネンブ"リワ ムカシ/ネンブ"リワ キーテテ ナニモ イミガ  
念仏は 昔 の 念仏は 聞いて 何 も 意味が  
ワカンネマージャー。  
わからていてはたゞいか。

A ムカシ/ワカ。  
昔 の(念仏)だけ。

B ニー。  
うん。

A ホーカ。  
うか(たゞ)。  
B ネー アンタ ナニモ ワカンネア。  
ねえ あたた 何 にモ わからてす(?)。  
C ノーダ"ヨナ。  
うた"よたゞ。

B いマシワ コーフント キーテルト ヨーク ナニカ ワカル  
今 だけ 本当に 聞いてると よく 何か わかる  
タケーが ムカシネンブツワ ツツ ツコトバガ ワカンネア  
のトガ 音 の 念 仏 は タの ハとは"か" わからでない  
ージヤー。ソシナコトユート オコラレレレド……。  
"ほほ"か。ソシナコトを言うと 怒られるけれど"……。

A (笑) ダケンドサ オラン キーテテナーハー。  
ダケンドサ 私が聞こへハマム。

$$B = -\infty.$$

「タケンド……。  
タケンド……。

A ア！ フダラクヤナンテ！ ワ ヤルケーガナ……。  
補院 落ヤナと“といひは やろけれ”とす……。

B 二一。  
うん

A タケーカ ムカシ/ネンブリダトナー イカニモ ホトケサンガサ  
タケヒコ 昔 の 念 仏 たゞほみ いかにも 鮮著さんか“であ  
一 アハ タカイシタ ホトケサンガ ゴクラクジヨードエナ  
他界 した 鮮著さんか“ 極 楽 淨 土 へほみ  
イクヨーナキモキ)……。イマシナ オメア キヨードサー  
行くようほ 気持ちの(ほせひだが)。今は お前 ほよと“ さあ  
イマハ ワカイシユーガ ウタ ウタウヨーナモンデナ (C笑)  
今 の 若 々 畜 が 歌 を 歌 う ほうほ もの“ てす、  
ワタシワ ナンテ ユーヨー タ ヨー キーチャッテサ。  
「わたしは一」 ほんて 言うほうほ (ふうに) 聞 こえ てす、 てす。

- B フダラクヤッテ ツツ フダラクヤッテコトワ ナン/コンダ。キ  
補院落や, て その 補院落や, て“うんとは 何のことだ”。  
シウツイナミッテ/ツ マー ワカルケド”……。  
岸打つ波というのには まあ わかるけれど”……。
- C ソリヤ アー サンジューサンバンデ<sup>(39)</sup> フダラクヤッテ……。  
それは 三十三 番 て” 補院落や, て”……。
- A ンー。ダケーカ。イミオ シッテルヒトモ アルメアーケーガサ。  
うん。 た“けれど”(ya) 競味を知ってる人も みんな“けれど”まあ。
- B ンー。  
うん。
- A アー ヨクサー コー ネンブツオ ヤレトナー アー フ  
よく 念仏を 唱えろとす フ  
ールオ ヤツタリサ<sup>(40)</sup> ナニカヤレト イカニモ コ/ ホトケサン  
一レモ やつたりさ, 何かやろと いかにも 霊着さん  
カナ ゴクラクジヨードエ コ/ イクヨーナカンジシルケン キ  
カ“仔” 極樂淨土へ 行くほうは 感じが“あるが”  
ヨービン/ツ ドーモ オランカーサンカ。ナンダカ ウナッチャ  
の“ろ”のは どうも 私の 家内が 何だ“か” うほ、ては  
(笑) ヨク ヤッテルケーカ。ソレデモ アリヤー アー アレ  
よく やつて いるが “それで”も それは  
カ ケンブツカ やツキヤ オレー ヨクユ。  
念仏か + すと“と” 私は よく言うよ。
- B ツリヤー……。  
それは……。
- C ヤッハリ ムカシツカラ コー キキナレタ ジュンテ……。  
やほり(念仏には)昔 から 聞きされた 順と(いわゆる)ある。

B ソーダヨ。ヒトリ コノ オトーサンワ ヒトリッコデ ソダッテ  
ソウダ"よ。 この お父さんは 一人 子で 育つ  
----

----

C ソー。  
ソう。

A ソリヤー ワカルヨ。  
それは わかるよ。

B アンマシ イツマデモ オヤソバニ(笑) イテ ネシブツオ----。  
あまり いつまでも 親のそばに いつ 念仏を(聞ひ)たから

A ソリヤー ワカルヨ。  
それは わかるよ。

ムカシノナ アー カレススキナンキュー／ワナ オラニ ワタ  
昔の仔 枯れ薄ひしてう歌 はて 私に 歌  
ワセレトナ アー コノ カレススキガ。 フントニ -// バメ  
わせろとて 枯れ薄が 本当に(生き生き)場  
ンガ。 デ"レケーカナ キヨービノ ア カレススキジャー -//  
面が 出るのだと"がて ノジヲ(人の歌) 枯れ薄 でけ  
バメンカ。 デ"テコネアーダモノナ。  
場面が 出てないんに"じのて。

C ソーダヨナー。  
ソウダ"よア。

A ター。  
タヌ。

C アー ムカシノシユーカ。 ウタツタノト ヤッハ。 イロイロ コ  
昔の人々 歌、たのと(既べど)やけり(現在)色々

— ウタウケーカ。 ヤッパリ ムカシノヨー A1 シー カン  
歌うけれど やはり 昔 のようだ  
ジ……。

レ(が“出でる”)。

B ソリヤー ソーダ。 カレススキッテユート ヒヤー バイオリンか  
それは うだ。 枯れ薄(の歌)といふと もう が“バイオリンか”  
川キモンド“……。

ツバメ ……。

C シ一。  
うん。

A シ一。  
うん。

B アレシタケン……。 ネー。 フント。  
歌、だから……。 ねえ。 本当。

C シー。 シー。  
うん。 うん。

A ホントニサ。  
本 当にさ。

C ナンデモ……。  
何でも……。

A クルシマスミコモ オモイダスシサ……。  
(映画俳優の)栗島すみ子も見…出でレ<sup>ト</sup>……。

B シー。  
うん。

C キミコイシダッテ ソージャンナー。  
「君 愛(い)レ<sup>ト</sup>(の歌)だ<sup>レ</sup> やうだ<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>。

A アー。

ああ。

C コノゴロノ一 キーテリヤー ナンニモ アジャネー。タシカ ハ  
ニのじろの(歌)聞かへいれは 何も味べない。たしかに  
カシ/フシ/ホーカ エー・トオモー・ト。

昔の節の方がいい子と思ひます。

A ニー ジデーワナ カワッテクダケーカサ ハカシ オメー  
うん 時代 はす、疲れ、て行くんだがね、昔は が前

A1 コートーガッコー シズ"コーエナンテ イクシュー・ワナ ア  
高等 学校(つり) 静高へすと" 行く者 はす、

1 シズ"キュー・エ イクシュー・モ スケネアーダケーカ シズ"コー<sup>(41)</sup>  
静中 へ 行く者 も 少すの だ"が 静高  
ナンテ イマ/ シズ"オカコートーガッコーエ イクシュー・ナンチ  
すと"(つり)今 静岡 高等 学校 へ 行く者 すとと  
ヤー アマヨニホシダッタ。ナー。オマッキン オマエ……。  
いえは"雨夜 に 星(いうら)少すかった。すみ。お前たち お前……。

B フタリカ サンニン……。

二人か 三人 ……。

A モーットダ"オメー。アサバタデモッテ サンニンカ・ラーダ。  
もと(少す)お前。麻機 て 三人か少(らいた)。

B ハタダ/ モンタローサンテヒトダ"。イマ/ シバ シバスエサン  
旗田の 紋太郎 さんと(らう)んだ。今 芝末 さん  
だ。

A ニー モンキヤンニ サブロー・ニサ……。

うん 紋ちゃんに 三郎 にさ……。

ニー。へーカラ オマエ ヤクボーナ アノシューガ イッタク<sup>ア</sup>  
ラム。それから 谷文保の子 みの 人が 行った。“  
レアーノンダ”。イーマ ヤセテモカレテモ ミーンチ コートー  
ラル のものだ”。今は やせてもかれても 皆 高等  
ガッコーテサ。ドコノシューダッテ アノダイガクイキ コノダイ  
学校へ行く。ビニの 人も でも みの大学へ行きニの大  
ガクイク。ニー。ナンテ ジデアーワ カワッタダヨ。アー。ダッ  
学へ行く。うん というとて 時代 は 変わったんだよ。ああ。だ、  
テ オマッキン カーサンガ。オメア一 コートガッコーエ “  
て お前の家のお母さんが お前、高等学校へ勤  
トメテルコレ アレン デキテサ ター。シズオカ アノ オ  
メテハヨリ(高校が)おけに できてあはれ。静岡(a)みの 大  
一イワ一 コートガッコーガ。デキテ オイワイオ スルニネ<sup>(42)</sup>  
岩の 高等学校が できて お祝いと おものにね  
アノ一 ハナビヨー ウッテサ ソイカラ ハタマテアゲテ……。  
花火を 打つて、それから 旗 手で挙げて……。

B ニー。

うん。

A ホシテ オマエ アノ一 オイワイ一 アノ一 ミセテモラッタ。  
ソレで お前 (の)お祝い(行事) 見せてもらひた。  
ソイツン オラン イキデア一 マテ タタキアーラキニ ヒヤー  
それべ 私の 一代 が まだ 経過しておらず もう  
アノ ガッコーン トレテ ハマノオーヤエ イッテ ダイガクニ  
みの 学校 が 廃止され 濱の大谷へ 移転し(静岡)大学に  
ナッキヤツタンドナー。マ一 ジデアーワ カワルサ。アー。ナン  
アレ、レモ、だんだ ほめ。まあ(いい) 時代 は 変わった。まあ 今は

セ ハカシオ カンケアーレト ナガイヨ。  
レ 普 及 考 えり と 長いよ。

B ナガイネ。ズイブン。  
長い ゆえ。すいぶん。

A ニー。  
うん。

B ジーブン ナケアー。ホントニ。  
すいぶん 長い。本当に。

A アー。(笑) ソイダケーカー……。  
ああ。 だから 仔み ……。

B ヘタケン ヨクイキテルト イキテルト(笑) オモーダ"ヨ。  
だから よく生きていると 生きていると 思うんだ"よ。

## 注記

- (1) 麻機地区にあら沼の通称。
- (2) お不動さんの祭のお供には、たしろしとして大勢の人が列を作、その後をついて行、たといふこと。
- (3) 有永は麻機の南地区の地名。
- (4) 草取りをしにいために草が生い茂るところをこう形容した。「穂に穂が咲く」ということ。
- (5) 一足で一対にほのめだが、その片方だけを「ペラ」と言、た。
- (6) 片方だけで一つと教えた方が、多く作、たことにはるので、そのようにいわば「マカシタ」ということ。
- (7) 「ツッコロカシテモ」の「イ音便」。
- (8) 左回りにほねをす、たため、ほねがビンとせずに、丸くす、たれまつのを「鼻糞を丸めたようだ」と形容したもの。
- (9) (10) 植えたあととの田んぼの表面が持ちあが、て移動してしまう。水が多い時に起る現象だといふ。
- (11) 寺に入り込んでくる、素行の悪いばあさんのようほものだ。
- (12) 「コンクリモ ナシニモネー」と「コンクリデモ ナシデモネー」との二つの表現が混交したもの。
- (13) 「小郎次」という名の愛称。
- (14) 千枝さんといふ女性、若くて死んだらしい。
- (15) 「自動車屋」は誤り。
- (16) 水の出口をふさいでしまし、て、中にいる魚を捕るべと。ただし、こで河水をかみ出してしまし、て中の魚を捕るべとに使、ていふ。
- (17) 毒を川に入れて魚を殺して捕る方法。(毒はトバネといふ植物の根を碎いたもの。)
- (18) ほんのわずかの幅の。
- (19) 「コロカシラ」と「コロダ」との混交形。
- (20) 深水ほどあとでさした小さい小たまり。そこには魚がそのまま住みつくようにす、たものを「シマ」という。
- (21) 静岡市西北部の池。正式には「鯨ヶ池」という。

- (22) この談話に入る前にAが私にしてくれた話。
- (23) 静岡県方言では「ヤッパリ→ヤッパ、アンマリ→アンマ」のようでは短縮形が多い。
- (24) 安倍川(け)静岡市の西部を東南方向に流水で駿河湾に入る。話者の住む麻機(まき)から1、2キロほど西にあたり。
- (25) 静岡市中心部よりやや西寄りにあら(浅間)神社。
- (26) 「ヤッパ」は、木材・石等とけずり取った残りかすをいう。「て」石をけずって鳥居を作ったあとの石のかけらのことと言う。
- (27) → (25)
- (28) この「ホント」は降り音調で、「ああ、うう、うものかね」という、軽いあづらの気持ちを表す。
- (29) 十二(じゆ)の船が上がる、下行、下といつて、本来は「十二(じゆ)」という地名。今は「十二(じゆ)双」と書く。
- (30) 鳥居の一番上の部分が下(じ)ので、鳥居として完成しない。
- (31) 「ナンダカノ」は「軽便」ということばがすぐ思い出せたために使、下(じ)もの。
- (32) 「オネンブツワナ」を受ける述語文節が見あたらなくて、下(じ)る。
- (33) 「ヨメコ」の「コ」は指小辞的(て)「コ」。もちろん、ううう個別の用法に限られている。
- (34) 嫁が全国(じゆうこく)の観音の靈場をまわって極楽往生を願うという風習。
- (35) 「いす」はAの隣家の嫁の名。
- (36) はじめ、「昔(むかし)は数(いく)え年(とし)で下(じ)い」と考(かんが)えたが、それが誤りだ(じ)と感じ下(じ)の、「カゾエデネアネア」と二度打ち消しの語を使、下(じ)もの。パロール的(て)もので、この方言の習慣ではない。
- (37) 数(いく)え年(とし)で42歳(よそ)から、現代(じわい)に考(かんが)えれば、も、と若(わく)か、下(じ)いに下(じ)るといつてある。
- (38) 「正(まさ)りやくは、私の考(かんが)ては、37歳(よそ)で参(さん)りに行(い)、下(じ)と思う」といってある。「三十七」という数詞が途中(じゆう)で切(き)断(だん)され、「ワシラナンテ」

が介入している。

- (39) 西国三十三ヶ所觀音の第一番の札所といふことを言がうとするのであろう。
- (40) 念仏のいとは「E、一音節E」とに長く引いて唱える呼法を「ホール」という。毎年の修練を要するという。
- (41)(42) 旧制静岡高等学校。大正11年(1922)4月開校。A氏満11歳。
- (43) 実際には、大学昇格はもうろくな昭和24年で、大谷ではなく大岩地区。大谷への移転は昭和42年(教養部)。

昭和56年1月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号  
電話 東京(900) 3111(代表)

# 国立国語研究所刊行書一覧

## 国立国語研究所報告

|      |                                 |         |        |
|------|---------------------------------|---------|--------|
| 1    | 八丈島の言語調査                        | 秀英出版刊   | 品切れ    |
| 2    | 言語生活の実態<br>—白河市および付近の農村における—    | 〃       | 〃      |
| 3    | 現代語の助詞・助動詞<br>—用法と実例—           | 〃       | 2,000円 |
| 4    | 婦人雑誌の用語<br>—現代語の語彙調査—           | 〃       | 品切れ    |
| 5    | 地域社会の言語生活<br>—鶴岡における実態調査—       | 〃       | 〃      |
| 6    | 少年と新聞<br>—小学生・中学生の新聞への接近と理解—    | 〃       | 〃      |
| 7    | 入門期の言語能力                        | 〃       | 〃      |
| 8    | 談話語の実態                          | 〃       | 〃      |
| 9    | 読みの実験的研究<br>—音読にあらわれた読みあやまりの分析— | 〃       | 〃      |
| 10   | 低学年の読み書き能力                      | 〃       | 〃      |
| 11   | 敬語と敬意意識                         | 〃       | 〃      |
| 12   | 総合雑誌の用語(前編)<br>—現代語の語彙調査—       | 〃       | 〃      |
| 13   | 総合雑誌の用語(後編)<br>—現代語の語彙調査—       | 〃       | 〃      |
| 14   | 中学生の読み書き能力                      | 〃       | 400円   |
| 15   | 明治初期の新聞の用語                      | 〃       | 品切れ    |
| 16   | 日本方言の記述的研究                      | 明治書院刊   | 〃      |
| 17   | 高学年の読み書き能力                      | 秀英出版刊   | 〃      |
| 18   | 話しことばの文型(1)<br>—対話資料による研究—      | 〃       | 〃      |
| 19   | 総合雑誌の用字                         | 〃       | 〃      |
| 20   | 同音語の研究                          | 〃       | 〃      |
| 21   | 現代雑誌九十種の用語用字(1)<br>—総記および語彙表—   | 〃       | 〃      |
| 22   | 現代雑誌九十種の用語用字(2)<br>—漢字表—        | 〃       | 〃      |
| 23   | 話しことばの文型(2)<br>—独話資料による研究—      | 〃       | 〃      |
| 24   | 横組みの字形に関する研究                    | 〃       | 〃      |
| 25   | 現代雑誌九十種の用語用字(3)<br>—分析—         | 〃       | 〃      |
| 26   | 小学生の言語能力の発達                     | 明治図書刊   | 2,100円 |
| 27   | 共通語化の過程<br>—北海道における親子三代のことば—    | 秀英出版刊   | 品切れ    |
| 28   | 類義語の研究                          | 〃       | 〃      |
| 29   | 戦後の国民各層の文字生活                    | 〃       | 400円   |
| 30-1 | 日本言語地図(1)                       | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ    |
| 30-2 | 日本言語地図(2)                       | 〃       | 〃      |

|      |                                                    |       |         |     |
|------|----------------------------------------------------|-------|---------|-----|
| 30-3 | 日 本 言 語 地 図                                        | (3)   | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ |
| 30-4 | 日 本 言 語 地 図                                        | (4)   | 〃       | 〃   |
| 30-5 | 日 本 言 語 地 図                                        | (5)   | 〃       | 〃   |
| 30-6 | 日 本 言 語 地 図                                        | (6)   | 〃       | 〃   |
| 31   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究                            | 秀英出版刊 | 450円    |     |
| 32   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1)<br>——親族語彙と社会構造——           | 〃     | 品切れ     |     |
| 33   | 家庭における子どものコミュニケーション意識                              | 〃     | 350円    |     |
| 34   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II)<br>——新聞の用語用字調査の処理組織—— | 〃     | 品切れ     |     |
| 35   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2)<br>——マキ・マケと親族呼称——          | 〃     | 450円    |     |
| 36   | 中 学 生 の 漢 字 習 得 に 関 す る 研 究                        | 〃     | 5,000円  |     |
| 37   | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査                      | 〃     | 品切れ     |     |
| 38   | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (II)                 | 〃     | 2,800円  |     |
| 39   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (III)                      | 〃     | 700円    |     |
| 40   | 送 り が な 意 識 の 調 査                                  | 〃     | 1,500円  |     |
| 41   | 待 遇 表 現 の 実 態<br>——松江24時間調査資料から——                  | 〃     | 900円    |     |
| 42   | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (III)                | 〃     | 1,200円  |     |
| 43   | 動 詞 の 意 味 ・ 用 法 の 記 述 的 研 究                        | 〃     | 5,000円  |     |
| 44   | 形容 詞 の 意 味 ・ 用 法 の 記 述 的 研 究                       | 〃     | 3,000円  |     |
| 45   | 幼 児 の 読 み 書 き 能 力                                  | 東京書籍刊 | 4,500円  |     |
| 46   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IV)                       | 秀英出版刊 | 700円    |     |
| 47   | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)<br>——性向語彙と価値観——            | 〃     | 700円    |     |
| 48   | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (IV)                 | 〃     | 3,000円  |     |
| 49   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (V)                        | 〃     | 900円    |     |
| 50   | 幼 児 の 文 構 造 の 発 達<br>——3歳～6歳児の場合——                 | 〃     | 品切れ     |     |
| 51   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VI)                       | 〃     | 1,000円  |     |
| 52   | 地 域 社 会 の 言 語 生 活<br>——鶴岡における20年前との比較——            | 〃     | 1,800円  |     |
| 53   | 言 語 使 用 の 変 遷 (1)<br>——福島県北部地域の面接調査——              | 〃     | 2,500円  |     |
| 54   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VII)                      | 〃     | 1,000円  |     |
| 55   | 幼 児 語 の 形 態 論 的 な 分 析<br>——動詞・形容詞・述語名詞——           | 〃     | 品切れ     |     |
| 56   | 現 代 新 聞 の 漢 字                                      | 〃     | 3,000円  |     |
| 57   | 比 喩 表 現 の 理 論 と 分 類                                | 〃     | 6,000円  |     |
| 58   | 幼 児 の 文 法 能 力                                      | 東京書籍刊 | 5,500円  |     |
| 59   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VIII)                     | 秀英出版刊 | 1,300円  |     |
| 60   | X線映画資料による母音の発音の研究<br>——フォネーム研究序説——                 | 〃     | 2,500円  |     |
| 61   | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IX)                       | 〃     | 1,300円  |     |
| 62   | 研 究 報 告 集 (1)                                      | 〃     | 1,700円  |     |
| 63   | 児 童 の 表 現 力 と 作 文                                  | 東京書籍刊 | 6,000円  |     |
| 64   | 各 地 方 言 親 族 語 彙 の 言 語 社 会 学 的 研 究 (1)              | 秀英出版刊 | 2,000円  |     |

国立国語研究所資料集

|      |                      |         |        |
|------|----------------------|---------|--------|
| 1    | 国語関係刊行書目(昭和17~24年)   | 秀英出版刊   | 45円    |
| 2    | 語彙調査—現代新聞用語の一例—      | 〃       | 品切れ    |
| 3    | 送り仮名法資料集             | 〃       | 〃      |
| 4    | 明治以降国語学関係刊行書目        | 〃       | 〃      |
| 5    | 沖繩語辞典                | 大蔵省印刷局刊 | 3,500円 |
| 6    | 分類語彙表                | 秀英出版刊   | 1,800円 |
| 7    | 動詞・形容詞問題語用例集         | 〃       | 1,700円 |
| 8    | 現代新聞の漢字調査(中間報告)      | 〃       | 500円   |
| 9    | 牛店安愚樂鍋用語索引           | 〃       | 1,500円 |
| 10-1 | 方言談話資料(1) —山形・群馬・長野— | 〃       | 6,000円 |
| 10-2 | 方言談話資料(2) —奈良・高知・長崎— | 〃       | 6,000円 |
| 10-3 | 方言談話資料(3) —青森・新潟・愛知— | 〃       | 6,000円 |
| 10-4 | 方言談話資料(4) —福井・京都・島根— | 〃       | 6,000円 |
| 11   | 日本言語地図語形索引           |         |        |

国立国語研究所論集

|   |            |       |        |
|---|------------|-------|--------|
| 1 | ことばの研究     | 秀英出版刊 | 品切れ    |
| 2 | ことばの研究 第2集 | 〃     | 〃      |
| 3 | ことばの研究 第3集 | 〃     | 〃      |
| 4 | ことばの研究 第4集 | 〃     | 1,300円 |
| 5 | ことばの研究 第5集 | 〃     | 1,300円 |

国立国語研究所年報 秀英出版刊

|    |        |      |    |        |      |
|----|--------|------|----|--------|------|
| 1  | 昭和24年度 | 品切れ  | 16 | 昭和39年度 | 品切れ  |
| 2  | 昭和25年度 | 〃    | 17 | 昭和40年度 | 250円 |
| 3  | 昭和26年度 | 160円 | 18 | 昭和41年度 | 300円 |
| 4  | 昭和27年度 | 160円 | 19 | 昭和42年度 | 300円 |
| 5  | 昭和28年度 | 品切れ  | 20 | 昭和43年度 | 品切れ  |
| 6  | 昭和29年度 | 200円 | 21 | 昭和44年度 | 〃    |
| 7  | 昭和30年度 | 品切れ  | 22 | 昭和45年度 | 〃    |
| 8  | 昭和31年度 | 〃    | 23 | 昭和46年度 | 450円 |
| 9  | 昭和32年度 | 〃    | 24 | 昭和47年度 | 450円 |
| 10 | 昭和33年度 | 〃    | 25 | 昭和48年度 | 品切れ  |
| 11 | 昭和34年度 | 〃    | 26 | 昭和49年度 | 600円 |
| 12 | 昭和35年度 | 350円 | 27 | 昭和50年度 | 700円 |
| 13 | 昭和36年度 | 160円 | 28 | 昭和51年度 | 非売品  |
| 14 | 昭和37年度 | 220円 | 29 | 昭和52年度 | 〃    |
| 15 | 昭和38年度 | 250円 | 30 | 昭和53年度 | 800円 |

国語年鑑 秀英出版刊

|        |     |        |    |     |
|--------|-----|--------|----|-----|
| 昭和29年版 | 品切れ | 昭和33年版 | 年版 | 品切れ |
| 昭和30年版 | 〃   | 昭和34年版 | 年版 | 〃   |
| 昭和31年版 | 〃   | 昭和35年版 | 年版 | 〃   |
| 昭和32年版 | 〃   | 昭和36年版 | 年版 | 〃   |

|        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 昭和37年版 | 品切れ    | 昭和47年版 | 2,200円 |
| 昭和38年版 | 〃      | 昭和48年版 | 2,700円 |
| 昭和39年版 | 〃      | 昭和49年版 | 3,800円 |
| 昭和40年版 | 〃      | 昭和50年版 | 3,800円 |
| 昭和41年版 | 〃      | 昭和51年版 | 4,000円 |
| 昭和42年版 | 〃      | 昭和52年版 | 4,500円 |
| 昭和43年版 | 〃      | 昭和53年版 | 4,600円 |
| 昭和44年版 | 1,500円 | 昭和54年版 | 4,800円 |
| 昭和45年版 | 1,500円 | 昭和55年版 | 5,200円 |
| 昭和46年版 | 2,000円 |        |        |

#### 日本語教育教材

|                           |                     |         |      |
|---------------------------|---------------------|---------|------|
| 1 日本語と日本語教育<br>——発音・表現編—— | 国立国語研究所<br>文 化 序 共編 | 大蔵省印刷局刊 | 650円 |
| 2 日本語と日本語教育               | ——文字・表現編——          | 〃       | 850円 |
| 3 日本語の文法(上)               | ——日本語教育指導参考書4——     | 〃       | 450円 |
| 4 日本語教育の評価法               | ——日本語教育指導参考書6——     | 〃       | 450円 |

|                               |                     |       |        |
|-------------------------------|---------------------|-------|--------|
| 高 校 生 と 新 聞                   | 国立国語研究所<br>日本新聞協会共編 | 秀英出版刊 | 280円   |
| 青年とマス・コミュニケーション               | 日本新聞協会共編            | 金沢書店刊 | 品切れ    |
| 国立国語研究所三十年のあゆみ<br>——研究業績の紹介—— | 国立国語研究所             | 秀英出版刊 | 1,500円 |

#### 日本語教育教材 映画一覧

(各巻16ミリカラー、5分、日本シネセル社販売)

| 卷 題 名                                   | プリント価格  |
|-----------------------------------------|---------|
| 第1巻 これはかえるです——「こそあど」+「は～です」——           | 30,000円 |
| 第2巻 さいふはどこにありますか——「こそあど」+「が～ある」——       | 〃       |
| 第3巻 やすくないです、たかいです——形容詞とその活用導入——         | 〃       |
| 第4巻 なにをしましたか——動詞——                      | 〃       |
| 第5巻 しづかなこうえんで——形容動詞——                   | 〃       |
| 第6巻 さあ、かぞえましょう——助数詞——                   | 〃       |
| 第7巻 うつくしいさらになりました——「なる」「する」——           | 〃       |
| 第8巻 きりんはどこにいますか——「いる」「ある」——             | 〃       |
| 第9巻 かまくらをあるきます——移動の表現——                 | 〃       |
| 第10巻 おかねをとられました——受見の表現1——               | 〃       |
| 第11巻 どちらがすきですか——比較・程度の表現——              | 〃       |
| 第12巻 もみじがとてもきれいでした——「です」「でした」「でしょう」——   | 〃       |
| 第13巻 きょうはあめがふっています——「して」「している」「していた」——  | 〃       |
| 第14巻 そうじはしてありますか——「してある」「しておく」「してしまう」—— | 〃       |
| 第15巻 おみまいにいきませんか——依頼・勧誘の表現——            | 〃       |
| 第16巻 なみのおとがきこえてきます——「いく」「くる」——          | 〃       |

(第1巻～第3巻は、文化庁との共同企画・VTR価格1/2インチオープンリール21,000円、3/4インチカセット20,000円)

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATIONS  
SOURCE X-V

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS  
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 5)

CONTENTS

**Foreword**

**Purpose and Outline**

**Text**

- Part 1 : IWATE PREFECTURE (Hamlet Hontyō, City Esasi)
- Part 2 : MIYAGI PREFECTURE (Hamlet Arahama, Town Watari, District Watari)
- Part 3 : TIBA PREFECTURE (Hamlet Aihama, City Tateyama)
- Part 4 : SIZUOKA PREFECTURE (Hamlet Minami-Nakamura, City Sizuoka)

**THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE  
TOKYO JAPAN**

1981